

陣 箱 遺 跡

(第3次調査区)



2018
豊後大野市教育委員会

大分県豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集

陣 箱 遺 跡

(第3次調査区)

2018

豊後大野市教育委員会

序 文

本書は市営浄水場建設に伴って行われた発掘調査報告書です。

豊後大野市ではこれまで多くの遺跡が確認されていますが、今回の調査で弥生時代の集落として新たな情報が得られ、大きな成果を挙げることができました。

豊後大野市は大野川の流れに抱かれた自然豊かな地で、特に約9万年前の阿蘇火砕流をはじめとする雄大な地球の活動を現す地形が顕著であり、地域の新たな魅力として注目されています。こうした豊後大野の地には、古くから先人たちの活動を知るためにも欠かせない歴史遺産が数多く存在し、郷土の多様な歴史や文化としてそれらを物語っています。本書の陣箱遺跡もその一つとして重要な遺跡であることが確認できました。

市教育行政の一環として、このような歴史遺産を保存し、そして公開や活用などの支援や保護活動に取り組んでいるところで、さらに地域の歴史や文化や伝統を大切にし、次世代へ守り伝える機運が高められるよう進めていく所存です。

そうした郷土の歴史遺産の調査記録として刊行いたしました本書ですが、今後の歴史研究や文化財保護活動の資料として活用いただければ幸いります。

最後に、調査及び本書作成にご指導ご協力いただいた地元地域の方々や関係機関など多くの方々に対し心より感謝を申し上げます。

平成30年3月16日

豊後大野市教育委員会

教育長 下田 博

例　　言

- 1 本書は市営浄水場建設に伴い、平成23年度に豊後大野市教育委員会が実施した発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査における調査基準点設置、遺構実測、空中写真撮影は（株）埋蔵文化財サポートシステム大分支店に委託し、遺構・土器以外の遺物の写真撮影は調査員で行った。
- 3 本書に掲載した遺物の実測、遺構実測図の製図、土器の写真撮影は雅企画有限公司に委託した。
- 4 調査中次の方々より視察・助言をいただいた（所属は当時）。福永伸哉氏（大阪大学大学院教授）、下村智氏（別府大学教授）、栗田勝弘氏、宮内克己氏、田中裕介氏、松本康弘氏（大分県教育委員会）。
- 5 石器の石材については佐藤裕一郎氏（豊後大野市文化財保護審議会委員）玉類については大坪志子氏（熊本大学埋蔵文化財調査センター）よりご教示をいただいた。
- 6 赤色顔料の分析は神田優生氏（大分県立歴史博物館）にお願いし、玉稿をいただいた。
- 7 本書の執筆・編集は諸岡が行った。

目　　次

第Ⅰ章　はじめに.....	1	第3節　弥生時代～古墳時代の遺物.....	50
第1節　調査に至る経緯.....	1	(1) 土器	50
第2節　遺跡の立地と環境.....	1	(2) 土製品	85
(1) 地理的環境	1	(3) 石器・石製品	92
(2) 歴史的環境	2	(4) 玉類	135
(3) 基本土層	4	(5) 鉄器	135
第Ⅱ章　調査の成果.....	5	第4節　中世の遺構と遺物.....	139
第1節　調査の概要.....	5	(1) 溝状遺構	139
第2節　弥生時代～古墳時代の遺構.....	6	(2) 出土遺物	139
(1) 積穴遺構	6	第Ⅲ章　考察.....	140
(2) 掘立柱建物遺構	42	(1) 弥生～古墳時代の遺物について	140
(3) 土坑	46	(2) 弥生～古墳時代の遺構について	141
(4) 四溝墓	46	付章　陣箱遺跡出土赤色顔料の蛍光X線分析	144

挿 図 目 次 (1)

第1図 陣箱遺跡位置図 (1/120000)	2	第49図 挖立柱建物遺構実測図① (1/80)	43
第2図 陣箱遺跡周辺地形図 (1/12000)	3	第50図 挖立柱建物遺構実測図② (1/80)	44
第3図 陣箱遺跡第3次調査区土層図 (1/40)	4	第51図 挖立柱建物遺構実測図③ (1/80)	45
第4図 陣箱遺跡第3次調査区配置図 (1/1000)	5	第52図 土坑遺構実測図 (1/50)	46
第5図 陣箱遺跡第3次調査遺構配置図 (1/300)	7	第53図 周溝墓遺構平面図 (1/60)	48
第6図 穴穴遺構表示例	9	第54図 周溝墓遺構土層図 (1/60)	49
第7図 1号竪穴遺構実測図 (1/80)	11	第55図 1号・2号竪穴出土土器実測図	51
第8図 2号竪穴遺構実測図 (1/80)	11	第56図 3号・4号竪穴出土土器実測図	52
第9図 3号竪穴遺構実測図 (1/80)	12	第57図 5号・6号竪穴出土土器実測図	53
第10図 4号竪穴遺構実測図 (1/80)	13	第58図 7号・8号竪穴出土土器実測図	54
第11図 5号竪穴遺構実測図 (1/80)	14	第59図 8号竪穴出土土器実測図	55
第12図 6号竪穴遺構実測図 (1/80)	15	第60図 9号竪穴出土土器実測図	56
第13図 7号竪穴遺構実測図 (1/80)	16	第61図 10号～13号竪穴出土土器実測図	57
第14図 8号竪穴遺構実測図 (1/80)	17	第62図 14号～16号竪穴出土土器実測図	58
第15図 9号竪穴遺構実測図 (1/80)	18	第63図 17号竪穴出土土器実測図	59
第16図 10号竪穴遺構実測図 (1/80)	18	第64図 18号・19号竪穴出土土器実測図	60
第17図 11号竪穴遺構実測図 (1/80)	19	第65図 20号竪穴出土土器実測図	61
第18図 12号竪穴遺構実測図 (1/80)	19	第66図 20号・21号竪穴出土土器実測図	62
第19図 13号竪穴遺構実測図 (1/80)	20	第67図 22号～24号竪穴出土土器実測図	63
第20図 14号竪穴遺構実測図 (1/80)	20	第68図 25号～28号竪穴出土土器実測図	64
第21図 15号竪穴遺構実測図 (1/80)	21	第69図 29号～31号竪穴出土土器実測図	65
第22図 16号・17号竪穴遺構実測図 (1/80)	22	第70図 32号～35号竪穴出土土器実測図	66
第23図 18号竪穴遺構実測図 (1/80)	23	第71図 36号・37号竪穴出土土器実測図	67
第24図 19号竪穴遺構実測図 (1/80)	24	第72図 38号・39号竪穴出土土器実測図	68
第25図 20号竪穴遺構実測図 (1/80)	25	第73図 40号竪穴出土土器実測図①	69
第26図 21号竪穴遺構実測図 (1/80)	25	第74図 40号竪穴出土土器実測図②	70
第27図 22号竪穴遺構実測図 (1/80)	26	第75図 40号竪穴出土土器実測図③	71
第28図 23号竪穴遺構実測図 (1/80)	27	第76図 40号・41号竪穴出土土器実測図	72
第29図 24号竪穴遺構実測図 (1/80)	27	第77図 42号・43号竪穴・柱穴状遺構出土土器実測図	73
第30図 25号竪穴遺構実測図 (1/80)	28	第78図 柱穴状遺構・周溝墓・表採土器実測図	74
第31図 26号竪穴遺構実測図 (1/80)	29	第79図 土製品実測図①	86
第32図 27号竪穴遺構実測図 (1/80)	30	第80図 土製品実測図②	87
第33図 28号竪穴遺構実測図 (1/80)	31	第81図 土製品実測図③	88
第34図 29号竪穴遺構実測図 (1/80)	31	第82図 土製品実測図④	89
第35図 30号竪穴遺構実測図 (1/80)	32	第83図 打製石礫実測図	93
第36図 31号竪穴遺構実測図 (1/80)	33	第84図 磐石礫実測図①	94
第37図 32号竪穴遺構実測図 (1/80)	33	第85図 磐石礫実測図②	95
第38図 33号竪穴遺構実測図 (1/80)	34	第86図 磐石礫実測図③	96
第39図 34号竪穴遺構実測図 (1/80)	35	第87図 石礫未製品実測図①	97
第40図 35号竪穴遺構実測図 (1/80)	35	第88図 石礫未製品実測図②	98
第41図 36号竪穴遺構実測図 (1/80)	36	第89図 石礫未製品実測図③	99
第42図 37号竪穴遺構実測図 (1/80)	37	第90図 石皿・台石実測図①	101
第43図 38号竪穴遺構実測図 (1/80)	38	第91図 石皿・台石実測図②	102
第44図 39号竪穴遺構実測図 (1/80)	38	第92図 石皿・台石実測図③	103
第45図 40号竪穴遺構実測図 (1/80)	39	第93図 石皿・台石実測図④	104
第46図 41号竪穴遺構実測図 (1/80)	40	第94図 石皿・台石実測図⑤	105
第47図 42号竪穴遺構実測図 (1/80)	41	第95図 石皿・台石実測図⑥	106
第48図 43号竪穴遺構実測図 (1/80)	41	第96図 石皿・台石実測図⑦	107

挿 図 目 次 (2)

第97図 石皿・台石実測図⑧	108	第110図 磨石・敲石実測図⑥	121
第98図 石皿・台石実測図⑨	109	第111図 磨石・敲石実測図⑦	122
第99図 石皿・台石実測図⑩	110	第112図 磨石・敲石実測図⑧	123
第100図 石皿・台石実測図⑪	111	第113図 砥石実測図①	124
第101図 石皿・台石実測図⑫	112	第114図 砥石実測図②	125
第102図 石皿・台石実測図⑬	113	第115図 砥石実測図③	126
第103図 石皿・台石実測図⑭	114	第116図 砥石実測図④	127
第104図 石皿・台石実測図⑯	115	第117図 石器・石製品等実測図①	128
第105図 磨石・敲石実測図①	116	第118図 石器・石製品等実測図②	129
第106図 磨石・敲石実測図②	117	第119図 玉類実測図(1/1)	135
第107図 磨石・敲石実測図③	118	第120図 鉄器実測図	136
第108図 磨石・敲石実測図④	119	第121図 溝状遺構実測図(1/100)	137
第109図 磨石・敲石実測図⑤	120	第122図 溝状遺構出土遺物実測図	139

表 目 次

第1表 穴状遺構分類表	9	第17表 土製品觀察表①	90
第2表 穴状遺構一覧表	10	第18表 土製品觀察表②	91
第3表 掘立柱建物遺構一覧表	42	第19表 穴状出土土製品一覧表	91
第4表 周溝墓土壤一覧表	47	第20表 磨製石器・石器未製品分類表	93
第5表 土器觀察表①	75	第21表 石器觀察表(打製石器)	129
第6表 土器觀察表②	76	第22表 石器觀察表(磨製石器)	130
第7表 土器觀察表③	77	第23表 石器觀察表(石器未製品)	131
第8表 土器觀察表④	78	第24表 石器觀察表(石皿・台石)	132
第9表 土器觀察表⑤	79	第25表 石器觀察表(磨石・敲石)	133
第10表 土器觀察表⑥	80	第26表 石器觀察表(砥石・石製品)	134
第11表 土器觀察表⑦	81	第27表 石器觀察表(各種石器・石製品等)	134
第12表 土器觀察表⑧	82	第28表 玉類觀察表	135
第13表 土器觀察表⑨	83	第29表 鉄器觀察表	136
第14表 土器觀察表⑩	84	第30表 溝状遺構出土遺物觀察表	139
第15表 土器片加工品分類表	85	第31表 遺構別出土石器等一覧表	141
第16表 土器片加工品表示例	85		

写 真 図 版 目 次

写真図版1 陣跡遺跡空中写真、遠景・全景	148	写真図版11 土器①	158
写真図版2 全景、穴状遺構(1号～5号)	149	写真図版12 土器②	159
写真図版3 穴状遺構(6号～12号)	150	写真図版13 土器③	160
写真図版4 穴状遺構(13号～18号)	151	写真図版14 土器④	161
写真図版5 穴状遺構(19号～25号)	152	写真図版15 土製品、石皿・台石	162
写真図版6 穴状遺構(26号～31号)	153	写真図版16 磨石・敲石、砥石	163
写真図版7 穴状遺構(31号～37号)	154	写真図版17 石器・石器未製品	164
写真図版8 穴状遺構(38号～41号)	155	写真図版18 石器未製品、石製品	165
写真図版9 穴状遺構(42・43号)、掘立柱建物、土坑	156	写真図版19 玉類、鉄器	166
写真図版10 周溝墓、溝状遺構	157		

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

陣箱遺跡は豊後大野市三重町百枝の大野川河岸段丘上に所在する。遺跡の保存状況は良好で開発の影響は少なく、過去にも弥生後期を中心とする集落遺跡が調査されている。昭和60年度の百枝地区ふれあいセンター（現法泉庵区公民館）建設に伴う調査区は450m²で竪穴遺構4基が検出され、平成6年度の県道建設に伴う調査区（旧C地区）は、約1000m²で竪穴遺構43基を検出するなど、市内各地に点在する弥生時代の集落遺跡の一つとして認識されている。

平成23年4月に陣箱遺跡内において市営浄水場の建設設計画の協議がなされた。それは既存の浄水場が老朽化し、水害対策の関係上新たに移転・新設するもので、秋の農作物収穫後に造成工事を着手する計画であった。対象面積は約11000m²で、陣箱遺跡として周知遺跡範囲内で過去の各調査区の隣接地でもあることから、遺跡の存在の可能性が十分に予想されるため、事前に作物の植付け前の期間に試掘による確認調査を実施する運びとなった。

試掘確認調査は、作付けの関係上一部の畑を対象として6月22日から24日にかけて実施した。調査トレンチは3ヵ所で、幅2m長さは延べ170mの計340m²を重機による表土剥ぎを実施した。結果は予想どおりトレンチ3ヵ所とも竪穴住居跡とみられる遺構を少なくとも17基検出し、柱穴なども多数確認できた。遺物は弥生時代中期から後期にかけての土器・石器が出土しており、過去の調査例と同じ内容の遺跡と考えられることから、調査対象区全面にわたって遺構が分布していると判断された。

6月30日に保存に向けた協議を行ったが、工法変更や代替地確保は不可能であるため、平成23年度中に本調査を行い建設工事は24年度に延期することとし、費用は原団者負担として水道事業会計の負担として行うこととなった。開発敷地11000m²のうち、浄水場施設が建築される区域約5200m²を対象とした。

陣箱遺跡ではこれまで二次に渡る本調査が行われている以外、平成4年度に農道建設に伴う試掘調査も行われ、遺構は未検出で、この調査箇所を含めてA～C地区と標記していたが、今回より昭和60年度調査区を第1次調査区、平成6年度調査区（旧C地区）を第2次調査と改め、今回報告分は第3次調査区とする。

調査の体制は次のとおりである。（所属は平成23年度当時）

調査主体	久保田正治（豊後大野市教育委員会教育長）
	西山清隆（豊後大野市教育委員会教育次長）
調査指導	小林昭彦（大分県教育庁文化課参考人）
	後藤晃一（大分県教育庁文化課副主任幹）
調査事務	阿南鋼一（豊後大野市教育委員会生涯学習課長）
	原嶋宏司（豊後大野市教育委員会生涯学習課文化財係長）
	高野弘之（豊後大野市教育委員会生涯学習課文化財係）
	諸岡 郁（豊後大野市教育委員会生涯学習課文化財係）調査担当
	豊田徹士（豊後大野市教育委員会生涯学習課文化財係）
調査補助	後藤美代子 渡邊法子

また、発掘作業では地元法泉庵区をはじめ、周辺地域の多くの方のご協力をいただいた。

第2節 遺跡の立地と環境

（1）地理的環境

大分県豊後大野市は、平成17年3月に大野郡7町村（三重町・清川村・緒方町・朝地町・大野町・千歳村・犬飼町）が合併して成立し、その市域は大野川中流域の大部分に相当する。大野川は祖母傾山系や阿蘇外輪山、久住連山等を源とし、大分県南部を北流して大分平野に流れる県下最大の流域面積を誇る河川である。その中流域には阿

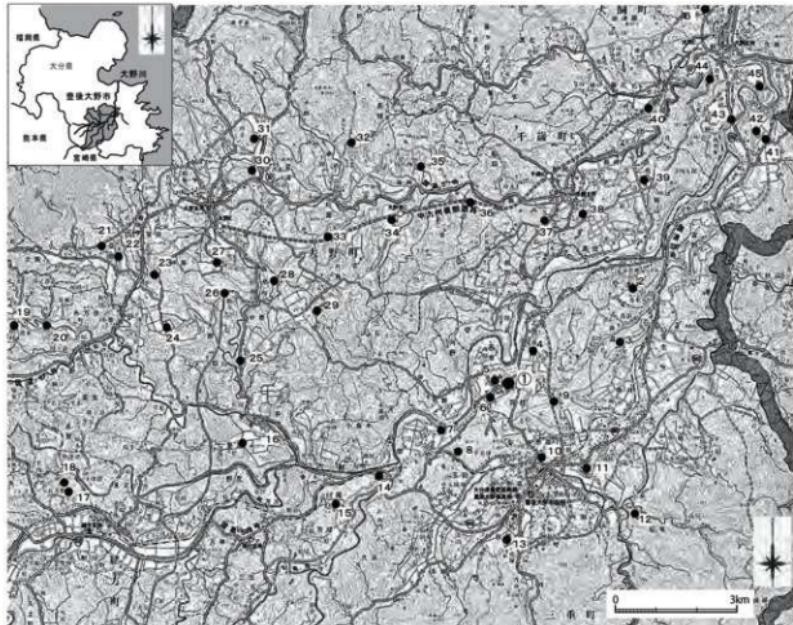
蘇火碎流の堆積による台地地形が顕著に発達し、その間を縫うように流れる大野川や各支流沿いには河岸段丘や沖積平野が広がるなど変化に富む地形を見せてている。これらの台地や段丘などは各先史時代より続く生活基盤となっており、様々な遺跡が集中する地域として知られている。

陣箱遺跡は大野川が南北に蛇行する右岸の、第三河岸段丘上に所在する。標高は約100mで、大野川からの距離は350m、川床からの比高差は約40mで非常に近い距離にある。北東から南西方向に長さ1km幅200mの細長く伸びる平坦地形が広がるが、北側は第一・第二段の河岸段丘面があり、それぞれ平坦地として広がっている。このような河岸段丘地形の発達は河川沿岸各所で顕著に見られ、また、大野川本流及び支流の河川沿岸の沖積平野などの地形と共に、台地上と同様に数多くの遺跡が所在している。

(2) 歴史的環境

市内の主要遺跡として、旧石器時代の遺跡は国指定史跡の岩戸遺跡をはじめ、市ノ久保遺跡・津留遺跡・百枝遺跡・駒方遺跡群など著名な遺跡が多く知られている。縄文時代も同様で、早期の田村遺跡・鳥穴遺跡、前期の千人塚遺跡、後期の夏足原遺跡・川南原遺跡群・岡遺跡・惣田遺跡、晩期の大石遺跡・宮地前遺跡など、良好な遺構や遺物が確認されている。

弥生時代では前期は希薄であるが、高添遺跡群の平石遺跡及び駒方遺跡B地区において壺や甕を棺の主体とし

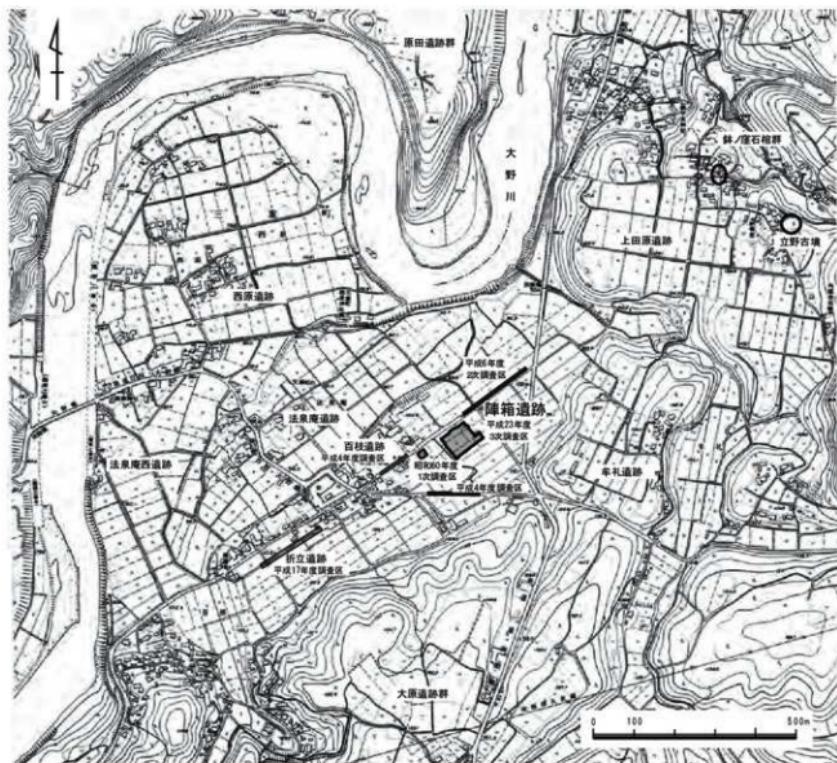


1 陣路遺跡 2 水井上原遺跡 3 豊田遺跡 4 立野古墳 5 百枝遺跡 6 折立遺跡 7 下上田遺跡 8 六山根穴墓群 9 半鍊遺跡 10 電ヶ森古墳 11 上古墳 12 松原遺跡
13 秋葉鬼塚古墳 14 岩戸遺跡 15 桐木源遺跡 16 夏足原遺跡 17 千人塚遺跡 18 高尾城跡 19 田村遺跡 20 古市遺跡 21 坊ノ原古墳 22 加原遺跡 23 二木本遺跡 24 近中道遺跡
25 中原舟久手遺跡 26 駒方遺跡 27 川南原遺跡 28 桐木遺跡 29 宮地前遺跡 30 津留根穴墓群 31 御庭古墳 32 光昌寺遺跡 33 穴井遺跡 34 中道遺跡 35 牧原西遺跡
36 間遺跡 37 上手門遺跡 38 上原遺跡 39 座道原遺跡 40 高添遺跡 41 高松遺跡 42 市ノ久保遺跡 43 津留遺跡 44 鳥穴遺跡 45 舞田原遺跡 46 下野遺跡

第1図 陣箱遺跡位置図 (1/12000)

た墓地遺跡が検出されているが、集落の様相ははっきりしない。中期も遺跡数は少ないが、後半以後近中遺跡や岡遺跡などで住居跡が現れ始めている。やがて後期に入ると多くの遺跡が各台地上で出現し、中には大規模集落として発達するものもある。200基を超える竪穴住居跡や掘立柱建物群が検出された鹿道原遺跡をはじめ、舞田原遺跡・高松遺跡・高添遺跡・二本木遺跡・松木遺跡など多数が知られている。大野町域を中心とした大野原地域と千歳町・犬飼町を中心とした白鹿山周辺域の各地域で特徴的な土器がみられ、大野川中流域の東西でそれぞれ文化圏が存在しているとの指摘もされている。陣箱遺跡と同じくする大野川段丘上でもこれまで多くの遺跡が調査されている。西側に近接する百枝小学校の敷地内は旧石器時代を主体とする百枝遺跡が所在するが、平成4年度に調査されたD地区では弥生時代の竪穴造構4基が確認されている。南西側には平成17年に調査が行われた折立遺跡があり、竪穴造構が53基検出されている。陣箱遺跡の過去2次の調査区も含めて延べ2800m²で147基もの同時期とみられる竪穴造構が確認されており、周知遺跡名はそれぞれ異なるが、同じ段丘上の至る所で遺構が分布する状況となっており、同一の地形上に広がる広大な集落跡と推定される。近隣の河岸段丘地形上にある向野遺跡や川辺遺跡でも同時期の土器が採集されていることや、周囲の台地上にある上田原遺跡などでも確認されていることから各台地・段丘地形上で数多くの集落遺跡が展開していたと考えられる。

このような集落遺跡は県下でも代表的な集中地域であるが、古墳時代以後になると集落遺跡は減少し、生活の



第2図 陣箱遺跡周辺地形図 (1/12000)

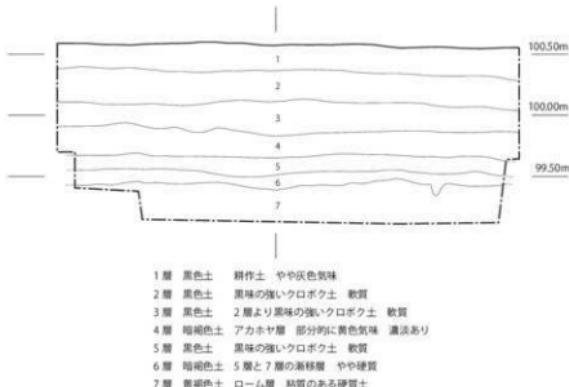
痕跡は台地上から谷底平野への変化がみられる。しかし墳墓の遺跡は多く、8基の前方後円墳をはじめとする前中期主体の古墳や石棺群が所在する。三重川流域の前方後円墳群、平井川流域周辺に円墳群、緒方川流域等に横穴墓群など数多くの墳墓遺跡の分布が知られている。

歴史時代以後について、市域は農後国大野郡の大部分に含まれる。条里跡と推定される地割が緒方平野で確認され、磨崖仏や石塔類などの石造物が膨大に所在する。遺跡調査例としては古代の遺跡は古市遺跡等で行われているのみで調査例は多くはないが、中世になると建物遺構が惣田遺跡や高添遺跡で、墳墓群が千人塚遺跡で検出されている。また、松尾城や高尾城など山城をはじめ、上門出遺跡や一万田氏館跡など多くの中世城館跡が確認されている。近世は白杵藩と岡藩の領域に属し、両藩の様々な関連施設や、街道や河川港などの交通の遺跡等が所在し、一部は現在でも人々の生活や社会と結びついている。

(3) 基本土層

陣箱遺跡の土層はこれまでの調査区と同様で、表土や耕作土の下にクロボクと呼ばれる黒色土（3層）の堆積がある。同じ黒色土でもある耕作土（2層）はわずかに灰色気味であるのに対し特に黒味が強く、この周辺では比較的厚く堆積している。この層中に淡く黄褐色気味のアカホヤ層（4層）が20cmほどの厚さで確認できる。場所によって濃淡がある上、圃場整備などの開発で失われることが多く、過去の1次・2次調査区では部分的しか残っていなかったため、ローム層上（6層）が遺構検出面であった。今回の3次調査区でも過去の圃場整備開発が行われた地域であるものの、このアカホヤ層の残りが良好であったため遺構検出面とすることができた。床面までの深さは60cmに達する例もあり、検出状況は良好であった。

クロボク層（5層）の下層には褐色粘質土のローム層（7層）があり、その間には両層が混在する漸移層（6層）がある。遺構の大部分はこのローム層まで達しているため、遺構発掘作業における深さの目安となる。なお6層以下は旧石器時代の層位でもあるが、流紋岩やホルンフェルスの剥片が数点竪穴遺構よりみられたものの、今回の調査区では旧石器時代の遺跡は確認できなかった。



第3図 陣箱遺跡第3次調査区土層図 (1/40)

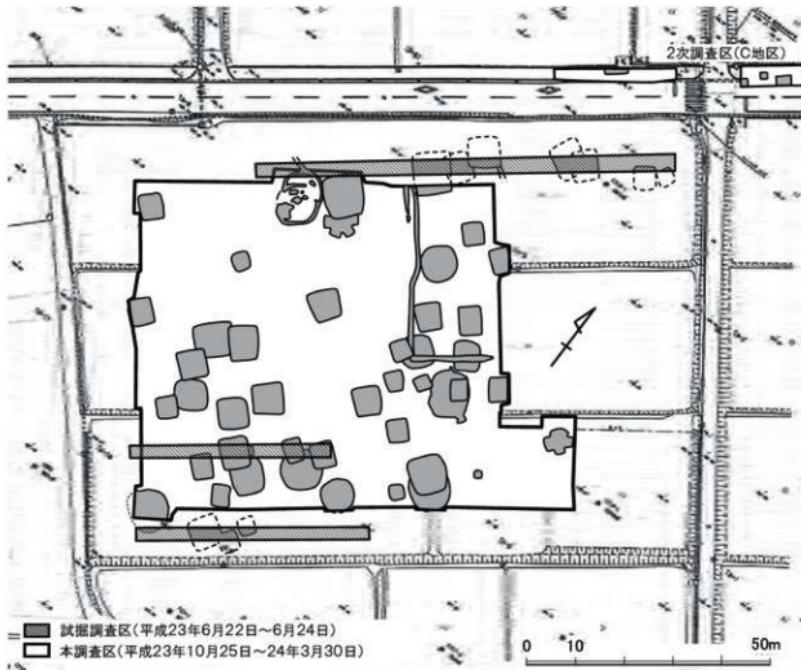
第Ⅱ章 調査の成果

第1節 調査の概要

大野川治いの河岸段丘に所在する陣箱遺跡は、段丘面に沿うように南東から北西に向かってわずかに傾斜するほぼ平坦な地形上にある。昭和40年代には圃場整備が行われているが、遺構検出面まで厚い堆積土のためか遺構や遺物が良好に遺存していることが過去の調査で確認されている地域でもある。

平成23年6月22日から24日にかけて行われた試掘調査後、耕作地のため一旦埋戻して農地とし、耕作終了後の10月より本調査を行う運びとなった。調査区は排土置場の確保も兼ねて、調査対象地の中心部分で浄水場建築物の範囲5200m²を対象として実施した。稲の収穫後の10月25日に水田部分の表土剥ぎを先行して開始し、11月2日に残りの畠地部分の表土剥ぎを実施した。弥生時代中期から古墳時代初頭までの竪穴遺構は当初は43基としていたが、うち1基は重複の可能性が判明したため44基を検出している。その他に掘立柱建物や土坑や周溝墓、中世の溝状遺構などを検出し、最後に空撮を行って平成24年3月30日まで実質157日間で調査は終了した。期間中の2月16日に地元百枝小学校、3月24日に一般市民対象など現地説明会を4回開催し、延200名の来訪者があった。

なお、事前の確認調査の試掘トレーンチ3ヵ所のうち、2ヵ所は第3次調査区域外となっている。したがって確認調査で検出した17基の竪穴遺構のうち8基は、本調査で検出した44基に含まれているが、それ以外は本調査には至らず保存措置となっている。



第4図 陣箱遺跡第3次調査区配置図 (1/1000)

第2節 弥生時代～古墳時代の遺構

(1) 壺穴遺構

主体的な遺構である壺穴遺構はほぼ住居跡とみられるもので、計44基を検出している。平面形態の多くが方形でその中には正方形・長方形・台形などがある以外にも圓丸方形状のものや、円形・花弁形と呼ばれる形状があり、多様性が確認されている。また方形のものは、主軸は方位とは45°向きを変えた概ね北西～南東方向が多く、傾斜地形に沿って主軸とした構築であることが考えられる。

遺構内部は黒色土による覆土で褐色土が部分的に混在する場合もあるが、床面は貼床と呼ばれる褐色土と黒色土の混合土による整地層があり、踏みしめられているためか一部硬質化した状態で検出されている。この床面は若干の凹凸はあるものの概ね平面に均されているが、花弁形や一部の円形の遺構では、中央と周囲で段差のある二段掘り構造の床面もみられる。

床面上には柱穴と考えられる掘り込みが複数あるが、径や深さなどの規模や配置から判断される主柱穴には多様な配列が確認できる。遺構の規模や時期等との関連が考えられているが、壺穴遺構の主柱穴以外に補助的な柱穴と思われるものも数多くあり、多種多様な配列で判断に迷うものも多い。また貼床の下より柱穴遺構を検出できた例もあり、別の遺構との重複の可能性もあるが、位置的にも主柱穴と判断できるものもあり、建替えによる改築などの痕跡が示唆される。

壺穴床面上には、主柱穴の近くに褐色土が堆積しているものが多く、過去の調査例から壺穴遺構廃棄時における柱抜取りに伴う盛土と考えられている。大野川中流域の多くの遺跡で同様の痕跡が確認されている。

床面に残されている地床炉の痕跡として、一部が赤色化した焼上面と炭化物が多量に混入する浅い土坑の2種がある。さらに焼土については覆土層中に炭化物も一部混入して床面よりやや浮いた状態で検出される例も多く、焼失または埋戻しに伴う堆積と考えられるものもある。遺構平面図には床面上の焼土・炭化物、及び覆土の焼土層とそれぞれ分けて表記している。

また、壺穴中央から南東寄りにかけて不定形土坑を検出している例もあり、多くが浅く皿状に掘り窪めたもので、中には床面がわずかに窪んで検出した場合もある。また小規模な柱穴状の穴が隣接することが多い。

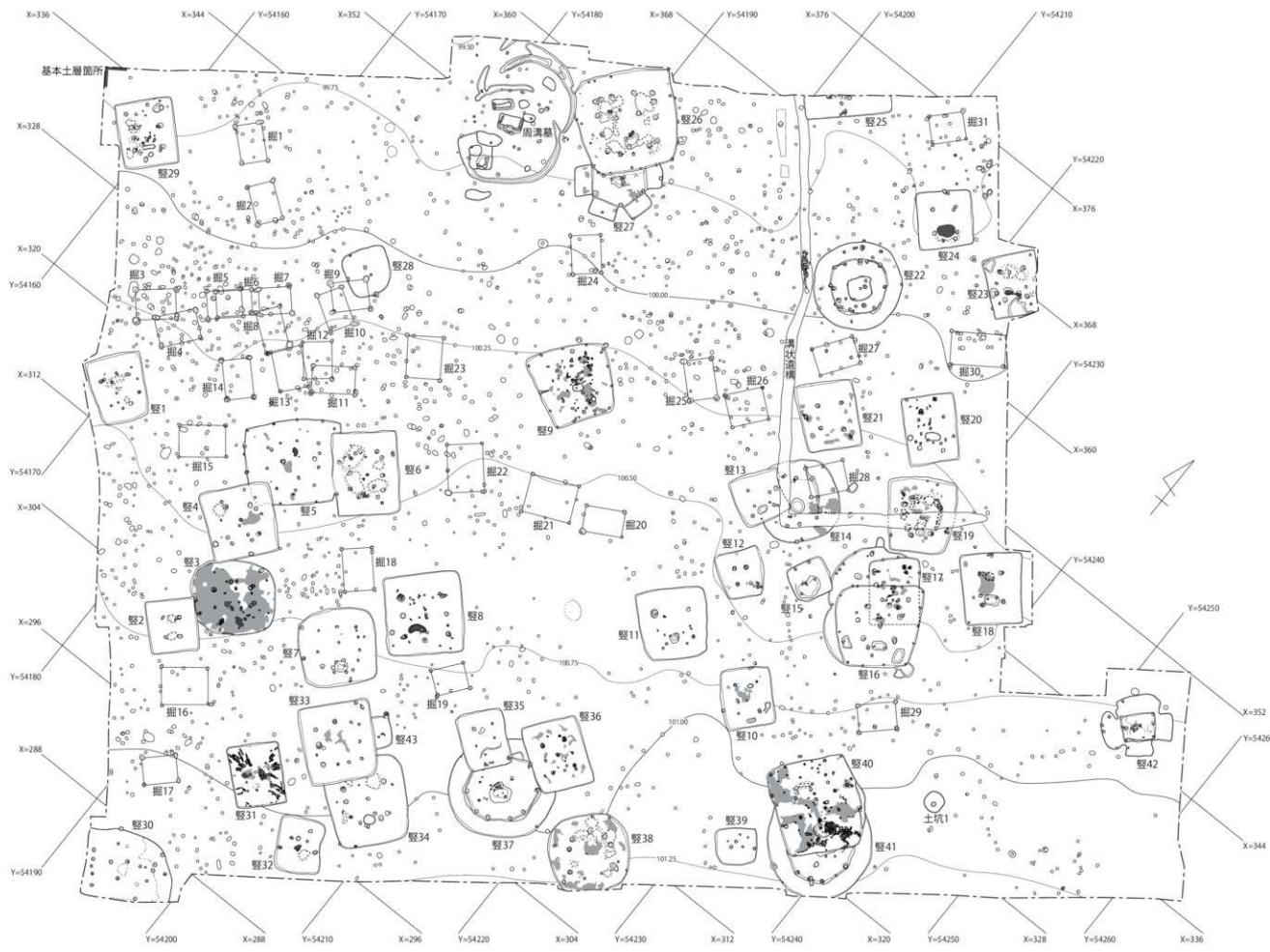
遺構の土層はほぼ黒色土のため、中世の溝以外はほぼ同質同色で切り合いの新旧についての判断は困難であることが多い。44基中、半数以上の24基の壺穴遺構に別の遺構との切り合いが確認できるが、遺構検出段階での切り合い状況については判然としないものもある。特に16号・17号壺穴遺構は遺構検出時で複数の遺構の切り合いと想定され、ベルトを残しながら慎重に掘り進めるものの判断し難く、床面を検出して漸く判断できたものである。17号は焼土の範囲から推測できたが、16号については異なる遺構とも考えられる土層のため16号a・16号bとして記述する。

壺穴遺構の分類

平面形態や主柱穴配置の要素は、これまで大野川中流域の各遺跡での多くの調査例から規則性が指摘されており、各調査報告書によって様々に分類が行われている。本書でも一部踏襲しながら第1表のとおりA類～K類は主柱穴の本数や配置の分類で、1型～4型は平面形態毎に組み合わせて分類した。

まず主柱穴配置のA類は本数は6本～10本程度と一定ではないが、中心を取り巻くように円形に配置しているもので、円形の壺穴が多い。1本柱のB類や2本柱のC類は概ね中央に配置しているもので、小型の遺構に多い。方形の壺穴遺構に多いD類～K類は、壁に沿って4本～12本を方形に配置しているもので規模によって本数が増える傾向にある。H類はD類を2本ずつに増やした形と推定されている。特にK類は本遺跡のみの類型のため、補助柱穴との関係等も含め、主柱穴配列の検討も必要である。

このような類型はこれまで調査の行われた大野川流域の各遺跡の遺構と共に通しているものであり、一概には捉えられない部分も多いが、時期的な変遷もある程度傾向がうかがわれる。

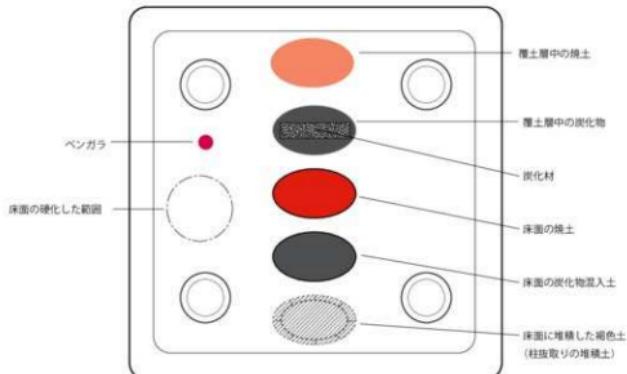


第5図 陣箱遺跡第3次調査構造配置図 (1/300)

0 10 20m

類型	平面形態 主柱穴配置	1.方形 (正方形)			2.隅丸方形	3.円形	4.花弁形	計	
		(長方形)	(台形)						
A型		中心を取り囲むよう円形状に複数配置		1号		14号 37号 41号	22号 38号	27号	8
B型		中心付近に1本配置		28号	43号				2
C型		中心付近に2本配置	13号 15号 39号	32号					4
D型		四隅に1本ずつ方形状に4本配置	2号 4号 24号	10号 17号 18号 20号 21号 23号 35号	11号 12号				12
E型		壁に沿って3本+2本の方形状に5本配置		29号 31号	34号				4
F型		壁に沿って2本+2本+2本の方形状に6本配置		6号 36号			42号		3
G型		壁に沿って3本+2本+2本の方形状に7本配置	8号		7号 3号				1
H型		四隅に2本ずつ8本配置	(4号)	(6号) (29号)	9号 16号b 19号				3
I型		壁に沿って3本+2本+2本+2本の方形状に9本配置	40号						1
J型		壁に沿って4本+2本+3本の方形状に9本配置	33号	5号					2
K型		壁に沿って4本+2本+2本+4本の方形状に12本配置		26号					1
不 明		16号a 25号 30号							3

第1表 竪穴道構分類表



第6図 竪穴道構表示例

號穴 番号	規格 (mm) (東×北西×南北×東西 幅×深さ)	面積 (m ²)	主方向 N	帶型		炉跡	土 坑	重複関係	出土遺物 時期	備考
				主柱穴	平面形					
1号	5.6×(4.6~3.8)×0.7	23.5	N-51°-W	D	1	○			弥生後期終末～古墳初頭	主柱抜取り痕
2号	4.4×4.2×0.5	18.4	N-45°-W	D	1			3号竪穴	弥生後期後葉	主柱抜取り痕
3号	6.0×6.8×0.3		N-43°-W	G	2	○	○	2号・4号竪穴	弥生後期初頭～前葉	
4号	5.8×5.8×0.6	33.6	N-50°-W	D	1			3号・5号竪穴	弥生後期中葉	主柱抜取り痕・埴土層
5号	7.0×(8.0~6.8)×0.5	51.8	N-43°-W	J	1	○		4号・6号竪穴	弥生後期初頭～前葉	埴土層
6号	6.8×5.4×0.5	36.7	N-41°-W	F	1			5号竪穴	弥生後期後葉	主柱抜取り痕
7号	6.4×6.4×0.6		N-47°-W	G	2		○		弥生後期中葉	
8号	6.6×6.4×0.4	42.2	N-45°-W	G	1	○			弥生後期終末～古墳初頭	柱穴内土器・磚出土
9号	6.2×(6.6~5.3)×0.6	36.8	N-58°-W	H	1	○			弥生後期後葉	埴土・炭化物層
10号	4.9×4.3×0.6	21	N-47°-W	D	1		○		弥生後期後葉	埴土層
11号	5.8×(5.7~5.0)×0.3	31	N-47°-W	D	1	○	○		弥生後期後葉	
12号	3.8×(3.7~2.8)×0.4	12.3	N-51°-W	D	1				弥生後期中葉	
13号	4.2×4.0×0.5	16.8	N-60°-W	C	1		○	14号竪穴・溝状遺構	弥生後期後葉	
14号	6.7×6.4×(0.2, 0.3)	N-50°-W	A	3				13号竪穴・28号掘立・溝状遺構	弥生後期初頭～前葉	埴土層
15号	3.1×3.3×0.3	10.2	N-62°-W	C	1	○		16号b竪穴	弥生後期後葉？	
16号a	11.6×7.6×7?×0.3	—	?	?				16号b・17号竪穴	弥生後期後葉？	
16号b	6.8×(7.2~5.4)×0.6	42.8	N-40°-W	H	1		○	16号a・17号竪穴	弥生後期中葉？	
17号	5.4?×4.2×0.4	22.67	N-40°-W	D	1	○		16号a・16号b竪穴	弥生後期後葉	埴土層
18号	5.8×4.8×0.4	27.8	N-41°-W	D	1				弥生後期後葉	埴土層・主柱抜取り痕
19号	6.2×(5.6~4.6)×0.6	31.6	N-31°-W	H	1	○			弥生後期中葉	埴土層・主柱抜取り痕
20号	5.6×4.3×0.6	24.0	N-48°-W	D	1	○	○		弥生後期終末～古墳初頭	埴土層
21号	5.6×4.7×0.6	26.3	N-50°-W	D	1	○			弥生後期後葉	埴土層
22号	7.3×7.3×(0.2, 0.4)	41.8	N-23°-W	A	3				弥生後期初頭～前葉	
23号	5.1×4.4×0.4	22.4	N-50°-W	D	1	○			弥生後期後葉	主柱抜取り痕
24号	4.7×4.5×0.5	21.4	N-45°-W	D	1	○			弥生後期終末～古墳初頭	主柱抜取り痕
25号	?×7.1×0.4	7	N-44°-W	?	1?				溝状遺構	弥生後期中葉？
26号	8.2×(8.2~7.0)×0.4	62.3	N-23°-W	K	1	○	○	27号竪穴・周溝墓	弥生後期中葉	主柱抜取り痕
27号	7.2×6.8?×(0.2, 0.4)	34.67	N-43°-W	A	4			26号竪穴	弥生中期	硬化貼床
28号	3.9×(3.8~3.0)×0.3	13.2	N-58°-W	B	1			9号掘立	弥生後期中葉	
29号	5.5×4.8×0.5	26.4	N-44°-W	E	1		○		弥生後期後葉	主柱抜取り痕・柱穴内磚出土
30号	?×7×0.1	?	—	?	1?				弥生後期初頭～前葉	硬化貼床
31号	5.2×4.2×0.6	21.8	N-47°-W	E	1	○	○		弥生後期終末～古墳初頭	埴土・炭化物層
32号	4.6×3.8×0.4	17.4	N-30°-W	C	1	○	○		弥生後期後葉？	主柱抜取り痕
33号	6.4×6.0×0.4	38.4	N-50°-W	J	1			34号・43号竪穴	弥生後期後葉	埴土層・柱穴内磚出土
34号	7.2×(6.6~5.8)×0.3	44.6	N-51°-W	E	1		○	33号竪穴	弥生後期中葉	主柱抜取り痕・柱穴内磚出土
35号	4.8×3.8×0.3	18.2	N-52°-W	D	1			37号竪穴	弥生後期後葉	主柱抜取り痕
36号	5.8×4.7×0.3	27.2	N-58°-W	F	1			37号竪穴	弥生後期後葉	埴土層・柱穴内磚出土
37号	8.0×8.8×(0.3, 0.6)	55.3	N-50°-W	A	3			35号・36号竪穴	弥生後期初頭～前葉	埴土層
38号	6.47×6.7×0.3	33.67	N-44°-W	A	3				弥生後期中葉	埴土層・主柱抜取り痕
39号	3.1×3.4×0.4	10.5	N-40°-W	C	1				弥生後期後葉	
40号	7.7×7.0×24	53.9	N-51°-W	I	1	○	○	41号竪穴	弥生後期中葉	埴土層・主柱抜取り痕
41号	9.07×8.5×(0.4, 0.6)	60.07	N-43°-W	A	3			40号竪穴	弥生後期初頭～前葉	
42号	5.0×5.9×(0.1, 0.5)	22.9	N-43°-W	G	4				弥生中期	硬化貼床・埴土層
43号	2.7×7×0.3	?	N-46°-W	B	2			33号竪穴	弥生中期	

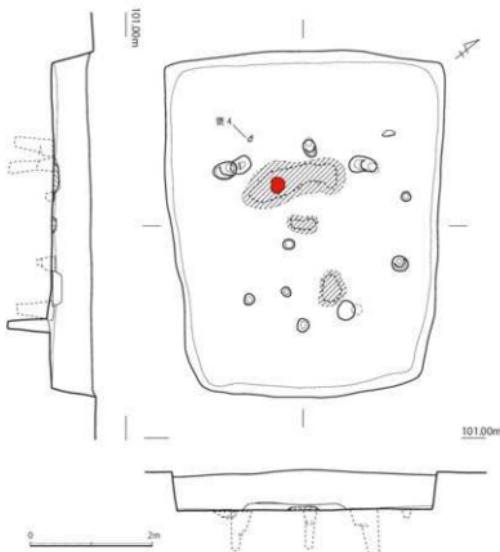
第2表 竪穴遺構一覧表

1号竪穴遺構

調査区西側に所在し、規模は長軸5.6m、短軸は北西側4.6m、南東側3.8mと台形気味の長方形を呈する平面觀である。床面には柱穴状の掘り込みが多く、主柱穴はA類の配置にもみえるが、四隅4本のD類にいくつかの補助柱穴の配置と思われる。また、床面中央付近に地山黄色土の堆積が3カ所確認できる。中央西側の堆積土下の床面に焼土があり、焼跡と思われる。

出土遺物は土器が第55図1~8で、1は長頸壺で頸部に刻目入りの突帯がある。2は複合口縁部、3~5は甕で6は甕の底部と思われる。7は鉢、8は高环の杯身である。

土器片加工品は15点あり、石器は磨石が2点、磨製石鐵が4点である。鉄器は第120図22の鉄斧と思われる1点である。



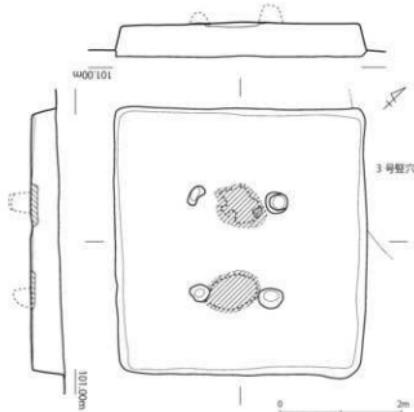
第7図 1号竪穴遺構実測図 (1/80)

2号竪穴遺構

調査区南西寄りで3号竪穴遺構と一部切り合っており、一辺4m強のほぼ正方形を呈する平面觀である。主柱穴は比較的浅いが、中心に長方形状に配置する4本のD類と考えられる。中央付近柱穴間に床面上には黄色土の堆積が2カ所確認できるが、焼跡は不明である。また、中心床面付近に浅い土坑がある。

出土遺物は土器が第55図9~14で、9・10は甕の複合口縁部である。11・12は甕口縁部で13は甕または甕の底部である。14は高环脚部である。

土器片加工品は7点である。石器は台石1点、打製石斧1点、磨製石鐵2点、打製石鐵1点である。



第8図 2号竪穴遺構実測図 (1/80)

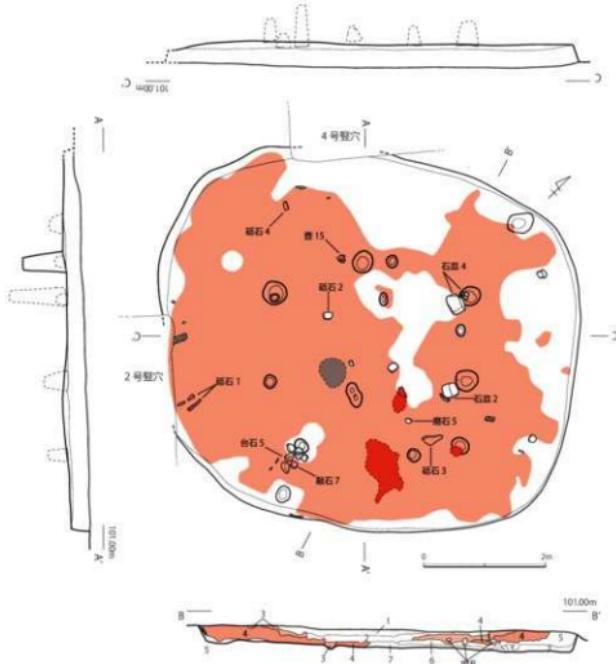
3号竪穴遺構

調査区南西寄りに所在し、2号・4号竪穴遺構と切り合っている。南北6.0m東西6.8mほどの楕円形気味の隅丸方形を呈する平面観である。床面には多くの柱穴状の掘り込みがあり規模・深さに違いはあるが、主柱穴は弧状に配列する様相の、中央から東・西・北に3本ずつ並ぶ計7本（G類）と考えられる。覆土中に焼土や木炭を含む層が顕著に堆積していたが、東南付近の床面上に焼土が点在し、中央南付近には炭化物の堆積がある。

出土遺物は土器が第56図15～28で、15・16は壺の複合口縁部で上端部に貼付浮文、外面に連続山形状の押型文があり、17は断面三角状に肥厚する單口縁壺である。18～20は壺の頸部で貼付突帯の下に勾玉状浮文がある。21は壺の胴部、22は壺底部である。23は撋口縁部で外面頸部に沈線があり、24は端部外側を肥厚させている。25は平底、26は上げ底状の壺底部である。27は鉢形土器で頸部に穿孔があり、外面と口縁内面に赤色塗彩がある。

石器は多く、石皿・台石が4点、磨石が7点、砥石が5点、磨製石錐6点、石錐未製品が3点、また勾玉が1点出土している。

鉄器は第120図14で鉄錐基部1点である。



- 1層 黒色土 褐色粒子を若干含む 黒味の強い教質土。燒土を部分的に含む
- 2層 黒褐色土 褐色粒子を多く含む。褐色気味の土と黒土の混入する教質土。燒土を部分的に含む
- 3層 暗褐色土 2層に燒土ブロックを多く混入。一部焼土
- 4層 赤褐色土 燃土に多量に含む。部分的に硬質化した焼土あり
- 5層 黒色土 黒味の強い教質土。褐色粒子・炭化物を若干含む
- 6層 黒色土 褐色気味の土が混入する 2層と同質の黒味の強い土
- 7層 暗褐色土 6層と同質でやや褐色土が多く明るめ

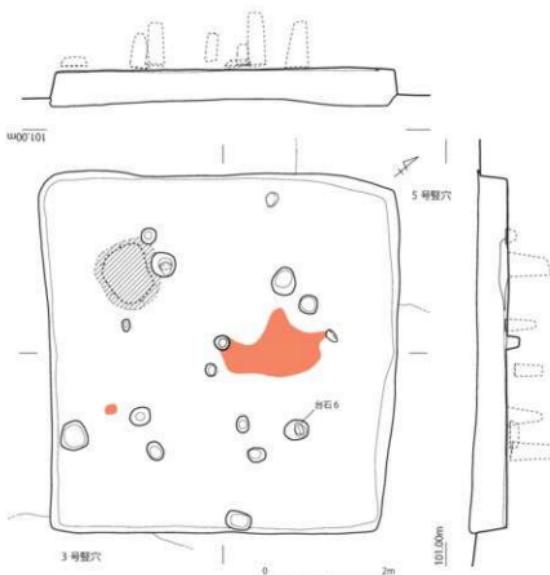
第9図 3号竪穴遺構実測図 (1/80)

4号竪穴遺構

調査区南西寄りで3号・5号竪穴遺構と一部切り合っており、一辺5.8mほどのほぼ正方形を呈する平面観である。主柱穴はやや不揃いな配置であるがD類の四隅の4本と考えられる。しかし貼床下よりいくつかの柱穴が検出され、元は四隅に2本ずつH類であったと考えられる。中央付近の床面には焼土を含む覆土の堆積がみられたが、特に炉跡は明確でない。床面西隅寄りに柱抜取りに伴うと考えられる盛土が1カ所確認できる。

出土遺物は土器が第56図29～33で、29が壺の複合口縁部で上端に刺突文、外面に山形状の文様がある。30は甌の口縁部、31・32は甌の底部で、33は鉢の口縁部と思われる。

土器片加工品は5点出土している。石器は台石1点が主柱穴内より出土しているほか、磨石1点、鐵器は第120図21の板状の鐵製品が出土している。



第10図 4号竪穴遺構実測図 (1/80)

5号竪穴遺構

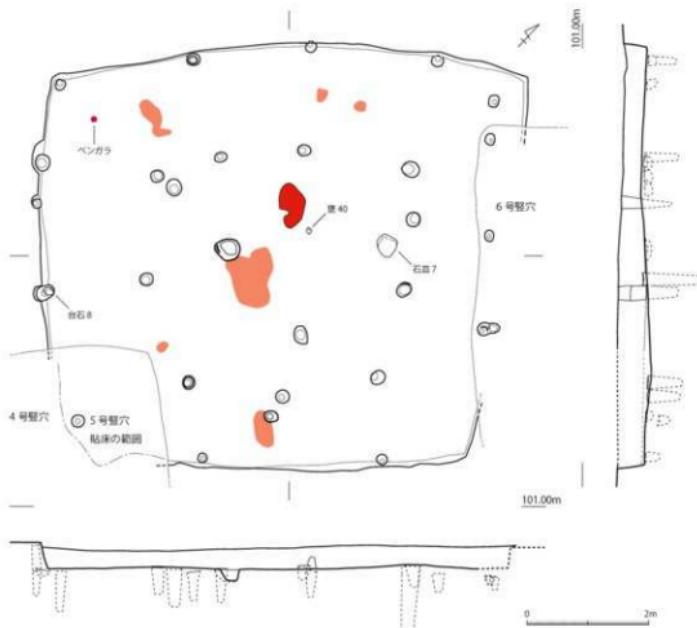
大型の規模の竪穴で4号・6号竪穴遺構と一部切り合っている。南隅は4号竪穴によって失われているが、4号竪穴の貼床下より5号竪穴の貼床の一部と考えられる堆積が遺存していたので、北西-南東軸7.0m、北東-南西軸8.0～6.8mほどの台形気味の平面観であったと考えられる。

床面には多くの柱穴状の掘り込みがあり、深さも一定でなく主柱穴の判断は困難であったが、北西壁に並行して4本、他の壁に並行して3本ずつ9本柱のJ類と考えられる。また、壁際に沿って小規模な柱穴列があり、14カ所確認できる。間隔も一定でなく、位置も壁に接するもの、壁面を掘削するもの、壁からやや離れるものなどさまざまである。

中央付近の床面には北西寄りに焼上面があるほか、周囲に焼土を含む覆土の堆積が点在している。西隅側付近にベンガラの堆積を確認している。

出土遺物は土器が第57図34～42で、34～38は甌の口縁部、39は甌の頸部で外面に沈線がある。40・41は甌の底部である。42は鉢形土器と思われる口縁部で、端部から外面に赤色塗彩がある。

石器は石皿・台石2点、磨石1点、砥石1点、磨製石鐵7点、石礫未製品1点である。



第11図 5号竪穴遺構実測図 (1/80)

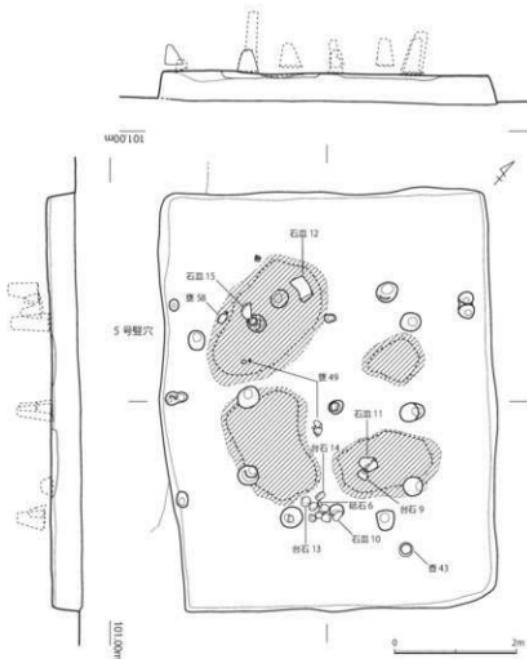
6号竪穴遺構

調査区南西寄りで5号竪穴遺構と一部切り合っており、北西—南東軸6.8m、北東—南西軸5.4mほどの長方形を呈する平面観である。床面には多くの柱穴状の掘り込みがあるが、主柱穴は貼床面で検出した南西壁に並行する3本と北東壁に並行する3本の計6本(F類)と考えられる。しかし、貼床下からも新たな柱穴をいくつか検出しており、元は四隅に2本ずつ配置するH類であった可能性がある。

床面には焼土や炭化物などはみられないが、主柱穴の周囲に黄色土の堆積が確認できる。

出土遺物は土器が第57図43~60である。43は壺の複合口縁部で外面は刷毛目で、東側床面上より出土している。44~46も壺の複合口縁部で、外面には櫛描波状文がある。47は丸底の壺底部で、48は平底の壺または甕の底部である。49~60は甕で、49は頸部から胴部、50~56は口縁部、57~60は底部である。

土器片加工品は4点である。石器は石皿・台石7点、磨石1点、砥石2点、磨製石斧1点である。他に竪穴南側柱穴間の一部に礫の集中がみられる。



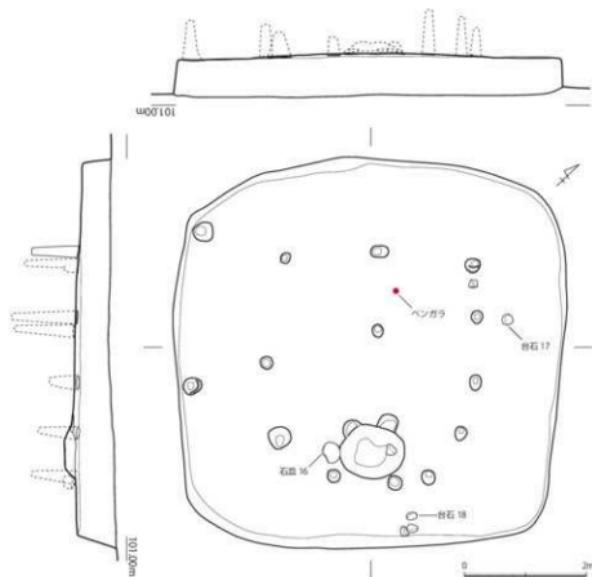
第12図 6号竪穴遺構実測図 (1/80)

7号竪穴遺構

一辺が6.4mほどで隅丸気味の方形を呈する平面観である。床面には多くの柱穴状の掘り込みがあり、規模・深さに違いはあるが、主柱穴はG類の7本に補助柱穴群が配置されているものと考えられる。床面には焼土や炭化物などはみられず、埋跡は明確でない。中心より南東寄りに長さ1.1m幅0.9m深さ0.2mほどの楕円形の土坑がある。また中心より北寄りにベンガラを検出している。

出土遺物は土器が第58図61～72である。61が小型壺と思われる口縁部で、内外面に赤色塗彩がある。62は複合口縁壺の口縁部で、端部上面に貼付浮文、外面に山形文がある。63は丸底の壺底部である。64～69は壺の口縁部で、64・65は器壁の厚い粗製壺である。70～72は壺の底部である。

土器片加工品は32点が出土し、本調査区では最多の出土量である。石器は石皿・台石3点、砥石2点、磨製石鎌3点、石鏃未製品1点である。鉄器は袋状鉄斧1点が出土している。



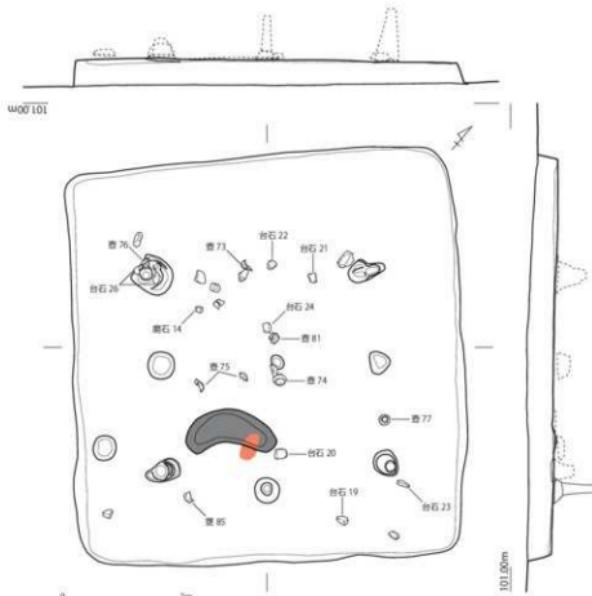
第13図 7号竪穴遺構実測図 (1/80)

8号竪穴遺構

北西—南東軸6.6m、北東—南西軸6.4mのほぼ正方形を呈する平面観である。主柱穴はG類の7本と考えられるが、竪穴中央も主柱穴としての組み合わせの可能性もある。床面には中央南寄りに炭化物を含む浅い土坑があり、焼土の堆積も検出されている。

出土遺物は土器が多く、特に壺の複合口縁部が床面や柱穴内より多く出土している。土器が第58・59図73～91で、73が壺の胸部上半から口縁部で赤色顔料が線状に塗布されている。74～79は頸部付近から口縁部で、76に焼成後の穿孔が頸部付近に確認できる。80は壺の胸部から底部で、81は頸部である。82・83は壺の底部である。84～89は壺の口縁部で84は頸部下に波状文が描きされている。90・91は壺底部である。

土器片加工品は1点である。石器は台石8点、磨石1点、磨製石斧1点である。



第14図 8号竪穴遺構実測図 (1/80)

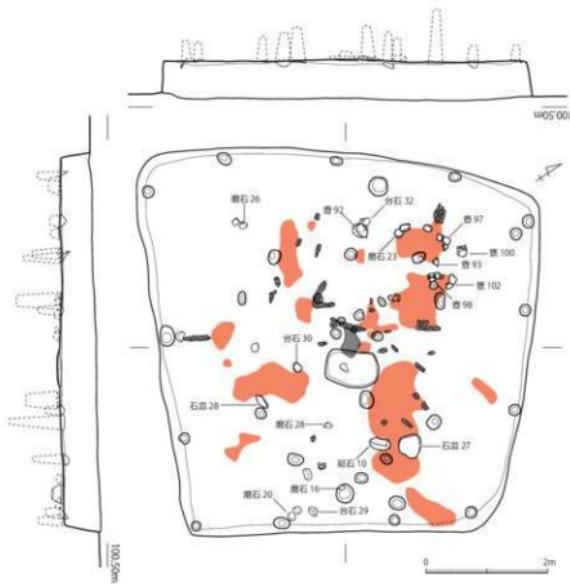
9号竪穴遺構

調査区中央に所在し、規模は北西—南東軸は6.3m～6.0m、北東—南西軸は北西側6.6m、南東側5.3mとややいびつな台形を呈する平面観である。床面に多くの柱穴状の掘り込みがあるが、主柱穴はH類の四隅に2本ずつの計8本と考えられる。また、壁際に沿って小柱穴があり、一部不揃いではあるが13ヵ所確認できる。

多くの焼土と炭化物が覆土層中で検出されており、中心の床面に炭化物の堆積があり、が理跡と考えられる。その南東側に接するように楕円状の浅い土坑がある。

出土遺物は土器が第60図92～108で、92～96は壺の複合口縁部で92には口縁端部外側に刻目状列点文があり、頸部は格子状刻目のある突帯がある。97は壺の胸部で、98・99は壺または壺の底部である。100・101は粗製壺で、100の頸部下に工字状と波状文の線刻による沈線がある。102～105は壺口縁部で、106～108は壺底部である。

土器片加工品は19点で多く出土している。石器も多く、石皿・台石6点、砥石2点、磨石・敲石が19点、打製石鏃1点、磨製石鏃4点、石鏃未製品3点である。



第15図 9号竪穴遺構実測図 (1/80)

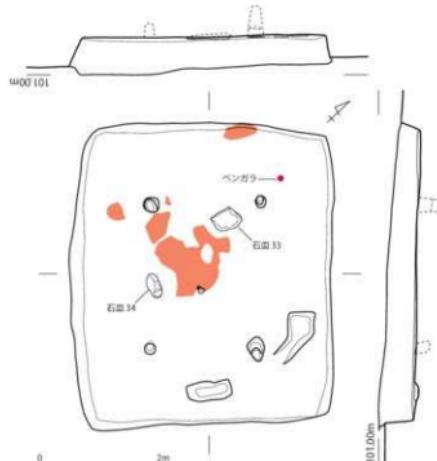
10号竪穴遺構

調査区中央に所在し、規模は北西—南東軸4.9m、北東—南西軸4.3mほどの長方形を呈する平面観である。床面の柱穴状の掘り込みは規模・深さに違いはあるが、主柱穴はD類の四隅の4本と考えられ、竪穴平面に沿った長方形形状に配置されている。

焼土を含む覆土が検出できたが、床面上には焼土や炭化物などはみられず、炉跡は明確でない。南東側壁近くで楕円状の浅い土坑が確認できる。また、北隅近くの床面上にベンガラを確認している。

出土遺物は土器が第61図109～114で、109と110が壺の複合口縁部で110の端部に浮文、外面に櫛描波状文がある。111は壺の底部である。112～114は甌の口縁部である。

土器片加工品は6点である。石器は石皿・台石2点、磨石1点である。



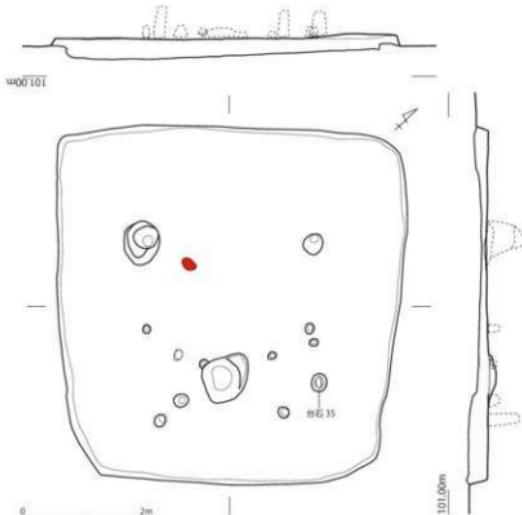
第16図 10号竪穴遺構実測図 (1/80)

11号竪穴造構

規模は北西—南東軸は5.8m、北東—南西軸は北西側5.7m、南東側5.0mの台形を呈する平面観である。床面には多くの柱穴状の掘り込みがあり、主柱穴はD類の四隅の計4本と考えられるが、西隅の柱穴は径が大きく掘り込まれている。

中央西寄りの床面に焼土があり、炉跡と考えられる。また中心より南東側に円形の浅い土坑がある。

出土遺物は土器が第61図115～117である。115は甕の口縁部で、116は頸部に穿孔がある鉢で、117は鉢と思われる底部である。石器は台石1点が柱穴内より出土している他、砥石1点である。



第17図 11号竪穴造構実測図 (1/80)

12号竪穴造構

規模は小型で、北西—南東軸は3.7m～4.0m、北東—南西軸は北西側3.7m、南東側2.8mを測る台形を呈する平面観である。主柱穴は四隅に1本ずつの計4本で長方形状の配置である。焼土や炭化物は検出できず炉跡は不明である。南側床面よりベンガラを検出している。

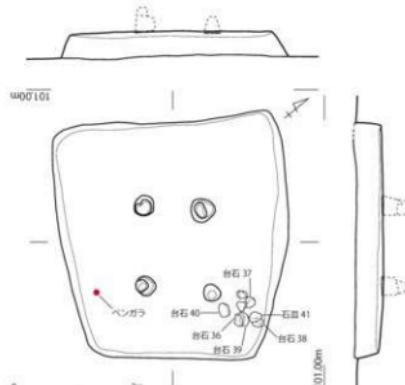
出土遺物は土器が第61図118～120で、118は小型壺で内外面に赤色塗彩がある。119は甕の底部で、120は高杯の口縁部である。土器片加工品は2点出土している。

石器は東隅近くで集中して出土しており、石皿・台石6点がある。

13号竪穴造構

規模は北西—南東軸は4.2m、北東—南西軸は4.0mで、14号竪穴や溝状造構と切り合っていて特に北壁がややいびつで検出されているが、ほぼ正方形を呈する平面観と考えられる。床面にいくつかの柱穴状の掘り込みがあり、主柱穴は判然としない。14号のものと考えられる2ヵ所を除き、深さから判断して造構の主軸からは外れるものの、中心の南北に2本配置するB類と思われる。焼土や炭化物は検出できず炉跡は不明である。中心より南東側に梢円形の浅い土坑がある。

出土遺物は14号からの流れ込みも一部含まれるとと思われる。土器が第61図121～129で、121・122は同一個体と思われる長頸壺で、外面は丁寧な磨き調整である。123は壺または甕の底部である。124・125は器壁の厚い粗



第18図 12号竪穴造構実測図 (1/80)

製甕で、124の頸部下に沈線が巡る。126・127は甕の口縁部、128・129は鉢の口縁部である。

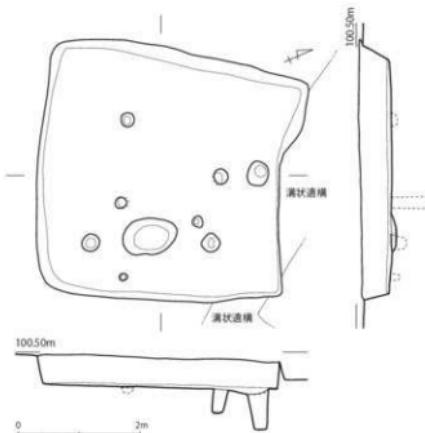
土器片加工品は6点である。石器は磨石1点、磨製石鏃5点、石錐未製品1点である。

14号竪穴造構

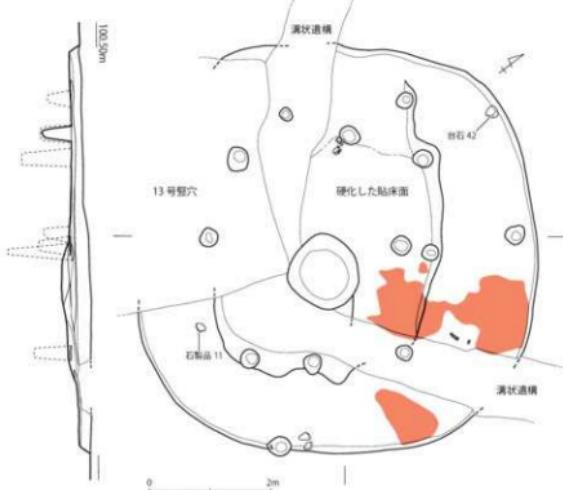
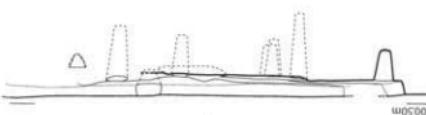
13号竪穴・溝状造構と切り合って一部失われているが、北西-南東軸は6.7m、北東-南西軸は6.4mと推定されるやや隅丸方形気味の平面観である。床面は中央と周囲に10cm程度の段差を有する二段掘りの構造である。中央の竪穴は一辺5mほどの略方形で、床面は特に硬質化した貼床が検出しており、中心付近に浅い土坑がみられる。柱穴状の掘り込みは中央竪穴の壁沿いに巡るように配置しており、溝状造構内の1本と13号竪穴内の2本を含めて計8本を方形状に配置すると考えられる。

東側覆土中に焼土や木炭を含む層が堆積していたが、床面上の焼土面や炭化物はみられない。

出土遺物は土器が第62図130~140である。130・131が外面山形文のある甕の口縁部で、132~137は甕の口縁部、135~137は刻目突帯のある下城式甕の口縁部である。138~140は甕の底部である。石器は台石が1点、磨製石鏃4点、石製品1点である。



第19図 13号竪穴造構実測図 (1/80)

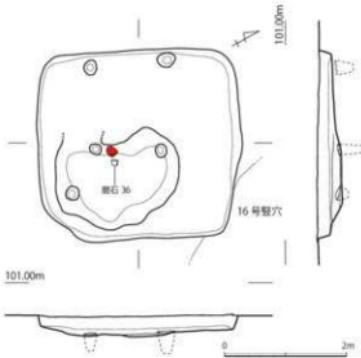


第20図 14号竪穴造構実測図 (1/80)

15号竪穴造構

16号竪穴と切り合っており、規模は北西—南東軸は3.1m、北東—南西軸は3.3mで、ほぼ正方形を呈する平面觀と考えられる。床面にいくつかの柱穴状の掘り込みがあるが、主柱穴は中心の南北にある2本でB類と思われる。中心付近の床面に焼土があり、炉跡と思われる。中央より南・東側にかけての床面に土坑状の大きな窪みがある。

出土遺物は土器が第62図141・142で、壺の底部である。石器は磨石が1点である。



16号a・16号b竪穴造構

17号竪穴造構とほぼ重なって切られているほか、15号竪穴にも一部切り合っている。検出当初は全体の形状は複雑であることから、複数の遺構の切り合いが想定されたものの遺構の見極めが困難であった。17号竪穴以外の複合関係は明確にできず、台形を呈する竪穴に不定形の張り出しを有する二段掘りの遺構と考えられた。

不定形の上段と台形の下段は明確な違いはみられず、一つの竪穴造構として調査は行われたが、土層の精査等により別の遺構との見方も考えられることから、上段の不定形部分を16号a、下段の台形を16号bとしている。16号a竪穴は、連続する弧状に南北に張り出しを有する不定形で、長軸11.6m短軸6.5m程度の規模と考えられる。16号b竪穴は、北西—南東軸は6.8m、北東—南西軸は7.2m～5.4mの台形形状を呈する平面觀で、両遺構の床面の段差は約30cmである。別遺構とすれば16号aが16号bに切られている状況である。

主柱穴の配列は16号aは不明であるが、16号は四隅に2本ずつ8本のH類と考えられる。また、壁際に沿って小柱穴があり、東壁の間隔は短く、西壁側の間隔は長めで13ヶ所確認できる。

焼土の堆積が検出されているが17号のものと考えられるため、abともに炉跡は不明である。16号bの南東側床面に浅い土坑が計3ヶ所みられる。

出土遺物は土器が第62図143～161で、ab一括であるが一部17号と混在していると思われる。143は口縁部に穿孔のある赤色塗彩の壺で、144～147は壺口縁部、148・149は下城式甕の口縁部、150～153は甕口縁部、154～159は底部である。160は壺の口縁部、161は高杯で赤色塗彩がある。

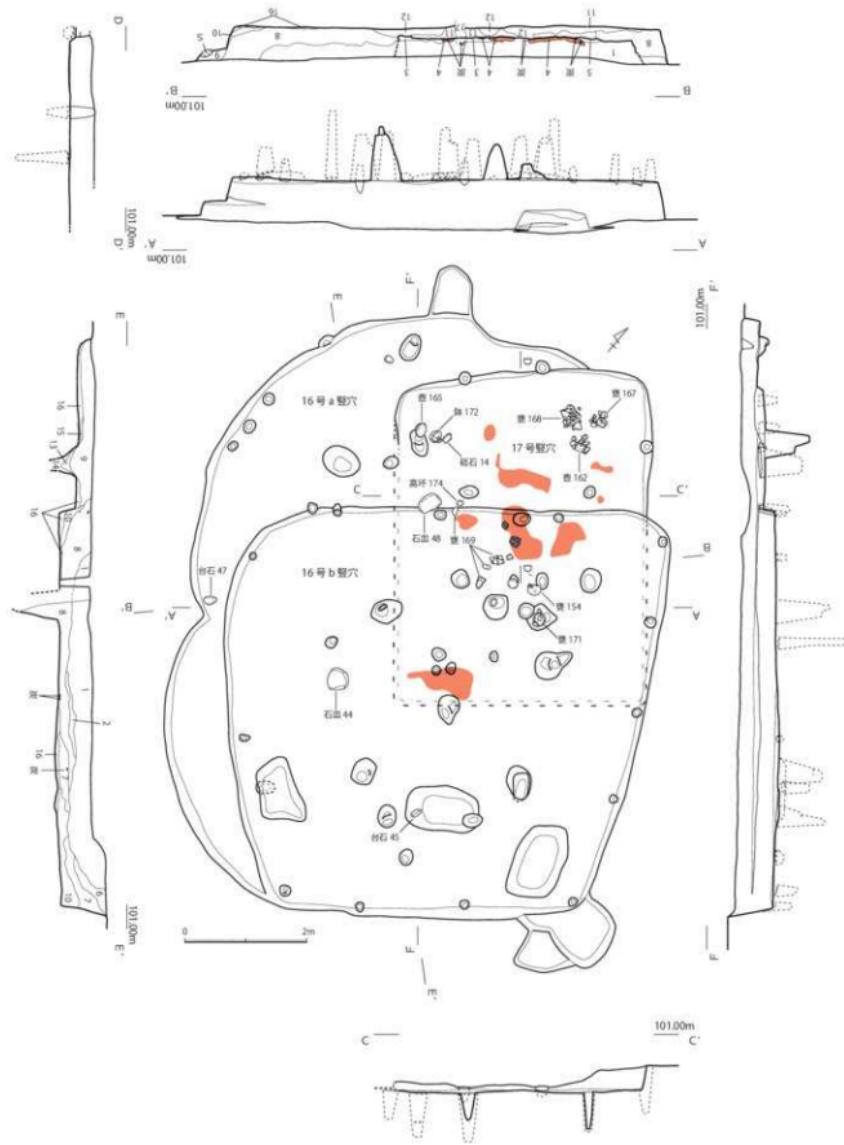
土器片加工品は9点である。石器は多量に出土し、石皿・台石5点、磨石3点、砥石2点、磨製石鐵3点である。

17号竪穴造構

大部分を16号竪穴内部で検出したもので、16号竪穴を掘り下げるうちに存在が判明したものである。壁や床面などは一部しか検出できず規模は明確ではないが、覆土に焼土や炭化物が16号より多く堆積しており、検出範囲から判断して北西—南東軸5.4m、北東—南西軸4.2mほどの長方形を呈する平面觀と推定される。主柱穴は四隅の4本と考えられるが、長方形状に配置している。前後関係は16号abより後出するものである。

床面は16号aを掘り込んでいたが、16号bよりは高く、覆土中での床面検出は困難であった。炉跡と思われる焼土面や炭化物による掘り込みは不明である。

出土遺物は土器が第63図162～174である。162～164は壺の複合口縁部で、165は壺の底部である。166・167・172・173は鉢で167は頸部に穿孔がある。168～171は甕で、171は柱穴状掘込み内から出土している。174は高杯または台付鉢の脚部である。土器片加工品は2点である。石器は石皿1点、磨石1点、砥石1点である。



第22図 16号・17号壁穴遺構実測図 (1/80)

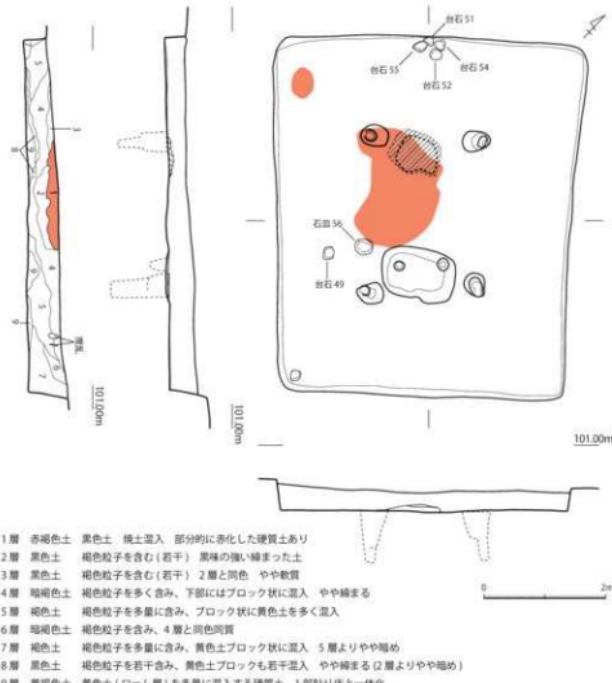
(第22回土層)

1層	暗褐色土	褐色粒子を多量に含む 黄色土ブロックも含む	9層	黒色土	褐色粒子・黄色土ブロックを若干含む 黑味の強い土
2層	暗褐色土	1層より粒子・ブロック少なくやや黒味がある	10層	暗褐色土	8層と同質で粒子少なくてやや暗め
3層	褐色土	1層に褐色土が混入する 明るめの土	11層	黄褐色土	黄色土が多く硬質で粘床状に混入する
4層	赤褐色土	塊土を含む 部分的に硬く締まる	12層	暗褐色土	褐色粒子・黄色土ブロックを含む 1層と同色
5層	褐色土	3層と同じ 黄色土と黒土の混合土	13層	暗褐色土	14層に黒土が多く混入する
6層	暗褐色土	1層よりやや暗め (2層に近い)	14層	褐色土	黒色土と黄色土がブロック状に混合する 軟質土 (黄色土に黒土が混入する)
7層	暗褐色土	1層と同色同質	15層	暗褐色土	黄色土ブロックが混入する 16層より暗め
8層	暗褐色土	1層より黄色土ブロックを多量に含む 明るめ	16層	黄褐色土	黄色土ブロックが多く混入する 粘床状

18号竪穴遺構

規模は北西—南東軸8m、北東—南西軸5.2~4.7mほどのやや台形気味の長方形を呈する平面図である。主柱穴は四隅の4本と考えられ、遺構平面に沿うような長方形の配置である。中央付近等の覆土中に焼土層の堆積を検出したが、床面上には焼土や炭化物などはみられず、か跡は明確でない。中心より南東側に梢円形の浅い土坑が確認でき小規模な掘込み2カ所を伴う。中心北東側の床面上に褐色土の堆積がある。

出土遺物は土器が第64図175~179で、175は壺の複合口縁部で、口縁外面と端部に波状文がある。176・177は甌の口縁部、178は高环脚部である。179は壺または甌の底部と思われる。石器は石皿・台石9点のうち4点が北壁沿いに集中している他、砥石1点、石鏃未製品2点である。



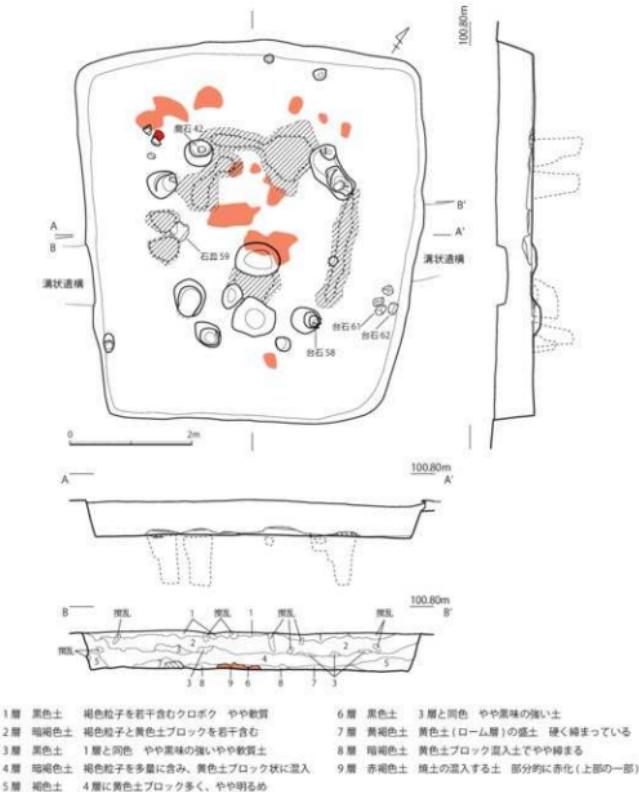
第23図 18号竪穴遺構実測図 (1/80)

19号竪穴遺構

溝状遺構と切り合っているが、ほぼ良好に残されている。規模は北西—南東軸は6.2m、北東—南西軸は北西侧5.6m、南東側4.6mのやや長方形気味の台形を呈する平面観である。主柱穴はH類の計8本と考えられる。

覆土中に焼土層の堆積が中心から北・西寄りの至る所にあり、そのうち西隅近くの床面に焼土がある。黄色土の堆積が主柱穴周囲の床面上で多く確認でき、中心から南東側にかけて楕円形の浅い土坑が3基ある。

出土遺物は土器が第64図180～186で、180は複合口縁壺の口縁部で端部に勾玉状浮文、外面に山形文がある。181は甌口縁部で刻目突帯が縦横にあり、口縁外にも刻目が施されている。182は粗製甌の口縁部で脛部上面に沈線による文様がある。183は甌脣部、184・185は甌口縁部である。186は鉢型土器口縁部と思われる。石器は石皿・台石5点、磨石4点、磨製石錐1点、石錐未製品1点である。台石や磨石は柱穴内や東壁などでの出土が多い。鉄器は鉄錐1点である。



第24図 19号竪穴遺構実測図 (1/80)

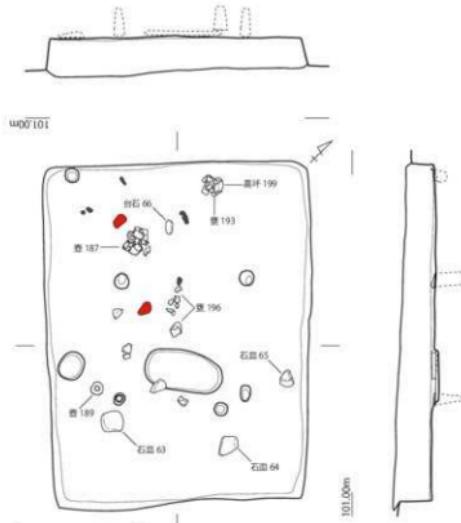
20号竪穴造構

規模は北西—南東軸5.6m、北東—南西軸4.3mほどの長方形を呈する平面観である。主柱穴は四隅の4本であるD類と考えられ、ほぼ正方形に配置している。

炭化物を含む覆土が多いが、中心及び西寄り付近の床面上に炭化物を含む焼土があり、炉跡と思われる。中心より南東側に楕円形の浅い土坑が確認できる。

出土遺物は、土器が第65・66図187～200で、187・199は床面上に廃棄された状態で見つかっている。187～191は複合口縁壺で、187は誇張された胴部に口縁部は無文である。192は壺の底部である。193～196は甌で、197～200は高環で、199はほぼ完形である。

土器片加工品は3点で、石器は石皿・台石4点、砥石1点、磨製石鏃3点が出土している。



第25図 20号竪穴造構実測図 (1/80)

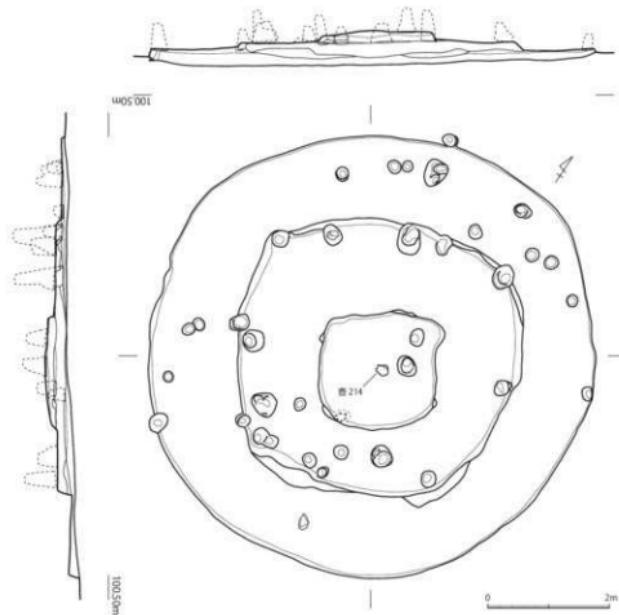
第26図 21号竪穴造構実測図 (1/80)

22号竪穴造構

径は7.3mのほぼ円形を呈する平面観である。中央に径4.6mほどの円形状の深い竪穴があり、周囲とは20cmほどの段差を有する二段掘り構造の床面である。柱穴状の掘り込みは多く見られるが、主柱穴は中央の竪穴の壁沿いに計8本ほどを巡らせるように配置するA類と考えられる。

中央竪穴の床面は周間に比べ特に硬質の貼床を検出しており、中心付近に浅い不定形の土坑がみられ、床面上の焼土面や炭化物はみられない。

出土遺物は土器が第67図207～214で、207は壺の胴部上半で頸部付近に突帯と斜方向の連続刻目がある。208は壺底部である。209～213は甕の口縁部で、209の端部は跳ね上り状で、212は器壁の厚い粗製、213は刻目突帯のある下城式甕である。214は甕の底部で中央の土坑内より出土している。石器は磨石2点、磨製石鐵3点、石鎚未製品3点で、鉄器は鉄鎌1点が出土している。



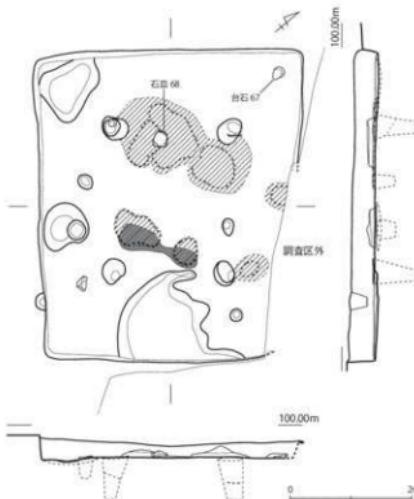
第27図 22号竪穴造構実測図 (1/80)

23号竪穴造構

調査区北隅近くに所在し、東隅の一部は調査区外となっている。規模は北西—南東軸5.1m、北東—南西軸4.4mほどの長方形を呈する平面觀と思われる。主柱穴はD類の四隅の4本と考えられ、遺構平面に沿って長方形に配置している。

中心より南東側床面上に軽跡と思われる炭化物の堆積がある。また南東壁などの三力所の壁沿いの床面に浅い土坑状の窪みが確認できる。また、黄色土の堆積が柱穴周囲などの床面上に多数ある。

出土遺物は土器が第67図215～217で、215は壺の口縁部、216は壺胴部である。217は高环脚部である。土器片加工品は1点である。石器は石皿・台石2点、砥石1点である。



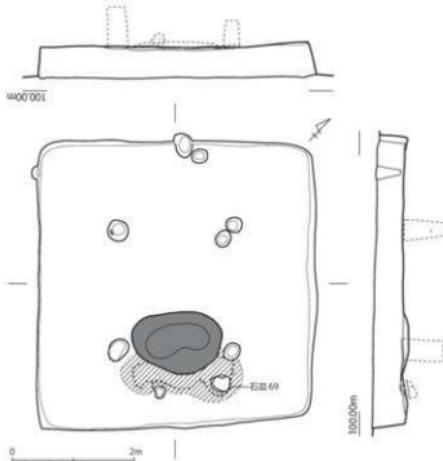
第28図 23号竪穴造構実測図 (1/80)

24号竪穴造構

規模は北西—南東軸4.7m、北東—南西軸4.7mほどのほぼ正方形を呈する平面觀である。主柱穴はD類の四隅の4本と考えられ、やや長方形気味の配置である。

中心より南東側床面上に軽跡と思われる炭化物の混入する土坑がある。その南東床面上に接するように黄色土の堆積がある。

出土遺物は土器が第67図218～222で、218は壺の複合口縁部、219は壺の頸部から胴部上半で、頸部に格子状刻目のあるベルト状突帯の下に勾玉状浮文が付く。220・221は壺で222は壺の可能性もあるが鉢形土器と思われる。土器片加工品は6点である。石器は石皿1点である。



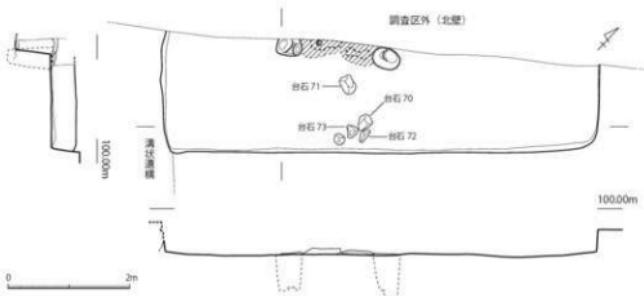
第29図 24号竪穴造構実測図 (1/80)

25号竪穴造構

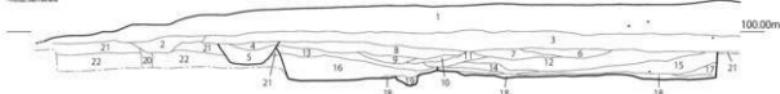
大部分が調査区外で、北東—南西軸7.1mを測る大型の方形状の平面観と考えられるが、規模・形態は不明である。南西壁が溝状造構と切り合って一部失われているが床面付近は遺されている。2本の柱跡がみられるが、主柱穴配列についても不明である。造構中央付近の床面が盛り上がっており、黄色土の堆積と思われる。

出土遺物は土器が第68図223～225で、223は壺の複合口縁部で、口縁外面に櫛描波状文がある。224は壺または甕の底部で、225は外面に赤色塗彩のある鉢の口縁部である。

石器は台石4点、砥石2点で、南壁沿いの集中がみられる。



北壁土層図



1層 黒色土	灰色気味の耕作土(表土)	12層 黒色土	褐色粒子を多く含み、黄色土ブロックもわずかに混入する
2層 黒色土	1層と2層の混在 やや褐色気味 残乱か	13層 黒色土	褐色粒子をわずかに含み、黄色土ブロックもわずかに混入する 美味が強い
3層 黒色土	褐色粒子を若干含む 黒味の強いクロボク層	14層 黒色土	褐色粒子をわずかに含み、黄色土ブロックもわずかに混入する(13層と同色)
4層 黒色土	褐色粒子を若干含む 3層よりさらに黒味の強い硬質土(溝状造構下層)	15層 喰暗色土	褐色粒子を多量に含み、黄色土ブロックも多量に混入する 明るめ
5層 黒色土	褐色粒子を若干含む 3層よりさらに黒味の強い軟質土(溝状造構下層)	16層 喰暗色土	褐色粒子を多量に含み、黄色土ブロックも多量に混入する(15層より明るめ)
6層 喰褐色土	褐色粒子を多量に含み、褐色土が混合する	17層 黒色土	褐色粒子をわずかに含み、黄色土ブロックもわずかで暗め
7層 黒色土	褐色粒子を若干含み、褐色土がわずかに混入する	18層 喰暗色土	黄色土と褐色土がブロック状に混在する(健質)
8層 喰褐色土	褐色粒子を多量に含み、褐色土が混合する 6層と同じ	19層 黒色土	黄色土と褐色土がブロック状に混在する(軟質) 柱穴上層層土
9層 黒色土	褐色粒子を若干含み、褐色土がわずかに混入する 7層と同じ	20層 黒色土	褐色粒子はないが、やや褐色気味 柱穴状造構か
10層 黒色土	褐色粒子をわずかに含む 黑味が強い	21層 黒色土	褐色粒子はほとんどない 黑味が強く、3層よりさらに黒い(地山)
11層 喰褐色土	褐色粒子をわずかに含み、黄色土をブロック状に混入する	22層 喰暗色土	ローム層への漸移層 下部ほど明るめ(地山)

第30図 25号竪穴造構実測図(1/80)

26号竪穴造構

27号竪穴や周溝墓と切り合っているが、ほぼ良好に残されている。規模は大型で、北西—南東軸は8.2m、北東—南西軸は北西側8.2m、南東側7.0mの隅丸の台形を呈する平面観である。多くの柱穴状の掘り込みがあるが、主柱穴は一辺4本ずつ並ぶ計12本と考えられる。また、四方の壁際沿いに小規模な柱穴列があり、15ヵ所確認できる。間隔は不揃いで、壁内外で様々な位置に設けられている。

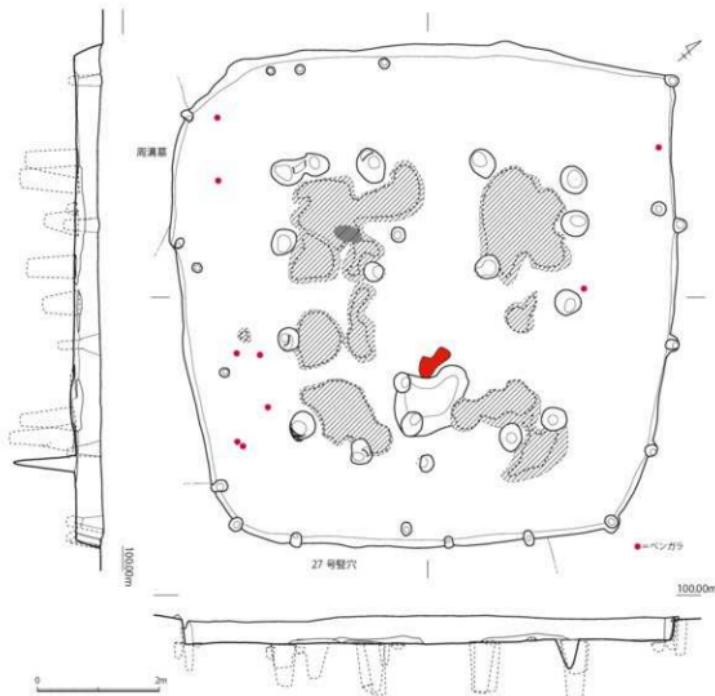
中心より南東側に焼土、西側に炭化物が床面上に堆積しておりが跡と思われる。また中心から南東側に浅い不定形の土坑がある。黄色土の堆積が主柱穴周囲から中心より床面上に数多く確認できる。また竪穴周縁付近の覆

土中にベンガラの混入が9ヵ所で確認できる。

出土遺物は土器が第68図226～234である。226～229は壺の複合口縁部で、226は周溝基からの混入品の可能性がある。227は口縁端部に刻目の浮文と山形文があり、228は端部に浮文と外面に山形文がある。229は端部に竹管状の刺突文と外面に波状文があり、一重目を大きく外反させている。230～232は甌の口縁部で、233・234は甌と思われる底部である。

土器片加工品は1点である。石器は磨石3点、砥石3点、打製石鏃1点、磨製石鏃5点、石鏃未製品2点である。

石製品は勾玉1点が覆土層中より、小玉3点が床面直上より出土している。鐵器は鏟1点である。



第31図 26号竖穴遺構実測図 (1/80)

27号竪穴造構

26号竪穴と切り合って北側3分の1ほどが失われているが、中央は多角形状の深い竪穴で、各辺に接して長方形の浅い張り出しを有する花弁形の平面観である。床面は二段掘りの構造で、段差は30cmほどである。規模は北東—南西軸7.2mを測り、中央段の平面観は検出状況から幅4.5mほどの六角形を呈すると思われ、主柱穴は下段の隅角に接するように巡らせて配置している。26号竪穴の貼床下より検出した柱穴の位置からも、計6本がほぼ六角形に配置しており、6ヵ所の各辺より花弁状の張り出しが設けられていた可能性がある。

中央の竪穴の床面は一部硬化した貼床がみられ、中央竪穴や周囲張り出し部共に焼土層の堆積がいくつか検出している。中心には浅い土坑がある。

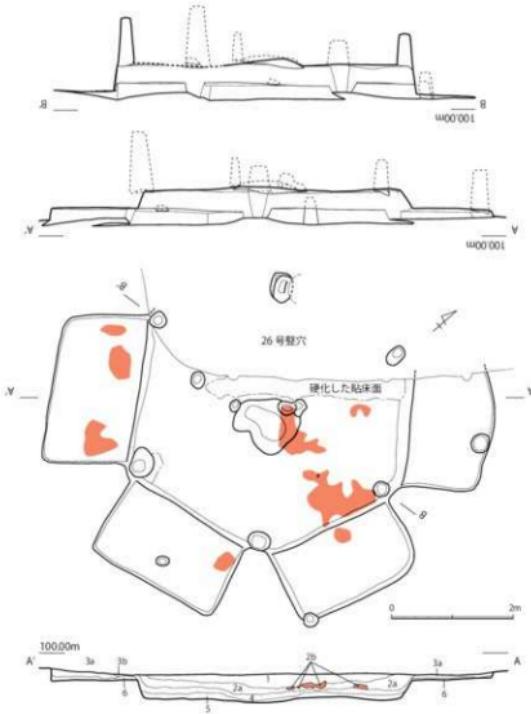
出土遺物は土器が第68図

235・236で、刻目突帯のある

下城式甕の口縁部である。土

器片加工品は1点で紡錘車と思

われる。石器は磨石1点、磨製
石鏃1点である。



1層 黒色土	褐色粒子を多量に含み、部分的に褐色土ブロック有り 焼土も粒状に有り	
2a層 黒色土	1層より黒味が強く、粒子・褐色土ブロックを含む	
2b層 黒色土	2a層より焼土を多く含む 濃淡有り	
3a層 黒色土	褐色粒子を多く含む 1層とはほぼ同色	
3b層 黒色土	3a層より焼土を多く含む 濃淡有り	
4層 黒色土	2a層よりもやや明るめ 粒子少ないが褐色土が混在する	
5層 暗褐色土	黄色土をブロック状に混入し、上部は硬質で貼床か 6層 暗褐色土	黄色土ブロックの混入で軟質

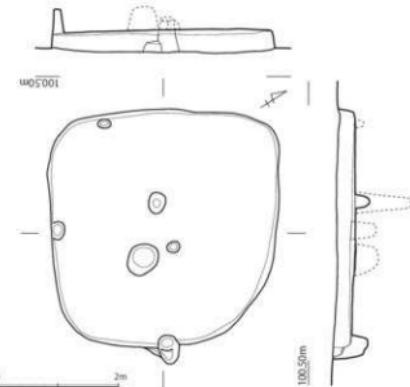
第32図 27号竪穴造構実測図 (1/80)

28号竪穴遺構

9号掘立柱建物と切り合っており、規模は北西—南東軸3.9m、北東—南西軸は北西側3.8m、南東側3.0mの小型で、隅丸の台形を呈する平面観である。主柱穴は中心付近の1本と考えられる。

床面上には炉跡と思われる焼土や炭化物はなく、特に土坑等もみられない。

出土遺物は土器が第68図237～242で、237は壺の胴部と思われる。238・239が壺の口縁部で、240・241は甕と思われる底部である。242は鉢の口縁部と思われる。



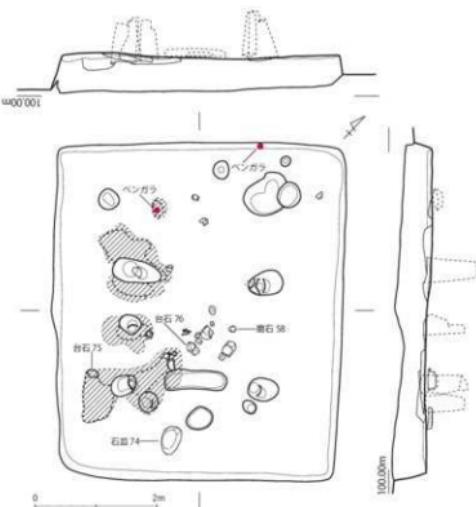
第33図 28号竪穴遺構実測図 (1/80)

29号竪穴遺構

調査区西側で検出し、規模は北西—南東軸4.5m、北東—南西軸4.8mほどのやや長方形を呈する平面観である。主柱穴は四隅の4本とも考えられたが、南西壁に沿って3本並んで検出できたため、E類の5本と判断した。ただし貼床下より四隅に2本ずつとも考えられる配置で確認できため、元はH類であった可能性がある。

焼土・炭化物はなく、炉跡は不明である。また、中心より南・西側床面に黄色土の堆積がある。中心南東寄り及び北隅の床面上には浅い楕円形の土坑をいくつか検出している。また北西側床面と北側壁際の2ヵ所でベンガラを検出している。

出土遺物は土器が第69図243～246で、243・244が壺の複合口縁部で櫛描波状文がある。245は壺の底部と思われる。246は甕である。土器片加工品は6点である。石器は石皿・台石3点、磨石1点を含むいくつかの礫が中心付近に集中している。他に砥石1点、磨製石蹠2点がある。鉄器は鉄鏃1点である。



第34図 29号竪穴遺構実測図 (1/80)

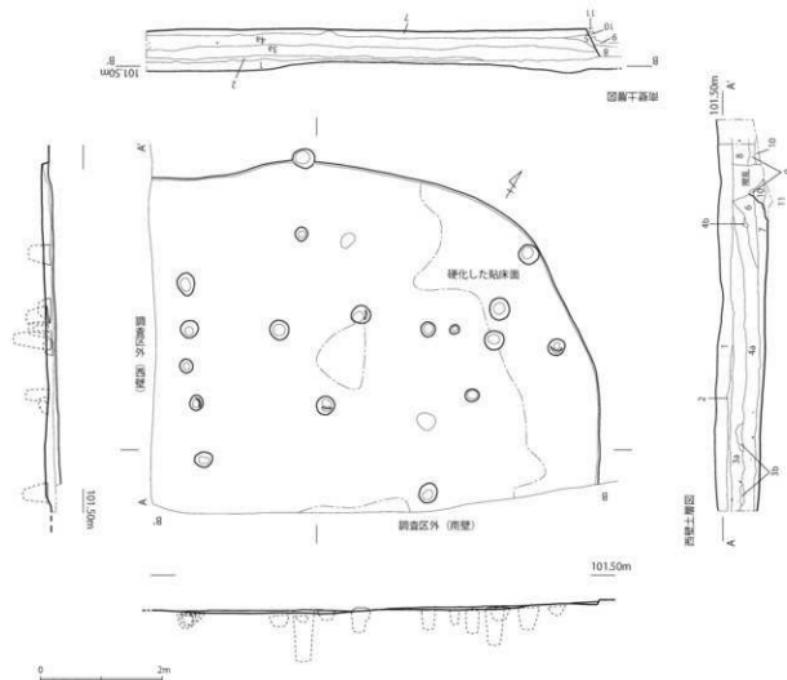
30号竪穴遺構

調査区南側に位置し、一部調査区外のため全容を検出できず規模は不明である。検出状況からはややいびつな弧を描く形状であるため、平面觀は円形または隅丸方形になるものと思われる。覆土の上層中に焼土層の堆積が確認できる。

柱穴状の掘り込みは多数あるが、主柱穴配列は判然としない。また床面の一部が特に硬化して検出されたが、炉跡等は不明である。

出土遺物は土器が第69図247～250で、247は赤色塗彩のある壺と思われ、外面は磨き調整である。248は壺と思われる底部である。249は壺の口縁部、250は壺の底部と思われる。

土器片加工品は1点である。石器は磨石1点、磨製石鏃1点、石鏃未製品3点である。



1 層	黒色土	灰色気味の耕作土(表土)	7 層	暗褐色土	黄色土が一部混入し、上部が硬質の粘床面
2 層	黒色土	褐色粒子ほどんど無し 黑褐色の強いクロボク	8 層	黒色土	粒子若干含むクロボク層
3 層	黒色土	褐色粒子を若干含む 2層よりやや明るめ(aは焼土無し bは焼土混入)	9 層	褐色土	黄褐色土の漬液有り アカホヤ層
4 層	黒色土	褐色粒子を若干含む 3層よりわずかに暗く、2層より明るい(aは焼土無し bは焼土混入)	10 層	黒色土	やや締まったクロボク層
5 層	黒色土	褐色粒子を若干含む 褐色土の混入があり、やや明るめ	11 層	暗褐色土	やや締まったローム層への漸移層
6 層	黒色土	褐色粒子を若干含む 黒味が強く、4層より暗め			

第35図 30号竪穴遺構実測図 (1/80)

31号竪穴造構

規模は北西－南東軸5.2m、北東－南西軸4.2mほどの長方形を呈する平面観である。主柱穴は四隅の4本とも考えられるが、南西壁に沿って3本並んで検出できたため、E類の5本と判断した。

覆土中の焼土や炭化物を含む層の堆積が顕著で、特に多数の炭化材が放射状に検出し、建築材が焼け落ちた状況ともみられ、焼失家屋と考えられる。中央南西寄り床面上に焼土、東寄りに炭化物の堆積があり、炉跡と思われる。

出土遺物は土器が第69図251～260で、251・252は複合口縁壺で外面に櫛描波状文がある。253は壺の胸部で最大径付近に貼付突帯があり、254・255は壺と思われる底部である。256は小型の甕で、内外面に磨き調整がある。257・260は甕の口縁部、258は甕の底部、259は台付鉢の脚部と思われる。

土器片加工品は2点である。石器は石皿・台石が2点、磨石1点、磨製石鏡3点である。鉄器は鉄鏡4点である。



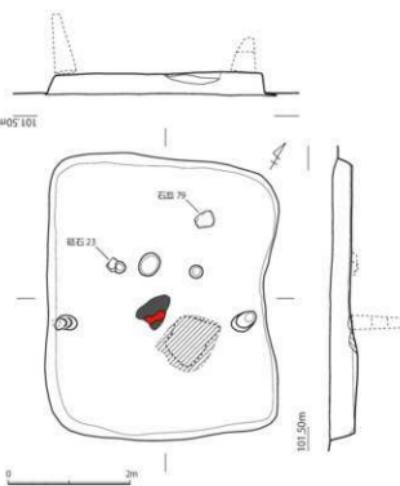
第36図 31号竪穴造構実測図 (1/80)

32号竪穴造構

規模は北西－南東軸4.6m、北東－南西軸3.6～3.8mほどのいびつな隅丸気味の長方形を呈する平面観である。主柱穴は北東・南西壁に近い2本と考えられるが、内部の形状から内側に傾斜して立てられていたと思われる。

中心付近の床面上に焼土を含む炭化物の堆積があり、炉跡と思われる。中心より東側床面上に黄色土の堆積がある。

出土遺物は土器が第70図261・262で、261は甕の口縁部で262は甕の底部である。石器は石皿1点、砥石1点、磨製石鏡3点、石鏡未製品3点である。鉄器は鉄鏡1点、鎧1点である。



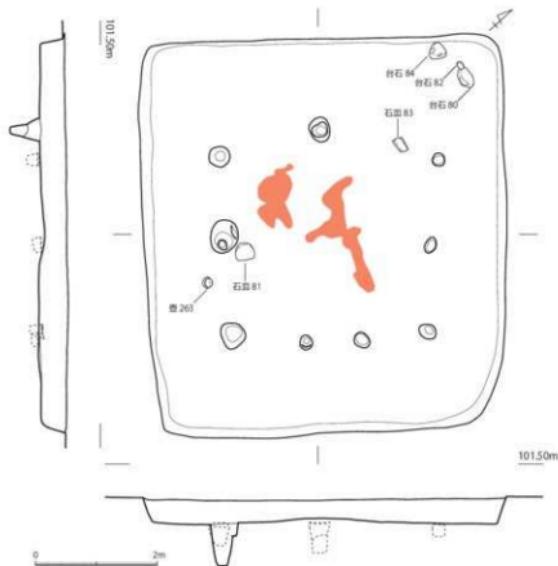
第37図 32号竪穴造構実測図 (1/80)

33号竪穴造構

34号・43号竪穴と切り合っており、規模は北西—南東軸6.4m、北東—南西軸6.0mほどのほぼ正方形に近い平面観である。柱穴状の掘り込みがほぼ方形に配置する9本を検出し、深さに差があるもののJ類の配列と考えられる。中央付近の覆土中に焼土層の堆積がみられたが、床面上のがれ跡の痕跡はみられない。

出土遺物は土器が第70図263～268である。263～267は壺の複合口縁部で、263の外面に柳描波状文、264には刷毛目のみである。266は端部に勾玉状浮文、外面に山形文があり、267は端部に竹管文、外面に波状文がある。268は甕の口縁部である。

土器片加工品は1点である。石器は石皿・台石5点のうち3点が北隅の壁沿いに集中している。他に磨石3点、打製石鏃1点、磨製石鏃1点である。鉄器は鉄鏃1点、鏃1点である。



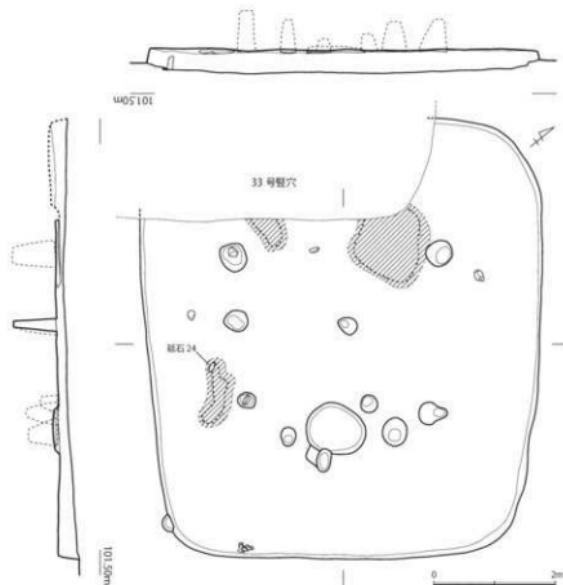
第38図 33号竪穴造構実測図 (1/80)

34号竪穴造構

33号竪穴と切り合って西隅が失われているが、規模は北西—南東軸7.2m、北東—南西軸は北西側6.6m、南東側5.8mの隅丸の台形を呈する平面観と思われる。主柱穴は四隅の4本とも考えられるが、南西側に3本並ぶことからE類の5本と思われる。

黄色土の堆積が床面上に3ヵ所確認できる。中心より南東側に梢円形の浅い土坑がある。焼土や炭化物ではなくがれ跡については不明である。

出土遺物は土器が第70図269～271で、269は壺の複合口縁部、270は壺の口縁部である。271は壺と思われる底部である。土器片加工品は15点である。石器は砥石2点、磨製石鏃2点、円形石器1点である。鉄器は摘鎌1点である。



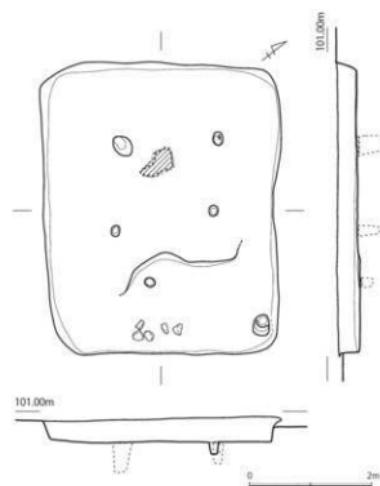
第39図 34号竪穴遺構実測図 (1/80)

35号竪穴遺構

37号竪穴と切り合っており、規模は北西一南東軸4.8m、北東一南西軸は3.8mの長方形を呈する平面觀と思われる。主柱穴はやや北西に偏るが、方形に並ぶ4本と考えられる。

黄色土の堆積が中心北西よりの床面上にあるが、燒土や炭化物はなく炉跡については不明である。中心南東寄りの床面にわずかな窪みがある。また東隅近くの床面よりベンガラを検出している。

出土遺物は、土器が第70図272～275で、272・273は壺の口縁部、274・275は壺の底部である。土器片加工品は10点である。石器は磨石1点、砥石1点、磨製石鏃1点である。南壁近くに台石状の礫が集中している。



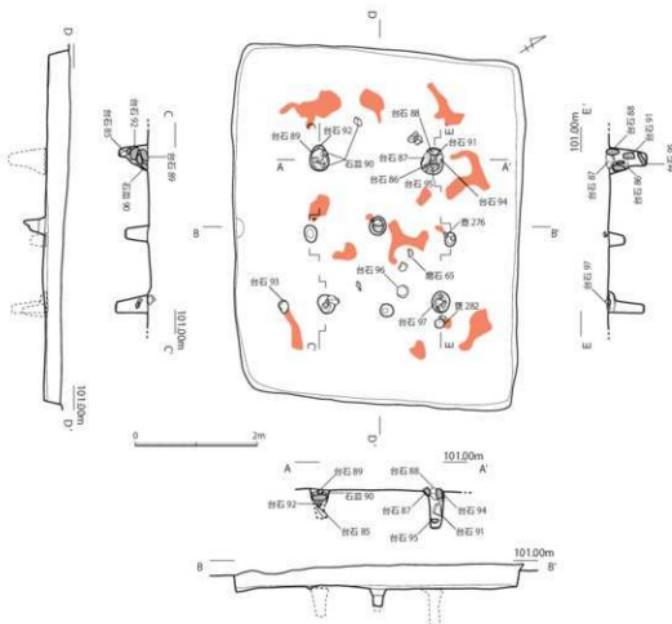
第40図 35号竪穴遺構実測図 (1/80)

36号竪穴造構

37号竪穴と切り合っており、規模は北西—南東軸5.8m、北東—南西軸は4.7mのやや平行四辺形気味の長方形を呈する平面觀である。主柱穴は胴張りの長方形状に3本ずつ計6本（F類）と考えられ、うち5本からは内部に礫が詰まった状態を検出している。

覆土中に焼土層の堆積が多数確認できたが、炉跡については不明である。

出土遺物は、土器が第71図276～283で、276～278は壺の口縁部、279は壺の頸部で、頸部突帯の下に勾玉状浮文がある。280・281は甕の口縁部で、282・283は甕の底部である。土器片加工品は3点である。石器は石皿・台石13点中11点が柱穴内より出土している他、磨石1点、打製石鏃2点、磨製石鏃1点、石鎚未製品が2点である。



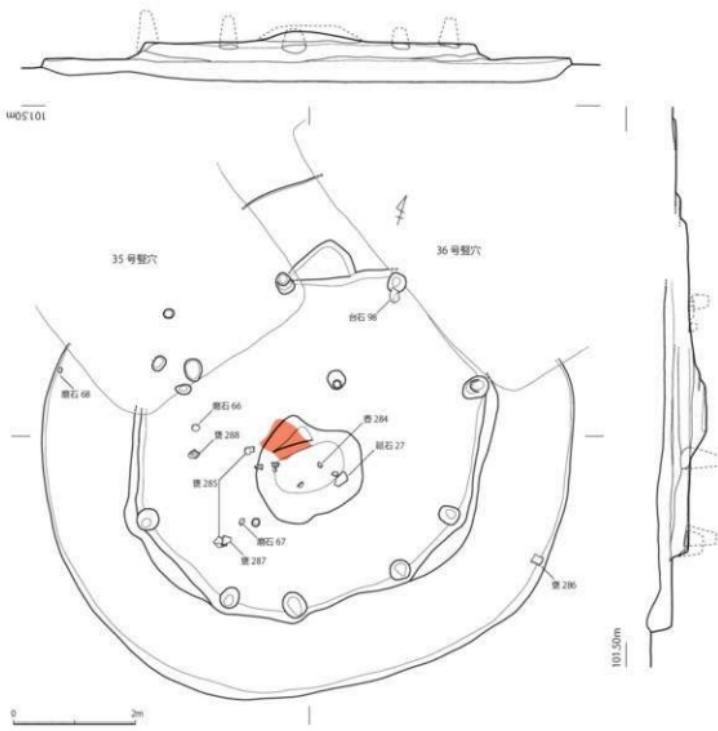
第41図 36号竪穴造構実測図 (1/80)

37号竪穴造構

35号・36号竪穴との切り合いにより一部失われているが、径は8.0m～8.8mほどの楕円気味の平面觀と推定される。床面は二段掘りの構造で、やや深い中央の竪穴は径6.4m～5.4mほどのいびつな多角形気味で、周囲との段差は30cmほどである。主柱穴は中央竪穴の周囲に配置しているが間隔は不揃いで、35号竪穴の2ヵ所も含めて計9本ほどと考えられる。中央付近の覆土中に焼土層の堆積が確認でき、床面には楕円形の浅い土坑がみられる。

出土遺物は土器が第71図の284～290で、284は壺の口縁部で外面に山形文がある。285～288は粗製甕で、覆土中に遭棄された状態で検出している。頸部下から胴部に断面三角の突帯が3～4条あり、285には工字状、286にはU字状の突帯が付随する。289は大きく屈曲する甕口縁部で、290は甕の底部である。

石器は台石2点、磨石5点、打製石鐵1点、磨製石鐵13点である。石鐵未製品が25点と多く、他に石材らしき石片も多量に出土していることから石鐵製作痕を示唆するものである。石製紡錘車1点もある。



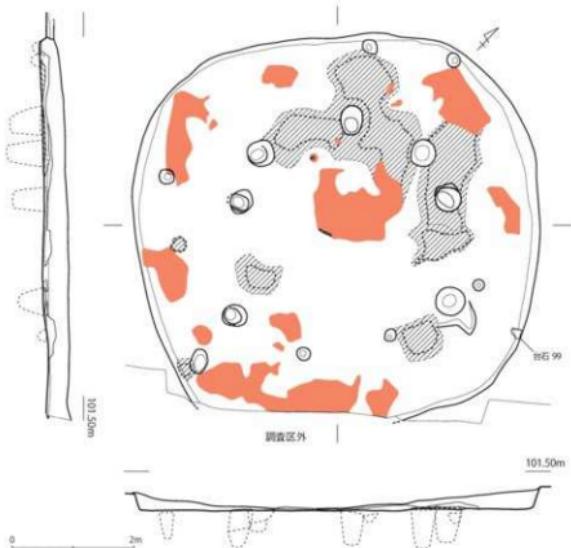
第42図 37号竪穴遺構実測図 (1/80)

38号竪穴遺構

一部は調査区外であるが、径は6.7m～6.4mほどのやや隅丸方形気味の円形平面觀と思われる。主柱穴は規模や深さに違いがあるが径3.5mほどで弧を描くように配置されている9本と考えられる。

覆土中より炭化物の混在する焼上層の堆積がみられるが、炉跡は不明である。また柱穴周囲で黄色土の堆積が多くみられる。

出土遺物は、土器が第72図291～298で、291は壺の複合口縁部、292は壺の胴部、293は壺の底部である。294～296は粗製甕の口縁部で頸部下に沈線があり、294には工字状に施されている。297は赤色塗彩のある鉢と思われる口縁部である。298は壺または甕の底部である。土器片加工品は2点である。石器は台石1点、磨石1点、砥石3点、打製石鐵1点、磨製石鐵21点、石鐵未製品16点で特に石鐵が多く、未製品も多量に出土していることから37号と同じく石鐵製作痕を示唆するものである。

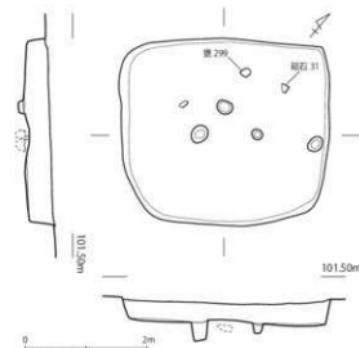


第43図 38号竪穴遺構実測図（1/80）

39号竪穴遺構

規模は小型で、北西—南東軸3.1m、北東—南西軸は3.4mの隅丸気味の正方形を呈する平面觀と思われる。主柱穴はC類の中心付近の2本と考えられる。か跡については不明である。

出土遺物は、土器は第72図299の裏の脇部である。石器は砥石1点である。



第44図 39号竪穴遺構実測図（1/80）

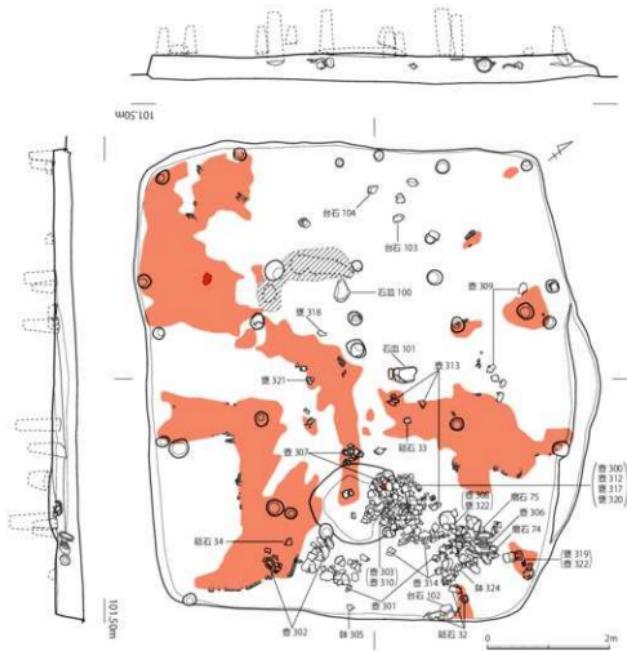
40号竪穴遺構

41号竪穴と切り合っており、規模は大型で北西—南東軸7.8m、北東—南西軸は7.0mほどの略長方形を呈する平面觀と思われる。北東壁は一部2段に掘り込まれ、長さ4m最大幅0.4mほどの張り出し状に検出している。主柱穴は北東・南西壁沿いに4本、北西壁沿いに3本並ぶ計9本（I類）と考えられる。また、多くの小規模な柱穴もあり、間隔は一定しないが、特に壁際に沿って10カ所ほどが確認できる。

遺構の至る所より炭化物の混入した焼土層の堆積が確認でき、西隅近くの床面上に焼上面がある。また西側柱穴付近に黄色土の盛土がある。中心より南東側の床面に浅い土坑がある。

出土遺物は覆土中に大量に遺棄された状況で検出しており、土器が第73図300～76図326である。300～306は複合口縁壺で、300は口縁端部に竹管文、外面に波状文があり、頸部突帯2条の下に刻目がある。301は口縁端部に竹管文、外面に山形文、頸部突帯2条の下に勾玉状浮文がある。302は口縁外面に波状文のほか内面や一重目口縁の指押さえ痕が顕著に残り、頸部突帯3条の下に勾玉状浮文がある。303は外面山形文、304は波状文があり、305は波状文と竹管文があり、一重目口縁部が大きく外反する。306は口縁端部に勾玉状浮文、外面に山形文、頸部から肩部にかけて12条の突帯の下に勾玉状浮文を巡らせている。307は壺頭部、308～310は胴部から底部である。311～313は單口縁壺で、311は口縁端部に山形文、焼成後の穿孔がある。314は壺の底部である。315～323は甕で、316に頸部下に横方向の沈線、317・318には工字状の方向の沈線がある粗製甕である。324～326は鉢で、324は短い口縁部に球状に張る胸部で、325は長く326は短く外反する口縁部である。

土器片加工品は5点で、石器は石皿・台石7点、磨石6点、砥石3点、打製石鏃2点、磨製石鏃33点、石鏃未製品16点である。石製品は垂玉1点、打製石斧1点、石棒1点である。鉄器は鉄鏃1点である。

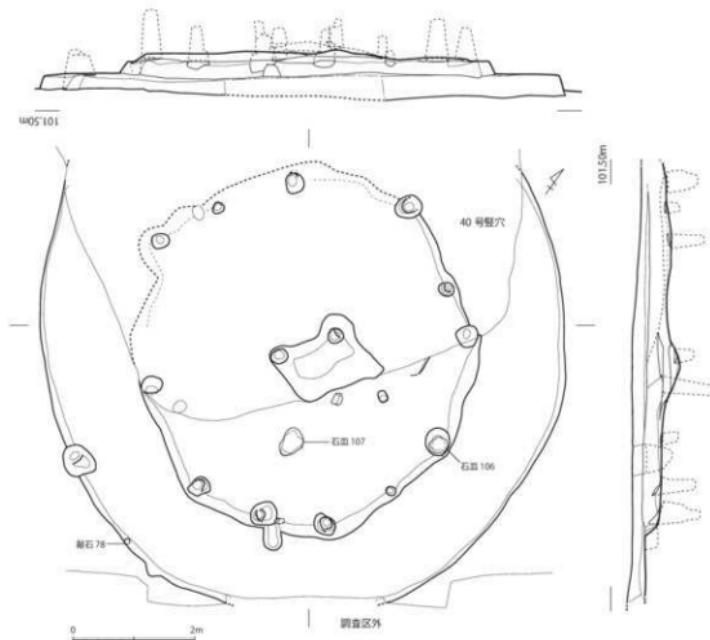


第45図 40号竪穴遺構実測図 (1/80)

41号竪穴造構

一部が調査区外で、40号竪穴との切り合いで多くが失われているが、径は北東—南西軸8.2m、北西—南東軸9m強ほどの規模の円形状の平面觀と推定される。床面は二段掘りの構造で、中心竪穴は径5.6m～6.0mほどの多角形状であるが、40号竪穴の貼床下より痕跡を確認することができ、八角形に近い形態であったと考えられる。周囲との段差は30cmほどで、主柱穴は中央竪穴の壁沿いに弧状に配置しているとみられ、40号竪穴の5本も含めて計8本ほどと考えられる。床面上の焼土面や炭化物はなく、中心付近の床面に不定形の浅い土坑がみられる。

出土遺物は土器が第76図327～333で、327は外面に山形文のある複合口縁の壺で、328は壺と思われる底部で、329・330は擴口縁部、331・332は鉢の底部である。333は鉢の口縁部である。土器片加工品は3点である。石器は石皿2点、磨石4点、砥石1点、打製石鐵2点、磨製石鐵9点である。石鐵未製品20点が出土しており、他に石材らしき石片も多量に出土していることから石鐵製作痕を示唆するものである。鉄器は鉄鎌が1点である。



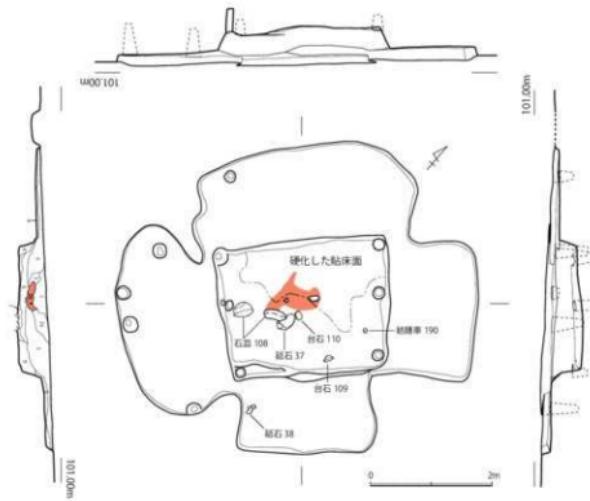
第46図 41号竪穴造構実測図 (1/80)

42号竪穴造構

調査区東端で検出し、花弁形を呈する竪穴造構である。床面は二段掘りの構造で、中央に2.3m×2.8mほどの長方形の竪穴とその四辺に張り出しを設けた十字状の形態である。中央の竪穴と張り出しひとの段差は40cmほどである。主柱穴は中央竪穴の北東・南西壁に接するように3本ずつ計6本の配置と思われる。4カ所の張り出しひは長方形や橢円形を呈し、規模は北西—南東軸5.0m、北東—南西軸5.9mを測る。

中央堅穴の床面北寄りには特に硬化した貼床が見られ、中心付近の覆土中に焼土層の堆積がいくつかあるが炉跡は不明である。

出土遺物は土器が第77図334～337で、334・335は下城式の甕の口縁部、336・337はその底部である。土製品は1点で中央に穿孔があり紡錘車と思われる。石器は石皿・台石3点、磨石1点、砥石2点、磨製石鎌6点、石鐵未製品18点である。



第47図 42号竖穴遺構実測図 (1/80)

43号竖穴遺構

当初は33号竖穴の張り出し部分ともみられたが、遺構検出段階で33号との境界が明確であったため、33号竖穴との切り合いで南西側が失われた竖穴遺構と判断した。北西-南東軸2.7mを測り、平面觀は隅丸方形と推定され本調査区では最小規模の可能性がある。主柱穴は遺構内に1ヵ所検出したのみで配列は明確ではないが、中心付近に推定される位置でもあるためB類の1本柱の可能性がある。炉跡については不明である。床面からやや浮いた位置でベンガラを含む堆積土が確認されている。

出土遺物は土器が第77図338～342である。338～340は下城式甕の口縁部、341はくの字に屈曲する甕の口縁部である。342は甕の底部である。

石器は磨石1点、石鐵未製品3点である。



第48図 43号竖穴遺構実測図 (1/80)

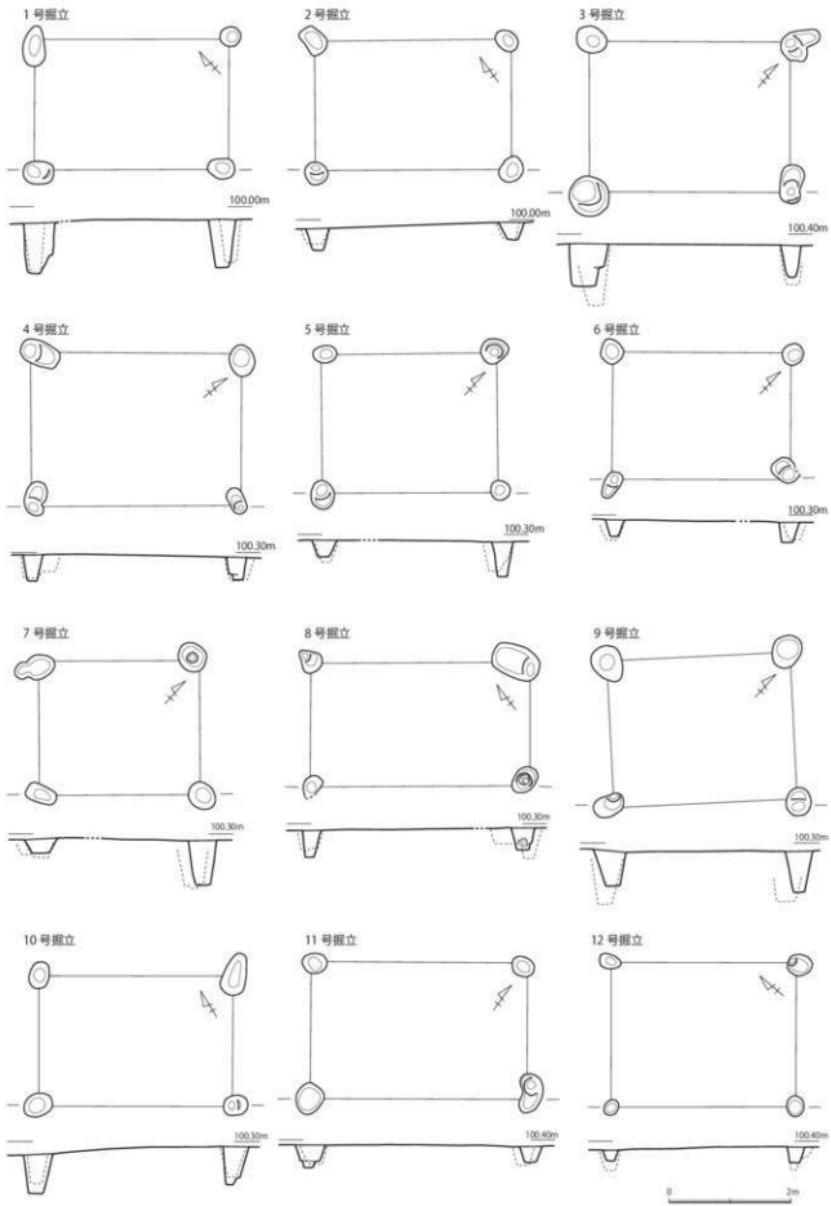
(2) 挖立柱建物遺構

竪穴遺構に伴わない柱穴状の掘込み遺構は調査区全域で分布しているが、比較的径が大きく、長方形に配置を成すものを掘立柱建物と判断した。31棟が確認されており、すべて4本柱の1間×1間の長方形構造である。規模は長軸×短軸の面積の平均が7.9m²ほどで、最大は21号の12.4m²、最小は19号の5.67m²である。方位は若干の差はあるが大きく二通りに分けられ、長軸を竪穴遺構と同じくする北西—南東方向が20棟、竪穴遺構と直交する北東—南西方向が11棟である。長短軸を置き換れば両者は共通性のある方位ともいえる。一部竪穴遺構と重複するものの、竪穴遺構に隣接するような配置が目立つ。特に調査区西隅付近に多く集中し、2棟直列して並んでいた可能性が推定できるものもある。

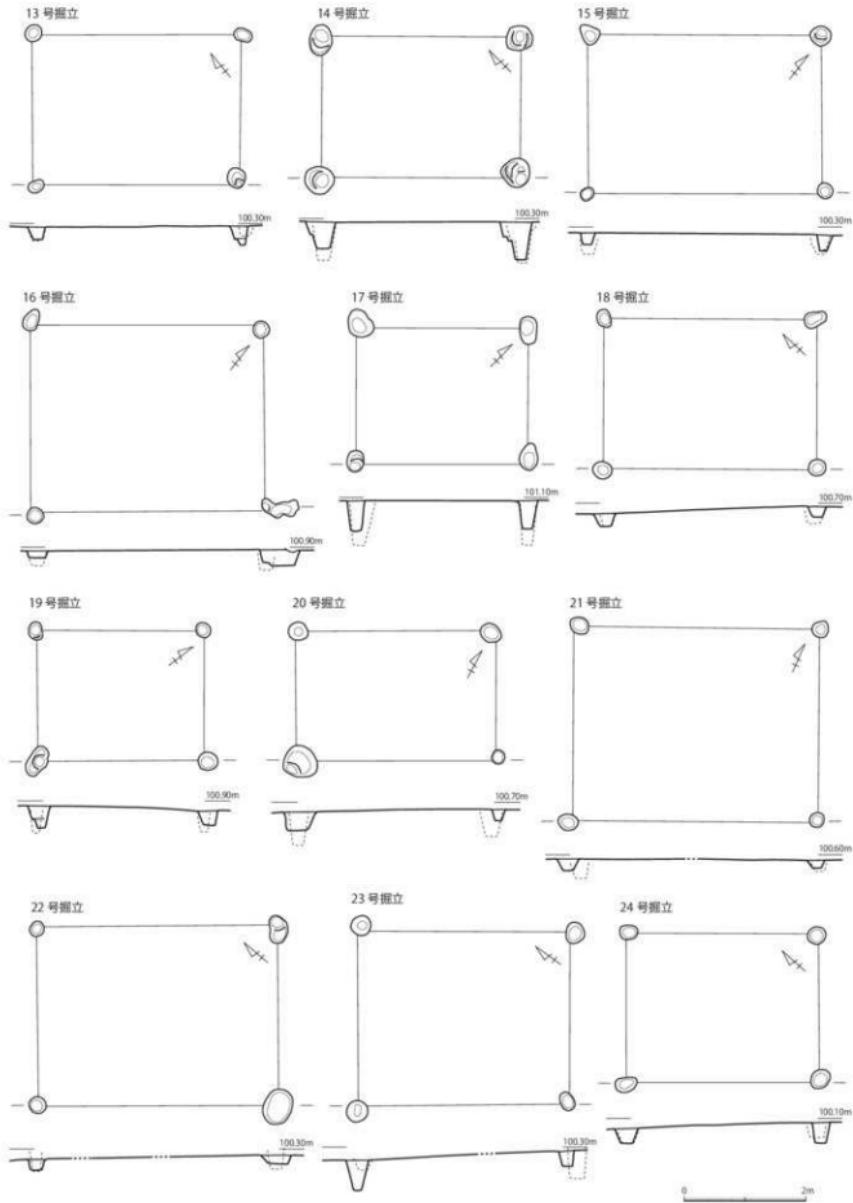
遺物について、柱穴状遺構自体は多くみられるが、掘立柱建物遺構では8号以外は図示できないほどの土器細片のみであることが多い。竪穴遺構と共にするものであることから、弥生時代後期の竪穴遺構とほぼ同時期に構築されたと推定される。中世の遺構の可能性については、溝状遺構との配置的な関係や出土遺物などは確認できていないため不明である。

遺構番号	規模 (m)	面積 (m ²)	主軸方向 N°	重複関係	備考
1	3.20×2.10	6.72	N-47°-W		2号と直列配列?
2	3.25×2.10	6.83	N-54°-W		1号と直列配列?
3	3.30×2.40	7.92	N-48°-E	4号掘立	5・6・7・9と直列配列?
4	3.45×2.45	8.45	N-37°-E	3号掘立	
5	2.85×2.25	6.41	N-47°-E	6号掘立	3・6・7・9と直列配列?
6	2.90×2.10	6.09	N-46°-E	5号掘立	3・5・7・9と直列配列?
7	2.65×2.20	5.83	N-47°-E	8号掘立	3・5・6・9と直列配列?
8	3.55×2.00	7.10	N-54°-W	7号・13号掘立	巷(77回346)出土
9	3.00×2.40	7.20	N-46°-E	2号竪穴・10号掘立	3・5・6・7と直列配列?
10	3.20×2.10	6.72	N-57°-W	9号掘立	
11	3.50×2.20	7.70	N-53°-E	12号掘立	
12	3.00×2.40	7.20	N-41°-W	11号・13号掘立	
13	3.40×2.45	8.33	N-51°-W	8号・12号掘立	
14	3.20×2.30	7.59	N-45°-E		
15	3.85×2.55	9.82	N-50°-E		
16	3.80×2.95	11.21	N-51°-E		
17	2.85×2.20	6.27	N-44°-E		
18	3.40×2.30	7.82	N-42°-W		
19	2.70×2.10	5.67	N-35°-E		超小規模
20	3.30×2.10	6.93	N-60°-E		
21	4.00×3.10	12.40	N-64°-E		超大規模
22	3.85×2.65	10.20	N-42°-W		
23	3.50×2.85	9.98	N-35°-W		
24	3.15×2.20	6.93	N-24°-W		
25	3.30×2.40	7.92	N-47°-W		
26	3.10×2.70	8.37	N-40°-E		
27	3.50×2.30	8.05	N-32°-E		
28	3.15×2.50	7.88	N-40°-E	14号竪穴	
29	3.20×2.30	7.36	N-45°-E		
30	4.40×2.70	11.88	N-55°-E		
31	2.85×2.35	6.70	N-40°-E		

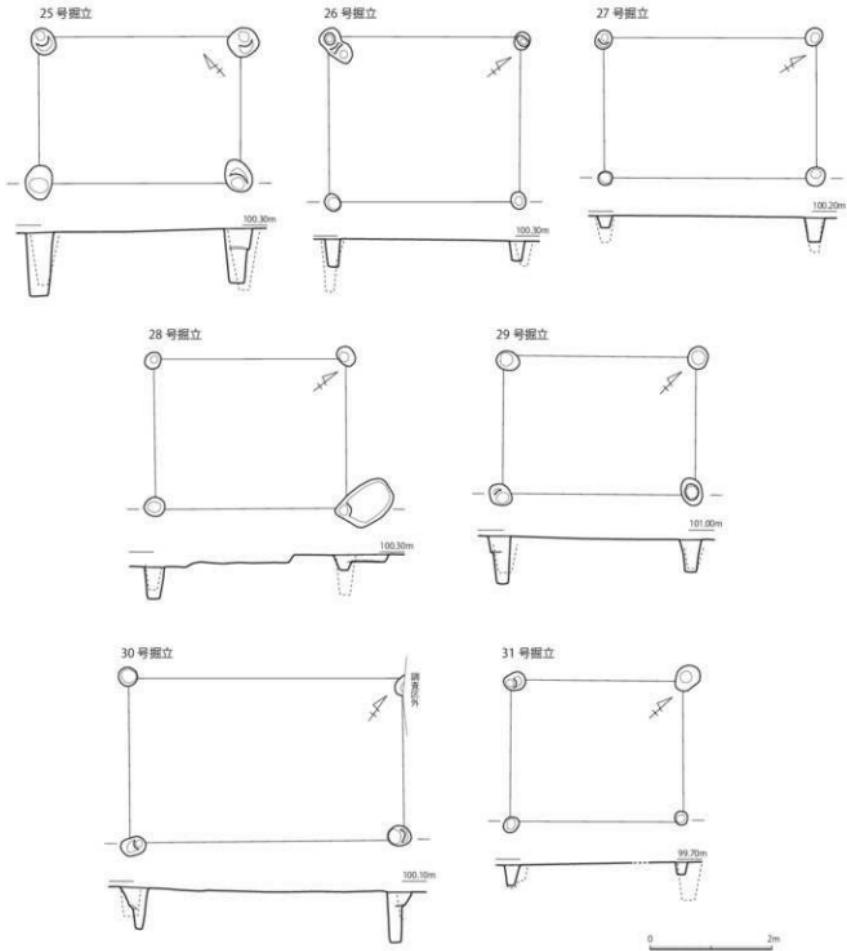
第3表 挖立柱建物遺構一覧表



第49図 据立柱建物遺構実測図① (1/80)



第50図 据立柱建物遺構実測図② (1/80)



第51図 据立柱建物遺構実測図③ (1/80)

(3) 土坑

調査区南東で1基のみ検出した。径は南北1.7m、東西1.6mほど円形状の平面観で、柱穴状の掘り込みが中央に1本ある。床面は貼床状で、覆土の堆積状況などが豊穴遺構と似ているため、1本柱（B類）の豊穴遺構とも考えられるが、住居跡としてはあまりにも規模が小さいため、豊穴遺構とは区別して土坑とした。焼土や炭化物はなく、遺物も土器の細片のみである。



1層	黒色土	褐色粒子なし	クロボク土	黒味が強い
2層	黒色土	粒子若干混入	1より明るめ	
3層	暗褐色土	褐色土混入	ブロック状	
4層	暗褐色土	褐色土混入	ブロック状	軟質

第52図 土坑遺構実測図（1/50）

(4) 周溝墓

調査区北西寄りで検出したもので、一部が調査区外となっているが、弧状に巡らせる溝及びその周辺に方形または梢円形の墓壙とみられる掘り込みが確認でき、木棺墓及び土壙墓による集団墓とみられる。溝は26号豊穴遺構と切り合っているが、古墳時代前期初頭とみられる出土遺物があり、周溝については豊穴遺構群よりやや後出するとみられる。

周溝

弧状を呈する溝がいくつもあり、部分的にとぎれた状態での検出であるが、掘削深度が浅いため遺構検出面まで掘り込まれていなかったことによるもので、本来は円形状に巡る周溝墓であったと推定される。平面観は径8m前後のいびつな梢円形で、北側に半円形のものが接続して複数の周溝墓が重なるように配置された様相を示しているが、北側調査区外へと続き全容は不明である。溝の規模は、概ね幅は0.3m、検出面から底までの深さは0.1～0.3mで断面はU字状または逆台形状に掘り込まれていることが多い。土器の集中箇所2ヵ所のうち、東寄りの周溝の1ヵ所では遺構検出面より上位層（3層）での検出であり、周溝に関係する浅い別の遺構があった可能性がある。

南側は2号・3号・9号墓と重なる方形の土壙状の遺構として一体化している部分があるが、出土遺物がやや古相の土器を含むことから、別の遺構との切り合いの可能性がある。

墓壙

周溝の内外に墓壙とみられる掘り込み遺構が9基集中して検出した。そのうち4号墓と7号墓は木棺墓で、それ以外は土壙墓と思われる。人骨及び副葬品と思われる遺物は出土していないが、2号墓と9号墓で流れ込み状況で土器片の出土がみられた。

4号墓は長さ2m、幅は1.4mの長方形状の平面で、検出面からの深さは土壙群中最も深い0.8mである。掘り込みの三方は垂直に近いが、南側は階段状に緩傾斜で掘り込まれている。床面には両小口部に棺材用の掘り込みがあるが側板の掘り込みはみられない。棺内寸は長さ1.5m、幅は0.7mほどと推定される。位置的に周溝の中心主体部と考えられる。

7号墓は長さ1.8m幅は0.8mのいびつな長方形状で、深さは0.3mである。両小口及び南側板に掘り込みがあり、棺内寸は長さ1.4m、幅は0.5mほどと推定される。4号墓に隣接するがやや主軸方向が異なっている。

それ以外の墓壙群については不整な楕円形状を呈し、0.2～0.4mほどの深さの逆台形状に掘り込まれ、土壙墓の可能性が考えられる。1号墓は周溝の外で、2号墓は周溝と接しているため、周溝の時期とは異なるものと思われる。また、8号墓は北側に張り出した周溝内側にあることから、周溝内でも時期差があることが示唆される。

各墓壙群の長軸の方位についてはおおよそ北東一南西方向であるが、真北より東へ50°前後のもの（2・3・4・5号）、30°前後のもの（1・6・7・9号）、78°の8号の大きく3通りに分けられる。また、2号・3号・9号墓は周溝に接する土坑状の豊穴と切り合っており、2号・3号墓は後出の遺構である。しかし9号墓は覆土上位層に焼土の混入があるなど墓壙とは異なる様相があることから、土坑の一部または土坑より先行する遺構の可能性もある。

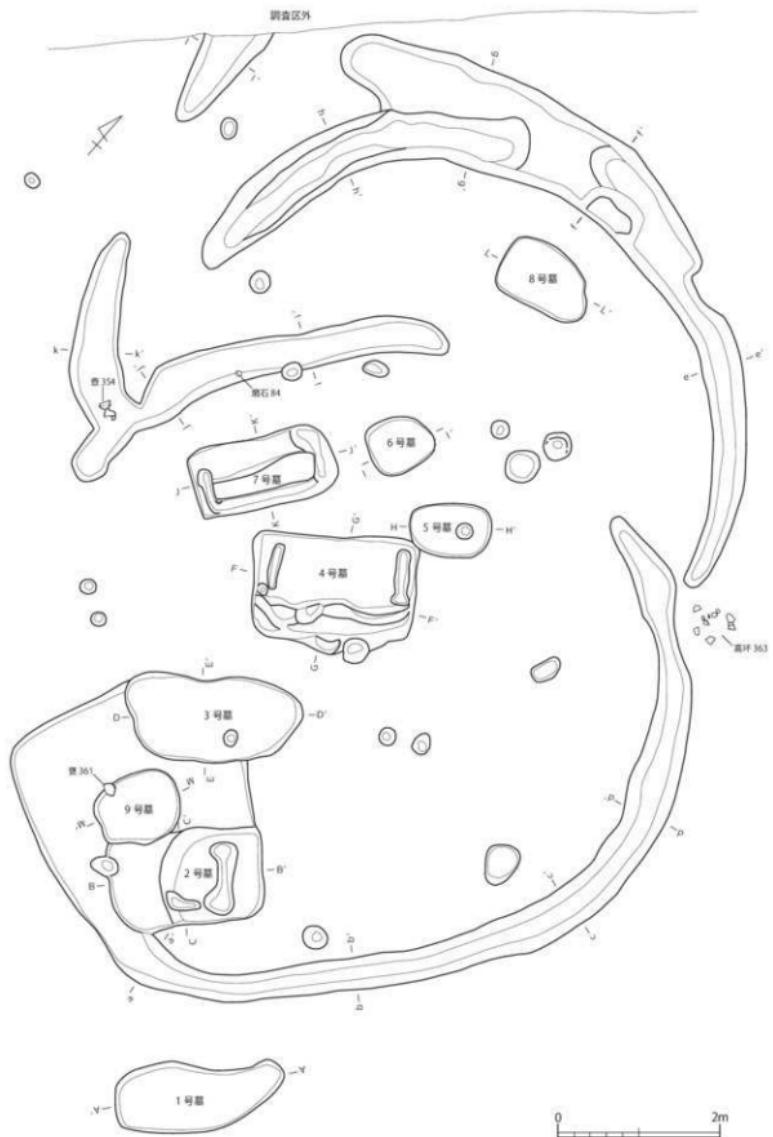
周溝墓出土遺物

第78図354～363は周溝及び墓壙群より遺構検出段階で出土したもので、時期に幅がある。354は複合口縁壺、356は小型丸底壺で、いずれも周溝内より出土したもので時期は古墳時代前期前半頃と思われる。363は高环の環部、357の甕も古墳時代前期前半頃と思われるもので、表土除去作業中に遺構検出面より上位層で出土した。周溝内ではないが周溝に伴うと思われる位置である。掲載していないが甕または壺の胸部分とみられる破片も多く出土している。355は壺口縁部で弥生時代後期前葉、358～360は弥生時代中期の下城式の甕口縁部、361は底部である。362は弥生時代後期頃の甕の底部と思われるものである。

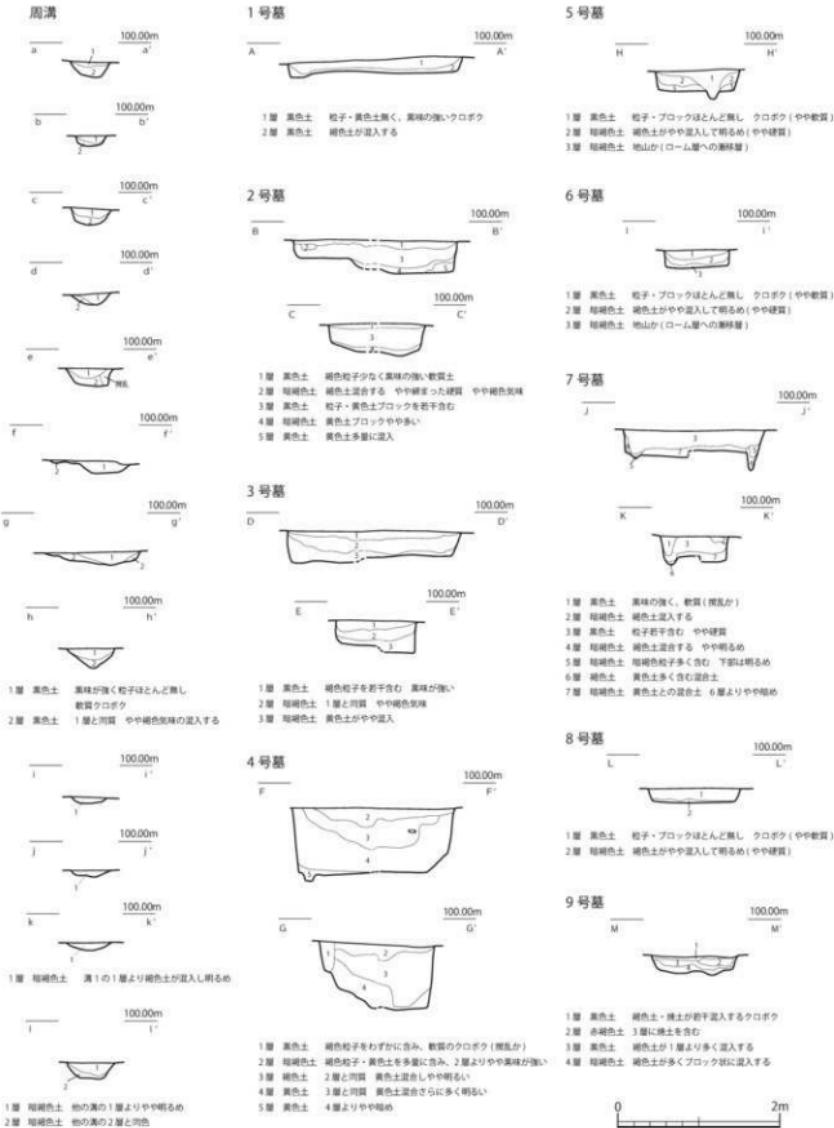
弥生時代中期から後期前葉の355・358～360は2号墓と9号墓より出土し、上層のため流れ込みの可能性もあるが、遺構の時期幅や性格も異なる重複遺構の可能性もある。

遺構番号	種類	規模(cm)			主軸方向 N°	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
1号墓	土壙墓	215	88	18	N-38°-E		
2号墓	土壙墓	190	110	40	N-44°-E	78B355・358	9号・周溝と切り合い
3号墓	土壙墓	220	100	35	N-51°-E		
4号墓	木棺墓	200	140	80	N-52°-E		
5号墓	土壙墓	100	65	24	N-51°-E		ピットは後世の埋乱 小兜用?
6号墓	土壙墓	81	70	22	N-26°-E		小兜用?
7号墓	木棺墓	178	85	30	N-35°-E		
8号墓	土壙墓	120	80	18	N-78°-E		小兜用?
9号墓	土壙墓	105	88	20	N-28°-E	78B359・361	2号と切り合い 小兜用?

第4表 周溝墓壙一覧表



第53圖 周溝墓道構平面圖 (1/60)



第54図 周溝基道構土層図 (1/60)

第3節 弥生時代～古墳時代の遺物

(1) 土器

すべての竪穴遺構から出土があり、本書に掲載した点数は366点で甕形土器と壺形土器が器種の大半を占め、他には高环形土器・鉢形土器で構成されている。点数と同じように器種ごとの形態差も豊富であり、大野川中流域の弥生時代中期後半～古墳時代前期前葉の時期と共に通している。

遺構内からの検出状況については、ほとんどが床面よりやや浮いた覆土層中に破片が含まれている。接合しない小破片は流れ込み、ある程度接合する大きな破片は廃棄されたものと推定されるもので、遺構廃絶後の埋没途中に混入したものと推定される。また、焼土や炭化物と一緒にあるためか被熱を受けたとみられるものもあり、折断面が風化しているものなど一定時間を経ているとみられるものも多い。出土土器の大半はこのような経緯により入り込んだ破片とみられ、遺構の時期と直接結びつくとは限らないものも含まれると考えられる。

一方、床面上に廃棄されたものや柱穴内に埋納されたとみられる出土例もあり、完形品に近い状態まで接合するものも存在する。竪穴廃絶直前まで使用されたとみられるため時期推定に有効と思われるものである。中には複合口縁壺の頸部を打ち欠いた口縁部のみが床面や柱穴などに意図的に残されて検出される遺構もあり、特に8号竪穴には複数あるなどこの地域で多くの同じ検出例があって祭祀行為ともうかがわれることが指摘されている。

甕形土器

甕と同じく主体的な器種で、多くは複合口縁壺である。後期初頭から前葉にかけて肥厚した口縁端部に一部は鋸先状の断面形態を有し、上端に浮文及び端部外面に連続山形文を施しているもの、頸部や胴部に多数の突帯や浮文を有するものが一定量の出土がある。やがて後期中葉から後葉にかけて安国寺式と呼ばれる壺が盛行し、口縁上半部の立上がりが次第に大きくなり、外面の山形文が櫛描波状文に変わり、一方頸部胴部の突帯は減少する。後期終末以降口縁部の立上がりは垂直に近くなり、波状文は2・3段に渡って施されて大型化していくが、古墳時代以降は胴部が球形状に変化して続いている。なお、複合口縁部には上半部を肥厚させたまま立上がるもの、立上がりは小さく屈曲部分を外に大きく張り出すもの、端部に刻目があるもの、波状文でなくハケ目や並行沈線があるものなど多様性に富んでいる。

その他単口縁壺は、数量は少ないものの後期前葉を中心に出土がある。小型の壺形土器として長頸壺がいくつか出土しており、磨き調整されたものが多くみられる。櫛描の沈線や波状文が施されて攢入品とみられるものもある。

甕形土器

最も出土量が多い器種で、スヌの付着などの使用痕が観察できるものが顕著である。口縁部下に数条の刻目突帯を有する中期の下城式甕形土器が、流れ込みの出土ではあるが多くの遺構からみられ、集落の形成が始まる時期と考えられる。後期には口縁部が「く」の字に屈曲し、胴部が砲弾状、底部は丸底又は小さな平底から尖底へ変化していくものが多くを占めるようになる。器壁が薄く外面をハケ目調整された白鹿山周辺域に多くみられる形式が多く、陣跡遺跡もこのような文化圏の元で発達した集落と思われる一方、器壁が厚くナデやケズリ調整された大野原地域に多い粗製甕の形式も多く含まれている。前者は大分平野の影響、後者は大野川上流域に顕著なもので、地理的にも両方の中間的な位置であることが土器の形式にも表れているものと考えられる。粗製甕については、頸部下から胴部上にかけて工字状の突帯や沈線のほか、幅広い凹線や沈線を平行に連続したり、波状文を有するものもあり、装飾のある在地系の粗製甕の特徴がみられる。

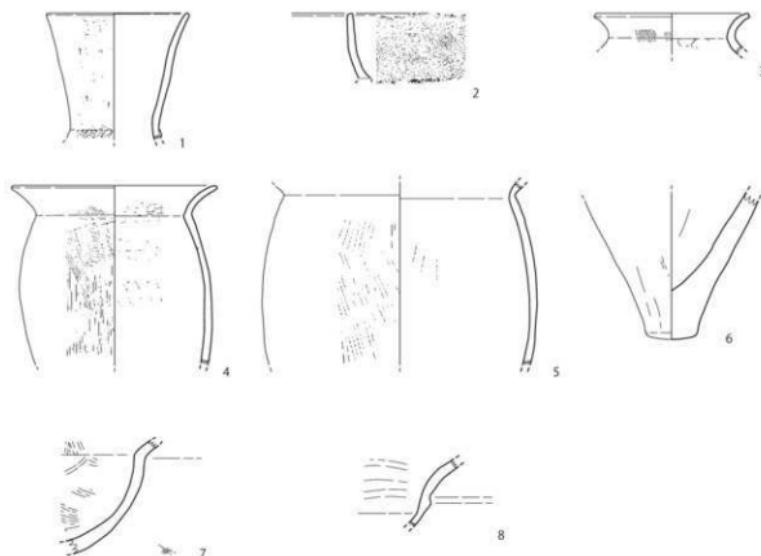
高环形土器

完形に近い出土数は少なく、唯一4個体分の出土があった20号竪穴からは、環身部中央で屈曲して外反する口縁部と屈曲する脚部をもつもので、内外面をミガキ調整とハケ目調整を残す2通りのタイプがある。周溝墓からは小型化して環身の段は小さく屈折して直線的な口縁のものがある。それ以外は断片的で、口縁部が内湾するものやラッパ状に開く脚部などがある。

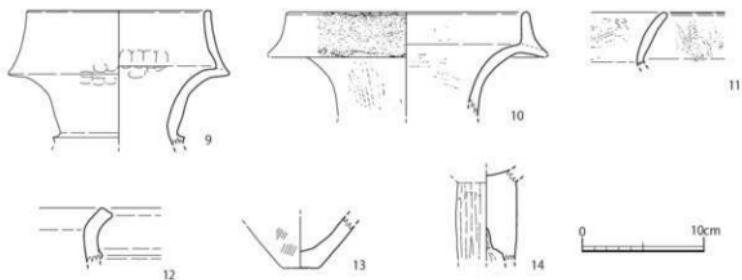
鉢形土器

数は少ないが様々な形態のものが出土する。口縁部が外反するものと内傾するもの、外反するものでは口縁が長いものと短いもの、胴部が球状に張るものとそうでないものなど多岐にわたる。口縁が短いものの中には頸部に穿孔が配置されているものや赤色顔料の塗布されたものが多くみられる。

1号竖穴

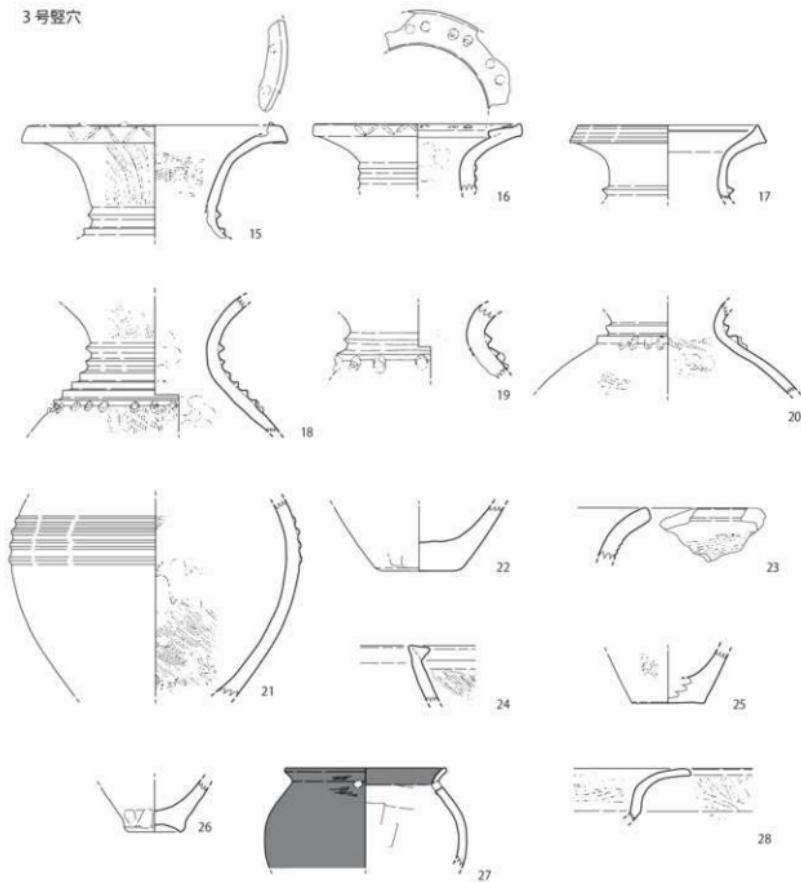


2号竖穴

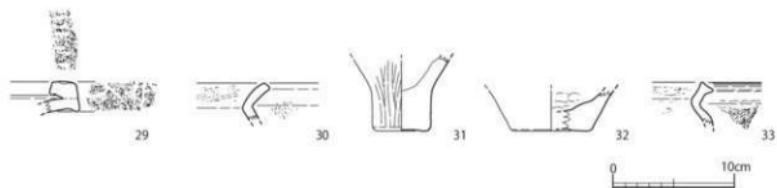


第55图 1号·2号竖穴出土土器实测图

3号竖穴

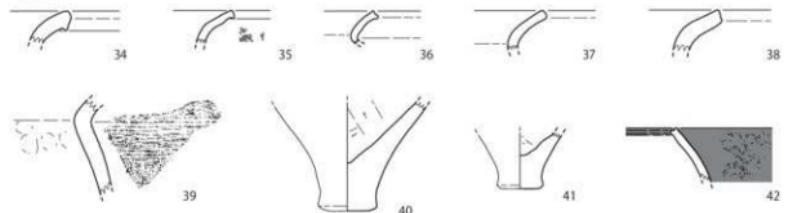


4号竖穴

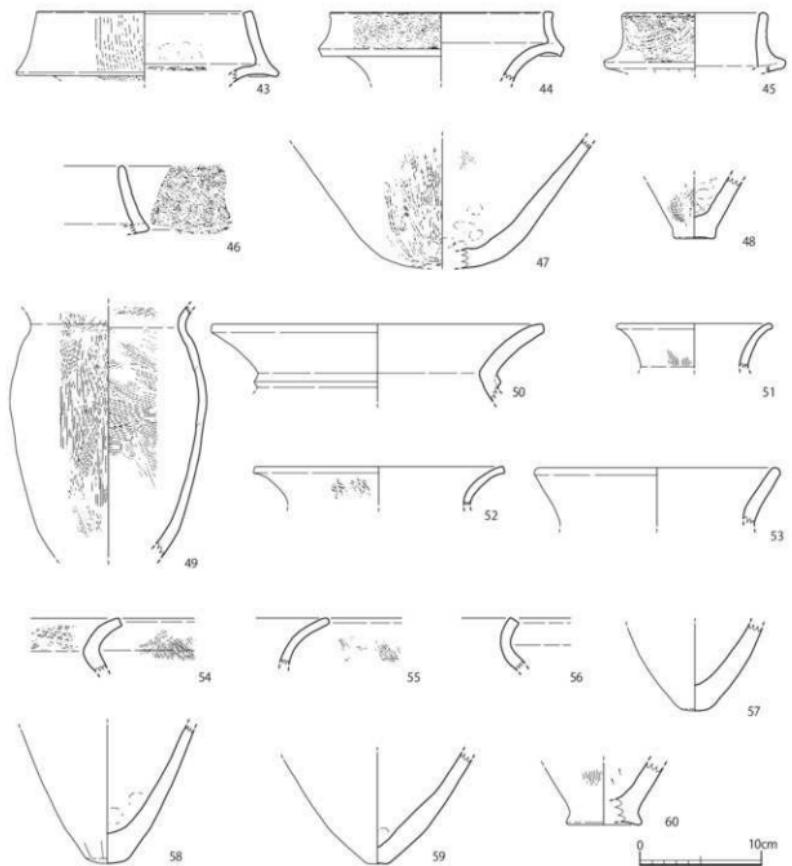


第56图 3号·4号竖穴出土土器实测图

5号竖穴



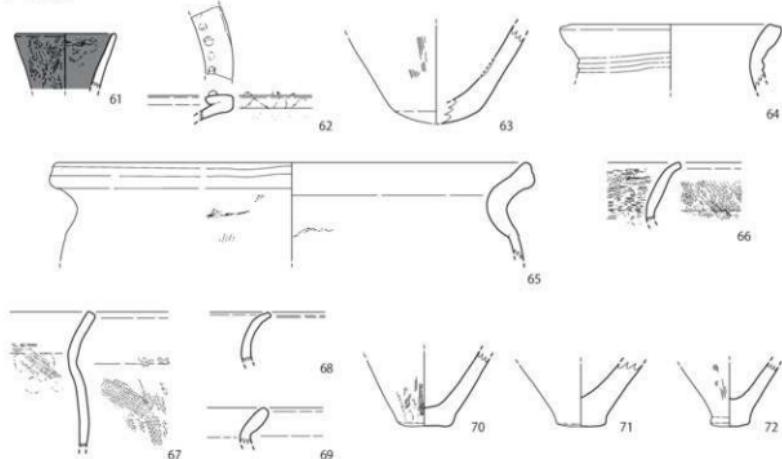
6号竖穴



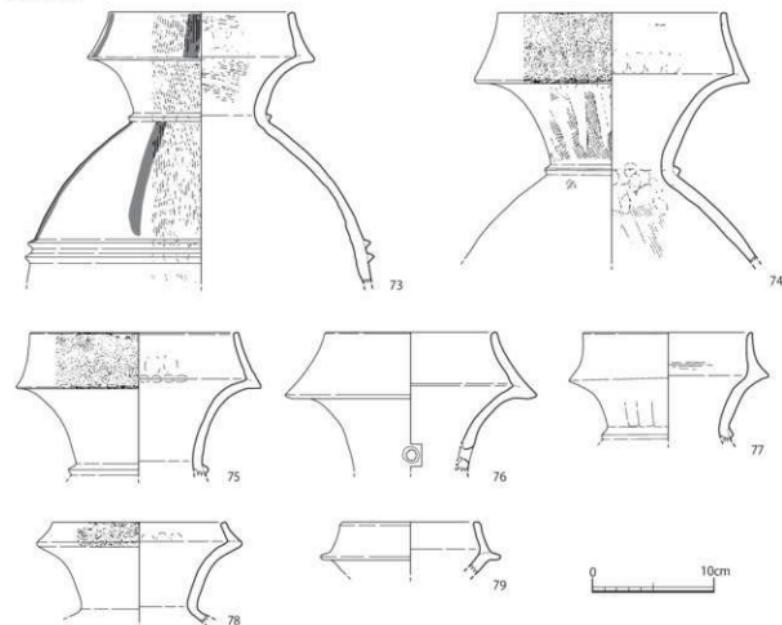
0 10cm

第57图 5号·6号竖穴出土器物实测图

7号竪穴

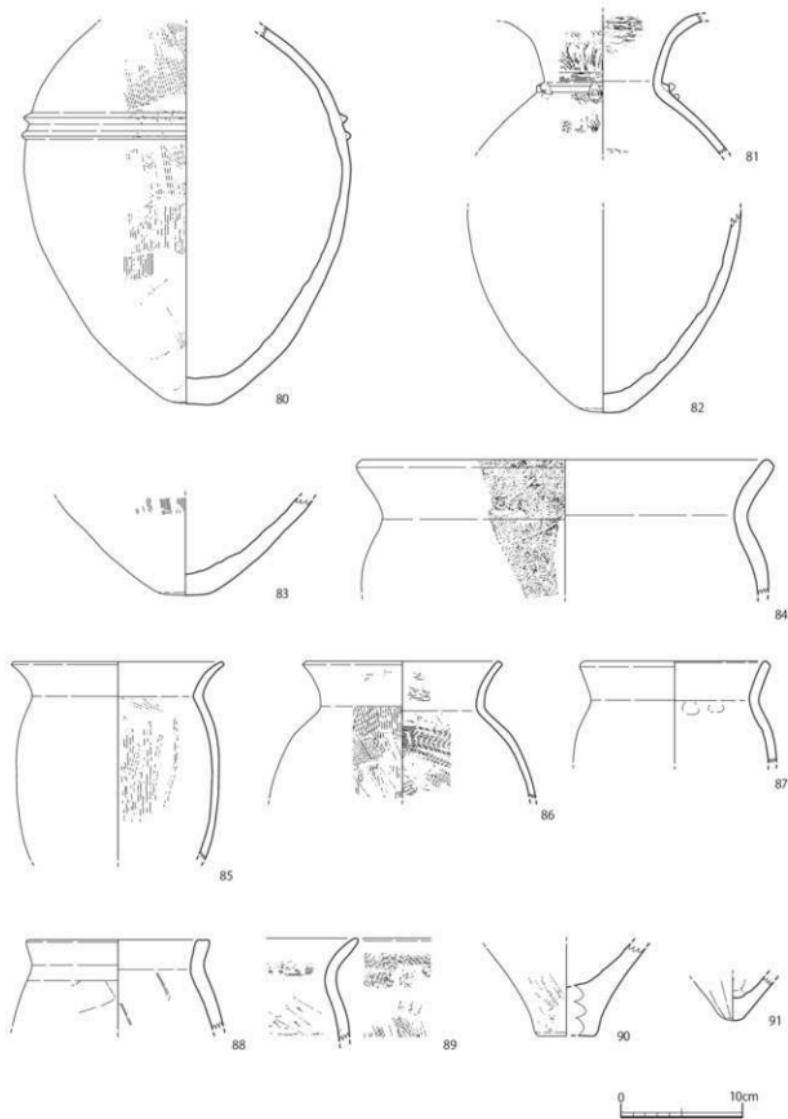


8号竪穴①



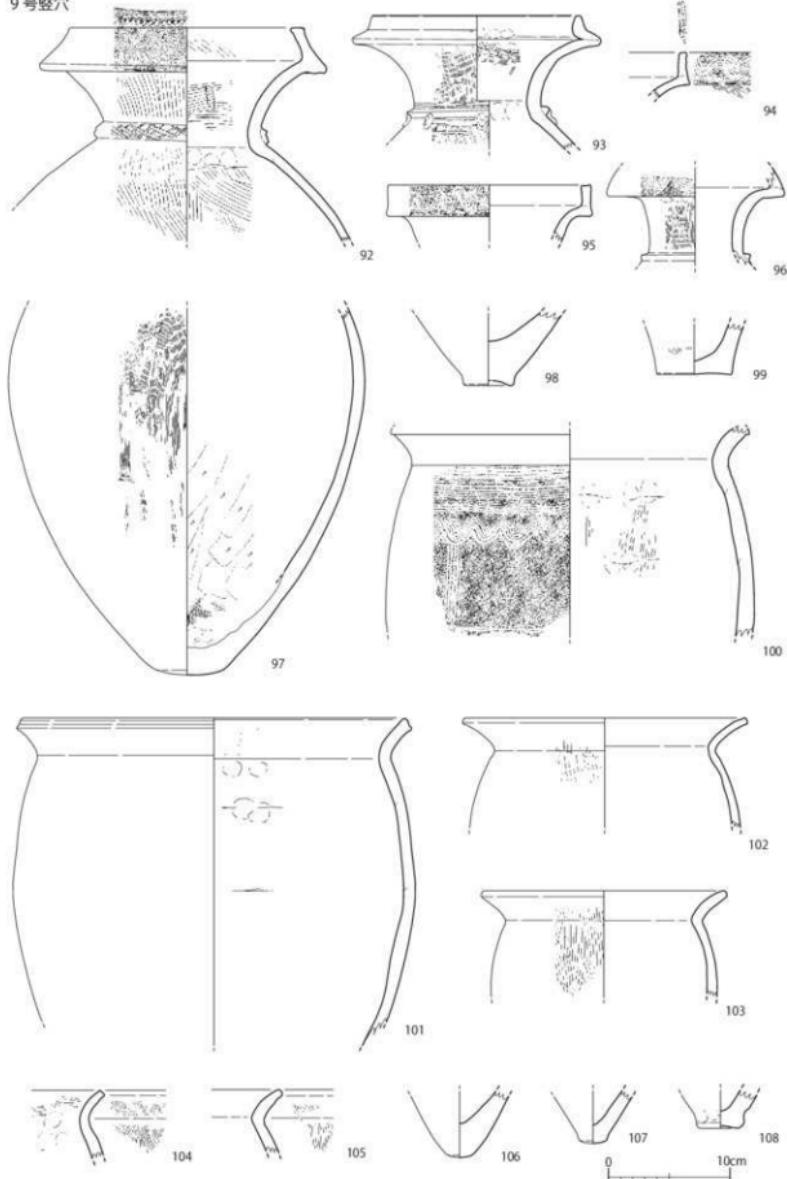
第58図 7号・8号竪穴出土土器実測図

8号竖穴(②)



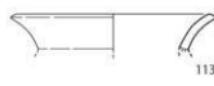
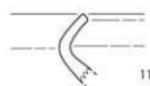
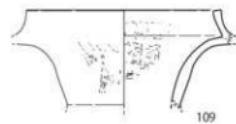
第59図 8号竖穴出土土器実測図

9号竪穴

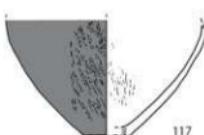
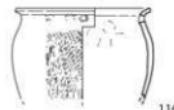


第60図 9号竪穴出土土器実測図

10号竖穴



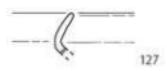
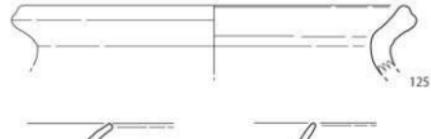
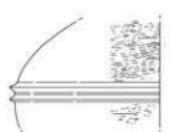
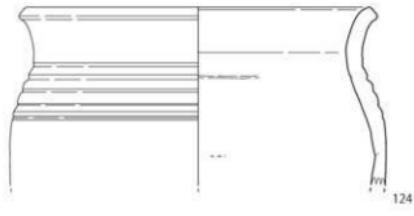
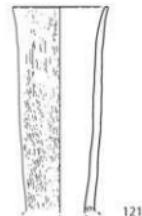
11号竖穴



12号竖穴

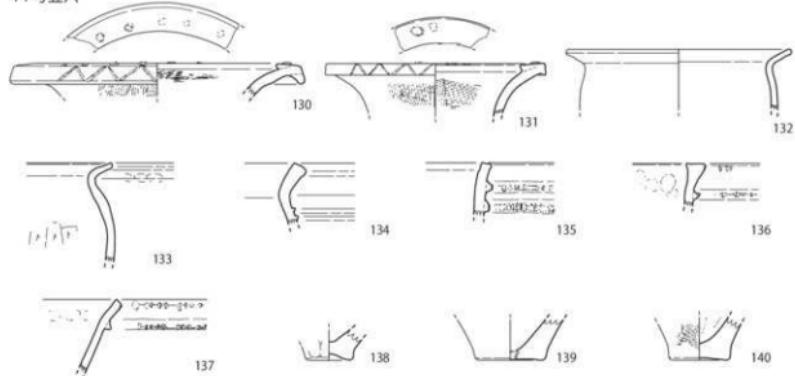


13号竖穴



第61図 10号～13号竖穴出土土器実測図

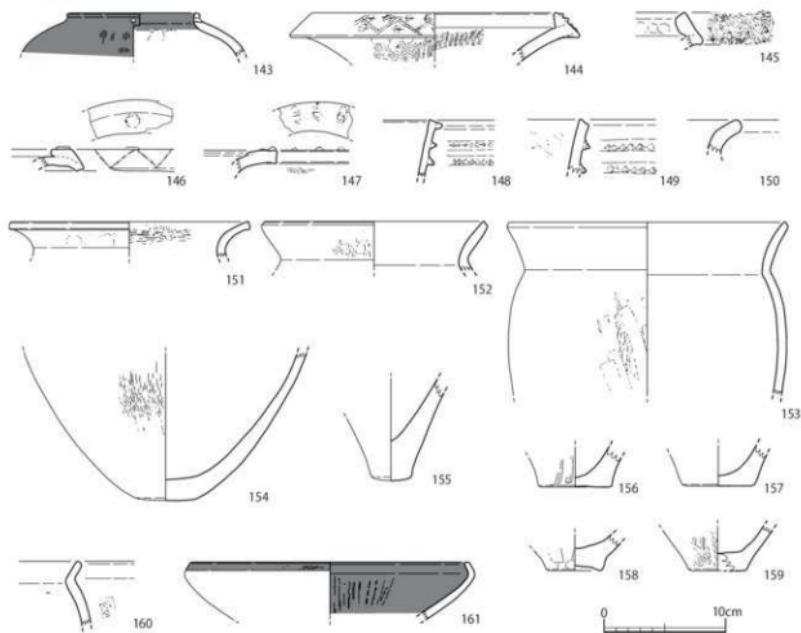
14号竖穴



15号竖穴

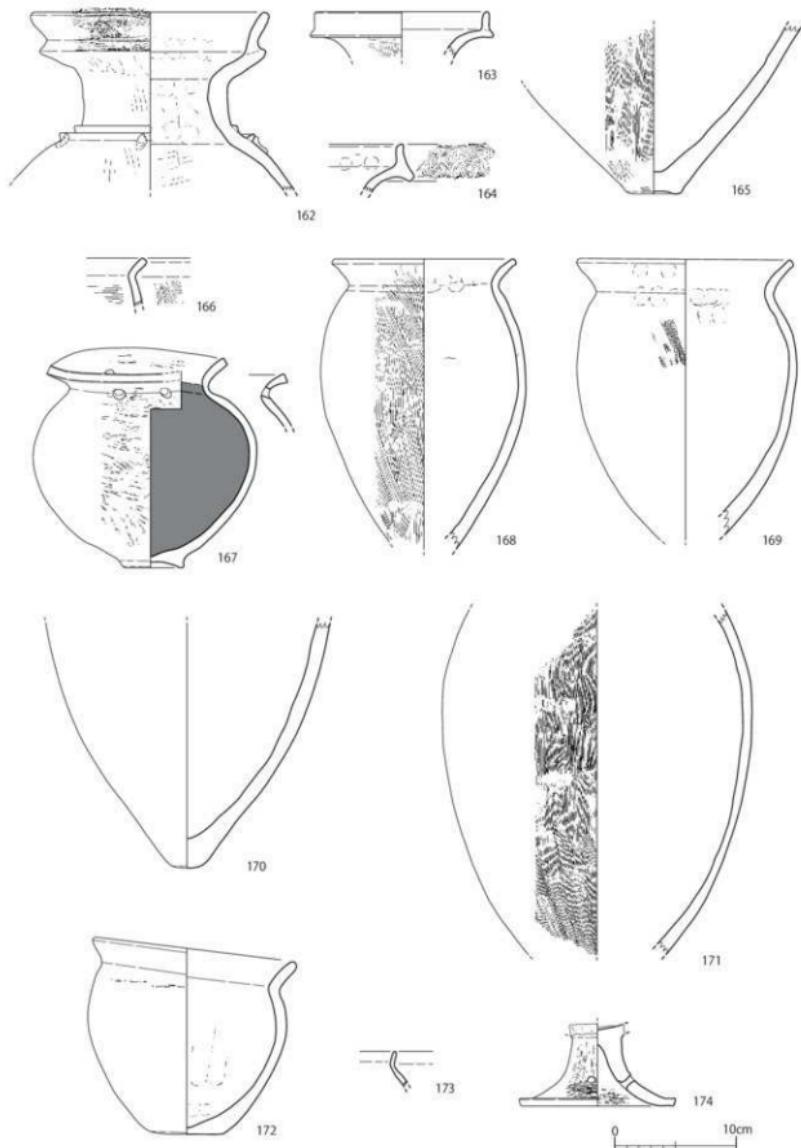


16号竖穴



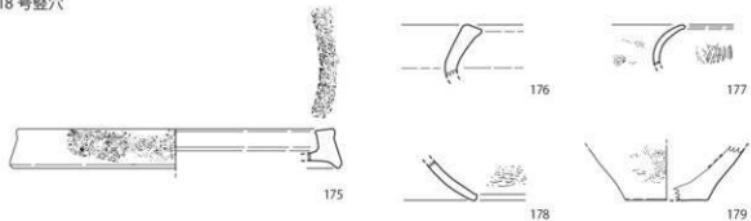
第62図 14号～16号竖穴出土土器実測図

17号竖穴

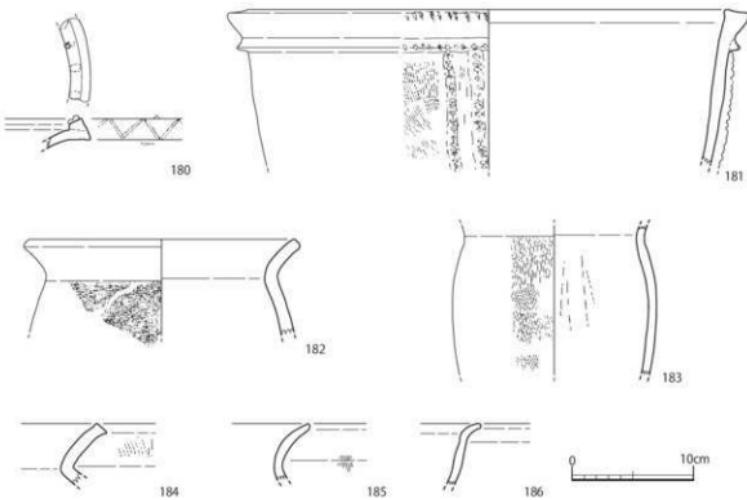


第63図 17号竖穴出土土器実測図

18号竖穴

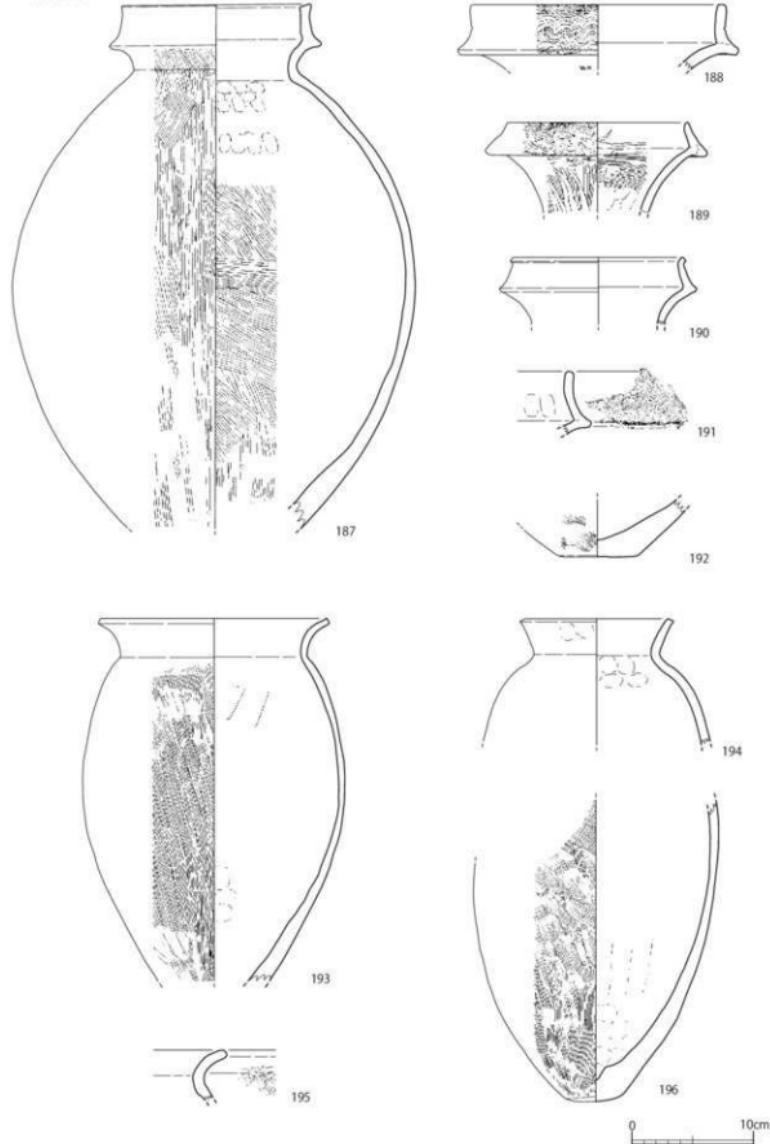


19号竖穴



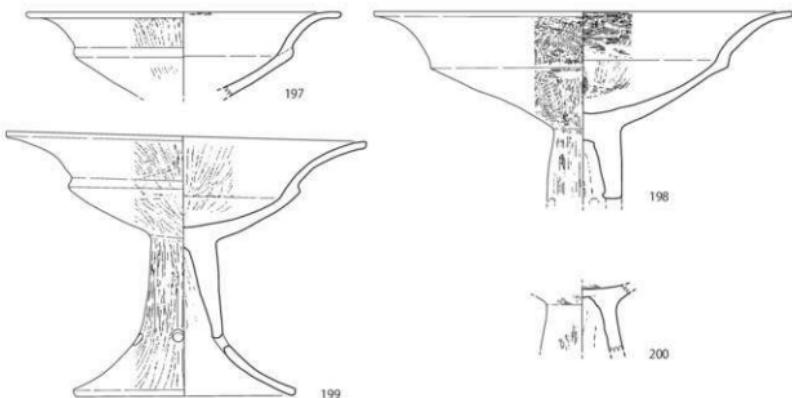
第64図 18号・19号竖穴出土土器実測図

20号整穴①

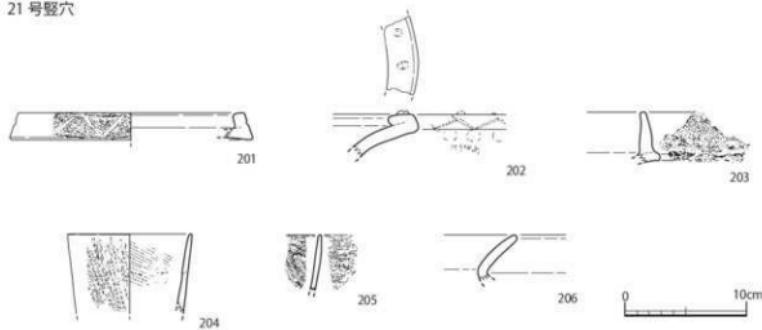


第65図 20号整穴出土土器実測図

20号竖穴②

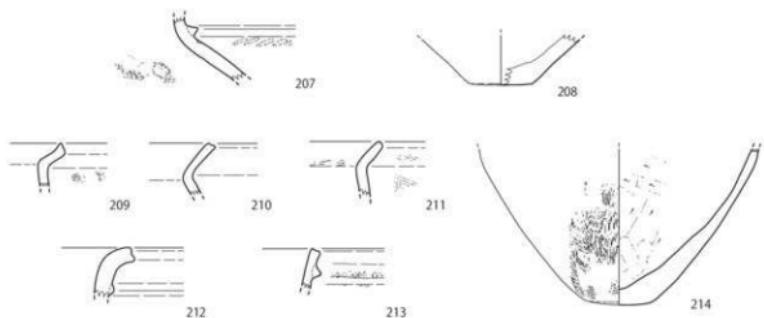


21号竖穴

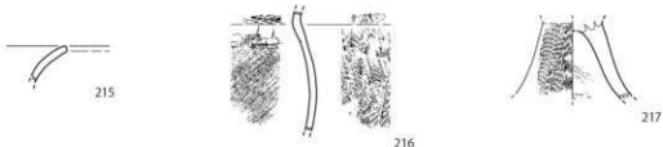


第66図 20号・21号竖穴出土土器実測図

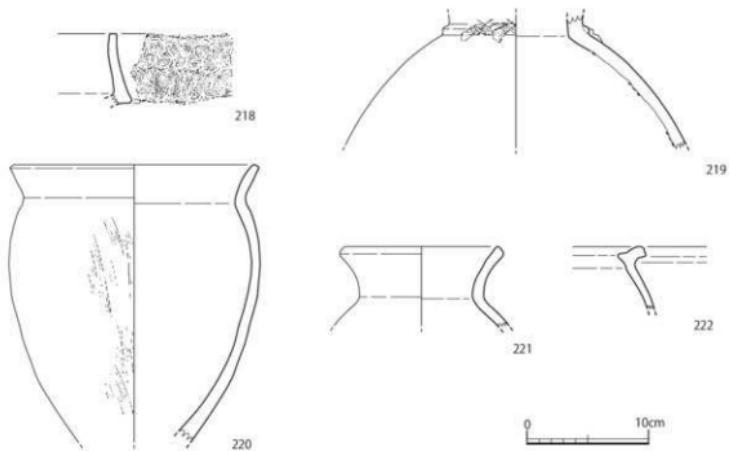
22号竖穴



23号竖穴



24号竖穴



第67图 22号~24号竖穴出土土器实测图

25号竖穴



223

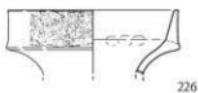


224

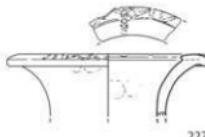


225

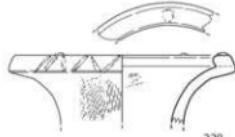
26号竖穴



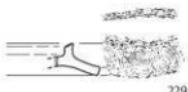
226



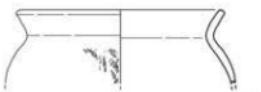
227



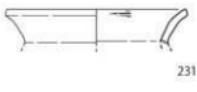
228



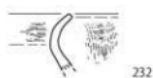
229



230



231



232



233



234

27号竖穴

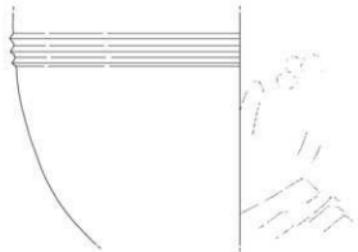


235



236

28号竖穴



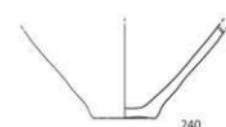
237



238



239



240



241

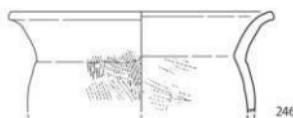
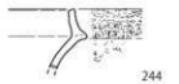
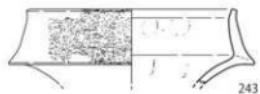


242

0 10cm

第68図 25号～28号竖穴出土土器実測図

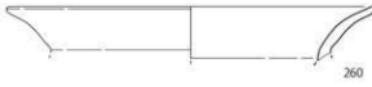
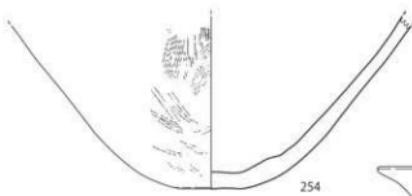
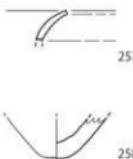
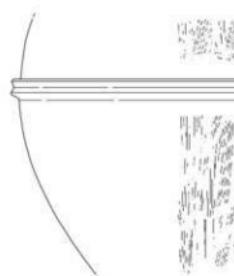
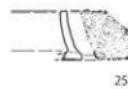
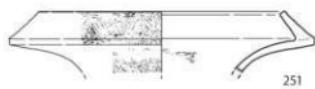
29号竖穴



30号竖穴



31号竖穴



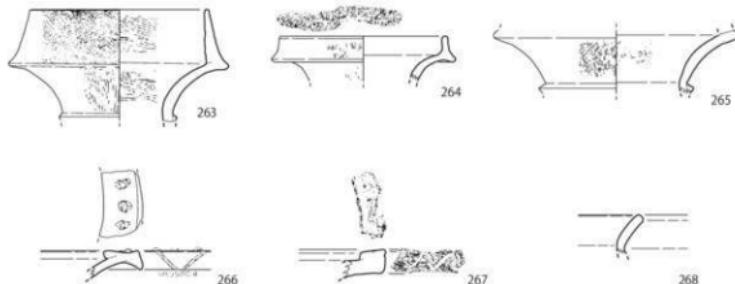
0 10cm

第69图 29号~31号竖穴出土土器实测图

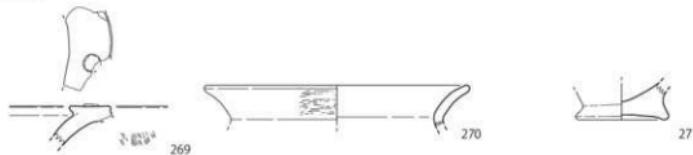
32号竖穴



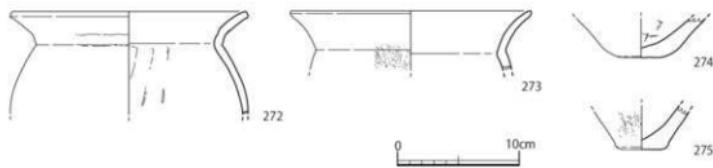
33号竖穴



34号竖穴

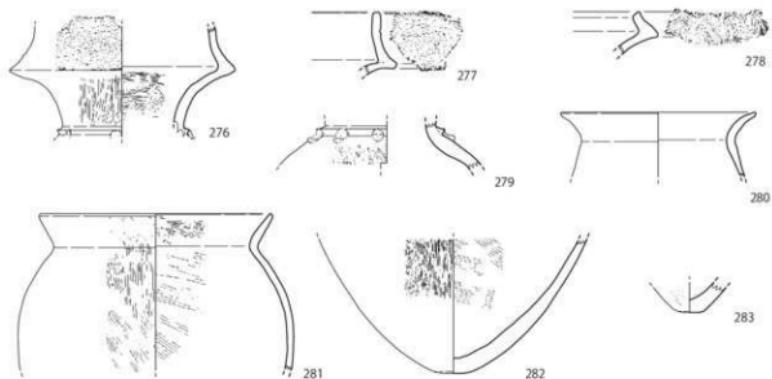


35号竖穴

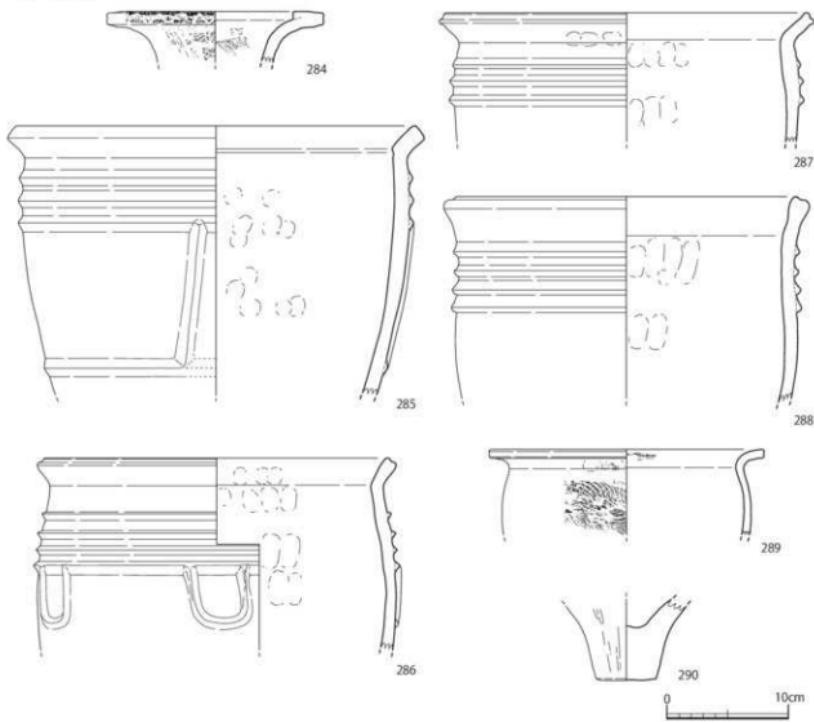


第70图 32号~35号竖穴出土土器实测图

36号竖穴

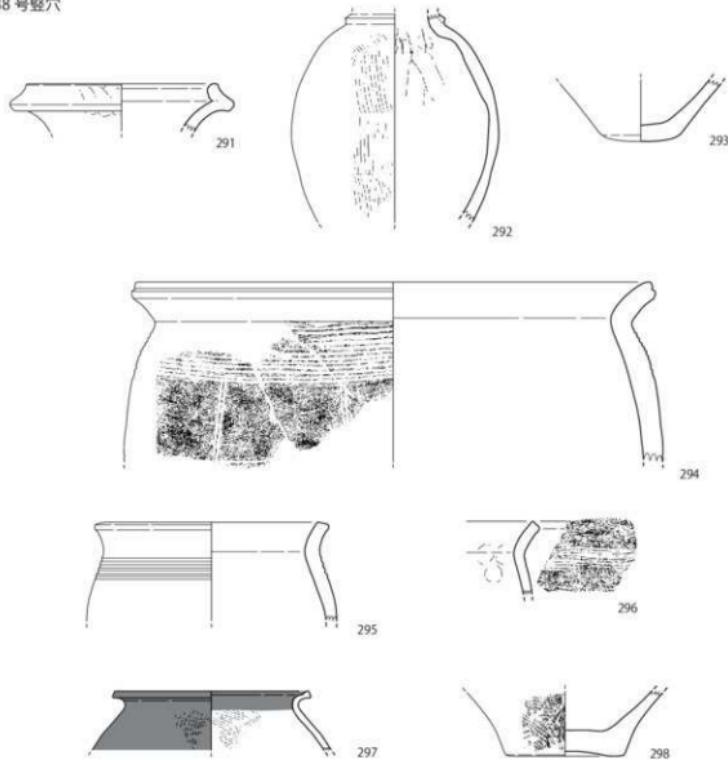


37号竖穴

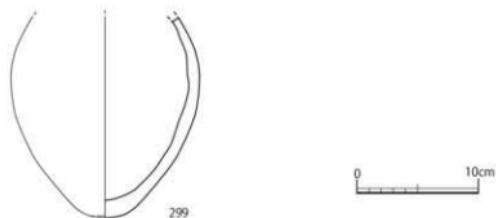


第71图 36号·37号竖穴出土土器实测图

38号竖穴

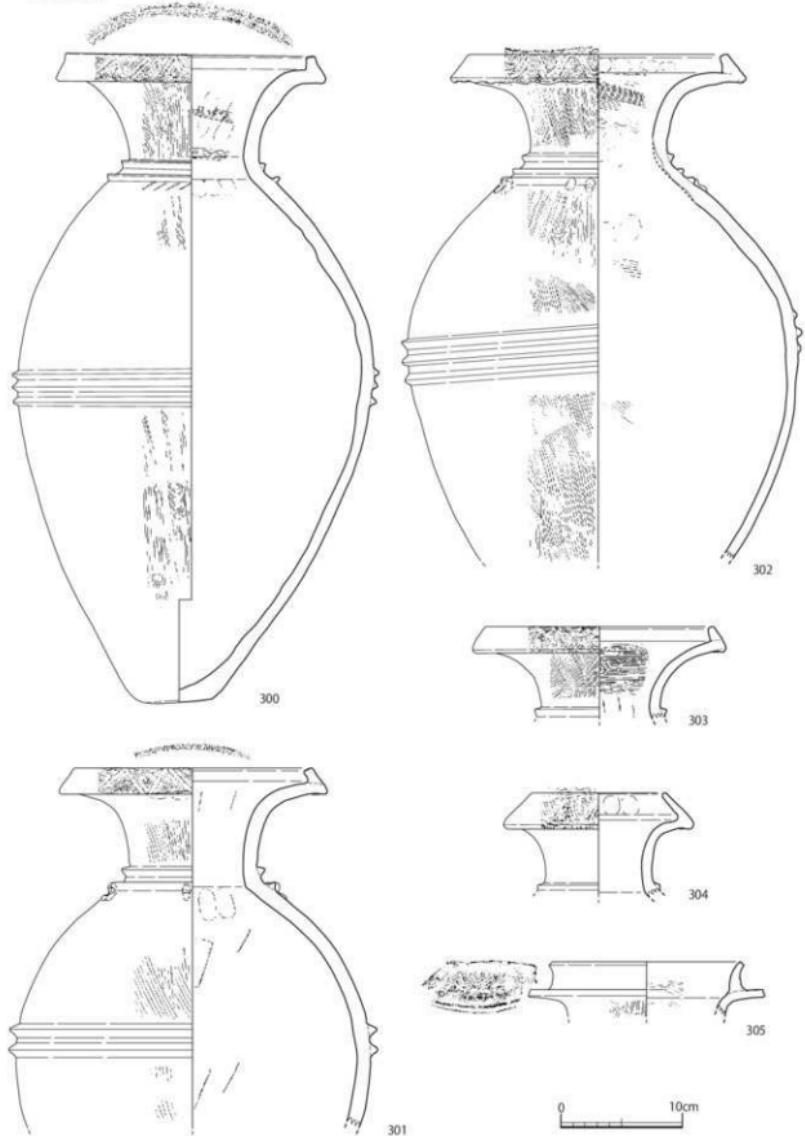


39号竖穴



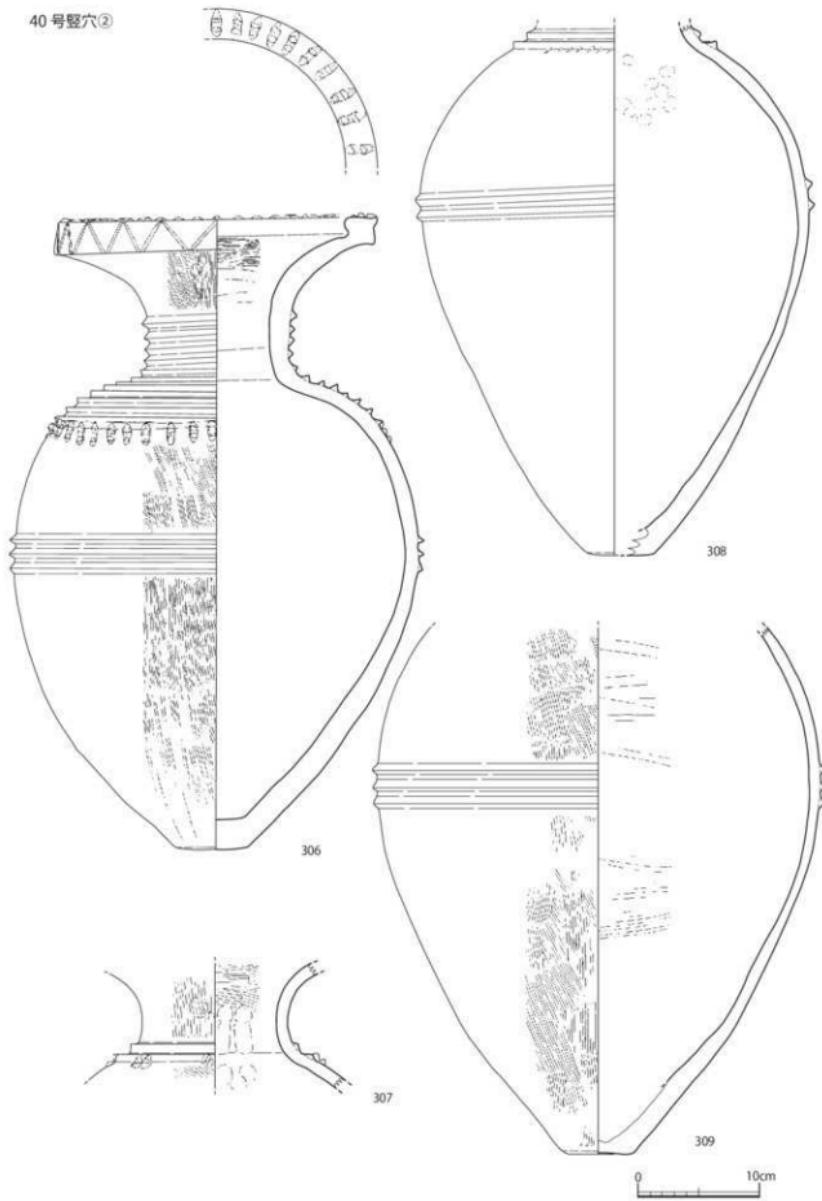
第72图 38号·39号竖穴出土土器实测图

40号竖穴①



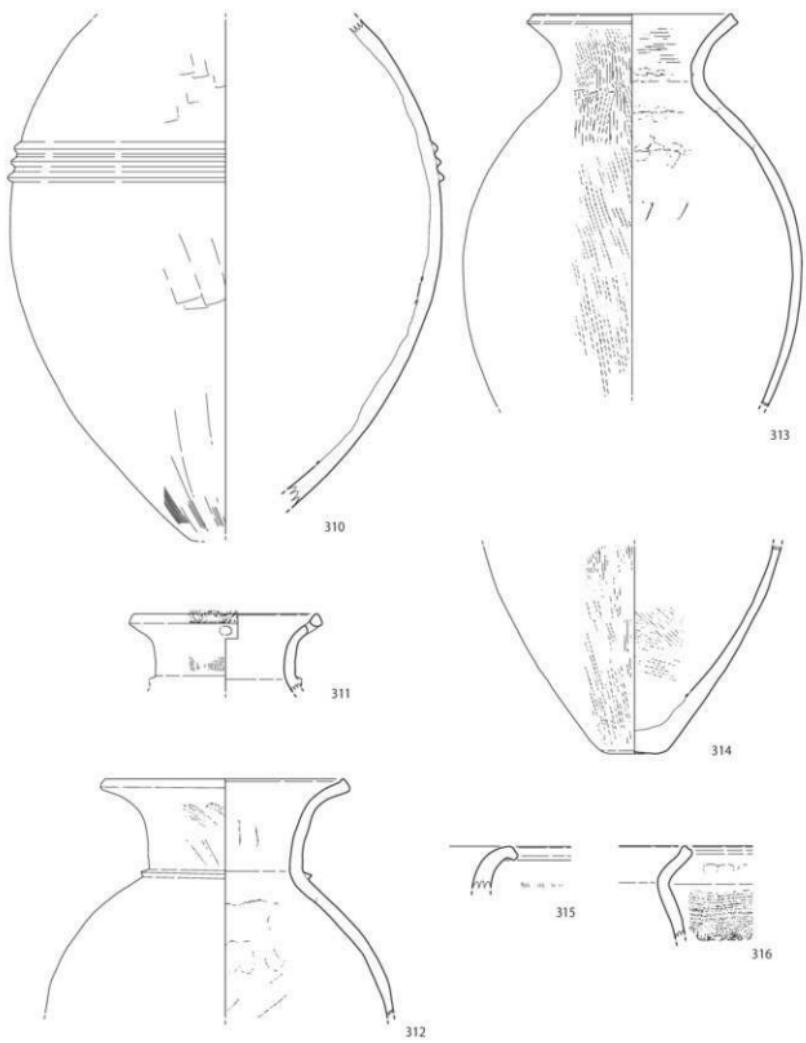
第73图 40号竖穴出土土器实测图①

40号竖穴②



第74图 40号竖穴出土土器实测图②

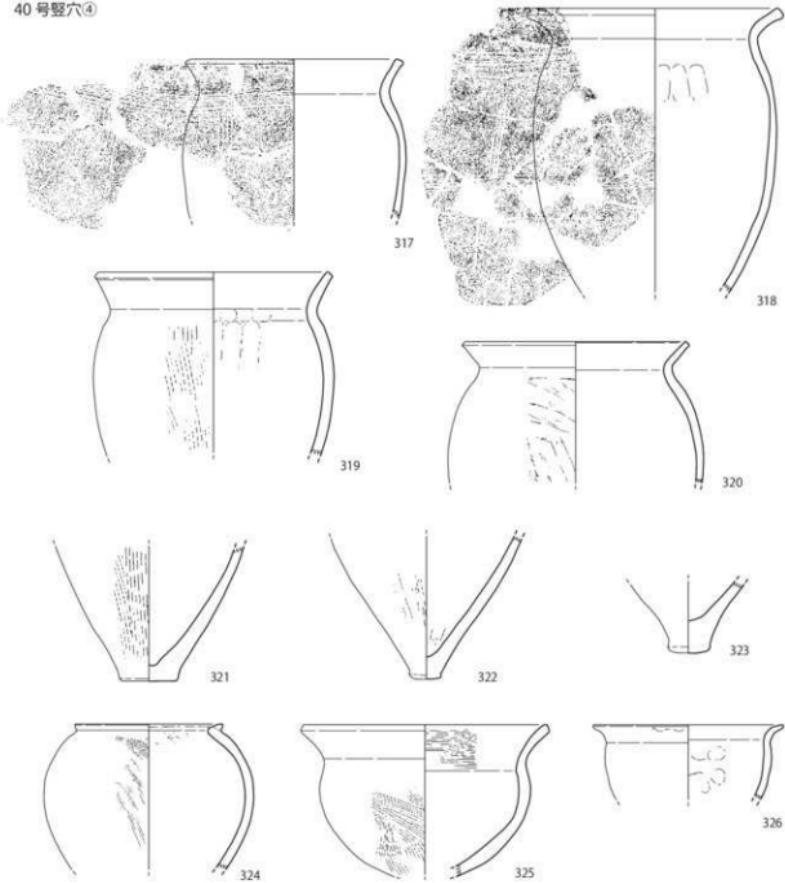
40号竖穴③



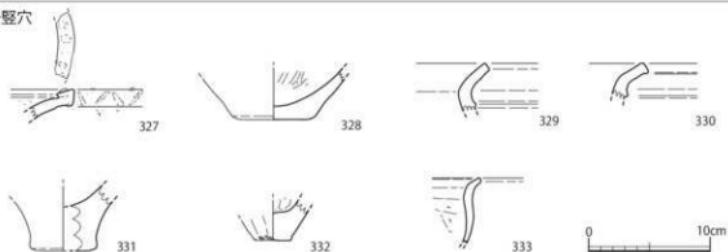
0 10cm

第75图 40号竖穴出土土器实测图③

40号竖穴④



41号竖穴

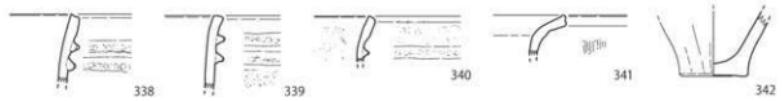


第76图 40号·41号竖穴出土土器实测图

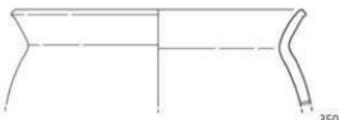
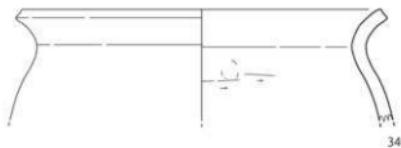
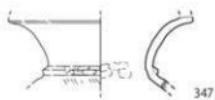
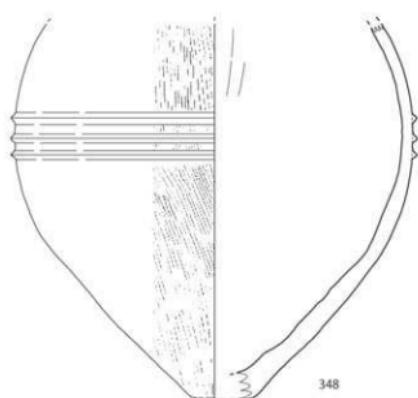
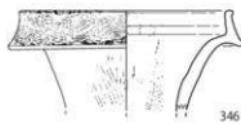
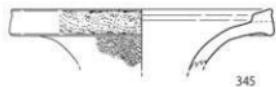
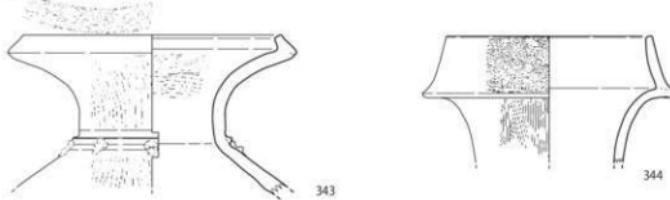
42号竖穴



43号竖穴



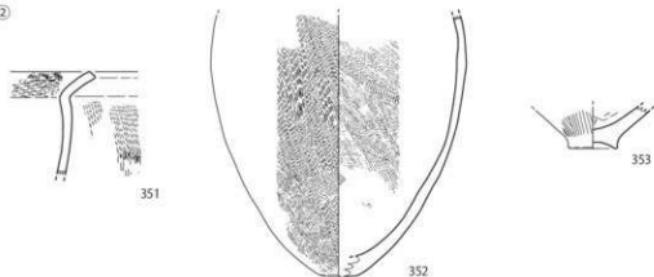
柱穴①



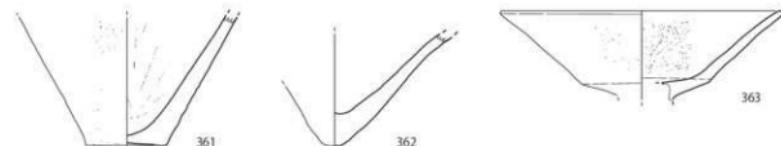
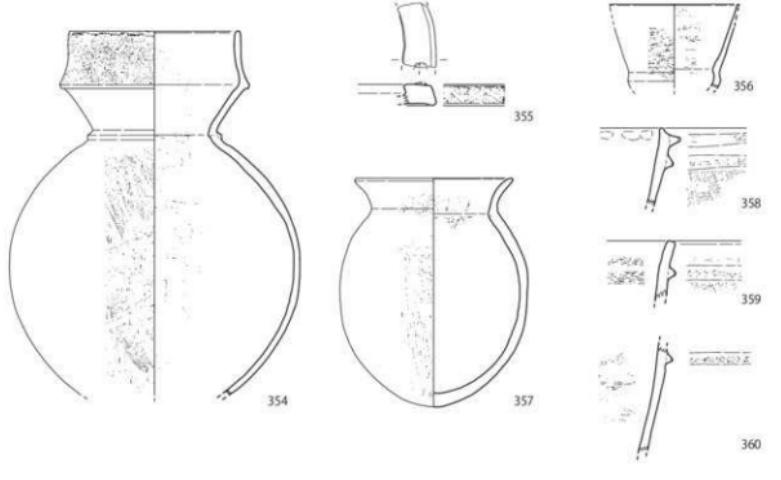
0 10cm

第77図 42号・43号竖穴・柱穴状遗構出土土器実測図

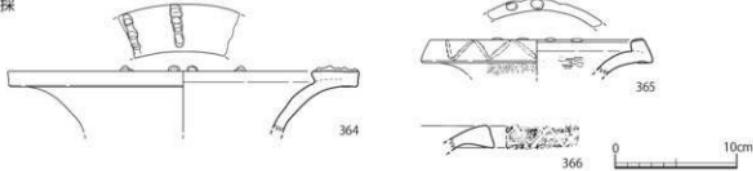
柱穴②



周溝墓



表採



第78図 柱穴状造構・周溝墓・表採土器実測図

回	No	出土場所	縦幅	法量(cm)			胎土			調整・文様 (内面/外側)	色調 上: 内面 下: 外面	備考	
				巻高	口幅	腹深(底)	底	身高	腰				
55	1	1号竪穴	直	10.0	11.7			○	○	ナデ / 槌ナデ、ハケ目施ケズリ一部ミガキ、 貼付実葉	淡黄褐色	脚部ベルト状突起に格子状剥離	
55	2	1号竪穴	直	5.3				○		赤色粒	楕ナデ / 波状突	透黃褐色 暗灰褐色	波状文出現 外面剥離あり
55	3	1号竪穴	直	3.3	12.6			○	○	楕ナデ、指サエ、ナデ / 槌ナデ、ハケ目、 ナデ	暗灰褐色 灰黃褐色	内腹入矢付箋	
55	4	1号竪穴	直	14.6	16.9	15.6		○		楕ナデ、ハケ目、指オサエ、ナデ / 槌ナデ、 ハケ目	灰黃褐色	口縁部内腹から外腹にスス付箋	
55	5	1号竪穴	直	14.8		22.5		○	○	工具ナデ、ナデ / 極ナデ、ハケ目、ナデ	暗灰褐色 暗赤褐色	内腹スス付箋	
55	6	1号竪穴	直	12.0		4.3		○	○	ナデ / ナデ	灰黃褐色	外腹スス付箋	
55	7	1号竪穴	直	9.0				○		三方キ、ナデ / ヨコナデ、ナデ、ハケ目	赤色 赤褐色	外腹剥離あり	
55	8	1号竪穴	直坪	3.5				○	○	赤色粒	楕灰色 相合	内腹スス付箋	
55	9	2号竪穴	直	11.0	15.0			○	○	楕ナデ、指オサエ、ナデ / 極ナデ、指オサエ、 貼付実葉	淡黃褐色	脚部実葉 外面スス付箋	
55	10	2号竪穴	直	8.5	19.6			○	○	楕ナデ、指オサエ、ハケ目、ナデ / 波状文、 指オサエ、ハケ目、極ナデ	灰黃褐色	波状文2例	
55	11	2号竪穴	直	4.4				○		ハケ目 / 極ナデ、ハケ目、指オサエ	灰黃褐色	内腹スス付箋	
55	12	2号竪穴	直	4.5				○	○	楕ナデ / 極ナデ、貼付実葉	灰黃褐色 暗褐色	脚部剥離	
55	13	2号竪穴	直	4.2		3.6		○		ナデ / ハケ目、ナデ	暗灰褐色 灰黃褐色	内腹スス付箋	
55	14	2号竪穴	直坪	7.3				○	○	ナデ、破り直 / 三ガキ	灰黃褐色		
56	15	3号竪穴	直	9.4	20.8			○	○	ハケ目 / 極ナデ、浮文、山形文、ハケ目、 貼付実葉	暗褐色 暗黃褐色	浮文、山形文 脚部実葉	
56	16	3号竪穴	直	5.5	17.0			○	○	赤色粒	橙色 灰黃褐色	浮文、山形文 脚部実葉	
56	17	3号竪穴	直	6.1	14.6			○	○	波狀、楕ナデ / 極ナデ、貼付実葉	灰褐色	口縁部波狀 脚部実葉	
56	18	3号竪穴	直	11.1				○		指オサエ、ナデ // ハケ目、楕ナデ、貼付実葉、 指オサエ	灰黃褐色 暗褐色	脚部実葉2箇 口玉浮文	
56	19	3号竪穴	直	6.1				○	○	指オサエ、ナデ / 極ナデ、貼付実葉、浮文	灰黃褐色	脚部実葉2箇 口玉浮文	
56	20	3号竪穴	直	7.5				○	○	指オサエ、ハケ目、ナデ / 貼付実葉、 楕ナデ、浮文	橙色	脚部実葉2箇 口玉浮文	
56	21	3号竪穴	直	16.1	24.0			○		赤色粒	灰黃褐色 灰褐色	脚部実葉4箇	
56	22	3号竪穴	直	5.3		7.2		○	○	(摩耗) / ナデ	灰黃褐色 灰褐色		
56	23	3号竪穴	直	4.1				○		ナデ / 極ナデ、沈縫	灰褐色	脚部沈縫 口縁部剥離あり	
56	24	3号竪穴	直	4.5				○		楕ナデ、ナデ / 極ナデ、ハケ目	暗褐色		
56	25	3号竪穴	直	4.4		6.0		○	○	赤色粒	灰黃褐色 灰褐色		
56	26	3号竪穴	直	4.3		5.0		○	○	赤色粒	暗褐色 灰黃褐色		
56	27	3号竪穴	直	3.1	13.4	16.6		○	○	楕ナデ、ナデ / 工具面 / 極ナデ、 三ガキ	灰黃褐色 墨色	内部表面色黒彩 脚部に薄壳	
56	28	3号竪穴	直坪	4.3				○	○	三ガキ / 極ナデ、ハケ目、三ガキ	灰黃褐色		
56	29	4号竪穴	直	2.5				○	○	指オサエ / 極ナデ、剥皮文、山形文	灰黃褐色 灰黃褐色		
56	30	4号竪穴	直	3.0				○	○	ハケ目、ナデ / 極ナデ、ハケ目	橙色		
56	31	4号竪穴	直	6.2		4.8		○	○	(剥落) / 三ガキ、ナデ	灰褐色		
56	32	4号竪穴	直	3.3		6.6		○	○	指オサエ、ナデ / ナデ	灰黃褐色 灰褐色		
56	33	4号竪穴	直	3.5				○	○	三ガキ、ケズリ / 極ナデ、指オサエ	灰黃褐色	楕形	
57	34	5号竪穴	直	2.6				○	○	楕ナデ / 極ナデ	暗褐色		
57	35	5号竪穴	直	2.7				○		赤色粒	楕ナデ、ナデ / 極ナデ、ナデ、ハケ目	灰褐色 暗褐色	
57	36	5号竪穴	直	2.1				○	○	楕ナデ、ナデ / 極ナデ	灰褐色		
57	37	5号竪穴	直	3.2				○	○	楕ナデ / 極ナデ	暗褐色		
57	38	5号竪穴	直	3.3				○	○	楕ナデ / 極ナデ	灰褐色		

第5表 土器観察表①

回	No	出土場所	縦幅	法量(cm)					胎土	調整・文様 (内面/外側)	色調 上: 内面 下: 外面	備考
				巻 高	口 幅	腹 深	腰 幅	身 高				
57	39	5号竪穴	直	(7.9)				○ ○ ○		ナデ、指オサエ/ナデ、沈縛	赤褐色	細部次規
57	40	5号竪穴	直	(8.9)		(4.8)	○ ○ ○			ケズリ、ナデ/ナデ	にじい黄褐色 にじい赤褐色	
57	41	5号竪穴	不明	(4.5)		(3.8)	○ ○ ○			指オサエ/ナデ	赤褐色	にじい黄褐色
57	42	5号竪穴	直	(4.4)				○ ○		職ナデ、ナデ/ハケ目後三ガキ	にじい黄褐色 赤色	外面赤色茎形
57	43	6号竪穴	直	(3.8)	17.6			○ ○		職ナデ、指オサエ/ハケ目/ハケ目、 指オサエ、指ナデ	浅黃褐色	
57	44	6号竪穴	直	(5.7)	(18.2)		○ ○			書母	赤褐色	泥狀文2符
57	45	6号竪穴	直	(4.8)	(12.0)		○ ○			職ナデ/泥狀文、職ナデ	にじい黄褐色	泥狀文1段
57	46	6号竪穴	直	(3.5)			○ ○			職ナデ/泥狀文、職ナデ	浅黃褐色	泥狀文2符
57	47	6号竪穴	直	(10.6)			○ ○			ナデ、一部ハケ目、指オサエ/ミガキ、 一部ハケ目	褐色 にじい褐色	外面赤ス付着
57	48	6号竪穴	直	(5.6)		(3.4)	○ ○ ○			指オサエ、一部ハケ目/ハケ目、ナデ	明赤褐色	
57	49	6号竪穴	直	(26.5)		(16.2)	○ ○ ○			ナデ、ハケ目/ハケ目	にじい黄褐色 にじい褐色	外面赤ス付着 内面接合部
57	50	6号竪穴	直	(6.3)	(27.2)		○ ○			職ナデ、ナデ/職ナデ、貼付突起	にじい黄褐色	細部突起
57	51	6号竪穴	直	(3.6)	(12.8)		○ ○ ○			職ナデ/職ナデ、ハケ目	褐色	内面ス付着
57	52	6号竪穴	直	(3.1)	(20.4)		○ ○ ○			ナデ/職ナデ、ハケ目	にじい黄褐色	
57	53	6号竪穴	直	(4.8)	(20.6)		○ ○ ○			職ナデ/職ナデ、ナデ	にじい褐色	
57	54	6号竪穴	直	(4.6)			○ ○ ○			ナデ、ハケ目/ナデ、ハケ目	褐色	
57	55	6号竪穴	直	(3.8)			○ ○ ○			ナデ/職ナデ、ハケ目	浅黃褐色 にじい黄褐色	内面赤ス付着
57	56	6号竪穴	直	(4.3)			○ ○ ○			職ナデ/職ナデ	褐色	
57	57	6号竪穴	直	(7.1)		(2.2)	○ ○ ○			ナデ/ナデ	黑褐色 にじい黄褐色	内面赤ス付着
57	58	6号竪穴	直	(11.3)		3.5	○ ○ ○			ナデ、指オサエ/ナデ	にじい黄褐色 にじい褐色	
57	59	6号竪穴	直	(9.1)		1.6	○ ○			ナデ、指オサエ/ナデ	にじい黄褐色	内面ス付着
57	60	6号竪穴	直	(5.1)		(8.2)	○ ○ ○			ケズリ、ナデ/ハケ目、ナデ、職ナデ	芦葦褐色 にじい黄褐色	
58	61	7号竪穴	直	(4.5)	(8.3)		○ ○ ○			ナデ/一部王カヨ/ミガキ	にじい赤褐色	内面赤色茎形
58	62	7号竪穴	直	(2.4)			○ ○ ○			職ナデ/浮文、山兩文、指オサエ、職ナデ	褐色	浮文に複刻 山兩文
58	63	7号竪穴	直	(8.0)		(6.9)	○ ○ ○			ナデ/ハケ目後ナデ	黑褐色 にじい黄褐色	泥狀2条 外面赤ス付着
58	64	7号竪穴	直	(5.4)	(18.2)		○ ○ ○			ナデ/ナデ、沈縛	にじい褐色 黒褐色	泥狀2条 外面赤ス付着
58	65	7号竪穴	直	(8.0)	(39.2)		○ ○ ○			職ナデ/沈縛、職ナデ、一部ハケ目	にじい赤褐色	内面赤合板 口縫細部追?
58	66	7号竪穴	直	(4.9)			○ ○ ○			職ナデ、ハケ目/職ナデ、ハケ目	灰褐色	外面赤ス付着
58	67	7号竪穴	直	(11.0)			○ ○ ○			職ナデ、指オサエ、ハケ目、ナデ/職ナデ、 ハケ目、ナデ	にじい黄褐色 にじい褐色	外面赤ス付着
58	68	7号竪穴	直	(4.1)			○ ○ ○			ナデ/職ナデ、ナデ	褐色	
58	69	7号竪穴	直	(2.9)			○ ○ ○			職ナデ/職ナデ	芦葦褐色 にじい褐色	内面赤ス付着
58	70	7号竪穴	直	(6.1)		4.5	○ ○ ○ ○			ナデ/ハケ目、指オサエ、ナデ	黑褐色	内面ス付着
58	71	7号竪穴	直	(5.0)		4.0	○ ○ ○ ○			ナデ/ナデ	にじい褐色	
58	72	7号竪穴	直	(5.2)		3.1	○ ○ ○ ○			ナデ/ハケ目後ナデ	黑褐色 にじい褐色	内面ス付着
58	73	8号竪穴	直	(22.1)	15.3		○ ○ ○			職ナデ、指オサエ/ハケ目/ハケ目、 指オサエ、ナデ、貼付突起	にじい黄褐色 にじい褐色	内面赤色茎形 貼付突起系に指オサエ
58	74	8号竪穴	直	(20.3)	18.7		○ ○ ○			職ナデ、指オサエ、ハケ目後ナデ/職ナデ、 指オサエ、ハケ目後ナデ、貼付突起	浅黃褐色	泥狀2条 貼付突起1条 内面赤合板
58	75	8号竪穴	直	(31.0)	(17.1)		○ ○ ○			職ナデ、指オサエ、ナデ/泥狀文、 指オサエ、ナデ、貼付突起	にじい黄褐色	泥狀文2符 贼付突起あり
58	76	8号竪穴	直	(11.4)	(14.0)		○ ○ ○			職ナデ、ナデ/職ナデ、指オサエ、ナデ	にじい黄褐色	泥狀文2符 外面赤合板
58	77	8号竪穴	直	(8.0)	13.9		○ ○ ○			職ナデ、一部ハケ目、ナデ/摩打/職ナデ、 ナデ(工具部)、貼付突起	浅黃褐色	泥狀文2符 贊付突起あり
58	78	8号竪穴	直	(8.2)	(14.2)		○ ○ ○			指オサエ、ナデ、指オサエ/泥狀文、ナデ	にじい黄褐色 にじい赤褐色	泥狀文1段

第6表 土器觀察表②

回	No	出土場所	番号	法量(cm)			胎土			調整・文様 (内面/外面)	色調 上: 内面 下: 外面	備考
				巻 高	口 幅	側 厚	角 高	側 厚	底 厚			
58	79	B号窓穴	直	(4.0)	(11.0)		○	○	○	無ナデ・横ナデ	褐色	
59	80	B号窓穴	直	(31.0)	(26.0)	40	○	○	○	ナデ・摩打目・ハケ目、貼付突起、ナデ・ 脚サエ	にぶい黄褐色 茅束文×付着	茅束文×付着 外腹入付着
59	81	B号窓穴	直	(11.5)				○		ハケ目、ナデ・摩打目・ナデ・ハケ目、 貼付突起、序文	淡黃褐色	脚部突起・序文 内外腹黒斑あり
59	82	B号窓穴	直	(16.5)		40	○	○	赤色粘	ナデ・摩打目・ナデ	灰褐色	外腹黒斑あり
59	83	B号窓穴	直	(7.0)		43	○	○	○	[摩打]・ハケ目、ナデ	にぶい黄褐色 褐色	
59	84	B号窓穴	直	(11.0)	(34.0)		○	○		横ナデ、ナデ・横ナデ・ハケ目微ナデ、混状文	にじ・褐色	混状文1回
59	85	B号窓穴	直	(16.0)	(17.4)	(16.6)	○	○	○	横ナデ・ハケ目・ナデ・宇津乃万キ・横ナデ・ナデ	明赤褐色	外腹入付着・内腹黒斑あり
59	86	B号窓穴	直	(11.5)	(16.2)		○	○		ハケ目・横ナデ・脚サエ・横ナデ・ハケ目	にじ・褐色 褐色	外腹入付着
59	87	B号窓穴	直	(8.0)	(15.0)		○	○		ナデ・脚サエ・ナデ	赤褐色 褐色	
59	88	B号窓穴	直	(7.0)	(15.0)		○	○	○	横ナデ・ナデ・一部工具痕・横ナデ・ 工具痕?	褐色 にぶい褐色	
59	89	B号窓穴	直	(6.4)			○	○	○	横ナデ・ハケ目・ケズリ・横ナデ・ハケ目、 ナデ	にぶい黄褐色	内腹に複合痕
59	90	B号窓穴	直	(7.5)		(46)	○	○		ナデ・ハケ目微ナデ	暗褐色 にじ・褐色	内腹入付着
59	91	B号窓穴	直	(8.0)		17	○	○		ナデ・脚サエ・工具ナデ・ナデ	正褐色 にじ・褐色	
60	92	9号窓穴	直	(17.0)	19.3		○			横ナデ・ハケ目・ナデ・脚サエ・剥落 波状文・脚サエ・ハケ目・剥落突起	暗褐色	口縁側面部・波状文× 脚部鳥糞目・剥落
60	93	9号窓穴	直	(11.0)	17.0		○	○		横ナデ・脚サエ・ハケ目・ナデ・横ナデ・ 脚サエ・ハケ目・脚付突起・序文・ 沈線、浮文	褐色	脚部突起・序文 脚部沈線
60	94	9号窓穴	直	(3.0)			○	○		横ナデ・刻文・波状文・ハケ目	明赤褐色	口縫側面部・波状文1回
60	95	9号窓穴	直	(4.6)	(16.6)		○	○		赤色粘	横ナデ・波状文・ 横ナデ・ナデ	にじ・褐色
60	96	9号窓穴	直	(8.0)			○	○	○	ナデ・波状文・脚サエ・ハケ目・貼付突 起	にじ・黄褐色	波状文・脚部突起
60	97	9号窓穴	直	(30.0)	(29.2)	54	○	○		赤色粘	ナデ・ケズリ・ハケ目・脚サエ・ハケ目 ナデ	褐色 にじ・赤褐色
60	98	9号窓穴	直	(5.0)		(42)	○	○	○	赤色粘 横ナデ	淡黄色 にじ・黄褐色	
60	99	9号窓穴	直	(4.0)		(62)	○	○		ナデ・ハケ目・ナデ	にじ・黄褐色	
60	100	9号窓穴	直	(16.0)			○	○	○	横ナデ・脚サエ・一部ハケ目・横ナデ・ 沈線、波状文・ナデ	にじ・褐色 褐色	内腹に複合痕・脚部に工具沈線 波状文1回
60	101	9号窓穴	直	(26.7)	(32.2)	(32.8)	○	○	○	脚サエ・脚ナデ・横ナデ・ナデ	にじ・褐色	脚部入付着・内腹黒斑
60	102	9号窓穴	直	(9.0)	(23.2)		○	○	○	横ナデ・ナデ・横ナデ・ハケ目・ナデ	褐色	外腹入付着
60	103	9号窓穴	直	(8.7)	(26.0)		○	○	○	赤色粘	横ナデ・ナデ・横ナデ・ハケ目	褐色
60	104	9号窓穴	直	(5.5)			○	○		横ナデ・ハケ目・脚サエ・ナデ・横ナデ・ ハケ目	にじ・褐色	外腹入付着
60	105	9号窓穴	直	(5.1)			○	○	○	横ナデ・ナデ・横ナデ・ハケ目	褐色 深褐色	外腹入付着
60	106	9号窓穴	直	(5.4)		(2.0)	○	○	○	ナデ・ナデ	黄褐色 にじ・褐色	
60	107	9号窓穴	直	(4.0)		2.2	○	○	○	ナデ・ナデ	黒褐色 明褐色	
60	108	9号窓穴	直	(3.1)		3.9	○	○	○	ナデ・ナデ・脚サエ	黒褐色 にじ・褐色	内腹入付着
61	109	10号窓穴	直	(8.0)	(16.0)		○	○		赤色粘 黒色粘	にじ・黄褐色	口縫部入付着
61	110	10号窓穴	直	(2.0)			○	○		横ナデ・波状文・波状文・ハケ目・横ナデ ナデ	にじ・赤褐色 褐色	口縫部波状文・波状文1回
61	111	10号窓穴	直	(4.7)	(4.4)		○	○		ナデ・ナデ	にじ・黄褐色 褐色	
61	112	10号窓穴	直	(5.7)			○	○		赤色粘	横ナデ・ナデ・横ナデ	褐色
61	113	10号窓穴	直	(3.1)	(36.0)		○	○		赤色粘	横ナデ・横ナデ	にじ・褐色
61	114	10号窓穴	直	(5.3)	(17.4)		○	○		赤色粘	横ナデ・ナデ・横ナデ・ハケ目・ナデ	赤褐色 褐色
61	115	11号窓穴	直	(2.5)			○	○	○	横ナデ・横ナデ	灰褐色 深褐色	外腹入付着

第7表 土器観察表③

回	No	出土場所	番号	法量(cm)			胎土			調整・文様 (内面/外面)	色調 上:内面 下:外面	備考		
				巻高	口幅	腹深(底)	底径	身高	腰	厚				
61	116	11号廻穴	縫	(7.4)	(11.2)			○	○		褐色子、脂オサエ、ナデ/横ナデ、ハケ目、 ナデ	にぶい黄褐色	網状隙孔	
61	117	11号廻穴	縫	(8.4)		(4.0)	○	○			ミガキ/ミガキ、一部ハケ目	にぶい褐色 褐色地色	外表面赤茶色	
61	118	12号廻穴	直	(3.9)		(4.0)					赤色粒	褐色子、ナデ/横ナデ、ハケ目	にぶい黄褐色 灰黃褐色	内面口縁部・外表面赤茶色
61	119	12号廻穴	直	(4.0)		(4.0)	○				ナデ/工房ナデ、ナデ	灰黃褐色		
61	120	12号廻穴	基盤	(4.6)			○	○			褐色子、ミガキ/ナデ、ナデ	褐色	内面底頭あり	
61	121	13号廻穴	直	(16.8)	(7.8)		○	○	○		赤色粒	褐色子、ナデ/横ナデ、ミガキ、ナデ	灰褐色 明赤褐色	
61	122	13号廻穴	直	(8.7)	(24.4)	○	○	○			脂オサエ、ナデ/ミガキ、ナデ、 脂付突葉	灰褐色 明赤褐色	輪討突葉2条	
61	123	13号廻穴	直	(3.8)		(4.8)	○		○			ナデ/脂オサエ、ナデ	浅黃褐色 にぶい黄褐色	
61	124	13号廻穴	直	(14.5)	(29.4)	(38.8)	○	○	○		褐色子、ナデ/横ナデ、沈緑、ナデ	灰褐色 明赤褐色	内面混合層 网狀沈緑5条	
61	125	13号廻穴	直	(5.6)	(33.2)		○	○	○		褐色子、ナデ/横ナデ、ナデ	褐色地色	外表面スズ付層	
61	126	13号廻穴	直	(3.5)			○	○			褐色子/横ナデ	にぶい黄褐色	外表面スズ付層	
61	127	13号廻穴	直	(3.4)			○				褐色子/横ナデ	浅黃褐色	外表面底頭あり	
61	128	13号廻穴	縫	(4.4)	(17.6)		○				褐色子、ナデ/横ナデ、(津利)	灰褐色 灰褐色	外表面スズ付層	
61	129	13号廻穴	縫	(4.5)			○	○			褐色子、ケズリ/横ナデ、ナデ	浅黃褐色 にぶい黄褐色		
62	130	14号廻穴	直	(2.8)	(23.4)	○	○	○			褐色子、ハケ目/横ナデ、浮文、山形文、 脂オサエ、(ハバ)	にぶい褐色	円周浮文、山形文	
62	131	14号廻穴	直	(4.4)	(17.8)		○	○			褐色子、ハケ目、ナデ/横ナデ、浮文、 山形文、(ハバ)	灰黃褐色	円周浮文、山形文	
62	132	14号廻穴	直	(5.0)	(18.4)	(16.2)	○	○			褐色子、ナデ/横ナデ、ナデ	灰褐色	外表面スズ付層	
62	133	14号廻穴	直	(8.1)			○	○	○		褐色子、ナデ、ケズリ/横ナデ、脂オサエ、 ナデ	にぶい黄褐色 褐色	外表面スズ付層	
62	134	14号廻穴	直	(5.0)			○	○	○		褐色子、ナデ/横ナデ、ナデ、脂付突葉	灰褐色	網狀隙孔付層	
62	135	14号廻穴	直	(4.3)			○				褐色子、ナデ/横ナデ、(日田突葉)	にぶい黄褐色 褐色	輪討突葉2条	
62	136	14号廻穴	直	(2.5)			○	○			褐色子、脂オサエ/横ナデ、(日田突葉)	にぶい黄褐色	口縁隙孔付層 (日田突葉1条) 外表面スズ付層	
62	137	14号廻穴	直	(6.0)			○				褐色子/横ナデ、脂オサエ、ナデ/横ナデ、(日田突葉) ナデ	口縁隙孔付層 (日田突葉1条) 外表面スズ付層		
62	138	14号廻穴	直	(2.5)		3.9	○				ナデ/脂オサエ/横ナデ	灰褐色 にぶい褐色		
62	139	14号廻穴	直	(3.3)		(5.8)	○	○			ナデ/ナデ、横ナデ	灰黃褐色 にぶい黄褐色		
62	140	14号廻穴	直	(3.5)		(5.0)	○	○			赤色粒	にぶい褐色 にぶい黄褐色		
62	141	15号廻穴	直	(2.4)		(4.0)	○	○			褐色子	褐色	網狀隙孔	
62	142	15号廻穴	直	(2.4)		(2.0)	○				ナデ/ナデ	褐色 灰黃褐色		
62	143	16号廻穴	直	(3.6)	(10.8)		○				褐色子、脂オサエ、ナデ/横ナデ、 (ナデ) (ハナコ)	にぶい褐色 明赤褐色	網狀隙孔、口縁内面-外表面赤茶色	
62	144	16号廻穴	直	(4.0)	(20.0)		○				褐色子、(ハナコ)/浮文、山形文、脂ナデ、 (ハケ目)	にぶい褐色	丸玉浮文、山形文	
62	145	16号廻穴	直	(2.8)			○	○	○		褐色子、脂オサエ/横ナデ、(津文)	褐色	津文(文)層	
62	146	16号廻穴	直	(1.9)			○	○	○		褐色子/横ナデ、浮文、山形文、脂オサエ	にぶい褐色	円周浮文、山形文	
62	147	16号廻穴	直	(2.7)			○				褐色子/横ナデ、浮文、(ハケ目)	にぶい褐色	丸玉浮文	
62	148	16号廻穴	直	(4.6)			○	○			褐色子、ナデ/横ナデ、脂付突葉	灰黃褐色 黑褐色	口縁隙孔(日田突葉1条) (日田突葉2条) 外表面スズ付層	
62	149	16号廻穴	直	(2.9)	(19.4)		○	○			褐色子、脂オサエ、(ハケ目)、ナデ/横ナデ、 脂オサエ	にぶい黄褐色 にぶい黃褐色	輪討突葉2条	
62	150	16号廻穴	直	(4.6)			○	○			褐色子/横ナデ	褐色		
62	151	16号廻穴	直	(2.9)	(19.4)		○	○			褐色子、脂オサエ、(ハケ目)、ナデ/横ナデ、 脂オサエ	にぶい褐色	外表面スズ付層	
62	152	16号廻穴	直	(4.6)	(18.4)		○	○			褐色子、ナデ/横ナデ、(ハケ目)、ナデ	灰黃褐色	内表面スズ付層	
62	153	16号廻穴	直	(14.2)	(22.9)	(22.6)		○			赤色粒	褐色子、ナデ/横ナデ、(ハケ目) (ナデ)	にぶい褐色	外表面スズ付層

第8表 土器観察表④

回	No.	出土場所	縦幅	法量(cm)					胎土	調整・文様 (内面/外側)	色調 上: 内面 下: 外面	備考
				巻高	口幅	腹深	底径	身高				
62	154	16号竪穴	直 (12.1)		5.0	○	○	赤色粘	ナデ//ハケ目、ナデ	明眞褐色	外面入ス付着 無限あり	
62	155	16号竪穴	直 (8.3)		3.3	○	○	○	ナデ/ナデ	にじい褐色		
62	156	16号竪穴	直 (3.3)		6.0	○		○	ナデ//ハケ目、ナデ	にじい黄褐色	にじい褐色	
62	157	16号竪穴	直 (3.3)		5.8		○	○	ナデ/ナデ	にじい褐色	にじい褐色	
62	158	16号竪穴	直 (2.9)		4.6	○	○	○	ナデ//工黄ナデ、指オサエ、ナデ	黒褐色	にじい黄褐色	
62	159	16号竪穴	直 (3.7)		4.8	○			ナデ//ハケ目、ナデ	褪色	にじい褐色	内面入ス付着
62	160	16号竪穴	直 (3.2)			○			赤色粘	楕ナデ、ケズリ/楕ナデ、ハケ目	褪色	外面入ス付着
62	161	16号竪穴	直 (4.7)	(22.8)		○	○	○	楕ナデ、三ガキノミガキ、楕ナデ	赤色	灰褐色	外周口縁部へ内面赤色剥落
63	162	17号竪穴	直 (14.4)	(19.6)		○	○	○	直	楕ナデ、指オサエ、工具ナデ/楕圓文、指オサエ、ハケ目	にじい直褐色	口縁部椭圓文等、前部突起2条 粘土吹付、内外面剥落あり
63	163	17号竪穴	直 (3.8)	(14.2)		○	○	○	赤色粘	楕ナデ、指オサエ、ナデ/直褐色	にじい直褐色	
63	164	17号竪穴	直 (4.0)			○	○		楕ナデ、指オサエ、ナデ/直褐色	にじい直褐色	直状文2段	外面入ス付着
63	165	17号竪穴	直 (13.7)		4.5	○	○	○	ナデ//ナデ//ハケ目、ナデ	にじい直褐色	外周口縁部へ内面赤色剥落	
63	166	17号竪穴	直 (4.6)			○	○	○	楕ナデ、ハケ目、楕ナデ、ハケ目	にじい直褐色		
63	167	17号竪穴	直 (6.9)	14.2		○	○	○	楕ナデ、三ガキノミガキ、楕ナデ、 ナデ	楕ナデ/直褐色	内面赤色変彩、物語理孔、 外周剥落	
63	168	17号竪穴	直 (2.6)	(15.1)	16.8		○	○	楕ナデ、指オサエ、ナデ/楕ナデ、指オサエ、 ハケ目	灰褐色	外面入ス付着	内面接合部
63	169	17号竪穴	直 (23.0)	17.6	17.9		○	○	楕ナデ、指オサエ、ナデ/楕ナデ、指オサエ、 ハケ目/楕ナデ	花崗岩色	外面入ス付着	剥落あり
63	170	17号竪穴	直 (19.0)		2.4		○	○	ナデ//ナデ	にじい直褐色		
63	171	17号竪穴	直 (26.3)		25.7		○	○	ナデ//ハケ目	にじい褐色	内面接合部	
63	172	17号竪穴	直 (15.1)	16.8		○	○	○	楕ナデ、指オサエ後ナデ/楕ナデ、工具類、 ナデ	褪色		
63	173	17号竪穴	直 (2.9)			○			楕ナデ、ナデ/楕ナデ	にじい直褐色		
63	174	17号竪穴	直 (6.7)		(12.6)		○	○	ナデ、三ガキノミガキ、ハケ目、三ガキ	褪色	研削欠け 穿孔3	
64	175	18号竪穴	直 (3.2)	(26.0)		○	○	○	楕ナデ/楕ナデ、波状文	にじい直褐色	口縁部直状文1段 明眞褐色	
64	176	18号竪穴	直 (4.3)			○	○		楕ナデ/楕ナデ	にじい直褐色	口縁部直状文2段	
64	177	18号竪穴	直 (3.3)			○	○		楕ナデ//ハケ目後ナデ/楕ナデ/ハケ目	にじい直褐色	外周入ス付着	
64	178	18号竪穴	直 (3.3)			○	○		ナデ//ミガキ、楕ナデ	褪色		
64	179	18号竪穴	直 (4.4)		6.6		○		赤色粘(剥離)/ハケ目後ミガキ、ナデ	にじい直褐色		
64	180	19号竪穴	直 (2.4)			○	○		楕ナデ/浮文、山形文、楕ナデ、ハケ目、 ナデ	褪色	山形状浮文 山形文	
64	181	19号竪穴	直 (12.8)	(42.8)		○	○		ナデ/楕ナデ、剥離草葉、ハケ目	褪色	外周入ス付着 口縁外周剥離 剥離草葉1束・縫合2条	
64	182	19号竪穴	直 (7.9)	(22.4)		○	○		ナデ/楕ナデ、沈編、波状文?	褪色	剥離上に沈編	
64	183	19号竪穴	直 (12.3)			○	○		楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ハケ目	明眞褐色		
64	184	19号竪穴	直 (5.6)			○	○		楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ハケ目	褪色		
64	185	19号竪穴	直 (4.7)			○	○		楕ナデ/楕ナデ、ハケ目	明眞褐色		
64	186	19号竪穴	直 (5.6)			○	○		楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ナデ	褪色		
65	187	20号竪穴	直 (42.7)	15.6	32.9		○	○	楕ナデ、指オサエ、ハケ目/楕ナデ、 指オサエ、ハケ目	花崗岩色 にじい褐色	内面入ス付着	
65	188	20号竪穴	直 (5.3)	(20.6)		○			楕ナデ/楕ナデ、波状文、ハケ目	にじい直褐色	波状文1段	
65	189	20号竪穴	直 (7.4)	14.7		○	○		楕ナデ、一式直板、指オサエ、ハケ目/ 波状文、指オサエ、三ガキノミガキ、ハケ目	にじい直褐色	波状文1段	
65	190	20号竪穴	直 (5.5)	(14.2)		○	○	○	楕ナデ、ナデ/楕ナデ	にじい直褐色	内面入ス付着	
65	191	20号竪穴	直 (5.1)			○	○		楕ナデ、指オサエ/波状文、楕ナデ	にじい直褐色	波状文2段	
65	192	20号竪穴	直 (4.7)		6.6	○	○		ナデ//ハケ目後ナデ	にじい直褐色		
65	193	20号竪穴	直 (29.7)	(18.6)		○	○	○	楕ナデ、ナデ (工具類)、指オサエ / 楕ナデ、 ハケ目	にじい直褐色	外周入ス付着 剥落あり	

第9表 土器觀察表③

回	No	出土場所	縦幅	法量(cm)				胎土			調整・文様 (内面/外側)	色調 上: 内面 下: 外面	備考	
				巻高	口幅	腹深	底径	身高	腰	底				
65	194	20号窯穴 褐	(10.3)	(12.4)		○	○				楕ナデ、指オサエ、ナデ/楕ナデ、指オサエ、ナデ	にじい褐色 灰褐色	外蓋スス付蓋	
65	195	20号窯穴 褐	(4.1)			○	○				楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ミガキ、ハケ目	黒褐色		
65	196	20号窯穴 褐	(24.7)		48	○	○	○			ナデ、指オサエ//ハケ目、ナデ	褐色	内底黒褐色あり	
66	197	20号窯穴 高峰	(6.9)	(25.6)		○	○	○			ミガキ、ナデ/楕ナデ、ミガキ、ハケ目	胡麻褐色~ 灰黃褐色	内底スス付蓋	
66	198	20号窯穴 高峰	(15.7)	(34.4)		○	○				ハケ目、ナデ、短り唇/楕ナデ、ハケ目、 ナデ	にじい褐色 にじい褐色	脚部薄石5(内表面に黒斑あり)	
66	199	20号窯穴 高峰	21.1	(29.5)	18.2	○	○	○			ミガキ、ナデ、短り唇/楕ナデ、ミガキ、 ナデ、指オサエ	灰褐色 浅黃褐色	脚部薄石4(外蓋スス付蓋 黒斑あり)	
66	200	20号窯穴 高峰	(5.5)			○	○				ハケ目、ナデ/ハケ目、ナデ	褐色		
66	201	21号窯穴 青	(2.2)	(18.6)			○				楕ナデ/楕ナデ、山田文	明赤褐色	山西文	
66	202	21号窯穴 青	(3.5)			○	○				楕ナデ/浮文、山西文、楕ナデ、指オサエ、 ハケ目	褐色 灰黃褐色	松玉井洋文 山西文	
66	203	21号窯穴 青	(4.1)			○	○				楕ナデ/波状文、楕ナデ	褐色	湖状文1段 外蓋スス付蓋	
66	204	21号窯穴 青	(6.5)	(10.2)		○					楕ナデ、ハケ目、指オサエ/ミガキ	にじい黄褐色 褐色	内底薄合掌	
66	205	21号窯穴 青	(4.5)			○					楕ナデ、ハケ目/波状文。沈堆	にじい黄褐色 明赤褐色	湖状文2段	
66	206	21号窯穴 青	(3.8)			○	○				楕ナデ/楕ナデ	にじい黄褐色 灰褐色		
67	207	22号窯穴 青	(5.2)			○	○				ナデ、指オサエ、ハケ目/楕ナデ、點付開閉、 刻文。ナデ	胡麻褐色 にじい褐色	脚部突起1条	
67	208	22号窯穴 青	(4.1)		(5.2)	○	○	○			楕ナデ/楕ナデ	にじい黄褐色		
67	209	22号窯穴 褐	(3.5)			○					楕ナデ/楕ナデ、ハケ目	にじい褐色		
67	210	22号窯穴 褐	(4.2)			○					赤色粒	赤色		
67	211	22号窯穴 褐	(4.5)			○	○	○			楕ナデ、ハケ目、ナデ/楕ナデ、ハケ目	胡赤褐色		
67	212	22号窯穴 褐	(4.1)			○	○	○			薄赤/楕ナデ、點付突堤	胡赤褐色 にじい褐色	脚部突起	
67	213	22号窯穴 褐	(3.2)			○	○				ナデ/楕ナデ、刻付突堤、ハケ目	褐色 にじい褐色	口跡自突堤1条 外蓋スス付蓋	
67	214	22号窯穴 褐	(12.8)		5.0	○	○				タヌリ、指オサエ、ナデ/ハケ目、ナデ	にじい黄褐色 褐色	外蓋スス付蓋	
67	215	23号窯穴 褐	(3.0)			○	○				楕ナデ/楕ナデ	にじい黄褐色		
67	216	23号窯穴 褐	(3.8)			○	○				工芸ナデ、指オサエ、ハケ目/ハケ目	にじい黄褐色	外蓋スス付蓋	
67	217	23号窯穴 高峰	(6.4)			○	○				ナデ、ハケ目/ハケ目	褐色	外蓋スス付蓋	
67	218	24号窯穴 青	(3.8)			○					赤色粒/波状文、楕ナデ	胡麻褐色	湖状文2段	
67	219	24号窯穴 青	(10.0)			○	○				タヌリ/楕ナデ、刻付突堤、 刻文。ナデ	にじい黄褐色 にじい黄褐色	脚部凹凸部1枚状突堤 松玉井浮文	
67	220	24号窯穴 褐	(22.8)	(20.2)		○	○				赤色粒	赤褐色	内外蓋スス付蓋	
67	221	24号窯穴 褐	(6.5)	(13.4)		○	○				楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ナデ	胡褐色	外蓋スス付蓋	
67	222	24号窯穴 褐	(5.1)			○	○				楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ナデ	褐色 にじい褐色		
68	223	25号窯穴 青	(3.2)	(15.6)		○	○	○			赤色粒	淡青褐色	湖状文1段	
68	224	25号窯穴 青	(4.8)		(4.4)	○	○				ナデ/ナデ	淡青褐色 明赤褐色		
68	225	25号窯穴 跡	(4.2)			○	○				ナデ/ナデ	褐色 赤褐色	外蓋赤褐色	
68	226	26号窯穴 青	(5.3)	(13.6)		○	○	○			赤色粒	楕ナデ、指オサエ/浮文、山西文、楕ナデ、 指オサエ、ナデ	にじい褐色	湖状文1段
68	227	26号窯穴 青	(5.1)	(16.4)		○	○	○			楕ナデ、指オサエ/浮文、山西文、楕ナデ、 指オサエ	黒褐色	浮文に刻印 山西文	
68	228	26号窯穴 青	(5.8)	(17.6)							楕ナデ、ハケ目ナデ/浮文、山西文、 指オサエ、ナデ	にじい黄褐色	口跡周部凹浮文 山西文	
68	229	26号窯穴 青	(2.6)				○	○			楕ナデ/竹筋文、波状文、楕ナデ、ハケ目、 ナデ	にじい黄褐色	口跡周部凹浮文 湖状文1段 脚部黒褐色あり	
68	230	26号窯穴 褐	(6.1)	(17.0)		○	○	○			楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ハケ目	にじい黄褐色	外蓋スス付蓋	
68	231	26号窯穴 褐	(3.0)	(14.6)		○	○	○			楕ナデ、ハケ目/楕ナデ	にじい黄褐色		
68	232	26号窯穴 褐	(4.6)								楕ナデ、ハケ目、ナデ/楕ナデ、ハケ目	赤褐色	口跡内面~外蓋スス付蓋	
68	233	26号窯穴 不明	(4.3)			(5.3)	○	○	○		ナデ/ミガキ、ナデ	にじい褐色		

第10表 土器観察表⑥

回	No.	出土場所	縦幅	法量(cm)					胎土	調整・文様 (内面/外面)	色調 上: 内面 下: 外面	備考
				巻高	口幅	腹深	底径	身高				
68	234	26号窯穴 不明	(4.2)			6.2		○ ○ ○	ナデ/ナデ	灰眞褐色 にぶい橙色		
68	235	27号窯穴 貝	(4.2)					○ ○ ○	織ナデ、ナデ/織ナデ、貝口突起	灰眞褐色	剥離突起2条	
68	236	27号窯穴 貝	(4.7)					○ ○ ○	織ナデ、貝オサエ後ハケ目/織ナデ、ハケ目、貝口突起	橙色	剥離突起1条 剥離にハケ目	
68	237	28号窯穴 直	(38.9) (32.6)		○ ○ ○ ○	赤色粘	海苔目ナデ、ナデ/工具ナデ/ナデ、貝口突起			にぶい橙色	剥離突起3条	
68	238	29号窯穴 貝	(4.0)					○ ○ ○	織ナデ、ナデ/織ナデ、ハケ目	にぶい眞褐色 橙色		
68	239	28号窯穴 貝	(3.8)					○ ○ ○	織ナデ/織ナデ、沈泡	にぶい	剥離沈泡	
68	240	28号窯穴 貝	(7.7)			(5.3)		○ ○ ○	ナデ/ナデ	黒褐色 にぶい眞褐色		
68	241	29号窯穴 貝	(4.8)			3.4		○ ○ ○ ○	ナデ/ナデ	黒褐色 にぶい橙色		
68	242	29号窯穴 跡	(5.1)					○ ○ ○ ○	織ナデ、ナデ/織ナデ、ハケ目後三方	にぶい 橙色 にぶい眞褐色		
69	243	29号窯穴 直	(6.1) (37.1)					○ ○ ○ ○	織ナデ、貝オサエ工、工具ナデ/波状文、貝オサエ、ナデ	にぶい青褐色	波状文2段	
69	244	29号窯穴 直	(4.9)					○ ○ ○ ○	赤色粘	織ナデ、ナデ/波状文、貝オサエ、ハケ目、ナデ	橙色	波状文2段
69	245	29号窯穴 直	(6.0)			(5.2)		○ ○ ○ ○	赤色粘	ナデ/工具ナデ、ナデ	灰褐色	
69	246	29号窯穴 貝	(8.3) (21.6)					○ ○ ○ ○	織ナデ、ハケ目/織ナデ、ハケ目	黒褐色 にぶい眞褐色	外面部ス付着	
69	247	30号窯穴 直	(2.3)					○ ○ ○ ○	貝オサエ/ナデ/ミガキ	にぶい眞褐色 赤色	外面部赤色(?)	
69	248	30号窯穴 直	(3.8)			5.4		○ ○ ○ ○ ○	(剥落)/ナデ	にぶい 橙色		
69	249	30号窯穴 貝	(4.6)					○ ○ ○ ○ ○	織ナデ/織ナデ	にぶい 橙色		
69	250	30号窯穴 貝	(6.9)			5.6		○ ○ ○ ○ ○	赤色粘	ナデ/ハケ目、織ナデ、ナデ	にぶい赤褐色 橙色	外面部ス付着
69	251	31号窯穴 直	(5.0) (20.2)					○ ○ ○ ○ ○	赤色粘	織ナデ、ハケ目/波状文、織ナデ、ハケ目	橙色	波状文1段
69	252	31号窯穴 直	(4.0)					○ ○ ○ ○ ○	赤色粘	ナデ/波状文、織ナデ	黒褐色 にぶい眞褐色	波状文2段
69	253	31号窯穴 直	(20.7) (37.4)					○ ○ ○ ○ ○	ナデ/ハケ目、ナデ、織ナデ、貝口突起	にぶい 黃褐色 にぶい 橙色	剥離突起2条 内面部合推 外面部ス付着	
69	254	31号窯穴 貝	(14.0)			(6.4)		○ ○ ○ ○ ○	ナデ? (謹用)/ハケ目、ナデ、ミガキ	にぶい 黑褐色 にぶい 橙色	外面部ス付着	
69	255	31号窯穴 直	(6.0)			5.0		○ ○ ○ ○ ○	赤色粘	ナデ/ナデ	黒褐色 にぶい 黑褐色	外面部ス付着
69	256	31号窯穴 貝	(15.4) (15.4) (14.7)					○ ○ ○ ○ ○	ミガキ、ナデ/織ナデ、ミガキ	黒褐色 相灰色	外面部ス付着	
69	257	31号窯穴 貝	(2.6)					○ ○ ○ ○ ○	織ナデ/織ナデ	黒褐色 灰褐色	外面部久付着	
69	258	31号窯穴 貝	(3.3)			(2.0)		○ ○ ○ ○ ○	ナデ/ナデ	黒褐色 灰褐色	外面部ス付着	
69	259	31号窯穴 不明	(2.9)			(8.0)		○ ○ ○ ○ ○	ナデ、貝オサエ/貝オサエ、ナデ	灰褐色	時代?	
69	260	31号窯穴 高坪	(4.2) (30.2)					○ ○ ○ ○ ○	織ナデ/織ナデ	褐灰色		
70	261	32号窯穴 貝	(3.2)					○ ○ ○ ○ ○	雲母	赤褐色 織赤褐色		
70	262	32号窯穴 不明	(2.9)			(5.3)		○ ○ ○ ○ ○	ナデ/ナデ	黒褐色 灰褐色		
70	263	33号窯穴 直	(9.1) 14.6					○ ○ ○ ○ ○	赤色粘	ナデ/ナデ/直状文、貝オサエ、ハケ目、ナデ、貝口突起	黒褐色 にぶい 真褐色	波状文2段 剥離突起 内外面部ス付着
70	264	33号窯穴 直	(3.7) (13.8)					○ ○ ○ ○ ○	織ナデ、ナデ/織ナデ	黒褐色 にぶい 真褐色		
70	265	33号窯穴 直	(5.2)					○ ○ ○ ○ ○	ハケ目、ナデ/織ナデ、ハケ目	黒褐色 にぶい 真褐色		
70	266	33号窯穴 直	(2.3)					○ ○ ○ ○ ○	貝口	貝口/竹質文、山形文、貝オサエ、織ナデ、ハケ目	にぶい 真褐色 山形文	剥離部竹質文 山形文
70	267	33号窯穴 直	(2.3)					○ ○ ○ ○ ○	織ナデ/竹質文	貝口/竹質文 にぶい 真褐色	剥離部竹質文 外面部竹質文による波状文1段	
70	268	33号窯穴 貝	(3.2)					○ ○ ○ ○ ○	雲母	紺褐色 赤褐色	外面部ス付着	
70	269	34号窯穴 直	(3.4)					○ ○ ○ ○ ○	織ナデ/浮文、織ナデ、ナデ/ハケ目	にぶい 黄褐色	剥離部凹状浮文	
70	270	34号窯穴 貝	(3.5) (21.6)					○ ○ ○ ○ ○	雲母	紺褐色 赤褐色	外面部ス付着	
70	271	34号窯穴 貝	(3.0)			7.6		○ ○ ○ ○ ○	ナデ/ナデ	褐灰色		

第11表 土器観察表⑦

回	No	出土場所	縦幅	法量(cm)				胎土			調整・文様 (内面/外側)	色調 上:内面 下:外側	備考	
				巻高	口幅	腹深	底径	角	側凸	側凹	底			
70	272	35号窓穴	裏	(8.5)	(19.4)			○	○	○		縫ナデ、工具ナデ、ナデ/縫ナデ、ナデ	にじ、黄褐色 黒褐色	外面スリ付裏 外面接合部
70	273	35号窓穴	裏	(4.9)	(19.6)			○	○	○		縫ナデ、ナデ/縫ナデ、ハケ目、ナデ	褐色	
70	274	35号窓穴	裏	(3.2)		(3.8)		○	○			工具痕、ナデ/ナデ	にじ、褐色 褐色	外面スリ付裏
70	275	35号窓穴	裏	(3.6)		(4.2)		○	○			ナデ//ハケ目、ナデ	黒褐色 黒灰色	内面スリ付裏
71	276	36号窓穴	表	(9.1)				○				縫ナデ、ハケ目、ナデ//波状文、縫ナデ、 ハケ目、貼付実痕、浮文	透狀況2段 匂玉波状浮文	
71	277	36号窓穴	表	(5.1)				○	○	○		縫ナデ//波状文、縫ナデ	にじ、黄褐色 褐色	透狀況2段
71	278	36号窓穴	表	(3.5)				○	○			赤色粒 縫ナデ//波状文、縫ナデ、ナデ	にじ、黄褐色 褐色	透狀況1段
71	279	36号窓穴	表	(3.9)				○	○			ナデ//縫ナデ、贴付実痕、浮文、ハケ目	褐色	細部突起1条 匂玉波状浮文
71	280	36号窓穴	裏	(5.3)	(16.0)			○	○			縫ナデ、ナデ//縫ナデ、ナデ	にじ、黄褐色 黒褐色	外面スリ付裏
71	281	36号窓穴	裏	(12.0)	(19.6)	(22.4)		○	○			縫ナデ、ハケ目、ナデ//縫ナデ、粘オサエ、 ハケ目、ナデ	黒褐色 にじ、黄褐色	内面スリ付裏
71	282	36号窓穴	裏	(11.0)		(3.0)		○	○			赤色粒 ハケ目、ナデ//ハケ目、ナデ	にじ、黄褐色 黒褐色	外面スリ付裏
71	283	36号窓穴	裏	(2.5)		(2.0)		○				ナデ//ハケ目、ナデ	黒褐色 褐色	内面スリ付裏
71	284	37号窓穴	裏	(4.2)	(17.6)			○	○	○		縫ナデ、ハケ目後横ナデ//ミガキ、山形文、 粘オサエ、ハケ目	にじ、褐色 にじ、褐色	山形文
71	285	37号窓穴	裏	(22.0)	(32.6)	(32.2)		○	○	○		縫ナデ、ナデ//オサエ後ナデ//縫ナデ、 贴付実痕	黒褐色 にじ、黄褐色	細部突起1条 匂玉スリ付裏
71	286	37号窓穴	裏	(15.6)	(29.4)	(34.0)		○	○			縫ナデ、ナデ//オサエ後ナデ//縫ナデ、 贴付実痕	にじ、黄褐色 黒褐色	細部突起4条 匂玉スリ付裏
71	287	37号窓穴	裏	(10.4)	(30.8)	(29.0)		○	○	○		縫ナデ、ナデ//オサエ後ナデ//縫ナデ、 粘オサエ、ハケ目	にじ、褐色 にじ、褐色	細部突起3条
71	288	37号窓穴	裏	(16.7)	(30.0)	(28.8)		○	○	○		縫ナデ、ナデ//オサエ後ナデ//縫ナデ、 贴付実痕、ナデ	にじ、褐色 褐色	細部突起4条
71	289	37号窓穴	裏	(7.0)	(22.4)			○	○	○		ハケ目後横ナデ、ナデ//縫ナデ、粘オサエ、 ハケ目	にじ、黄褐色 黒褐色	外面スリ付裏
71	290	37号窓穴	裏	(6.6)		4.9		○	○			ナデ//工具ナデ//横立方、ナデ	黒褐色 にじ、褐色	外面スリ付裏
72	291	38号窓穴	表	(3.9)	(15.8)			○	○			縫ナデ、ナデ//粘オサエ、ナデ	黒褐色 にじ、黄褐色	
72	292	38号窓穴	表	(16.9)		(17.0)		○	○			粘オサエ、ナデ、縫立方、ナデ//贴付実痕、 縫ナデ、ハケ目	にじ、褐色 褐色	細部突起1条
72	293	38号窓穴	表	(5.0)		(6.4)		○				ナデ//ナデ	にじ、褐色 黒褐色	
72	294	38号窓穴	裏	(14.7)	(42.7)	(44.0)		○	○	○		縫ナデ、ナデ//縫ナデ、沈縫、ナデ	胡麻色	口縫部付左裏 脚部上土字状沈縫
72	295	38号窓穴	裏	(8.1)	(19.0)			○	○	○		縫ナデ、ナデ//縫ナデ、沈縫、ナデ	褐色	脚部突起4条 外底スリ付裏
72	296	39号窓穴	裏	(6.0)				○	○	○		縫ナデ、粘オサエ、ナデ//縫ナデ、沈縫、ナデ	胡麻色	脚部沈縫//外底 脚部突起3条
72	297	38号窓穴	脚	(4.9)	(16.2)			○	○			赤色粒 縫ナデ、ハケ目//縫ナデ、ハケ目	赤色//褐色 赤色	内外表面色差
72	298	38号窓穴	不明	(3.3)		(9.6)		○				ナデ//ハケ目、ナデ	褐色 にじ、褐色	
72	299	39号窓穴	裏	(16.4)		(15.4)	(2.4)	○	○	○		ナデ//ナデ	胡麻褐色	外底スリ付裏
73	300	40号窓穴	表	53.2	20.4	29.7	5.6	○	○			竹青文、ナデ//工具根、粘ナシエ//山形文、 粘オサエ、波状文、粘カリ目、贴付実痕、斜目、 ハケ目、ナデ	透狀況1段 透狀況2条 匂玉状浮文	口縫部付右表 脚部突起3条 匂玉状浮文 脚部突起3条
73	301	40号窓穴	裏	(29.4)	(19.7)	(30.2)		○	○			竹青文、ナデ//工具根、粘ナシエ//山形文、 粘オサエ、波状文、粘カリ目、贴付実痕、斜目、 ナデ	透狀況1段 透狀況2条 匂玉状浮文 脚部突起3条 匂玉状浮文	口縫部付右裏 脚部突起3条 匂玉状浮文 脚部突起3条 匂玉状浮文
73	302	40号窓穴	表	(40.1)	21.2	32.7		○	○			小縫 縫位	胡麻褐色	口縫部付左表 脚部突起3条 匂玉状浮文 脚部突起3条 匂玉状浮文
73	303	40号窓穴	表	(7.6)	(18.6)			○	○			縫ナデ、粘オサエ、ナデ//工具根//山形文、 粘オサエ、ハケ目、贴付実痕	にじ、黄褐色 褐色	脚部突起 山形文
73	304	40号窓穴	表	(8.5)	(10.8)			○	○			縫ナデ、粘オサエ、ナデ//波状文、贴付実痕、 (透覗)	褐色	透狀況1段 脚部突起
73	305	40号窓穴	表	(4.5)	(16.0)			○	○			縫ナデ、ハケ目、ナデ//縫ナデ、波状文、 竹青文、ハケ目	にじ、黄褐色 黒褐色	透狀況1段 竹青文

第12表 土器觀察表⑧

回	No	出土場所	器種	法量(cm)			胎土			調整・文様 (内面/外面)	色調 上: 内面 下: 外面	備考
				巻高	口幅	腹深(底)	底径	身高	側面			
74	306	40号墳穴	壺	52.0	26.1	33.8	(5.9)	○	○	横ナデ、ハケ目、ナデ/横ナデ、浮文、山形文、船ヨサエ、ハケ目、船付突葉、ナデ/山形文	にぶい黄褐色 灰青褐色	口縁部切口浮文、山形文 側面部突葉あり
74	307	40号墳穴	壺	(10.3)				○	○	小縫 ハケ目、船ヨサエ、ナデ/ハケ目、船付突葉、浮文、	にぶい黄褐色 側面部突葉、切口	側面部突葉、切口、側面部第2条
74	308	40号墳穴	壺	(40.3)		32.6	5.4	○	○	船ヨサエ、ナデ/船付突葉、斜目、ナデ	黄褐色	側面部突葉、斜目
74	309	40号墳穴	壺	(40.0)		(37.0)	6.0	○	○	工具ナデ(舟形)/ハケ目、貼付突葉、ナデ	黄褐色	側面部突葉
75	310	40号墳穴	壺	[42.6]		(35.6)		○	○	舟形ナデ/ナデ/ナデ、船付突葉、ハケ目、工具ナデ	にぶい黄褐色	側面部突葉3条、外面部黒帯あり
75	311	40号墳穴	壺	(5.9)	(14.8)			○	○	横ナデ、ナデ/山形文、横ナデ、ハケ目、ナデ/山形文	にぶい黄褐色 灰青褐色	口縁部切口浮文、山形文 側面部突葉1条
75	312	40号墳穴	壺	(19.4)	19.5			○	○	横ナデ、ナデ(工具)、船ヨサエ/横ナデ、ハケ目、船付突葉	にぶい黄褐色	側面部突葉、外面部黒帯あり
75	313	40号墳穴	壺	(32.1)	(17.2)	(27.6)		○	○	横ナデ、ハケ目、船ヨサエ/船ナデ/ナデ、ハケ目	褐色	側面部3条、内面部合板
75	314	40号墳穴	壺	(38.0)		5.5	○			ナデ、ハケ目、(剥離)/ハケ目、ナデ	胡赤褐色 褐色	外面部黒帯あり
75	315	40号墳穴	壺	(3.4)				○	○	横ナデ/横ナデ、ハケ目	褐色	粗製度
75	316	40号墳穴	壺	(7.6)				○	○	書母 横ナデ、ナデ/横ナデ、船ヨサエ、沈模	胡赤褐色 赤褐色	粗製度、側面部沈模
76	317	40号墳穴	壺	(33.0)	(17.6)	(18.4)		○	○	横ナデ、ナデ/横ナデ、沈模	にぶい褐色	側面部工字状付縫
76	318	40号墳穴	壺	(23.2)	(21.0)	(26.6)		○	○	ナデ、船ナデ/横ナデ、沈模、ナデ	褐色	側面部~側面部工字状付縫第322と同一個体
76	319	40号墳穴	壺	(35.1)	(19.4)			○	○	横ナデ、船ヨサエ、指ナデ、ナデ/横ナデ、ハケ目	褐色	外面部黒帯あり
76	320	40号墳穴	壺	(31.6)	(18.4)			○	○	横ナデ、ナデ/横ナデ、ナデ	灰青褐色	内面部黒帯あり
76	321	40号墳穴	壺	(31.0)		(48.0)		○		ナデ/ハケ目、ナデ	胡赤褐色	外面部黒帯あり
76	322	40号墳穴	壺	(3.2)		2.6		○	○	ナデ(工具)、船ヨサエ/ナデ	褐色	388と同一個体?
76	323	40号墳穴	壺	(5.9)		3.5		○	○	ナデ/ナデ	にぶい黄褐色 褐色	
76	324	40号墳穴	壺	(31.9)	(12.0)	(17.0)		○	○	船ヨサエ、ナデ/横ナデ、ハケ目/船ナデ	褐色	内面部黒帯あり
76	325	40号墳穴	壺	(32.5)	(20.2)			○	○	ハケ目、横ナデ、ハケ目	胡赤褐色	
76	326	40号墳穴	壺	(6.1)	(15.6)			○	○	書母 横ナデ、船ヨサエ、ナデ/横ナデ、船ヨサエ、ナデ	にぶい褐色 褐色	外面部入付縫
76	327	41号墳穴	壺	(2.6)				○	○	横ナデ、浮文、ハケ目/横ナデ、ハケ目、山形文	にぶい黄褐色 灰青褐色	山形文浮文
76	328	41号墳穴	壺	(4.2)		(6.0)		○	○	三方キ/剥離	にぶい褐色	
76	329	41号墳穴	壺	(3.9)				○	○	(剥離)/横ナデ、沈模	にぶい褐色 沈模色	側面部沈模
76	330	41号墳穴	壺	(2.9)				○	○	ナデ/横ナデ、沈模	褐色	側面部沈模
76	331	41号墳穴	壺	(5.3)		(5.4)		○	○	ナデ/ナデ	褐色 にぶい褐色	
76	332	41号墳穴	壺	(3.3)		3.1		○	○	船ヨサエ/ナデ、工具柄	褐色 にぶい褐色	
76	333	41号墳穴	壺	(5.3)				○	○	横ナデ、ケズリ/横ナデ、ナデ/横ナデ、船ヨサエ、ナデ	にぶい褐色 灰青褐色	外面部入付縫
77	334	42号墳穴	壺	(5.8)				○		ナデ/横ナデ、剥田突葉	褐色 にぶい黄褐色	剥田突葉2条
77	335	42号墳穴	壺	(4.1)				○		ハケ目、ナデ/横ナデ、剥田突葉	胡赤褐色 にぶい褐色	剥田突葉2条、外面部入付縫
77	336	42号墳穴	壺	(5.5)		4.8		○		ナデ/ハケ目、ナデ	胡赤褐色 にぶい褐色	外面部入付縫
77	337	42号墳穴	壺	(5.3)		(6.0)		○	○	ナデ/ハケ目、ナデ	胡赤褐色 にぶい褐色	外面部入付縫
77	338	43号墳穴	壺	(5.6)				○		ナデ/横ナデ、剥田突葉	胡赤褐色 にぶい褐色	剥田突葉2条、外面部入付縫
77	339	43号墳穴	壺	(6.0)				○	○	ナデ/横ナデ、剥田突葉、ハケ目	にぶい黄褐色	剥田突葉2条
77	340	43号墳穴	壺	(3.7)				○	○	横ナデ、ハケ目、船ヨサエ/ハケ目、剥田突葉	にぶい褐色	剥田突葉1条、外面部入付縫
77	341	43号墳穴	壺	(3.3)				○	○	横ナデ/横ナデ、ハケ目、ナデ	にぶい黄褐色 灰青褐色	外面部入付縫
77	342	43号墳穴	壺	(3.3)			(5.4)	○	○	ナデ/ナデ	灰青褐色 にぶい褐色	外面部入付縫

第13表 土器観察表⑨

回	No	出土場所	縦幅	法量(cm)			胎土			調整・文様 (内面/外面)	色調 上:内面 下:外面	備考	
				巻高	口幅	側厚(底)	底幅	身高	側厚	底厚			
77	343	柱穴	直	13.1	21.0			○	○		楕ナデ、ハケ目、ナデ/山形文、ハケ目、 貼付箋糊、ナデ、楕ナデ	褐色 にぶい褐色	山形文、楕状突起1条 丸丘形浮文、入火付着
77	344	柱穴	直	10.4	16.8			○	○	○	楕ナデ、ナデ/波状文、楕ナデ、ハケ目	灰黄色	細胞壁 外面ス付着 波状文3周
77	345	柱穴	直	5.0	21.2			○	○	○	楕ナデ、ナデ/波状文、楕ナデ、ハケ目	明赤褐色	波状文1周
77	346	柱穴 (柱頭部)	直	8.3	17.2			○	○	○	楕オサニ、ハケ目/波状文、楕オサニ、ハケ 目	浅黄褐色	波状文1周 計数面遮隠 一部入火付着
77	347	柱穴	直	6.0				○	○		楕ナデ、楕オサニ、ナデ/楕ナデ、貼付箋糊、 ハケ目	灰黄色 にぶい黃褐色	外腹入火付着
77	348	柱穴	直	15.7		32.2	5.0	○			楕ナデ/ハケ目、貼付箋糊、ナデ	灰黄色 にぶい褐色	外腹裏面あり
77	349	柱穴	直	9.1	30.4			○	○		楕ナデ、楕オサニ、ケズリ/楕ナデ、ナデ	明赤褐色	粗脚質
77	350	柱穴	直	8.0	24.0			○	○		楕ナデ、ナデ/楕ナデ、ナデ	褐色	外腹入火付着
78	351	柱穴	直	8.4				○	○		ハケ目、ナデ/楕ナデ、ハケ目	にぶい褐色	
78	352	柱穴	直	21.3		32.2		○	○		ハケ目、ナデ/ハケ目、ナデ	明赤褐色 明赤褐色	内外腹入火付着
78	353	柱穴	直	13.4		14.0	○				赤色粒 ケズリ/ハケ目、楕ナデ、ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	外腹赤色塗装
78	354	周溝器	直	29.0	14.0	23.6		○	○		楕ナデ、ハケ目、楕オサニ、ナデ/波状文、 楕ナデ/ハケ目後三才	灰黄色 にぶい褐色	波状文3周 細胞壁 スス付着
78	355	周溝器 (土壤2)	直	13.8				○	○		楕ナデ/浮文、山形文、楕オサニ	褐色	入火付着
78	356	周溝器	直	6.0	10.6			○			楕ナデ後三才/ミガキ	褐色 明赤褐色	
78	357	周溝器	直	18.5	13.0	15.4		○	○		ハケ目、ナデ、楕オサニ/楕ナデ、ナデ、 ハケ目後三才	褐色 明赤褐色	内外腹入火付着
78	358	周溝器 (土壤2)	直	6.4				○		○	赤色粒 楕オサニ、ナデ/楕ナデ、刻目突等、ハケ 目	灰黄色 灰黄色	圓頭あり スス付着
78	359	周溝器 (土壤2)	直	4.8				○			赤色粒 ハケ目、ナデ/ハケ目、刻目突等	灰黄色 にぶい褐色	
78	360	周溝器 (土壤2)	直	9.0				○	○	○	ナデ、ミガキ/ナデ、刻目突等	露赤色 暗赤色	内外腹入火付着
78	361	周溝器	直	10.6		6.5		○	○		楕ナデ/ハケ目後ナデ、楕オサニ	露赤色 浅黄褐色	外腹波状溝底あり 刻目突等
78	362	周溝器	直	9.1		14	○	○	○		ナデ/ナデ	灰黄色	内外腹入火付着
78	363	周溝器	直坪	7.3	14.9			○	○		赤色粒 楕ナデ、ハケ目後三才/ミガキ/楕ナデ、 ハケ目後三才/ナデ、ナデ	褐色	内腹裏面あり
78	364	直深	直	5.4	28.8			○	○	○	浮文、楕ナデ、ナデ/楕ナデ、楕オサニ、ナデ	にぶい黄褐色	口縁部浮文
78	365	直深	直	3.0	17.4			○	○	○	楕ナデ、浮文、ハケ目/楕ナデ、山形文、 ハケ目	にぶい褐色	口縫部凹凸浮文 山形文
78	366	直深	直	2.0				○	○		楕ナデ/楕ナデ、山形文、楕オサニ、ナデ	にぶい黄褐色	山形文

第14表 土器觀察表⑩

(2) 土製品

土器片を何らかの用途で再利用したとみられる遺物が数多くみられ、紡錘車2点以外はすべて土器片加工品と呼ばれているものである。土器片加工品については用途不明の遺物として大野川中流域の弥生時代後期～古墳時代前期初頭の竪穴遺構より出土数が特に多いことで知られている。

土器片加工品（第79図～第82図）

今回の調査区でも188点もの出土数があり、多くは竪穴遺構の覆土層からの出土である。半円形の土器片の周縁に研磨による使用痕や打欠きなどの調整加工があり、使用頻度による磨り減りのためか大きさも様々である。使用土器片は壺や壺等の扁平な胴部片が多く利用されているが、一部頭部や口縁部などの屈曲部や文様・突帯が残るものやスヌグ付着したままのものがあり、側縁部のみの使用であったことが伺える。過去の調査例による整理・分類がなされており、本書でもそれにしたがって第15表のとおり分類している。特にA類-1が最も多く、2・3型を含めて半円形の形態であるA類が大半を占めており、それ以外のB・C・D類はわずかである。なお、円形状のC類は弦部の直線が研磨により湾曲化したと考えられるもの、不定形であるD類はA類の欠損後の使用とみられるものもあるため、本来はほぼ半円形が基本であったと思われる。

半円形を呈する土器片自体は竪穴遺構より多量に出土しているが、研磨や整形痕が認められるものを対象としている。全周打ち欠きによる整形と判断したA類-3については、普通の土器片との区別が困難なものは含まれなかつたためやや少ない。同様に研磨痕と風化等による磨滅との区別がつかないものも含めていないため、実際は該当する個体数はさらに増加する可能性がある。C類・D類も打ち欠きの有無による分類も可能ではあるが、数が少ないのでここでは細分していない。竪穴遺構の約3分の2弱で出土しているが、特に7号竪穴が32点とやや突出し、続いて9号・1号・34号竪穴より多く確認できる。



A類-1

半月形の形態
で、全周に研磨がある

84点



A類-2

半月形の形態
で、弧部のみに研磨がある

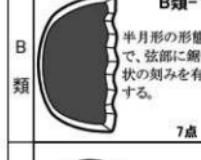
65点



A類-3

半円形の形態
で、全周を打ち欠く

14点



B類

半月形の形態
で、弦部に鋸歯状の刻みを有する。

7点



B類-2

半月形の形態
で、弦部に鋸歯状の刻みを有し、弧部にもノッチを有する。

3点



B類-3

半円形の形態
で、弦部または弧部にノッチを有する。

3点



C類

円形に近い形態

2点



D類

不定形

9点

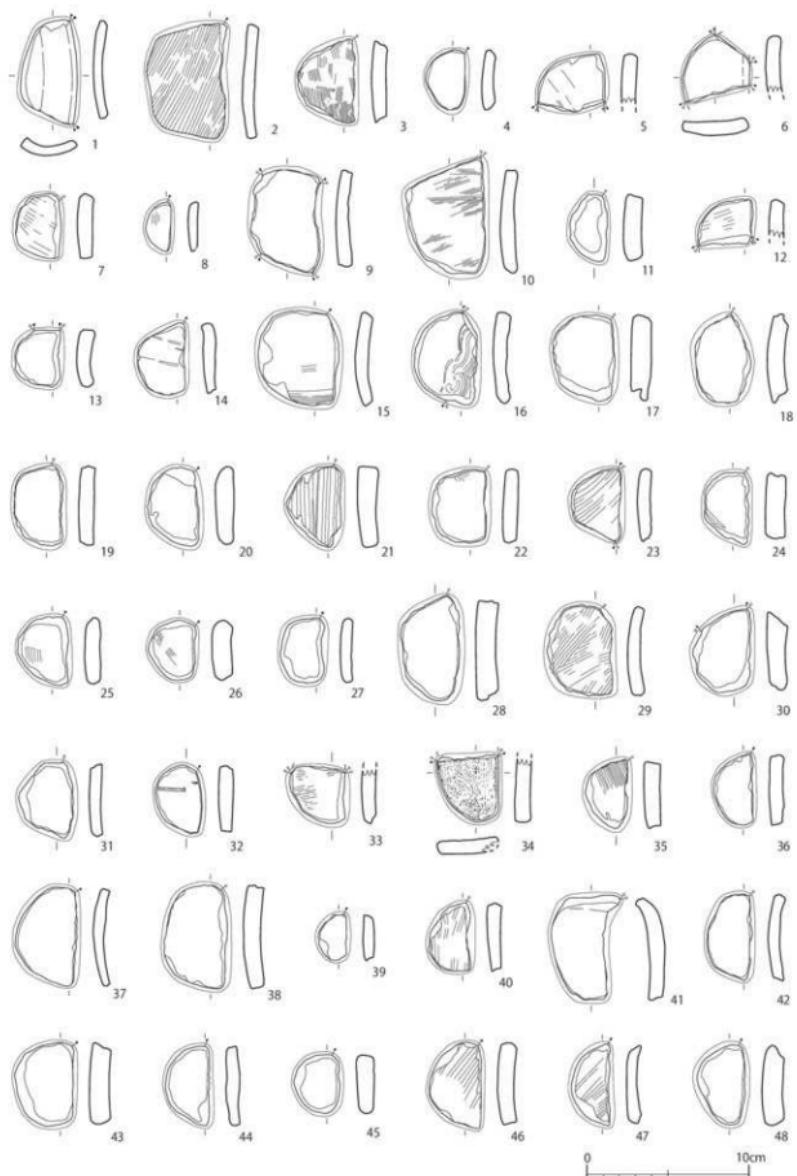
第15表 土器片加工品分類表



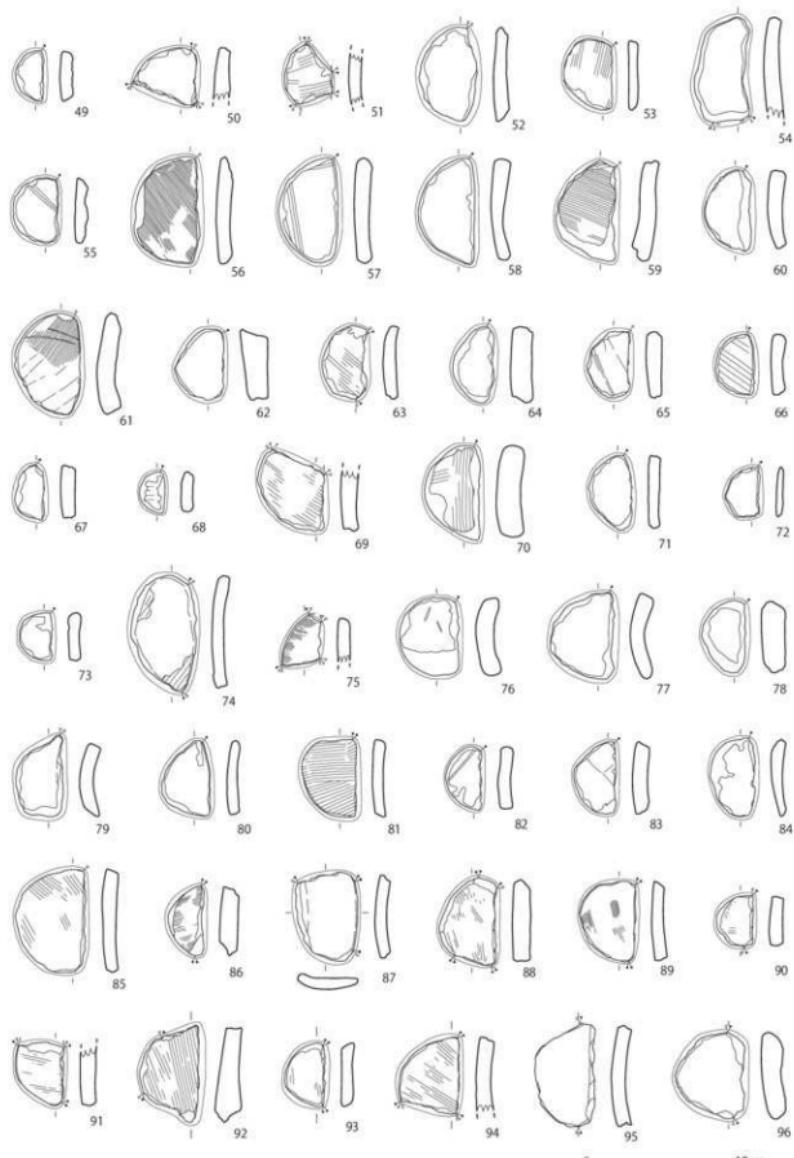
第16表 土器片加工品表示例

紡錘車（第82図）

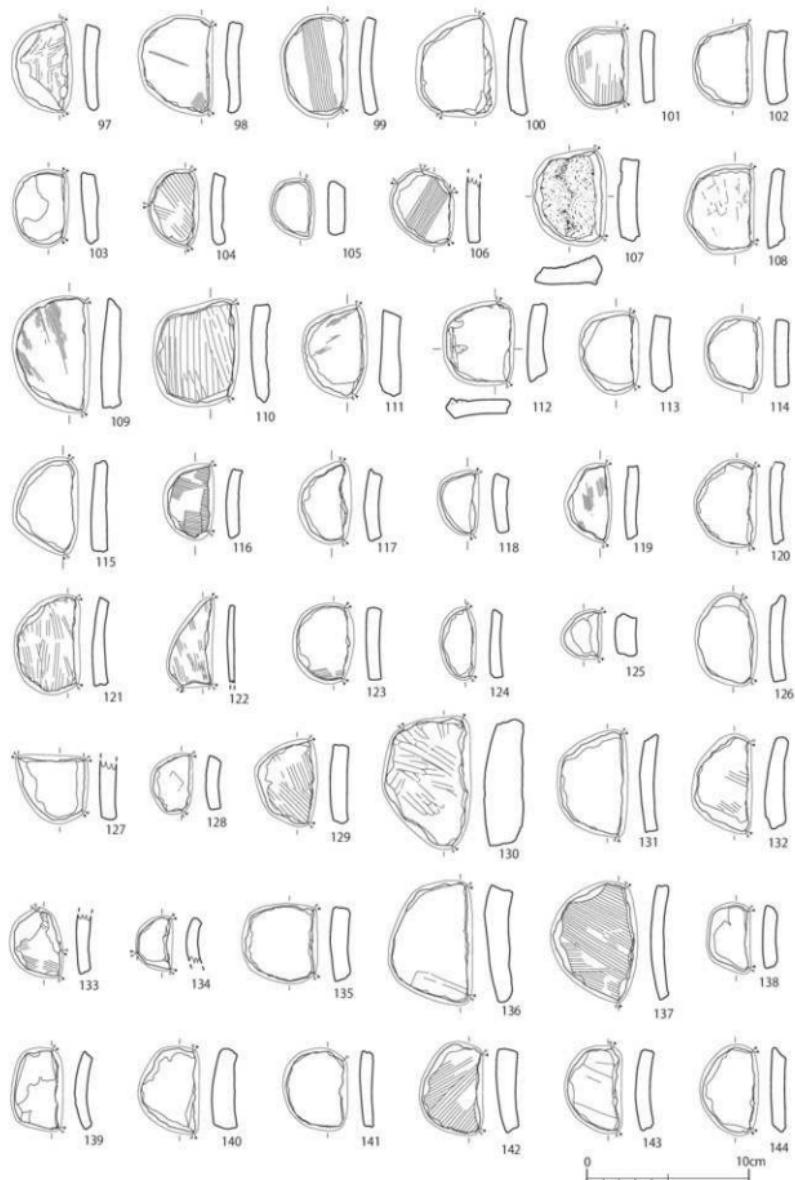
円盤状の中心に孔がある形状から紡錘車と推定される出土遺物4点のうち2点は石製で、残り2点が土器片の加工による転用とみられる。共に周縁の研磨が顕著で、189は破片の形状から径6cmほどと推定される。190は径約7cmの円形で、7mmほどの穿孔がある。花弁形の27号・42号竪穴遺構からそれぞれ出土している。



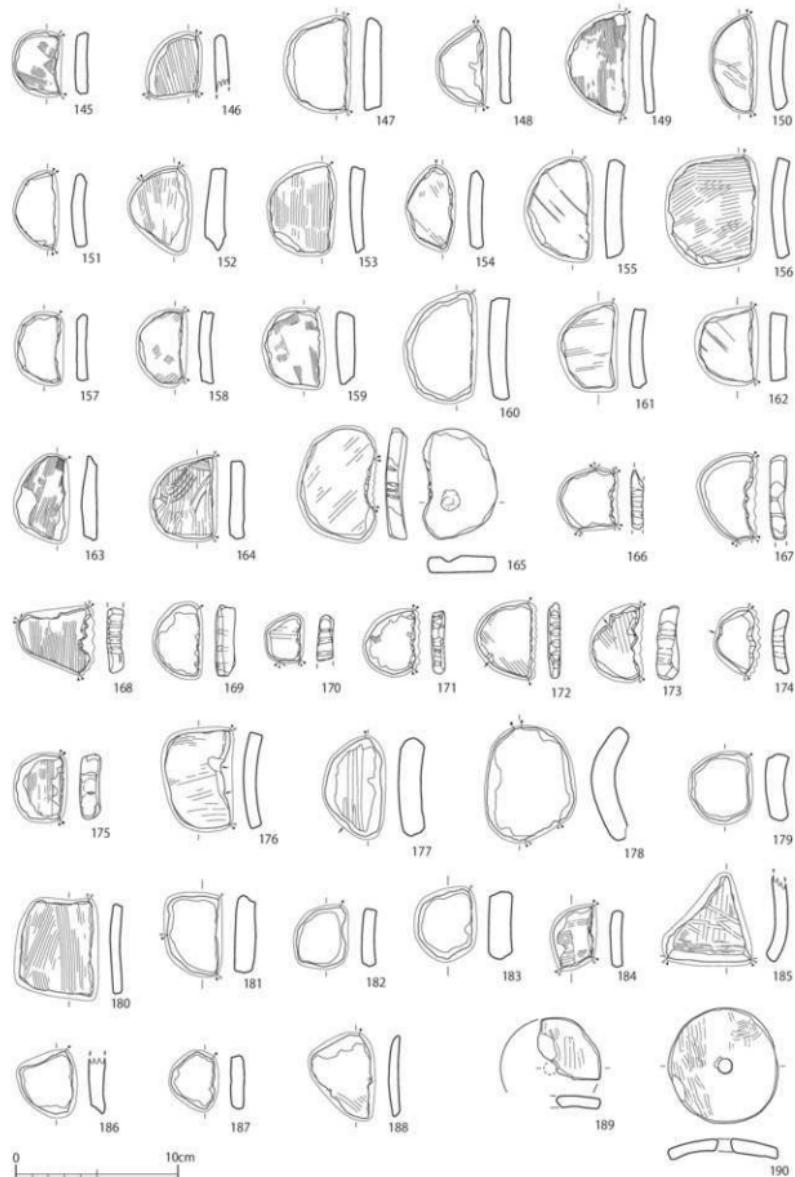
第79図 土製品実測図①



第80図 土製品実測図②



第81図 土製品実測図③



第82図 土製品実測図4)

図	No.	出土遺構	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	型式	備考	図	No.	出土遺構	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	型式	備考
79	1	1号竪穴	6.5	3.5	0.6	A類I	便口縁部	80	62	34号竪穴	4.4	3.1	1.7	A類II	底部近く
79	2	1号竪穴	7.1	4.9	0.7	A類I	外側スス付着	80	63	34号竪穴	4.5	2.8	0.8	A類II	
79	3	1号竪穴	5.2	3.6	0.9	A類I		80	64	34号竪穴	4.8	2.6	1.3	A類II	
79	4	1号竪穴	3.7	2.4	0.8	A類I		80	65	34号竪穴	4.1	2.6	1.0	A類II	
79	5	1号竪穴	(3.6)	4.1	0.9	A類I	欠損	80	66	34号竪穴	3.8	2.4	0.8	A類II	
79	6	1号竪穴	(4.1)	4.1	0.9	A類I	内側スス付着 欠損	80	67	34号竪穴	3.4	1.8	0.9	A類II	内・外側スス付着
79	7	2号竪穴	4.0	2.8	0.9	A類I	外側スス付着	80	68	34号竪穴	2.6	1.6	0.7	A類II	
79	8	2号竪穴	3.1	1.6	0.6	A類I		80	69	34号竪穴	(5.0)	4.1	1.0	A類II	欠損
79	9	2号竪穴	6.4	4.3	0.9	A類I		80	70	35号竪穴	5.9	3.4	1.6	A類II	スス付着
79	10	2号竪穴	7.0	4.9	0.9	A類I		80	71	35号竪穴	4.6	2.7	0.7	A類II	内側スス付着
79	11	4号竪穴	4.1	2.3	1.2	A類I		80	72	35号竪穴	3.1	2.1	0.4	A類II	
79	12	6号竪穴	(2.9)	3.4	0.9	A類I	欠損	80	73	35号竪穴	3.0	2.0	0.8	A類II	
79	13	7号竪穴	3.5	2.8	0.9	A類II	内側スス付着 壁口縁部	80	74	35号竪穴	7.1	4.0	0.8	A類II	外側スス
79	14	7号竪穴	4.4	2.9	0.8	A類I	縁部	80	75	35号竪穴	3.2	2.4	0.8	A類II	欠損
79	15	7号竪穴	5.9	5.0	0.8	A類I	内側スス付着	80	76	36号竪穴	4.8	3.7	1.1	A類II	複合口縁部口縁部
79	16	7号竪穴	5.7	3.8	0.9	A類I	外側スス付着	80	77	36号竪穴	5.4	3.9	1.0	A類II	
79	17	7号竪穴	5.3	3.8	1.2	A類I	外側スス付着	80	78	40号竪穴	4.5	2.7	1.5	A類II	
79	18	7号竪穴	5.5	3.5	1.1	A類I		80	79	41号竪穴	5.0	2.9	0.8	A類II	直脚部
79	19	7号竪穴	4.9	3.0	0.9	A類I	外側スス付着	80	80	41号竪穴	4.7	3.0	0.7	A類II	内側スス付着
79	20	7号竪穴	4.9	3.2	1.1	A類I		80	81	柱穴	4.7	3.4	0.7	A類II	スス付着
79	21	7号竪穴	5.0	3.4	1.3	A類I		80	82	表保	3.9	2.2	0.8	A類II	粗製裏頭部
79	22	7号竪穴	4.6	3.4	0.9	A類I	外側スス付着	80	83	表保	4.5	2.6	0.9	A類II	
79	23	7号竪穴	4.5	3.1	0.8	A類I		80	84	表保	4.9	2.8	0.8	A類II	外側スス付着
79	24	7号竪穴	4.4	2.8	1.2	A類I	外側スス付着	80	85	1号竪穴	6.4	4.3	0.9	A類II	
79	25	7号竪穴	4.3	3.1	1.0	A類I	外側スス付着	80	86	1号竪穴	4.3	2.2	1.1	A類II	
79	26	7号竪穴	3.7	2.9	1.2	A類I	外側スス付着	80	87	1号竪穴	5.5	3.9	0.8	A類II	壁口縁部
79	27	7号竪穴	4.0	2.7	0.7	A類I		80	88	1号竪穴	5.4	3.5	1.1	A類II	
79	28	9号竪穴	6.4	3.6	1.3	A類I	外側底面・スス付着	80	89	2号竪穴	5.0	3.4	0.8	A類II	外側スス付着
79	29	9号竪穴	5.6	4.0	0.8	A類I		80	90	2号竪穴	3.1	2.2	0.8	A類II	
79	30	9号竪穴	5.1	3.6	1.3	A類I	外側スス付着	80	91	2号竪穴	(3.8)	3.0	1.0	A類II	欠損
79	31	9号竪穴	4.6	3.4	0.8	A類I		80	92	4号竪穴	5.9	3.7	1.6	A類II	底部近く
79	32	9号竪穴	4.1	2.9	0.9	A類I	複列・外側スス付着	80	93	4号竪穴	3.9	2.5	0.8	A類II	
79	33	9号竪穴	(3.9)	3.4	0.9	A類I	欠損	80	94	4号竪穴	(4.7)	(3.7)	1.1	A類II	外側スス付着・欠損
79	34	9号竪穴	4.1	3.8	1.0	A類I	欠損	80	95	6号竪穴	6.4	3.7	0.9	A類II	内・外側スス付着
79	35	10号竪穴	4.2	2.6	1.0	A類I	外側スス付着	80	96	6号竪穴	5.3	4.3	1.3	A類II	
79	36	12号竪穴	4.4	2.4	0.9	A類I	外側スス付着	80	97	6号竪穴	5.3	3.2	0.9	A類II	
79	37	13号竪穴	6.1	3.8	0.7	A類I	外側スス付着	80	98	7号竪穴	5.9	4.2	0.8	A類II	複列
79	38	13号竪穴	6.4	3.9	1.1	A類I		80	99	7号竪穴	6.0	3.6	0.8	A類II	外側スス付着
79	39	13号竪穴	2.8	1.7	0.8	A類I		80	100	7号竪穴	6.0	4.4	1.0	A類II	
79	40	15号竪穴	4.2	2.6	0.9	A類I		80	101	7号竪穴	4.7	3.4	0.8	A類II	外側スス付着
79	41	16号竪穴	6.4	4.3	1.0	A類I	直脚部	80	102	7号竪穴	4.9	3.5	1.2	A類II	外側スス付着
79	42	16号竪穴	5.4	2.8	0.7	A類I		80	103	7号竪穴	4.4	3.8	1.0	A類II	外側スス付着
79	43	16号竪穴	5.2	3.6	1.2	A類I		80	104	7号竪穴	4.4	2.7	0.8	A類II	外側スス付着
79	44	16号竪穴	4.9	2.7	0.8	A類I	内・外側スス付着	80	105	7号竪穴	3.4	2.4	1.1	A類II	
79	45	16号竪穴	3.6	2.8	1.1	A類I		80	106	7号竪穴	4.6	3.6	0.8	A類II	外側スス付着 欠損
79	46	21号竪穴	5.3	3.2	1.0	A類I		80	107	9号竪穴	5.5	4.1	1.1	A類II	複合口縁部・2脚部
79	47	21号竪穴	5.0	2.4	0.8	A類I		80	108	9号竪穴	5.0	3.9	1.1	A類II	
79	48	21号竪穴	5.0	3.0	1.3	A類I		80	109	9号竪穴	6.8	4.3	1.2	A類II	内側スス付着
80	49	21号竪穴	3.2	1.8	0.8	A類I		80	110	9号竪穴	6.2	4.8	1.0	A類II	
80	50	21号竪穴	(3.9)	3.9	1.0	A類I	内・外側スス付着 欠損	80	111	9号竪穴	5.4	3.6	1.3	A類II	外側スス付着
80	51	21号竪穴	(3.7)	3.0	0.8	A類I	欠損	80	112	9号竪穴	4.8	4.0	1.2	A類II	直脚部突起・船形浮亭
80	52	23号竪穴	5.8	3.6	0.9	A類I		80	113	9号竪穴	4.7	3.2	1.2	A類II	外側スス付着
80	53	24号竪穴	4.4	3.0	0.6	A類I		80	114	9号竪穴	4.3	3.2	0.9	A類II	外側スス付着
80	54	24号竪穴	6.5	3.4	1.0	A類I	欠損	80	115	10号竪穴	5.6	3.6	1.0	A類II	外側スス付着
80	55	26号竪穴	4.1	2.8	0.8	A類I	外側スス付着	80	116	10号竪穴	4.8	2.6	0.8	A類II	
80	56	29号竪穴	6.6	4.1	0.9	A類I		80	117	10号竪穴	4.7	2.8	0.9	A類II	
80	57	29号竪穴	6.5	3.7	1.0	A類I		80	118	10号竪穴	3.7	2.2	0.9	A類II	
80	58	33号竪穴	6.6	3.5	1.0	A類I		80	119	10号竪穴	4.6	2.5	0.7	A類II	
80	59	34号竪穴	6.2	3.7	1.2	A類I		80	120	12号竪穴	5.1	3.5	0.8	A類II	内側赤色剥離付着
80	60	34号竪穴	5.0	2.9	1.0	A類I	粗製裏頭部	80	121	13号竪穴	5.8	3.6	0.9	A類II	外側スス付着
80	61	34号竪穴	6.3	4.0	1.1	A類I	底面近く	80	122	13号竪穴	(5.8)	2.6	0.4	A類II	欠損

第17表 土製品観察表①

回	No.	出土遺構	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	型番	備考	回	No.	出土遺構	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	型番	備考
81	123	16号竪穴	4.5	3.3	0.8	A802	外周ス付蓋	82	157	27号竪穴	4.2	2.7	0.6	A803	外周ス付蓋
81	124	16号竪穴	4.2	1.9	0.7	A802		82	158	28号竪穴	4.5	2.7	0.7	A803	
81	125	16号竪穴	2.7	2.1	1.3	A802		82	159	29号竪穴	4.7	3.4	1.1	A803	
81	126	16号竪穴	5.4	3.4	0.8	A802		82	160	30号竪穴	6.6	4.1	1.1	A803	
81	127	16号竪穴	3.8	4.1	1.0	A802	欠損	82	161	9号竪穴	5.1	3.3	0.9	A803	
81	128	17号竪穴	5.5	2.2	0.8	A802		82	162	9号竪穴	4.4	3.4	1.0	A803	外周ス付蓋
81	129	20号竪穴	5.1	3.4	1.1	A802		82	163	13号竪穴	5.2	3.0	1.0	A803	
81	130	21号竪穴	7.8	5.1	2.4	A802	逆張込く	82	164	36号竪穴	5.1	3.7	0.9	A803	
81	131	21号竪穴	6.4	3.8	0.9	A802	外周ス付蓋	82	165	11号竪穴	6.9	4.6	1.0	B801	穿孔壁?
81	132	21号竪穴	5.8	3.3	1.2	A802	外周ス付蓋	82	166	24号竪穴	(3.7)	3.4	0.8	B801	欠損
81	133	21号竪穴	(4.0)	2.8	0.8	A802	欠損	82	167	29号竪穴	(5.2)	3.1	1.0	B801	欠損
81	134	21号竪穴	(3.7)	2.0	0.7	A802	欠損	82	168	31号竪穴	(4.0)	4.4	0.9	B801	外周ス付蓋 欠損
81	135	24号竪穴	4.7	4.2	1.1	A802	外周ス付蓋	82	169	34号竪穴	4.4	2.7	1.2	B801	
81	136	29号竪穴	7.4	4.7	1.5	A802	逆張込く	82	170	34号竪穴	(2.8)	2.1	1.0	B801	欠損
81	137	29号竪穴	7.2	5.0	0.8	A802	外周ス付蓋	82	171	直保	3.9	3.1	0.8	B801	
81	138	30号竪穴	4.0	2.4	0.8	A802	内周凹縫	82	172	24号竪穴	4.6	3.4	0.8	B802	
81	139	31号竪穴	4.8	2.7	0.7	A802		82	173	24号竪穴	4.5	2.9	1.4	B802	内・外周ス付蓋
81	140	34号竪穴	5.2	3.4	1.4	A802	逆張込く	82	174	40号竪穴	3.9	2.5	0.8	B802	
81	141	34号竪穴	4.7	3.6	0.8	A802		82	175	7号竪穴	4.0	2.9	1.2	B803	外周ス付蓋
81	142	35号竪穴	5.5	3.6	1.3	A802		82	176	29号竪穴	6.0	4.0	0.8	B803	細部
81	143	35号竪穴	5.0	3.2	0.9	A802		82	177	35号竪穴	6.1	3.5	1.4	B803	粗製削頭部 外周ス付蓋
81	144	35号竪穴	5.2	3.2	0.9	A802	外周ス付蓋	82	178	1号竪穴	7.0	5.3	1.4	C801	粗製削口削形 内・外周ス付蓋
82	145	38号竪穴	3.8	2.8	0.8	A802	内周ス付蓋	82	179	7号竪穴	4.2	3.6	1.2	C801	
82	146	38号竪穴	3.8	3.0	0.8	A802	欠損	82	180	1号竪穴	5.9	4.6	0.5	C801	
82	147	40号竪穴	5.7	3.7	1.1	A802	内・外周ス付蓋	82	181	49号竪穴	4.8	3.1	1.3	D801	
82	148	40号竪穴	4.7	2.7	0.6	A802		82	182	7号竪穴	3.7	3.0	0.8	D801	
82	149	柱穴	6.1	3.6	0.7	A802		82	183	9号竪穴	4.3	3.3	1.5	D801	外周ス付蓋
82	150	直保	5.8	2.6	0.8	A802		82	184	9号竪穴	3.8	2.5	0.7	D801	外周ス付蓋 欠損?
82	151	直保	4.7	2.4	0.8	A802	外周ス付蓋	82	185	17号竪穴	5.2	5.2	0.8	D801	外周ス付蓋 剥離部 欠損
82	152	1号竪穴	3.2	3.6	1.3	A801		82	186	21号竪穴	(3.8)	3.3	1.0	D801	剥離部
82	153	1号竪穴	5.3	3.9	0.8	A803	外周ス付蓋	82	187	40号竪穴	3.5	2.7	0.8	D801	外周ス付蓋
82	154	1号竪穴	5.0	2.8	0.8	A803		82	188	直保	5.2	3.7	0.6	D801	
82	155	7号竪穴	6.2	3.8	1.1	A801		82	189	27号竪穴	(3.8)	3.9	0.7	D801	剥離部 欠損
82	156	7号竪穴	6.7	5.3	0.8	A801		82	190	42号竪穴	7.1	6.8	0.8	D801	剥離部 外周ス付蓋

第18表 土製品観察表②

	土器片加工品						統計値
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	
1号竪穴	6	4	3	1		1	15
2号竪穴	4	3					7
3号竪穴							6
4号竪穴	1	3					3
5号竪穴							0
6号竪穴	1	3					4
7号竪穴	25	9	5	1	1	1	32
8号竪穴		1					1
9号竪穴	7	7	3		2	19	
10号竪穴	1	5					6
11号竪穴							0
12号竪穴	3	1					2
13号竪穴	3	2	1				6
14号竪穴							0
15号竪穴	1						1
16号竪穴	5	5					10
17号竪穴	1			1	2		
18号竪穴							0
19号竪穴							0
20号竪穴	1						1
21号竪穴	8	5			1	12	
22号竪穴							0
23号竪穴	1					1	

	土器片加工品						統計値
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	
24号竪穴	2	1		1	2		6
25号竪穴							0
26号竪穴	1						1
27号竪穴							0
28号竪穴							0
29号竪穴	2	2		1	1		6
30号竪穴							1
31号竪穴		1		1			2
32号竪穴							0
33号竪穴	1						1
34号竪穴	11	2		2			15
35号竪穴	6	3				1	10
36号竪穴	2		1				3
37号竪穴							0
38号竪穴		2					2
39号竪穴							0
40号竪穴	1	2			1	1	5
41号竪穴	2						1
42号竪穴							0
43号竪穴							1
柱穴	1	1					2
直保	3	2					1
直保							7
合計	84	66	14	7	3	2	198

第19表 竪穴別出土土製品一覧表

(3) 石器・石製品

ほぼすべての豊穴遺構より何らかの礫が出土しており、その数量は膨大で大半は自然の礫と区別がつかないことから加工痕や使用痕などの有無をもとに判断した。打製・磨製石器として石鏃・石斧・石鑿など、礫石器として磨石・敲石・石皿・台石・砥石のほか、紡錘車・石棒・玉類のような石製品もあり、種類も數も豊富である。そのうち石棒や打製石斧、打製石鏃、及び一部の玉類など縄文時代の遺物と考えられるものもある。

特に河原石を転用したとみられる磨石や石皿などの礫石器は、大野川に近い立地環境のためか豊富に出土している。掲載したものだけでも247点に上るが、使用痕が不明瞭で自然磨滅した礫との区別が判断できないものや破損により元の種類も明確ではないものも多く、実際の出土量は膨大である。特にススや被熱痕のある礫が多く、炉に関連する台石などの用途が示唆されるものも多いが、本書では研磨や敲打など使用痕が顕著に認められるものを中心に選別している。石材も大野川の河川敷とほぼ一致するものであるが、特に凝灰角礫岩や安山岩等の硬質石材を多用していた傾向がうかがえる。

打製石鏃（第83図）

16点の出土があり、石材は姫島産黒曜石やチャート・サヌカイトなどで、磨製石鏃とは異なっている。多くが豊穴遺構や柱穴等の遺構からの出土であるが、混入した縄文時代の石鏃と思われるものである。1~6が正三角形に近い形状で基部が凹型のもの、7~12がやや長い二等辺三角形で凹基、13・14が平基のものである。15・16は五角形状の形態で平基であり、磨製石鏃と形態的に近く、弥生時代の可能性がある。

磨製石鏃（第84~86図）

各豊穴遺構の覆土中より計161点もの出土があるが、欠損が特に著しいものを除く155点を掲載した。37・38・40・41号豊穴より特に多く出土しており、約4割に欠損がみられ、使用による消耗等により廃棄されたと思われる。石材の多くは粘板岩で、他に緑色片岩がある。形態上の特徴から、過去の調査例に倣って分類を行うことができる。（第20表左）

A類は最大幅が基部付近にある三角形に近い形態で、さらに細分して正三角形に近いものはAa、やや長い二等辺三角形のものはAb、刃部中央に稜をもつ五角形状のものはAcとした。B類は最大幅が中央付近で、長短比2:1前後の木葉形、C類はさらに長い長短比3:1前後の柳葉形の形態である。基部は凹基・平基・凸基の3タイプが認められ、凹基を1式、平基及び凸基は点数が少ないのであわせて2式という種類に分類した。

A類41点のうち1~4がAa-1類、5~7がAa-2類、8~19がAb-1類、20~27がAb-2類、28~38がAc-1類、39~41がAc-2類である。2は先端が磨滅したAb-1類の可能性もある。五角形状のAc類はA類とB類の中間的な形態とも考えられ、特に37・38など先端を鋭利に尖らせるものもある。

B類は43点で最も数が多く、42~75はB1類と考えられるもので、基部がやや幅広いものや狭く窄まるものなど様々である。76~83はB2類で、78・79は基部の一部を欠損し、80は先端を摩耗していると思われる。84は基部を欠損するB類の先端部と思われる。

C類は33点で、85~107はC1類で、86は先端を欠損するが現存長が最大規模になると思われ、中央に穿孔がある。108~111はC2類で、111は凸基というより両方先端として使用可能なほど鋭利な加工がある。112~117は基部を欠損するC類の先端部と思われる。

118~141は基部のみであるが、完形品と同様に圧倒的に凹基が多い。142~151は基部を欠損し、152~155は両端を欠損している。

石鏃未製品（第87~89図）

多くは磨製石鏃と同じ粘板岩が利用されており、石鏃として製作途中のいわゆる未製品とみられるものである。原石を核として荒削りした剥片を打調整や微調整して整形し、最後に研磨して完成という工程が考えられているが、それぞれの各段階のものとみられる石材や破片・細片が多く出土しており、製作途中の破損で廃棄されたと思われるものもある。特に32号・37号豊穴などは数も大量で、石鏃製作を行っていた可能性が示唆される。しかし荒削の剥片段階のすべてが石鏃未製品とは限らないため、ここでは石鏃の形状に近い打調整や微調整及び

研磨段階と判断されるもの131点を掲載している。

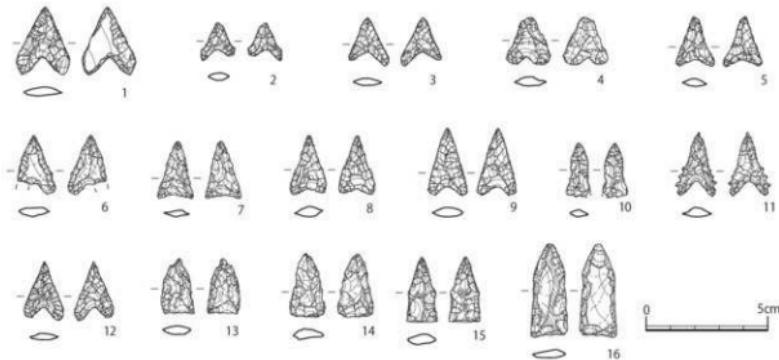
磨製石錐と同じく、A類は最大幅が基部付近の三角形に近い形態と思われるもので、B類は長短比1:2前後で最大幅が中央付近の木葉形、C類は長短比1:3前後の柳葉形の未製品とみられるものである。製作段階として微調整による整形途中と思われるものを1式、整形済みで研磨前と思われるものを2式、研磨途中で完成前と思われるものを3式としている。(第20表右) 他にも、打調整段階で研磨痕がみられるなど、工程は様々であることが考えられる。

A類は51点で最も多く、1~9はA-1類、10~37はA-2類、38~51はA-3類と考えられる。51は五角形状の磨製石錐Ac-1類の未製品と思われる。B類は47点あり、52~74はB-1類、75~91はB-2類、92~98はB-3類と考えられる。C類は32点で、99~115はC-1類、116~126はC-2類、127~130はC-3類である。131は基部を欠損する3式の先端部である。

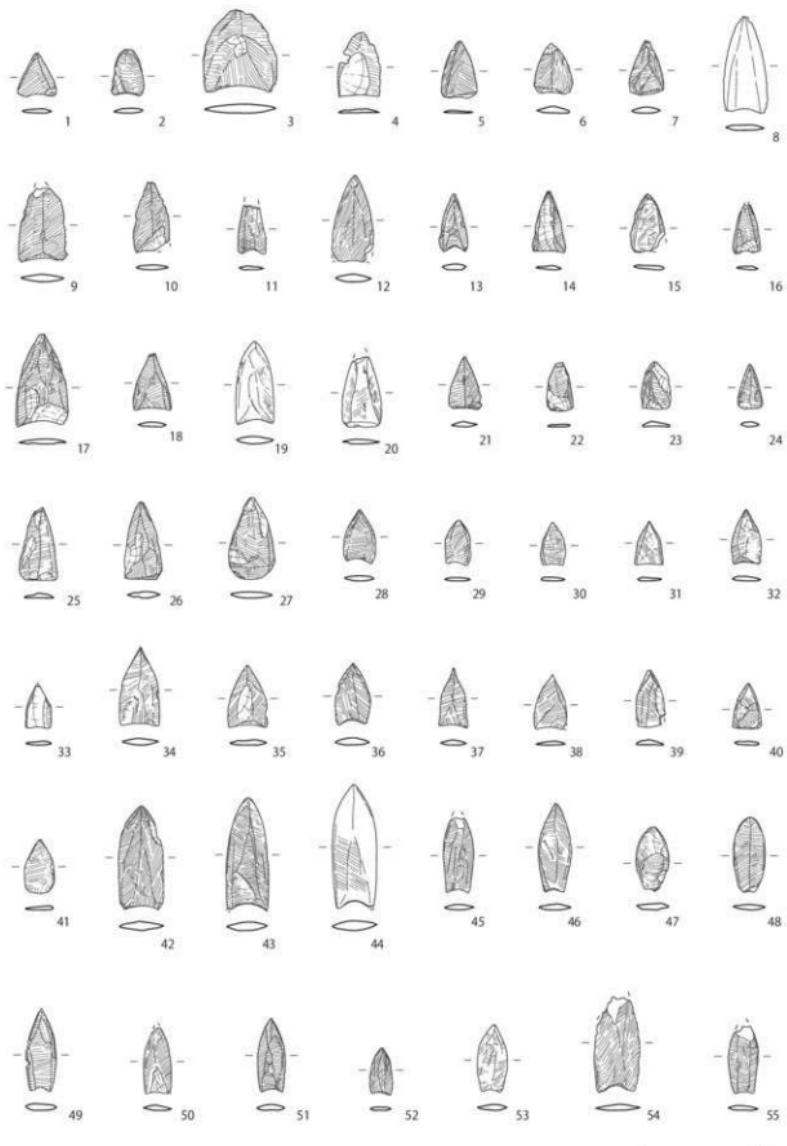
○磨製石錐		A 三角形			B 木葉形 長短比約2:1		C 柳葉形 長短比約3:1以上		不 明		計
形態	基部	a 三尖	b 二等辺三角	c 五角に近い							
1 固基											104
	Aa-1	4	Ab-1	12	Ac-1	11	B-1	34	C-1	23	20
2 平基・ 凸基											30
	Aa-2	3	Ab-2	8	Ac-2	3	B-2	8	C-2	4	1
不明		0	0	0	0	0	1	6	14	21	30
	計	7	20	14	43	39	39	39	39	39	131

○石錐未製品		A 三角形			B 木葉形 長短比約2:1		C 柳葉形 長短比約3:1以上		不 明		計
形態	工程	a 三尖	b 木葉形	c 柳葉形							
	1 打調整										49
	2 微調整										56
	3 研磨										26
	計										131
											131

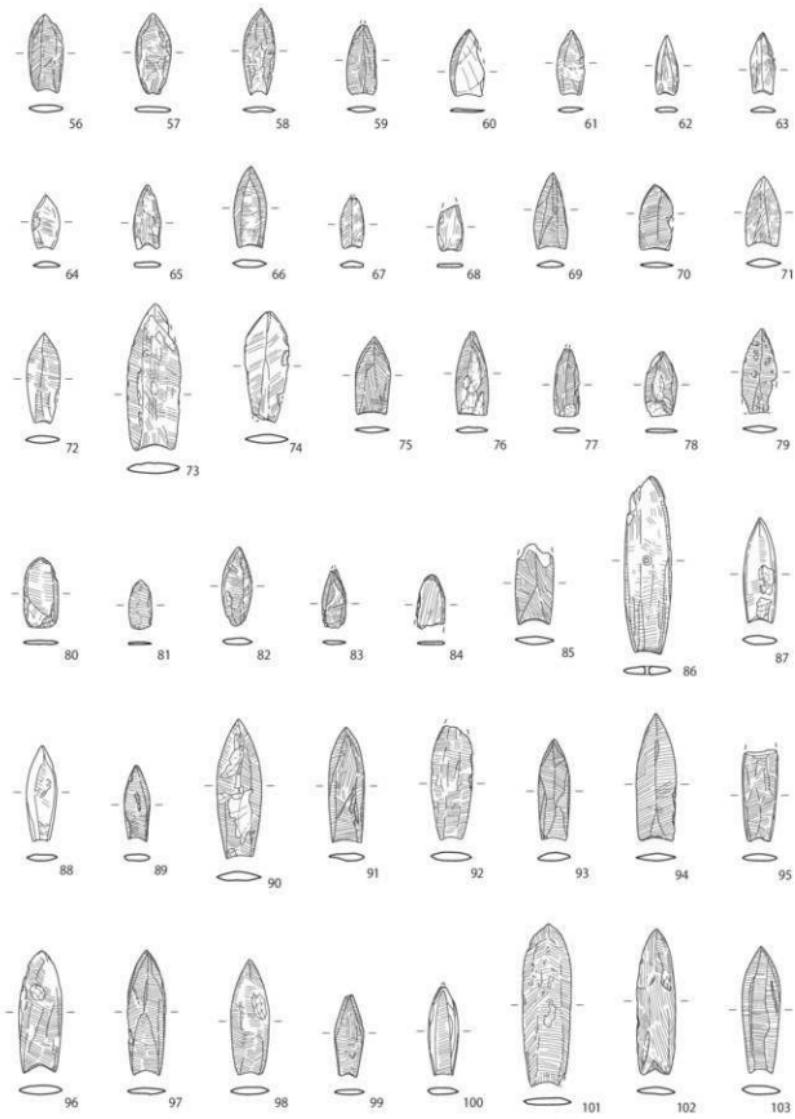
第20表 磨製石錐・石錐未製品分類表



第83図 打製石錐実測図

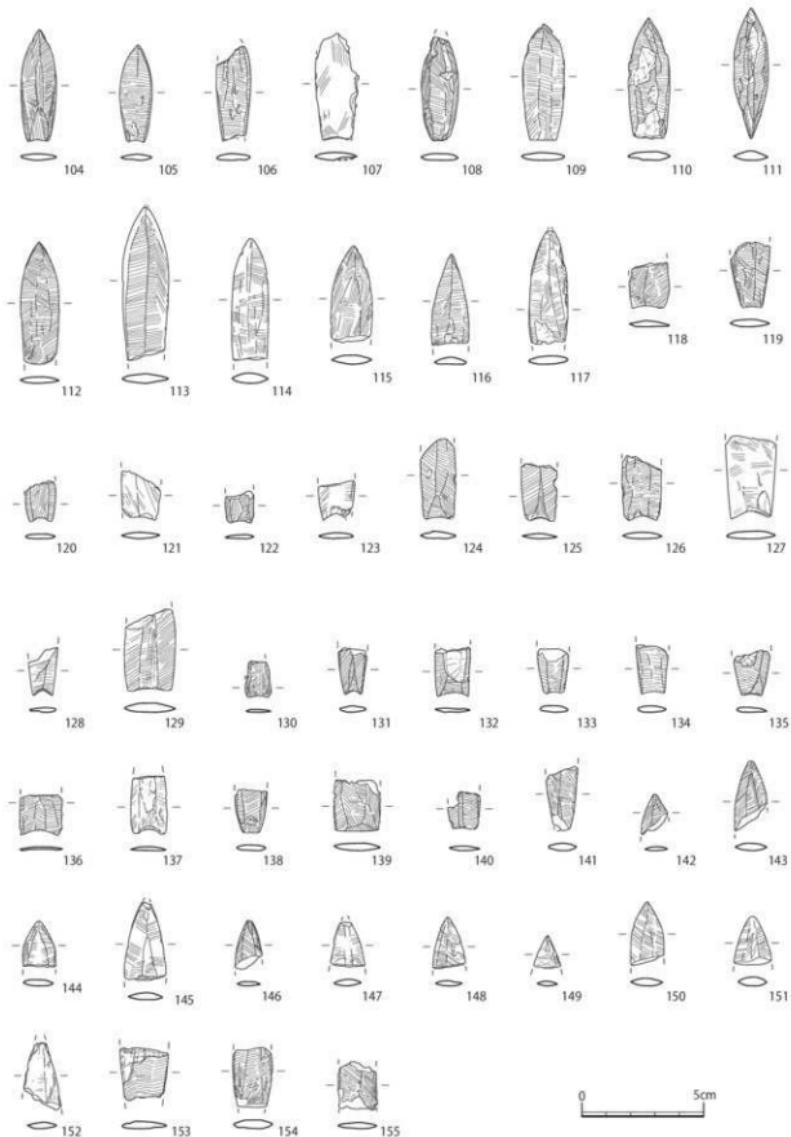


第84図 磨製石鎚実測図①

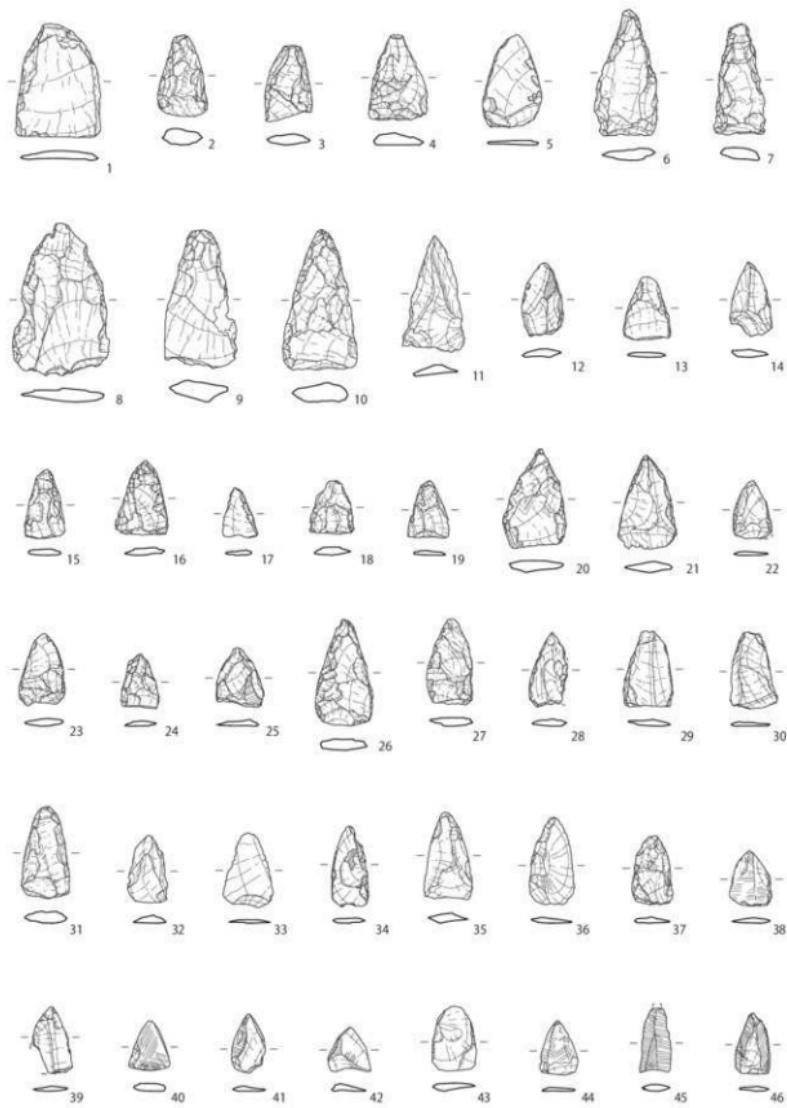


0 5cm

第85図 磨製石器実測図②

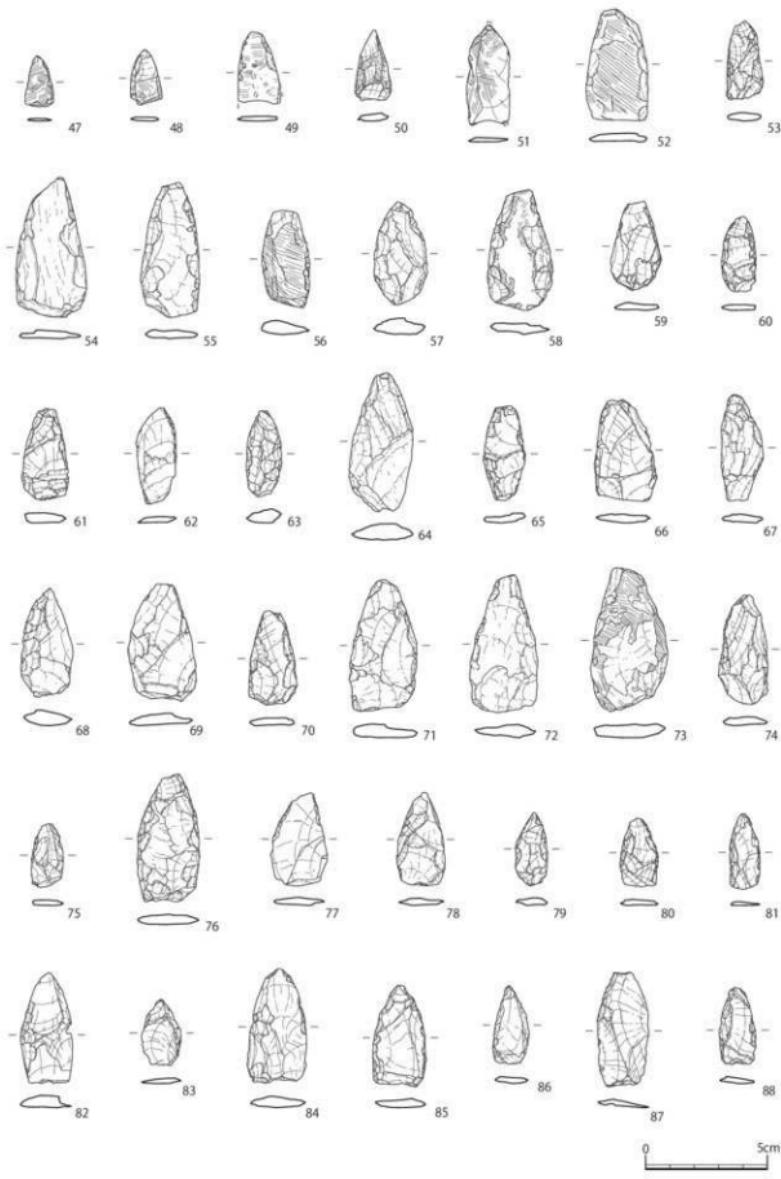


第86図 磨製石鎌実測図③

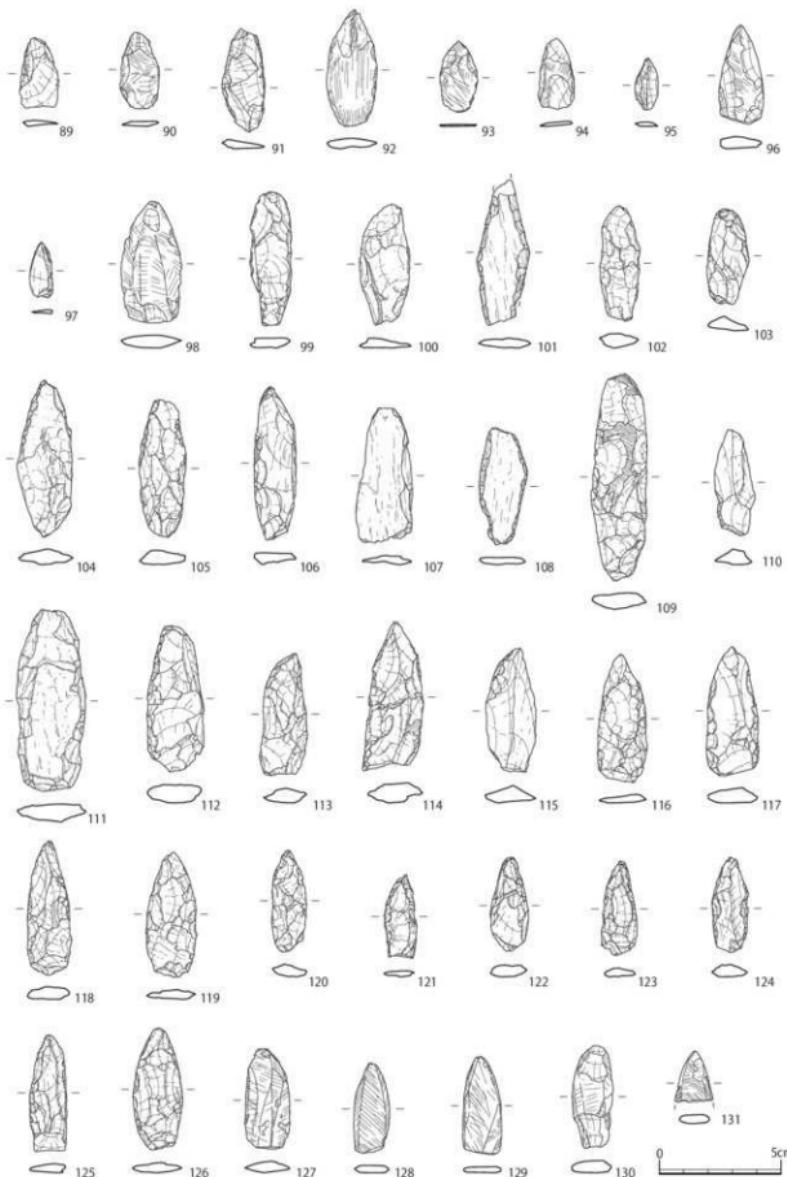


0 5cm

第87図 石器未製品実測図①



第88図 石器未製品実測図②



第89図 石器未製品実測図①

石皿・台石（第90～104図）

石皿または台石という名称で調理等に使用されたと考えられるもので、112点の出土がある。大型の川原石を利用したと考えられる砾石器で、扁平または台状の形態の一面または複数面に、研磨など使用痕が観察できる。中には削みが生じるほど摩耗した使用痕がみられるものもある。また、部分的にススの付着や変色など被熱痕のあるもの多く、火に接しての使用が示唆される。破碎しているものが多いのも被熱が理由の一つとも考えられる。出土状況として、竪穴遺構に遺棄されたような状況が多く、複数個体が壁近くにまとめて出土する例もいくつかある。

磨石・敲石（第105～112図）

多くの出土数があり、157点を確認したが著しく欠損するものを除き94点を掲載した。やや扁平な河原石を転用しており、表面あるいは表裏両面または片面に研磨痕があるもの、側辺に敲打痕のあるもの、または両方認められるものがある。大きさによっては台石と区別のつきにくいものもあるが、容易に持ち上げられる程度の小型のものを磨石・敲石とし、石皿・台石類と併用して研磨あるいは敲打により使用されたとみられる。ススの付着など被熱痕のあるものも多い。

砥石（第113～116図）

これも多くの出土数があり、著しく欠損するものを除く41点を掲載している。多くは砂岩や粘板岩の方柱状の礫に研磨痕があるもので、なかには光沢が生じるほど顕著なものもある。石鎚などの石製品のほか鉄器の研磨に使用されたと推定されるが、石材も大きさも様々で、台石と区別つかないほどの大型品もある。台石等と同じく被熱痕のあるもの多く、研磨痕が複数面にあるもの、敲打痕もあるものなど一部は研磨以外の用途にも利用されていたとみられる。7には研磨面の3面に穿孔が11ヵ所あり、大きさは径5mm深さ3mmのものから径1.5mm深さ1mmにも満たないものまで様々で、規則的に並ぶような配置で穿たれている。穿孔具の台などの可能性もあるが何の用途かは不明である。

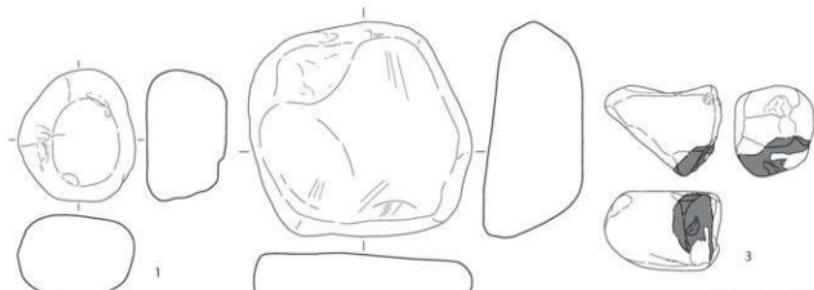
その他石器・石製品等（第117～118図）

1は蛇紋岩製の小型の石盤と思われる磨製石器で、刃部の一部が磨滅している。2・3は円盤状で中央に穿孔があり、紡錘車の破片と思われる。2は凝灰岩製で復元径は10cmほどの大型のもので、3は頁岩または泥岩製と思われる石材で、復元径2cmほどの小型である。

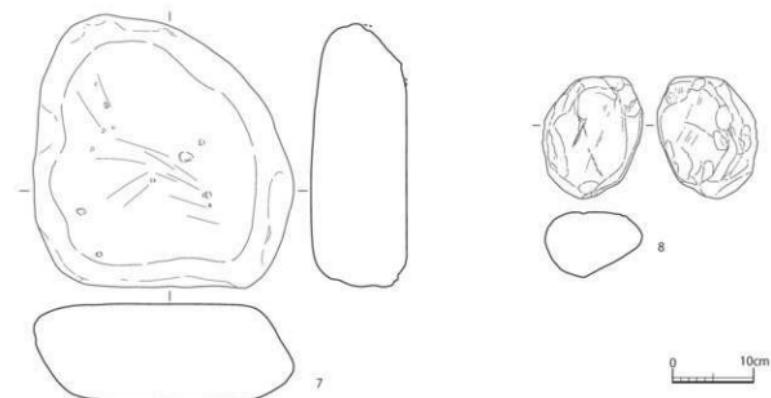
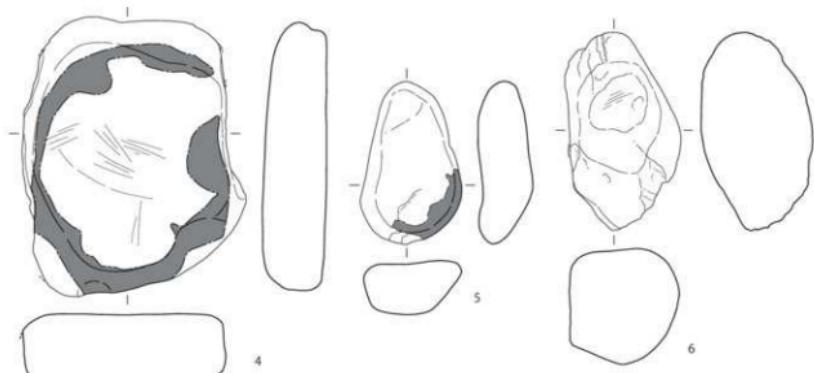
4は長さ10cmほどの結晶片岩製の石棒で、40号竪穴遺構の覆土より出土した。8の打製石斧や垂玉（第119図6）と同じく流れ込みにより堆積した縄文時代の遺物と思われる。

5は、打製石器の破片で石斧または石匙の一部と思われる。6は縁片部が研磨されており、磨製石斧の破片と思われる。7～9は打製石斧で7は凝灰角砾岩製、8は安山岩製で一部研磨がある。9は緑色片岩製でいずれも縄文時代のものと思われる。10は緑色片岩製の円板状に加工された円形石器である。これも縄文時代のものと思われる。

11・12は破損により一部のみの検出であるが、弧を描くような加工痕があり、本来は円形状であった可能性がある。円形石器または石斧の破片とも考えられるが共に大型で、特に11は最大8cmほどの厚みを測る。本来の形状と共に用途も不明である。



※アミはススの範囲



0 10cm

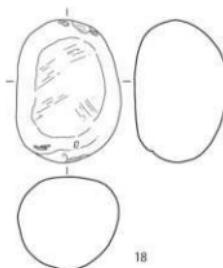
第90図 石皿・台石実測図①



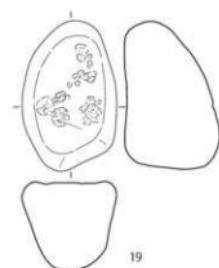
第91図 石皿・石実測図②



17



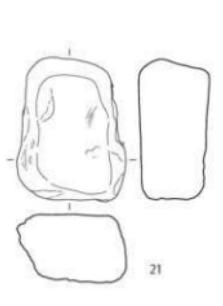
18



19



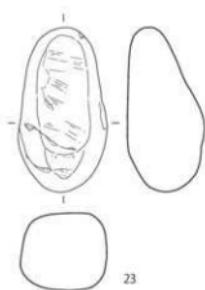
20



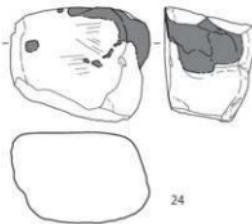
21



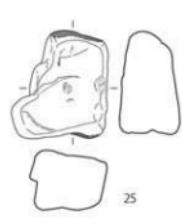
22



23



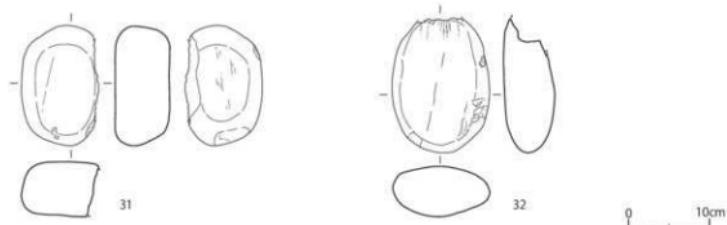
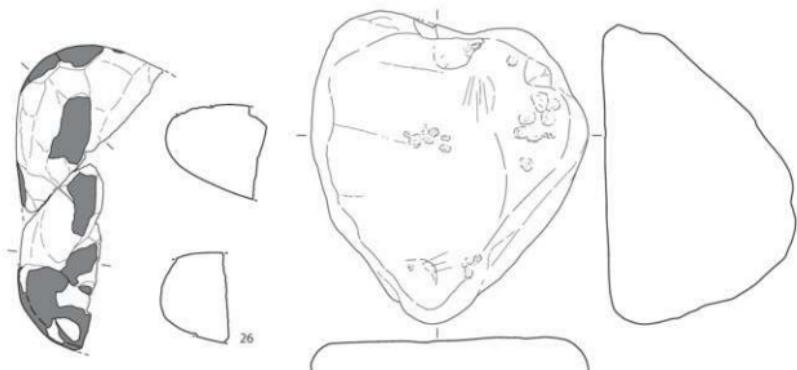
24



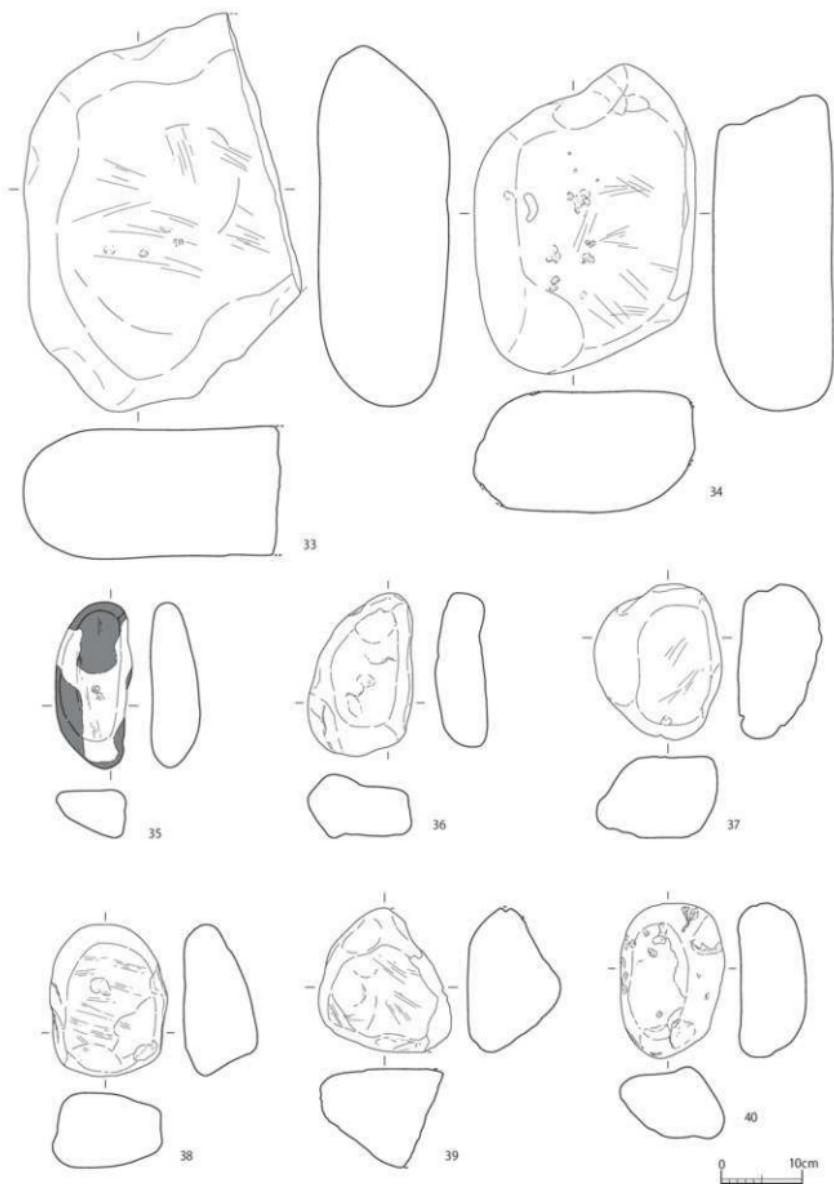
25



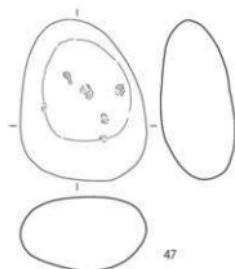
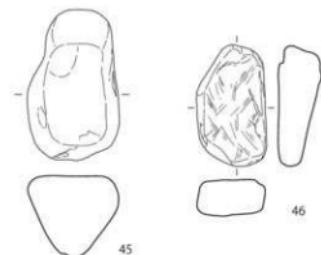
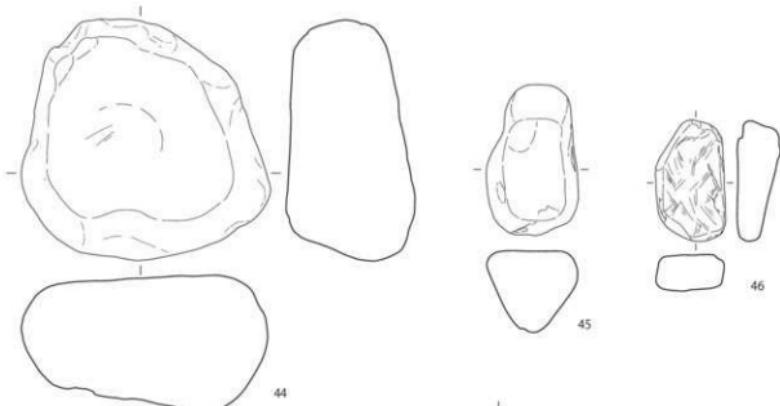
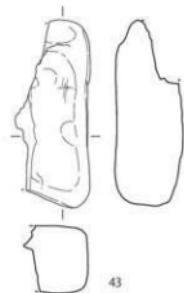
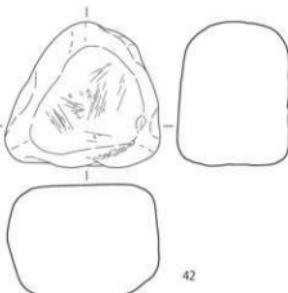
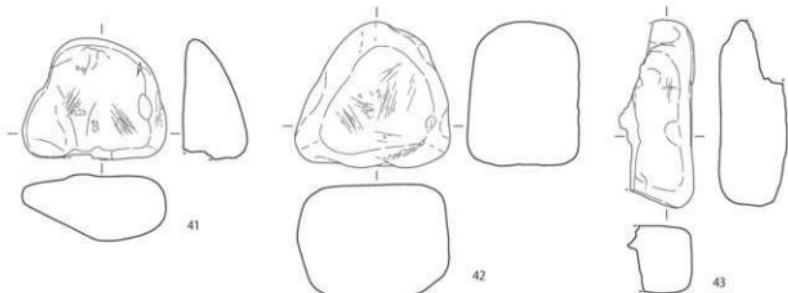
第92図 石皿・台石実測図①



第93圖 石皿・台石実測図④

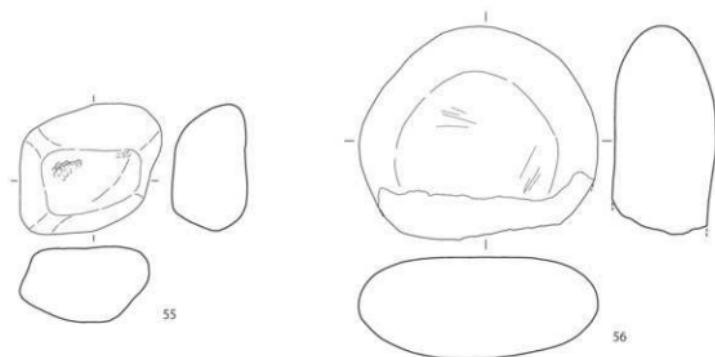
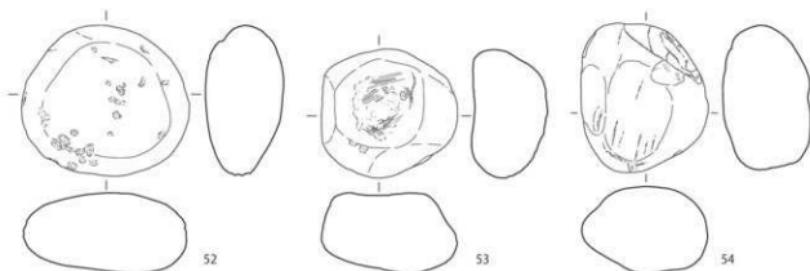
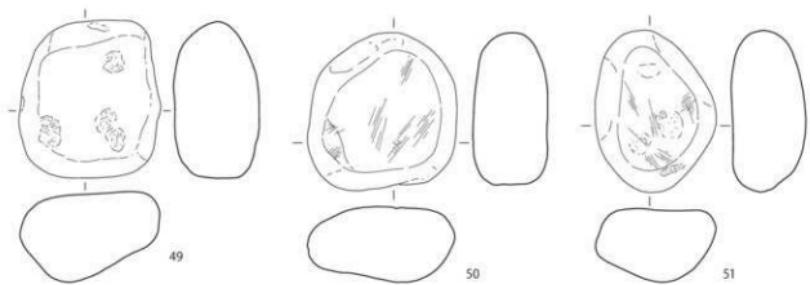


第94図 石皿・台石実測図⑤



0 10cm

第95図 石皿・台石実測図⑥

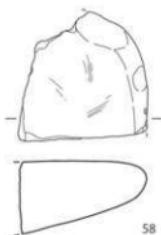


0 10cm

第96図 石皿・台石実測図⑦

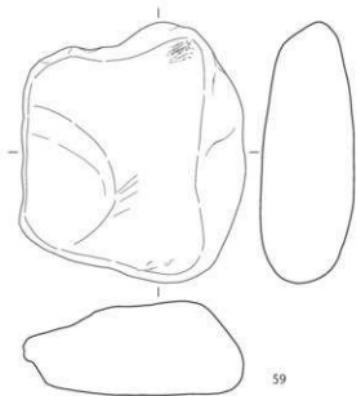


57

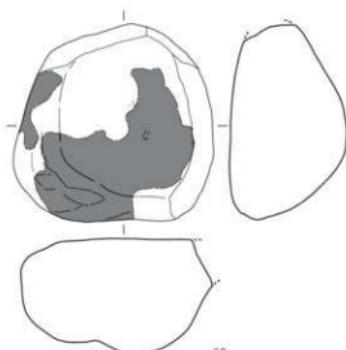


58

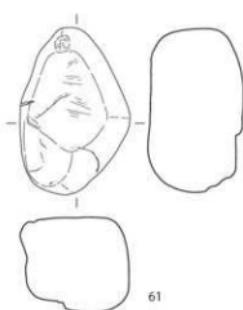
57・58は1/4
0 10cm



59



60



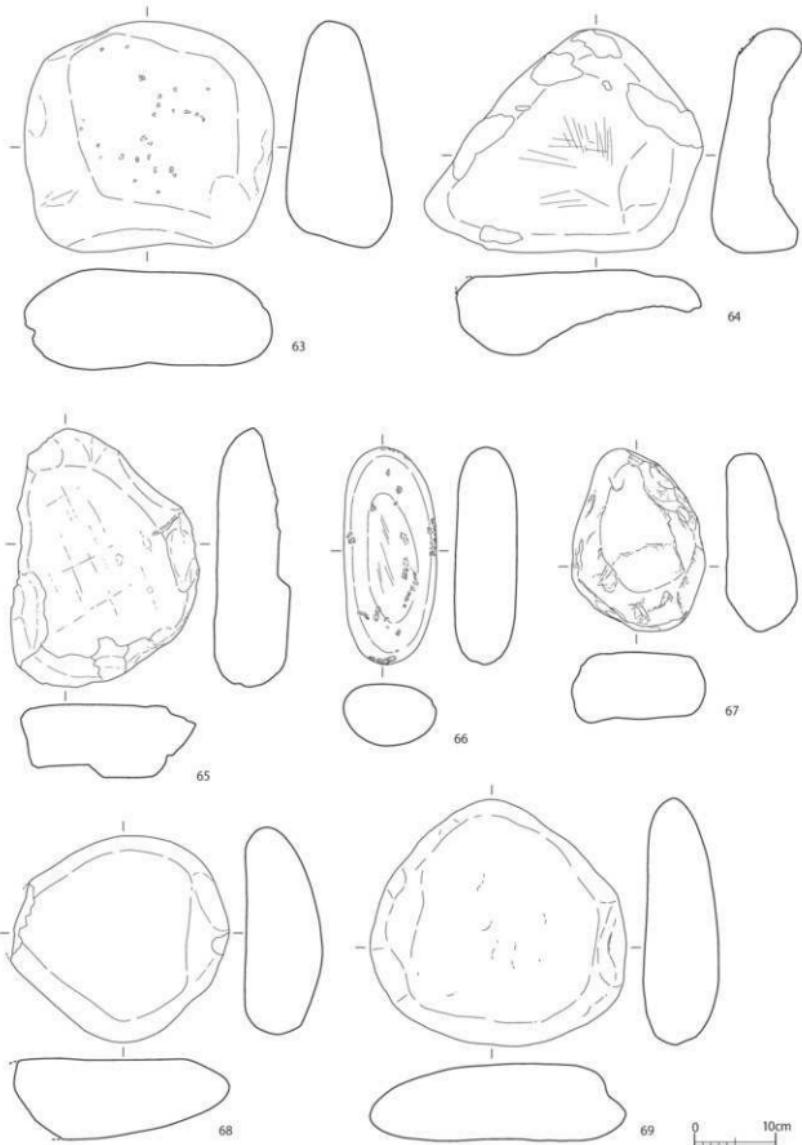
61



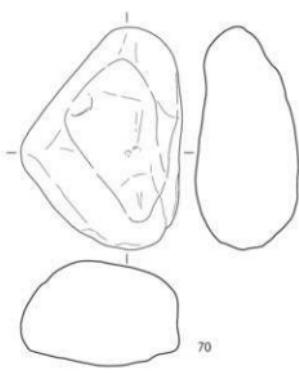
62

0 10cm

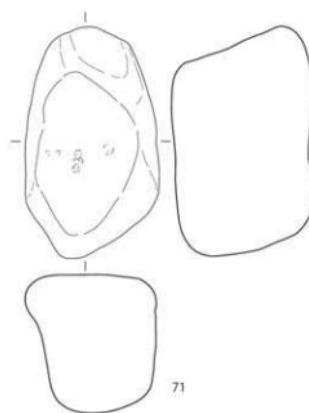
第97図 石皿・台石実測図④



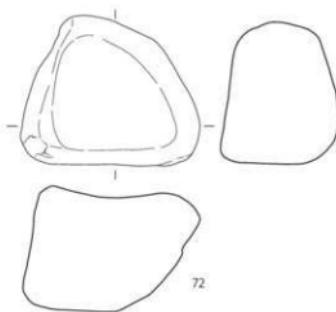
第98図 石皿・台石実測図⑨



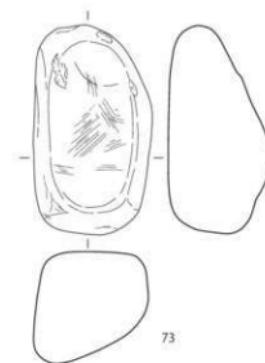
70



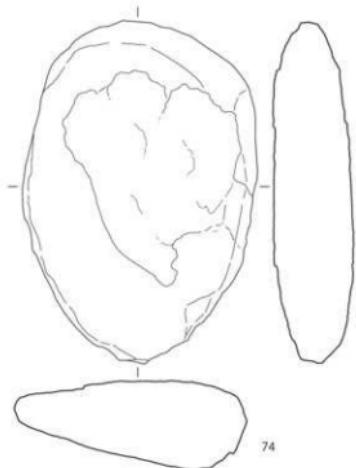
71



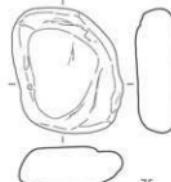
72



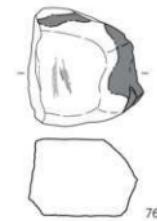
73



74



75



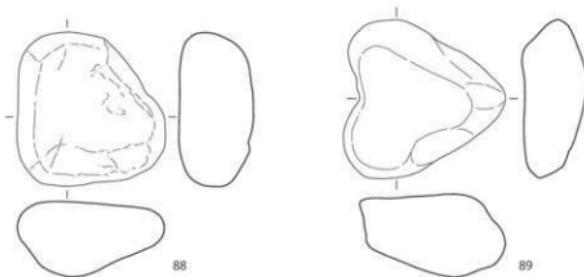
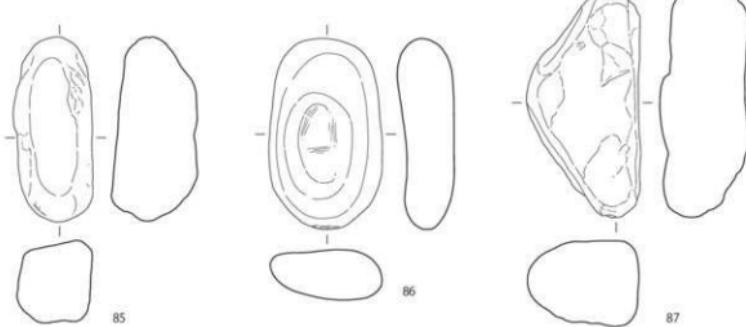
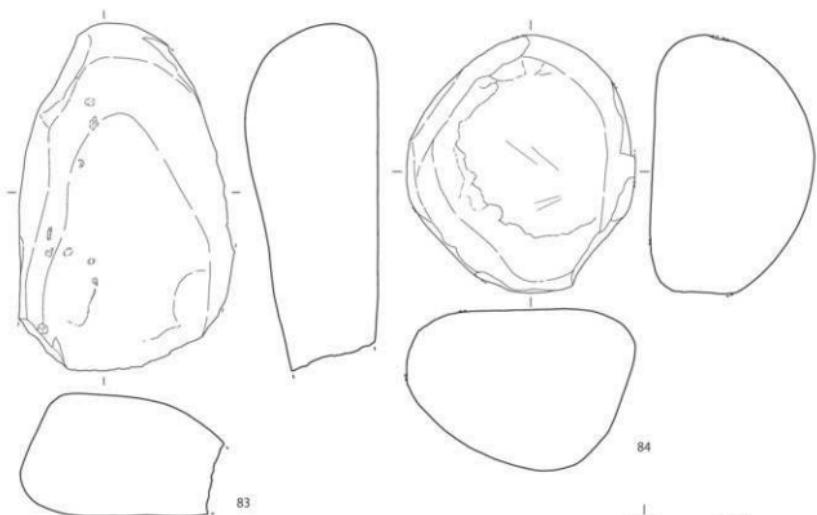
76

0 10cm

第99圖 石皿・台石実測図⑩



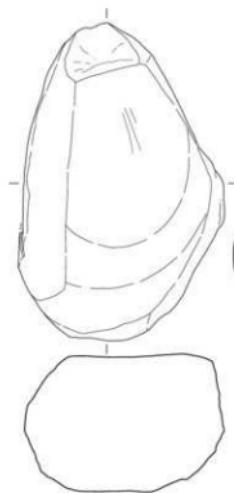
第100図 石皿・台石実測図⑪



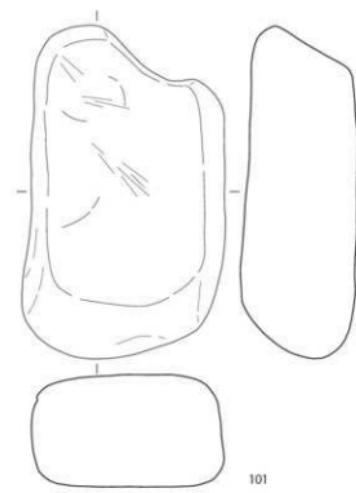
第101図 石皿・台石実測図⑫



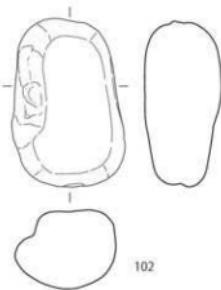
第102図 石皿・台石実測図⑪



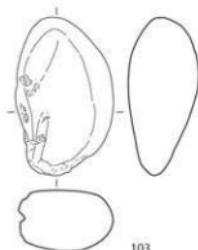
100



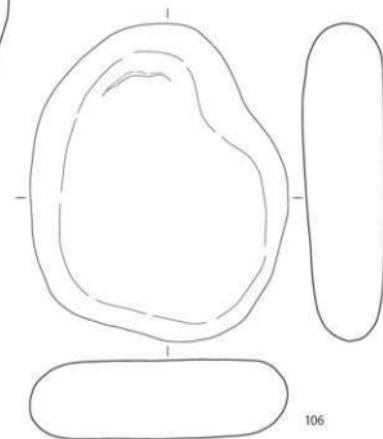
101



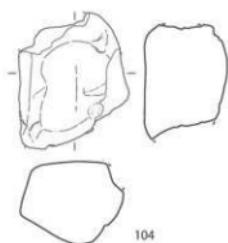
102



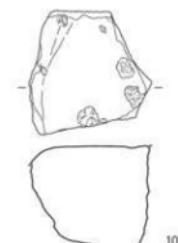
103



106



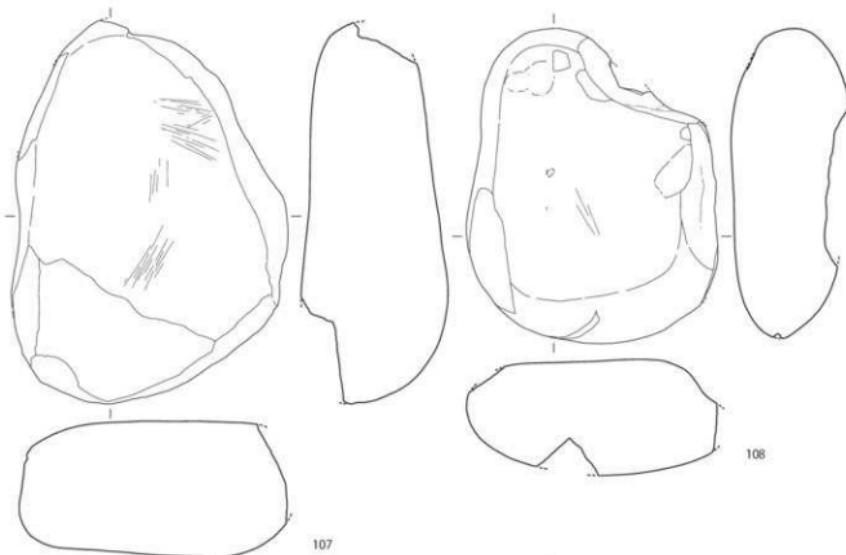
104



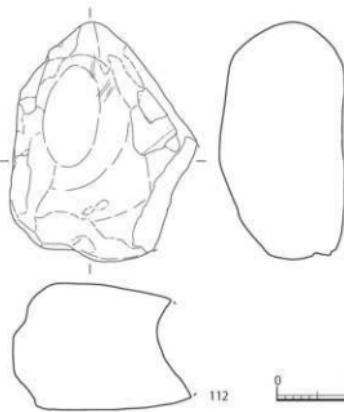
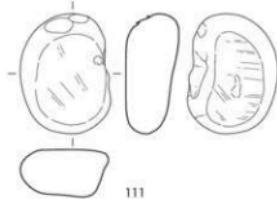
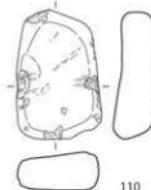
105

0 10cm

第103図 石皿・台石実測図④

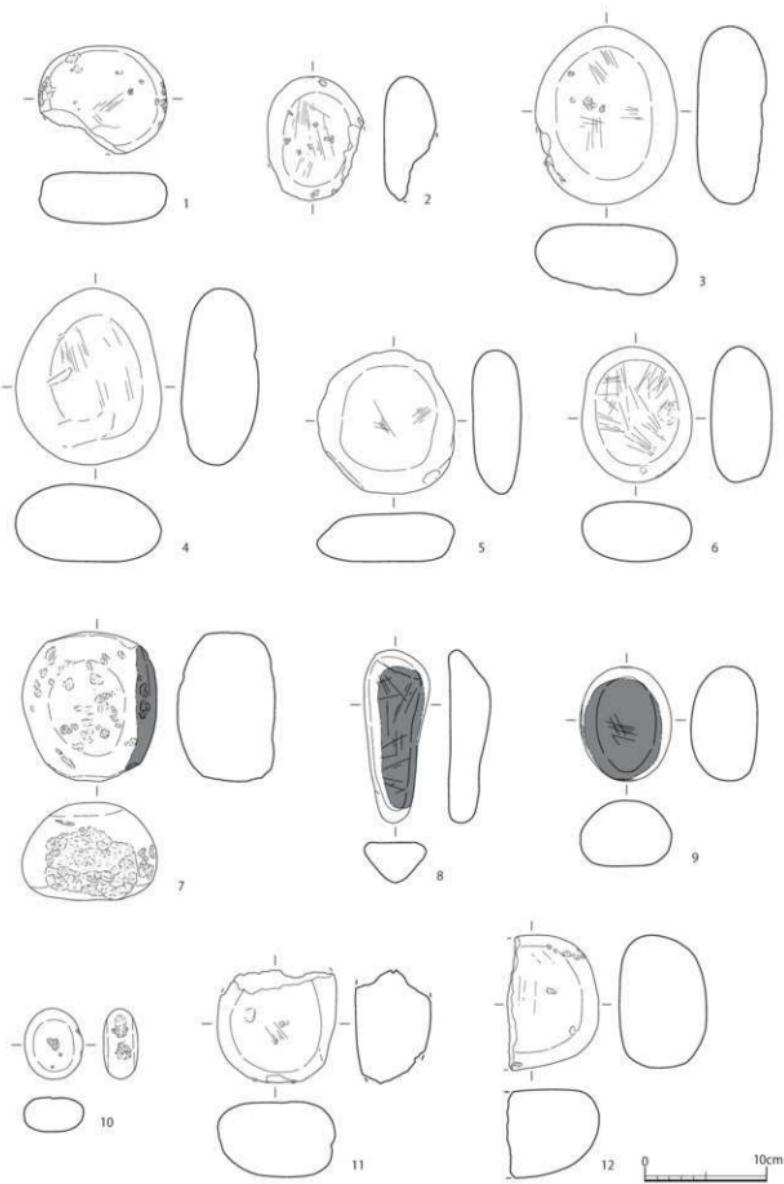


108

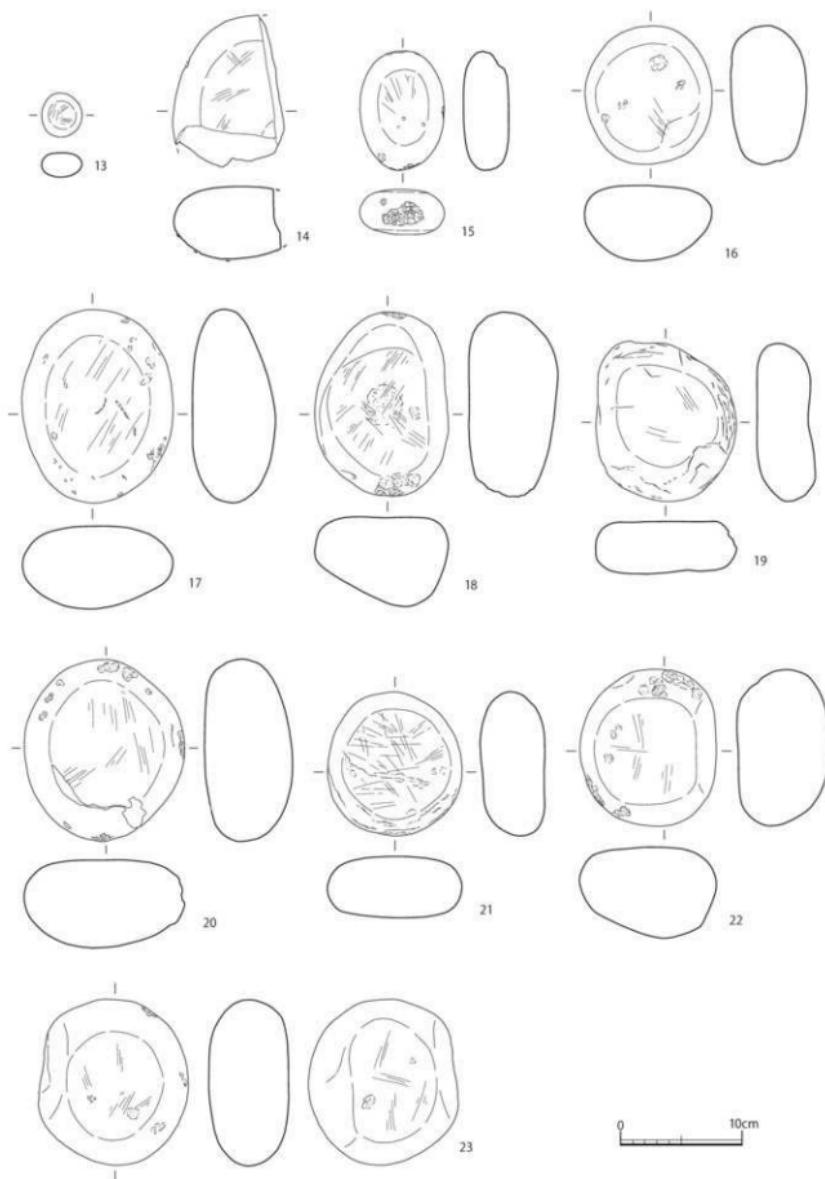


0 10cm

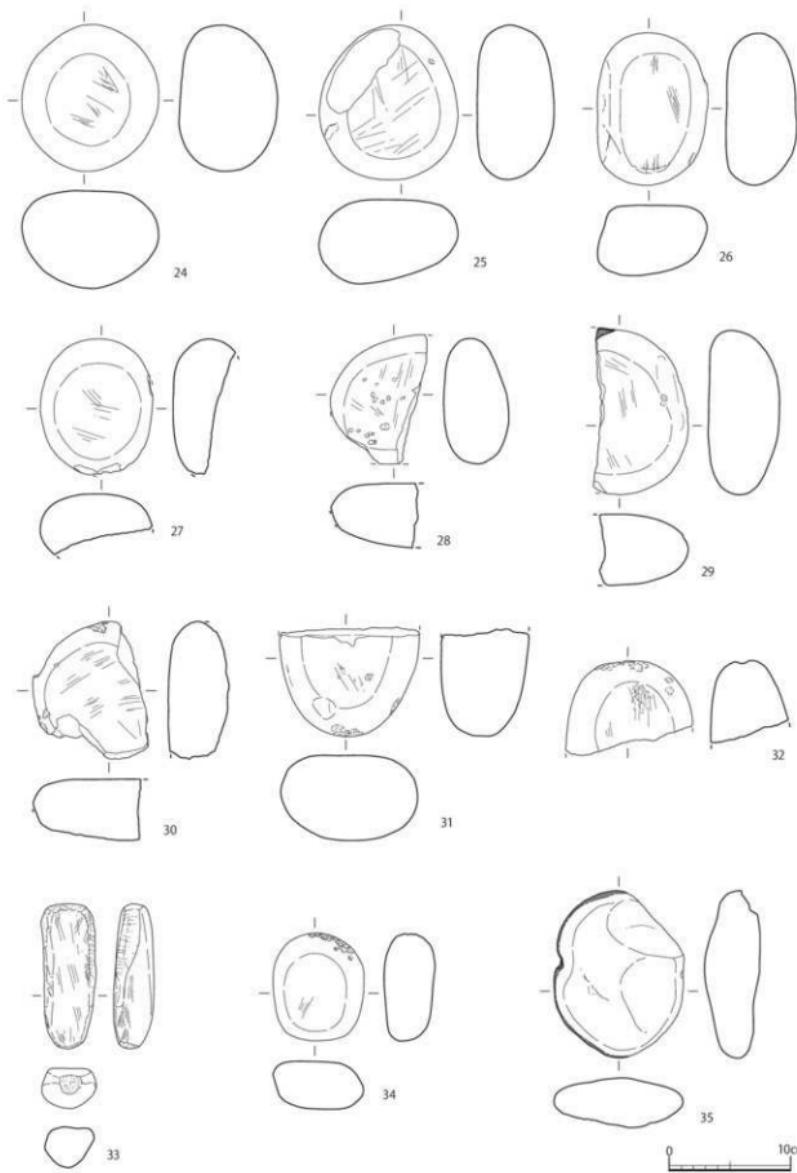
第104図 石皿・台石実測図⑮



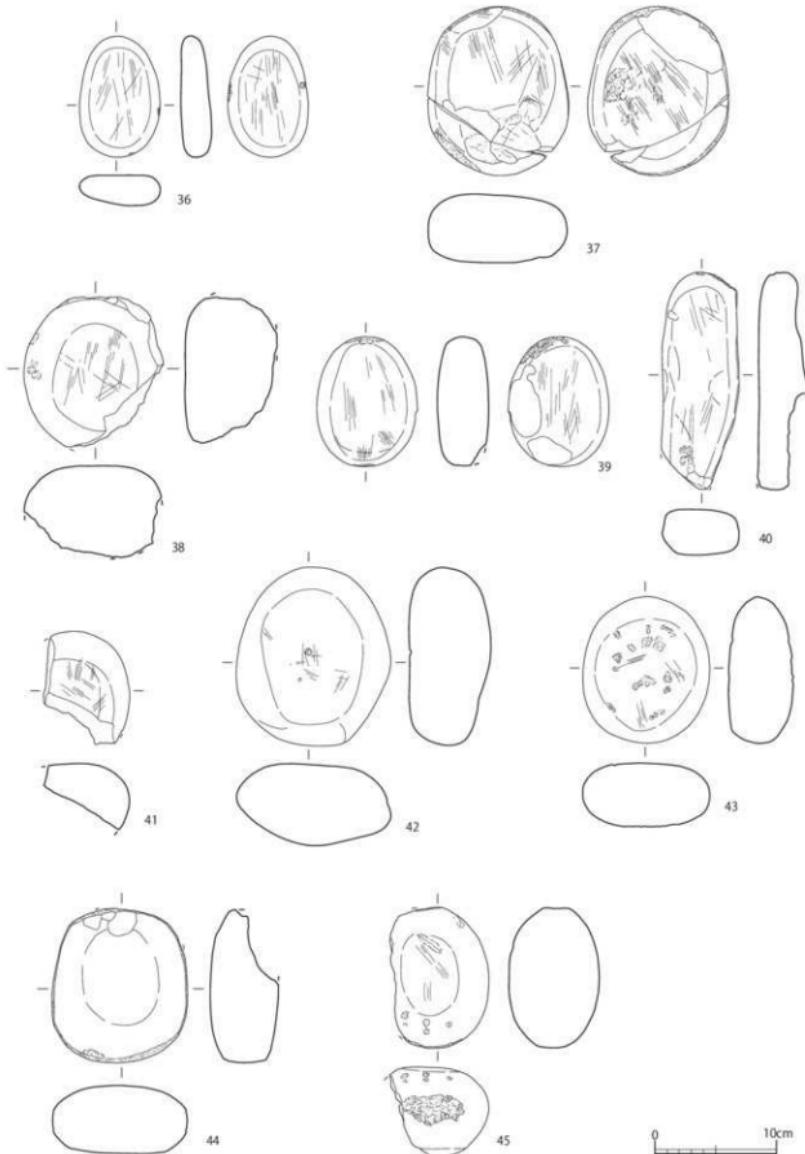
第105図 磨石・磬石実測図①



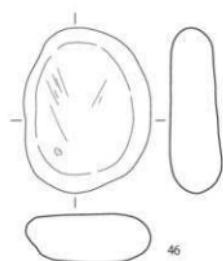
第106図 磨石・敲石実測図②



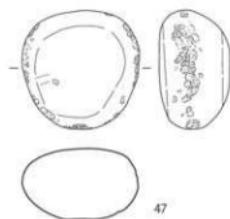
第107図 磨石・破石実測図③



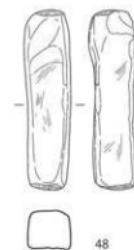
第108図 磨石・破石実測図④



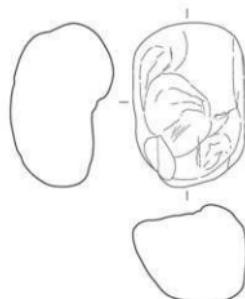
46



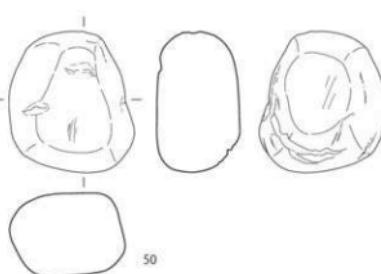
47



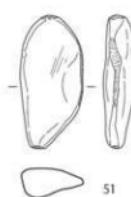
48



49



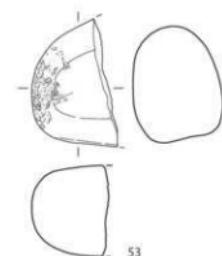
50



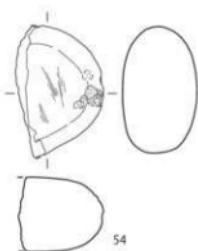
51



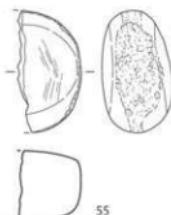
52



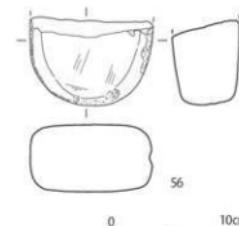
53



54



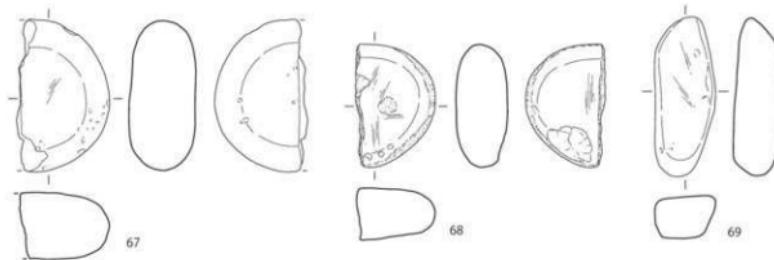
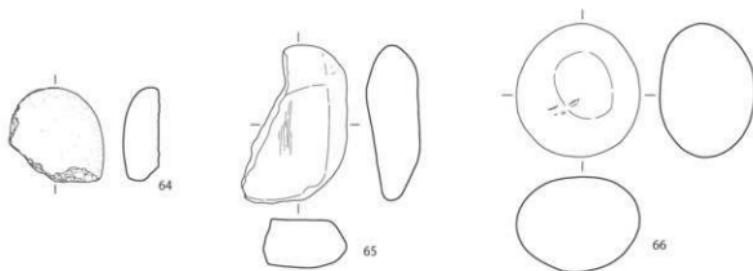
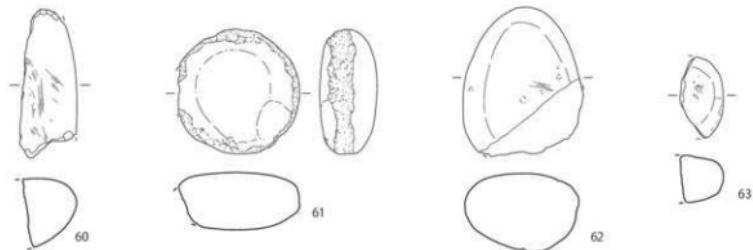
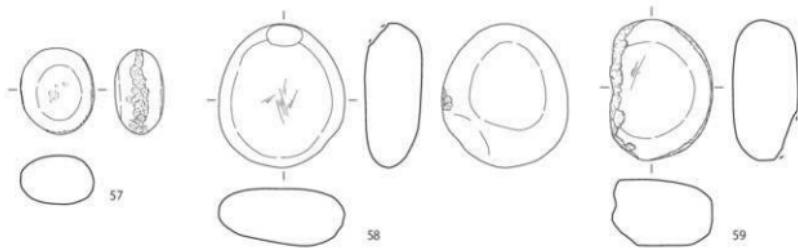
55



56

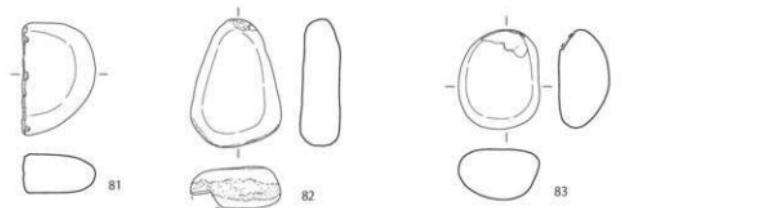
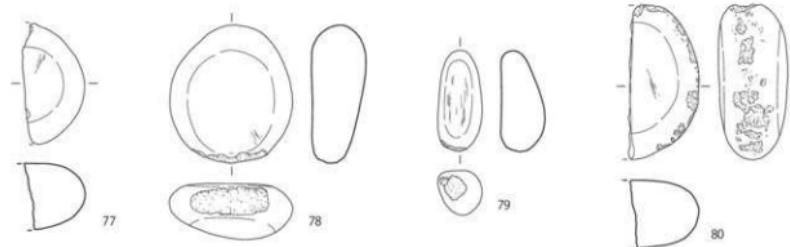
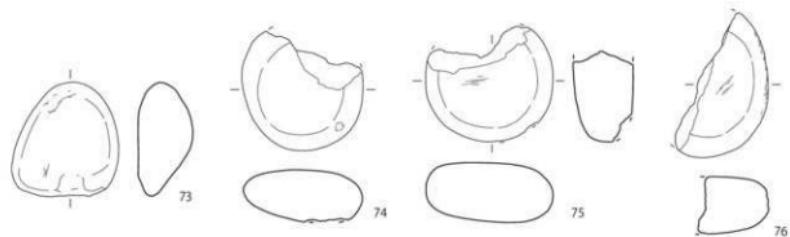
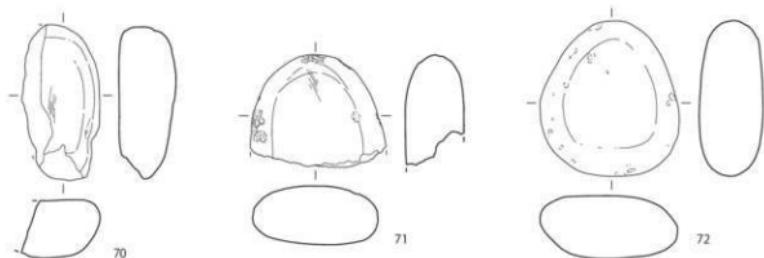
0 10cm

第109図 磨石・敲石実測図⑤



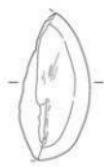
0 10cm

第110図 磨石・敲石実測図⑥



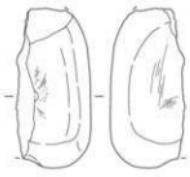
0 10cm

第111図 磨石・敲石実測図⑦



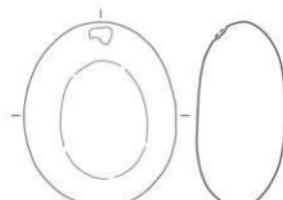
D

84

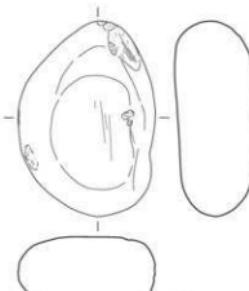


D

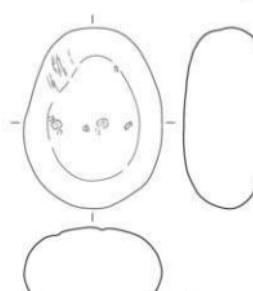
85



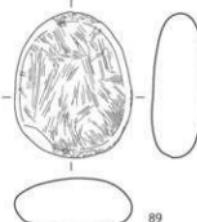
86



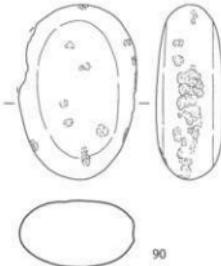
87



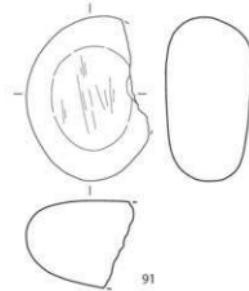
88



89



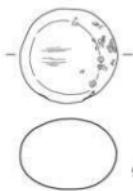
90



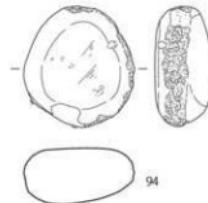
91



92



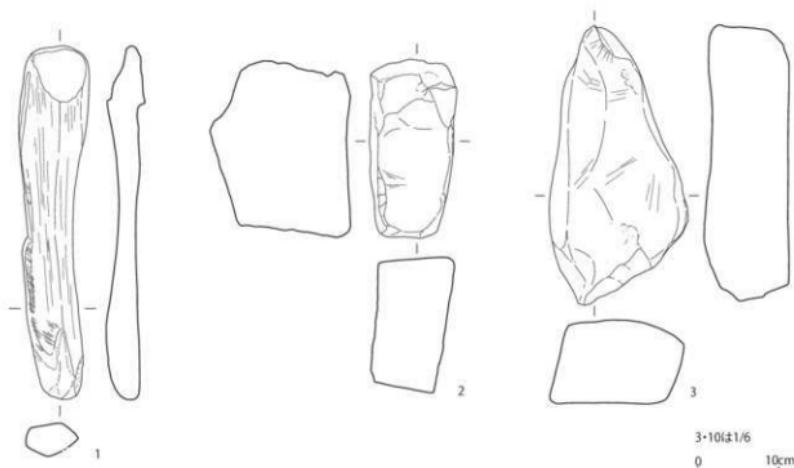
93



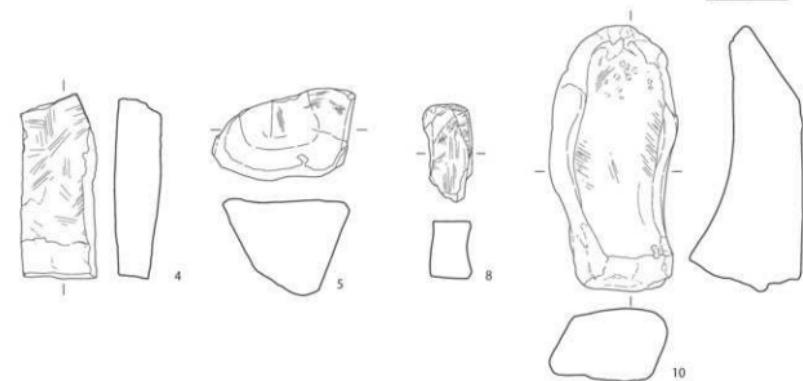
94

0 10cm

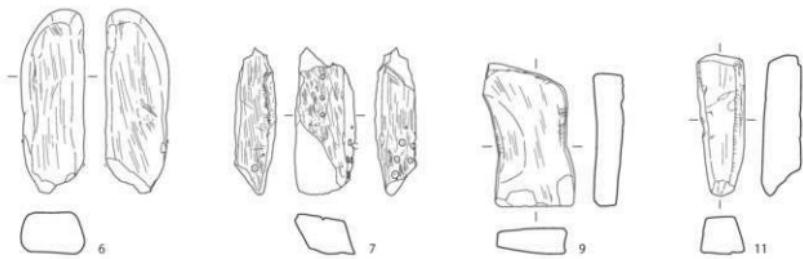
第112図 磨石・敲石実測図⑧



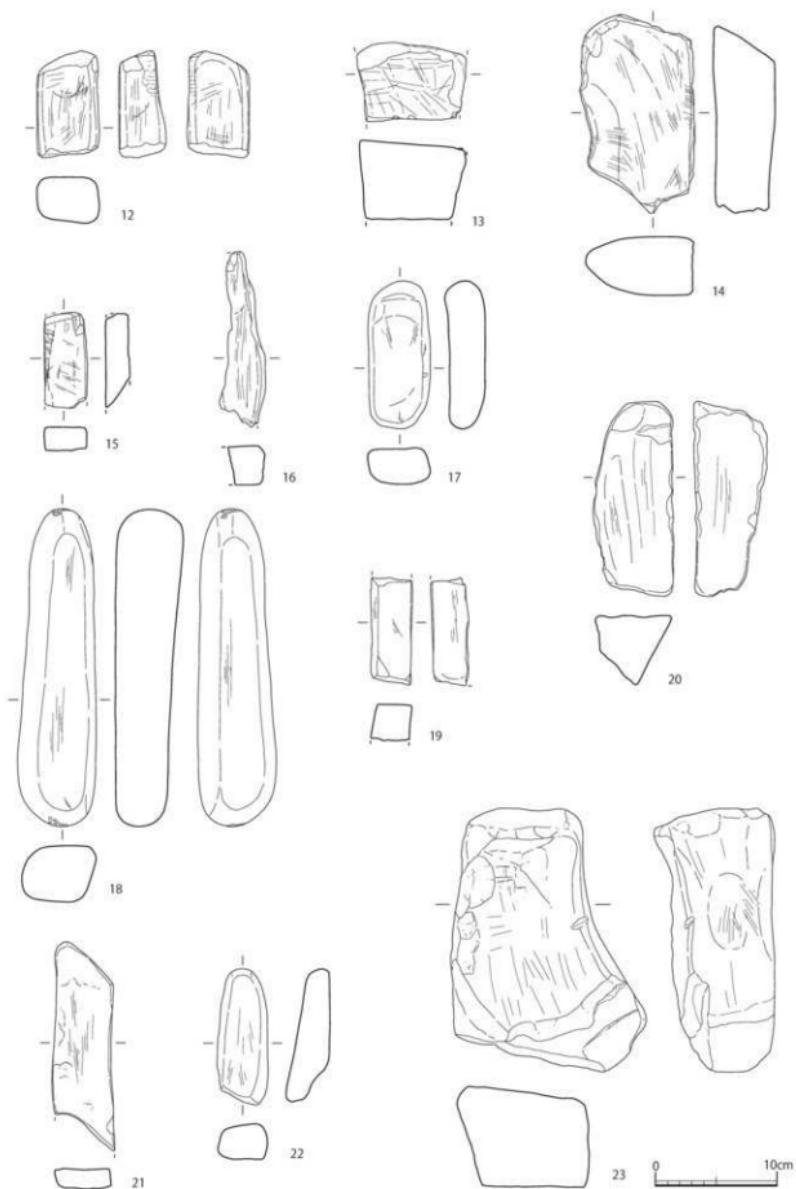
3-10は1/6
0 10cm



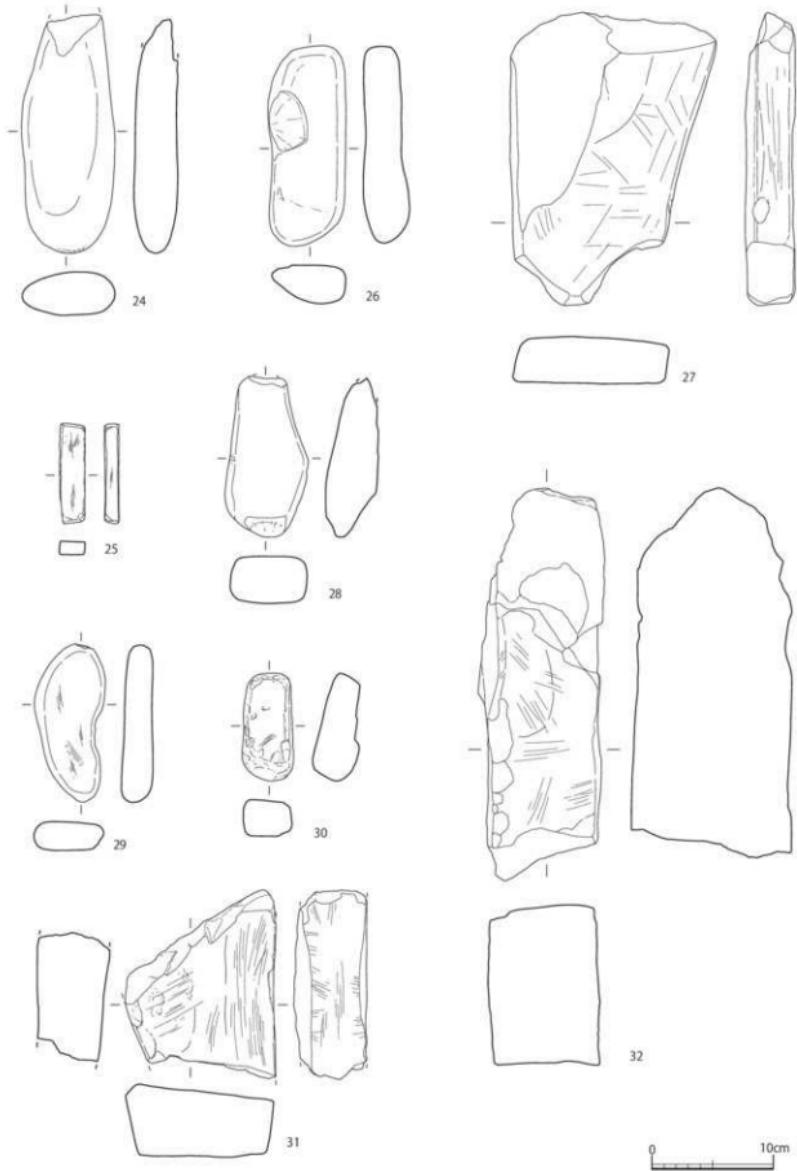
0 10cm



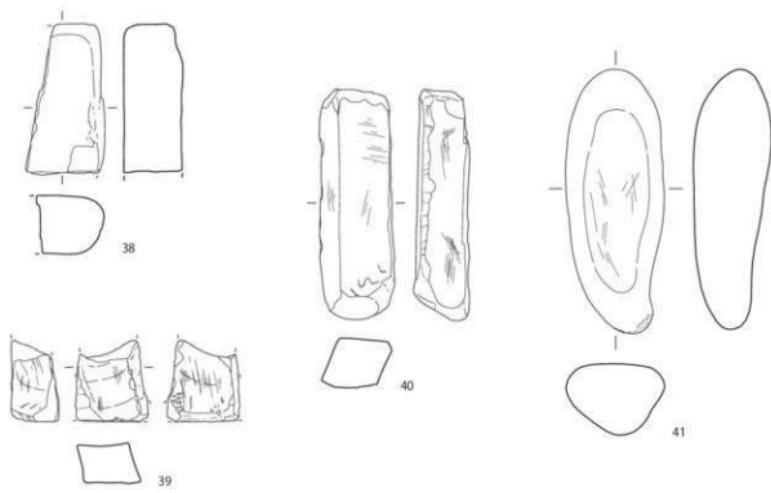
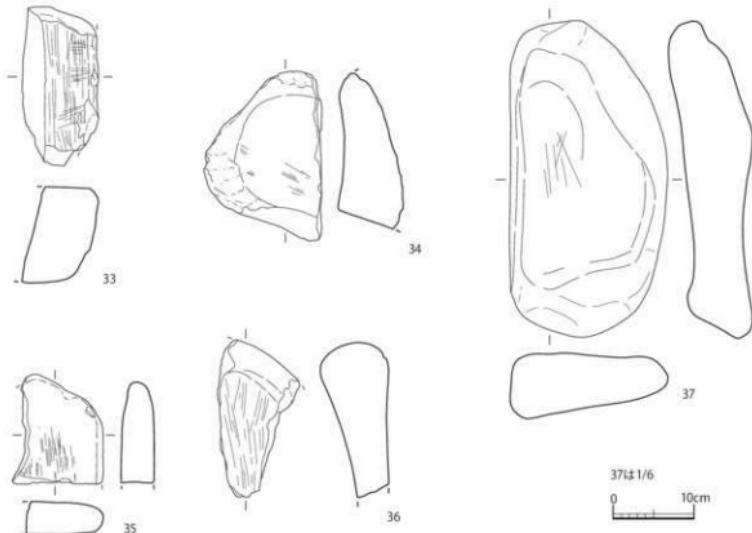
第113図 磚石実測図①



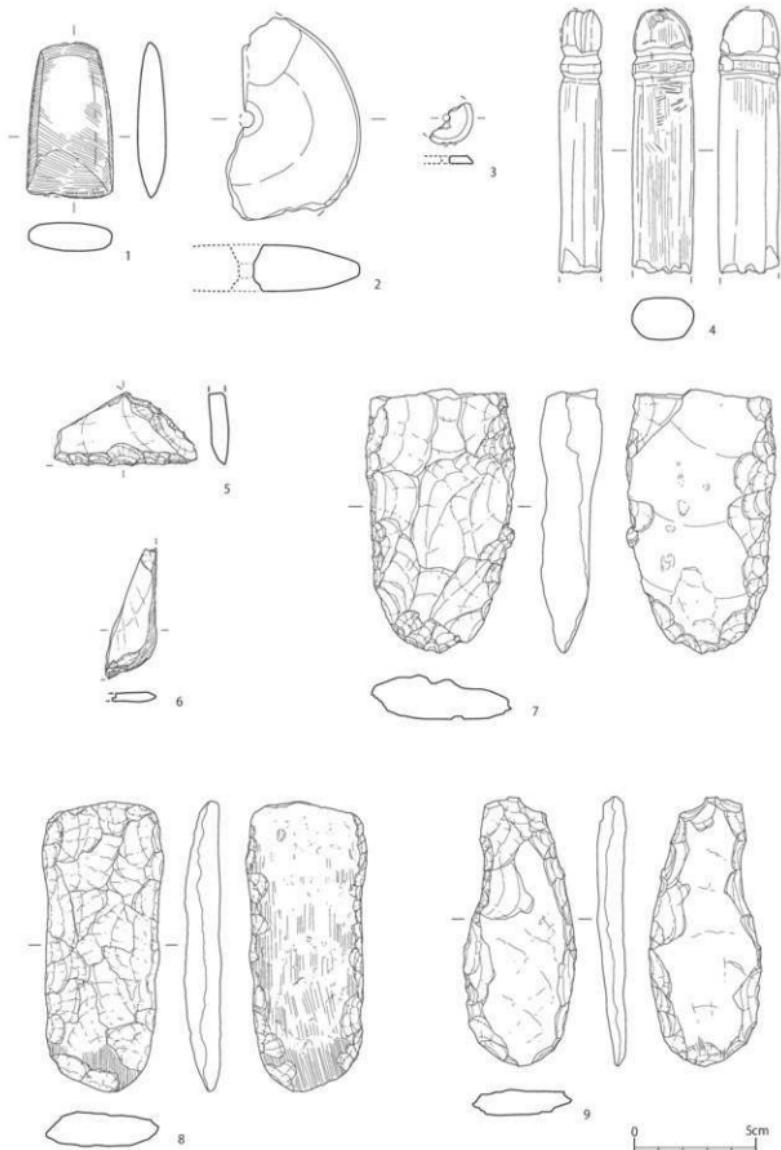
第114図 砥石実測図②



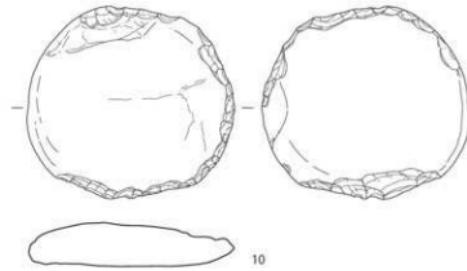
第115図 破石実測図③



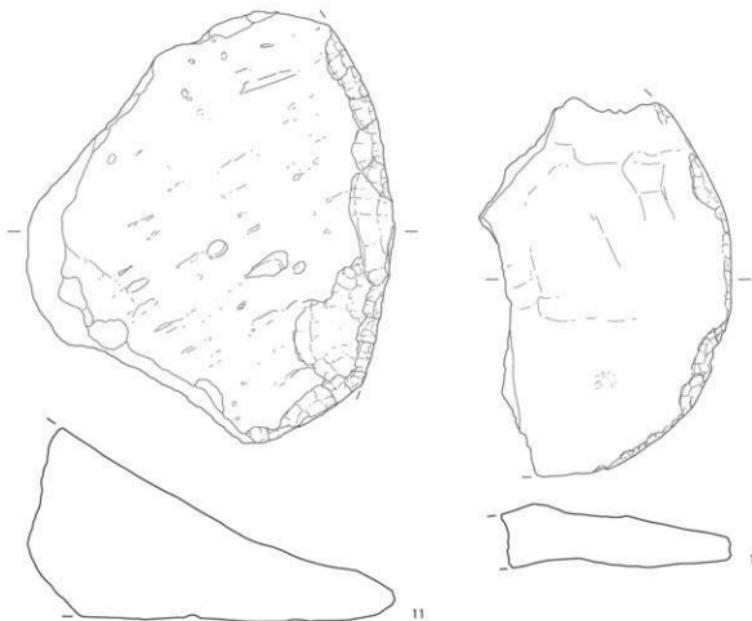
第116図 砥石実測図④



第117図 石器・石製品等実測図①



10



11



12

0 5cm

第118図 石器・石製品等実測図②

図	№	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
83	1	26号竪穴	黒曜石	2.75	2.20	0.35	135	
83	2	33号竪穴	黒曜石	1.55	1.40	0.30	0.37	
83	3	36号竪穴	黒曜石	2.00	1.65	0.30	0.58	
83	4	38号竪穴	サヌカイト	1.95	1.80	0.35	1.03	
83	5	柱穴	黒曜石	2.05	1.55	0.30	0.67	
83	6	遺跡	サヌカイト	2.40	1.95	0.35	1.11	基部欠損
83	7	36号竪穴	サヌカイト	2.30	1.45	0.25	0.68	
83	8	37号竪穴	黒曜石	2.40	1.45	0.40	0.94	

図	№	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
83	9	41号竪穴	黒曜石	2.70	1.60	0.35	1.61	
83	10	柱穴	黒曜石	2.20	1.00	0.30	0.53	
83	11	遺跡	サヌカイト	2.55	1.70	0.35	0.76	
83	12	表層	チャート	2.40	1.60	0.25	0.64	
83	13	40号竪穴	サヌカイト	2.25	1.35	0.35	1.24	
83	14	41号竪穴	サヌカイト	2.55	1.45	0.40	1.37	
83	15	9号竪穴	黒曜石	2.65	1.25	0.40	1.21	基部欠損?
83	16	40号竪穴	サヌカイト	1.80	1.50	0.30	2.36	

第21表 石器観察表(打製石器)

図	No	出土遺構	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	分類	備考
84	1	27号廻廊	粘板岩	1.80	1.60	0.15	664	Ae-1	
84	2	41号廻廊	粘板岩	1.90	1.35	0.20	774	Ae-1	
84	3	41号廻廊	粘板岩	3.35	1.00	0.35	494	Ae-1	
84	4	廻廊	粘板岩	2.60	1.75	0.15	1102	Ae-1	荒成7
84	5	36号廻廊	粘板岩	2.30	1.50	0.10	651	Ae-2	
84	6	40号廻廊	粘板岩	2.05	1.60	0.25	105	Ae-2	
84	7	廻廊	粘板岩	2.20	1.40	0.25	696	Ae-2	
84	8	33号廻廊	粘板岩	3.90	1.80	0.20	292	Ab-1	
84	9	5号廻廊	粘板岩	(3.00)	2.00	0.30	231	Ab-1	荒成欠損
84	10	09号廻廊	粘板岩	2.90	1.50	0.20	934	Ab-1	基盤欠損
84	11	22号廻廊	粘板岩	(1.95)	1.15	0.15	663	Ab-1	荒成欠損
84	12	26号廻廊	粘板岩	3.55	1.70	0.30	223	Ab-1	基盤欠損
84	13	30号廻廊	粘板岩	2.35	1.20	0.25	777	Ab-1	
84	14	40号廻廊	粘板岩	2.50	1.35	0.20	663	Ab-1	
84	15	41号廻廊	粘板岩	2.40	1.45	0.15	776	Ab-1	基盤欠損
84	16	47号廻廊	粘板岩	(2.00)	1.30	0.15	649	Ab-1	
84	17	42号廻廊	粘板岩	3.80	2.10	0.20	238	Ab-1	
84	18	42号廻廊	粘板岩	2.30	1.55	0.20	683	Ab-1	
84	19	19号廻廊	緑色片岩	3.35	1.45	0.10	257	Ab-1	
84	20	21号廻廊	緑色片岩	(2.85)	1.60	0.20	184	Ab-1	荒成欠損
84	21	21号廻廊	緑色片岩	2.15	1.30	0.20	777	Ab-1	
84	22	37号廻廊	粘板岩	2.00	1.30	0.10	644	Ab-2	
84	23	43号廻廊	粘板岩	1.90	1.35	0.20	664	Ab-2	荒成7
84	24	41号廻廊	粘板岩	1.80	1.30	0.20	653	Ab-2	
84	25	42号廻廊	粘板岩	2.95	1.55	0.20	112	Ab-2	荒成欠損?
84	26	薄層帶	粘板岩	3.15	1.45	0.25	165	Ab-2	
84	27	42号廻廊	粘板岩	3.30	1.90	0.25	231	Ab-2	
84	28	21号廻廊	粘板岩	2.20	1.30	0.20	777	Ac-1	
84	29	37号廻廊	粘板岩	1.85	1.05	0.15	930	Ac-1	
84	30	37号廻廊	粘板岩	1.75	1.05	0.15	930	Ac-1	
84	31	37号廻廊	粘板岩	1.80	1.20	0.15	931	Ac-1	
84	32	37号廻廊	粘板岩	2.25	1.20	0.20	569	Ac-1	
84	33	17号廻廊	粘板岩	(1.80)	1.05	0.15	366	Ac-1	
84	34	40号廻廊	粘板岩	3.25	1.65	0.25	143	Ac-1	
84	35	40号廻廊	粘板岩	2.55	1.65	0.20	103	Ac-1	
84	36	36号廻廊	粘板岩	2.50	1.45	0.30	110	Ac-1	
84	37	41号廻廊	粘板岩	2.45	1.20	0.20	98	Ac-1	
84	38	42号廻廊	粘板岩	2.20	1.35	0.15	955	Ac-1	
84	39	19号廻廊	粘板岩	2.35	1.15	0.20	662	Ac-2	荒成7?
84	40	41号廻廊	粘板岩	1.85	1.20	0.15	933	Ac-2	
84	41	37号廻廊	粘板岩	2.20	1.25	0.15	956	Ac-2	荒成7?
84	42	01号廻廊	粘板岩	4.02	1.85	0.15	367	B-1	
84	43	01号廻廊	粘板岩	4.60	1.75	0.15	355	B-1	
84	44	03号廻廊	粘板岩	5.05	1.85	0.40	366	B-1	被削7?
84	45	03号廻廊	粘板岩	(3.05)	1.25	0.20	131	B-1	荒成欠損
84	46	05号廻廊	緑色片岩	3.65	1.35	0.25	193	B-1	
84	47	07号廻廊	粘板岩	2.60	1.35	0.30	159	B-1	
84	48	09号廻廊	粘板岩	3.05	1.30	0.20	142	B-1	
84	49	13号廻廊	粘板岩	3.00	1.25	0.20	140	B-1	
84	50	13号廻廊	粘板岩	(2.70)	1.15	0.20	846	B-1	荒成欠損
84	51	14号廻廊	粘板岩	3.00	1.15	0.25	693	B-1	
84	52	14号廻廊	粘板岩	1.90	0.95	0.15	643	B-1	
84	53	16号廻廊	粘板岩	2.75	1.25	0.25	134	B-1	
84	54	16号廻廊	粘板岩	(3.90)	1.90	0.25	263	B-1	荒成欠損
84	55	26号廻廊	粘板岩	(2.75)	1.25	0.20	113	B-1	荒成欠損?
84	56	29号廻廊	粘板岩	3.20	1.40	0.30	190	B-1	
84	57	31号廻廊	粘板岩	3.30	1.45	0.20	154	B-1	
84	58	32号廻廊	粘板岩	1.55	1.30	0.20	138	B-1	
84	59	33号廻廊	粘板岩	(2.65)	1.25	0.20	885	B-1	荒成欠損
84	60	35号廻廊	粘板岩	2.75	1.40	0.15	777	B-1	
84	61	37号廻廊	緑色片岩	(2.65)	1.10	0.20	107	B-1	荒成欠損?
84	62	38号廻廊	粘板岩	2.45	0.95	0.20	681	B-1	
84	63	38号廻廊	粘板岩	2.55	1.05	0.20	690	B-1	
84	64	38号廻廊	緑色片岩	2.25	1.10	0.25	778	B-1	
84	65	38号廻廊	粘板岩	2.65	1.10	0.20	131	B-1	
84	66	39号廻廊	粘板岩	3.30	1.30	0.30	189	B-1	
84	67	39号廻廊	粘板岩	(2.10)	1.00	0.25	883	B-1	
84	68	38号廻廊	粘板岩	(1.90)	1.05	0.15	972	B-1	荒成欠損?
84	69	40号廻廊	粘板岩	3.10	1.40	0.30	153	B-1	
84	70	40号廻廊	粘板岩	2.70	1.40	0.20	108	B-1	
84	71	40号廻廊	粘板岩	2.85	1.45	0.35	164	B-1	
84	72	40号廻廊	粘板岩	3.65	1.40	0.30	182	B-1	
84	73	40号廻廊	粘板岩	6.00	2.20	0.40	747	B-1	
84	74	40号廻廊	粘板岩	4.50	1.85	0.35	318	B-1	基盤欠損
84	75	廻廊	粘板岩	3.15	1.45	0.25	157	B-1	
84	76	13号廻廊	緑色片岩	3.40	1.35	0.20	138	B-2	
84	77	26号廻廊	緑色片岩	(2.75)	1.05	0.15	688	B-2	荒成欠損?
84	78	40号廻廊	粘板岩	2.65	1.30	0.15	104	B-2	荒成7?
85	79	40号廻廊	粘板岩	3.45	1.45	0.30	124	B-2	基盤欠損
85	80	32号廻廊	粘板岩	2.85	1.40	0.15	411	B-2	荒成7?
85	81	37号廻廊	粘板岩	2.00	0.95	0.10	388	B-2	
85	82	38号廻廊	粘板岩	3.20	1.20	0.10	154	B-2	
85	83	41号廻廊	粘板岩	(2.40)	1.00	0.20	882	B-2	荒成7?
85	84	40号廻廊	粘板岩	(2.20)	1.20	0.10	355	B-2	基盤欠損?
85	85	31号廻廊	粘板岩	(1.30)	1.55	0.30	222	C-1	基盤欠損
85	86	39号廻廊	粘板岩	7.25	1.90	0.30	674	C-1	埋立欠損
85	87	39号廻廊	緑色片岩	4.30	1.40	0.35	230	C-1	
85	88	39号廻廊	緑色片岩	3.90	1.25	0.30	192	C-1	
85	89	39号廻廊	粘板岩	3.10	1.05	0.30	122	C-1	
85	90	29号廻廊	緑色片岩	5.70	1.85	0.40	443	C-1	
85	91	20号廻廊	粘板岩	4.70	1.45	0.30	293	C-1	
85	92	21号廻廊	粘板岩	(4.65)	1.70	0.35	373	C-1	先史欠損
85	93	26号廻廊	粘板岩	4.10	1.30	0.35	238	C-1	
85	94	30号廻廊	粘板岩	5.20	1.65	0.30	334	C-1	
85	95	34号廻廊	緑色片岩	(3.75)	1.45	0.30	265	C-1	先史欠損
85	96	39号廻廊	粘板岩	5.00	1.75	0.35	429	C-1	
85	97	38号廻廊	粘板岩	5.70	1.55	0.25	267	C-1	植物?付着物あり
85	98	38号廻廊	粘板岩	4.70	1.55	0.30	278	C-1	
85	99	38号廻廊	粘板岩	3.35	1.20	0.20	123	C-1	
85	100	38号廻廊	緑色片岩	(3.60)	1.25	0.30	171	C-1	
85	101	40号廻廊	粘板岩	6.00	2.00	0.25	745	C-1	
85	102	40号廻廊	粘板岩	5.90	1.60	0.30	394	C-1	
85	103	40号廻廊	緑色片岩	5.20	1.60	0.35	381	C-1	
85	104	40号廻廊	粘板岩	4.55	1.45	0.25	225	C-1	
85	105	40号廻廊	粘板岩	(5.00)	1.60	0.25	266	C-1	
85	106	19号廻廊	緑色片岩	(8.80)	1.90	0.40	645	C-1	基盤欠損
85	107	19号廻廊	粘板岩	(5.00)	1.50	0.25	295	C-1	先史欠損
85	108	07号廻廊	粘板岩	(4.20)	1.50	0.30	326	C-2	先史欠損
85	109	26号廻廊	粘板岩	4.75	1.70	0.30	359	C-2	
85	110	38号廻廊	粘板岩	4.95	1.70	0.35	333	C-2	
85	111	41号廻廊	粘板岩	5.30	1.40	0.40	288	C-2	
85	112	13号廻廊	粘板岩	(5.00)	1.60	0.25	266	C-2	基盤欠損
85	113	09号廻廊	緑色片岩	(8.80)	1.90	0.40	645	C-2	基盤欠損
85	114	19号廻廊	粘板岩	(5.00)	1.50	0.40	405	C-2	基盤欠損
85	115	22号廻廊	粘板岩	(3.99)	1.70	0.40	308	C-2	基盤欠損
85	116	26号廻廊	粘板岩	(3.70)	1.55	0.20	158	C-2	基盤欠損
85	117	西廻廊	緑色片岩	(4.60)	1.60	0.35	410	C-2	基盤欠損
85	118	37号廻廊	粘板岩	(1.65)	1.65	0.25	311	C-2	先史欠損
85	119	西廻廊	粘板岩	(2.65)	1.60	0.30	207	C-2	先史欠損
85	120	05号廻廊	粘板岩	(1.65)	1.25	0.20	73	C-3	先史欠損
85	121	13号廻廊	緑色片岩	(2.00)	1.60	0.25	123	C-3	基盤欠損
85	122	14号廻廊	粘板岩	(1.30)	1.20	0.15	41	C-3	先史欠損
85	123	14号廻廊	緑色片岩	(1.60)	1.20	0.25	87	C-3	先史欠損
85	124	26号廻廊	粘板岩	(3.00)	1.45	0.30	206	C-3	先史欠損
85	125	26号廻廊	粘板岩	(3.25)	1.40	0.20	74	C-3	先史欠損
85	126	31号廻廊	粘板岩	(1.20)	0.90	0.20	85	C-3	先史欠損
85	127	40号廻廊	粘板岩	(2.00)	1.45	0.15	92	C-3	先史欠損
85	128	40号廻廊	粘板岩	(2.00)	1.35	0.20	147	C-3	基盤欠損
85	129	40号廻廊	緑色片岩	(1.85)	1.45	0.20	888	C-3	先史欠損
85	130	40号廻廊	粘板岩	(2.25)	1.50	0.15	121	C-3	先史欠損
85	131	38号廻廊	粘板岩	(1.20)	1.30	0.25	58	C-3	先史欠損
85	132	37号廻廊	粘板岩	(1.70)	1.30	0.25	59	C-3	先史欠損
85	133	37号廻廊	粘板岩	(1.70)	1.30	0.25	79	C-3	先史欠損
85	134	37号廻廊	粘板岩	(1.70)	1.30	0.25	87	C-3	先史欠損
85	135	37号廻廊	粘板岩	(1.70)	1.30	0.25	91	C-3	先史欠損
85	136	22号廻廊	緑色片岩	(2.70)	1.50	0.25	156	C-3	基盤欠損
85	137	22号廻廊	粘板岩	(2.70)	1.70	0.30	152	C-3	基盤欠損
85	138	07号廻廊	粘板岩	(1.70)	1.30	0.25	58	C-3	先史欠損
85	139	13号廻廊	粘板岩	(2.70)	1.90	0.30	194	C-3	先史欠損

番	No	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	分類	備考	番	No	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	分類	備考
87	1	09号櫛穴	粘板岩	4.65	1.50	0.40	980	A-1		88	67	40号櫛穴	粘板岩	4.35	1.75	0.35	3.09	B-1	
87	2	40号櫛穴	粘板岩	3.30	2.05	0.65	5.12	A-1		88	68	41号櫛穴	粘板岩	4.45	2.15	0.65	7.06	B-1	
87	3	40号櫛穴	粘板岩	3.10	1.95	0.45	2.99	A-1		88	69	41号櫛穴	粘板岩	4.80	2.80	0.50	9.95	B-1	
87	4	41号櫛穴	粘板岩	3.50	2.45	0.50	5.00	A-1		88	70	41号櫛穴	粘板岩	3.85	2.00	0.30	3.73	B-1	
87	5	42号櫛穴	粘板岩	3.80	2.45	0.20	3.02	A-1		88	71	42号櫛穴	粘板岩	5.45	2.80	0.55	11.49	B-1	
87	6	41号櫛穴	粘板岩	5.10	2.65	0.50	9.86	A-1		88	72	42号櫛穴	粘板岩	5.60	2.80	0.50	9.78	B-1	
87	7	42号櫛穴	粘板岩	4.55	2.10	0.50	6.14	A-1		88	73	43号櫛穴	粘板岩	3.85	3.15	0.55	15.01	B-1	研磨
87	8	42号櫛穴	粘板岩	6.20	3.95	0.55	15.38	A-1		88	74	43号櫛穴	粘板岩	4.45	2.05	0.35	4.49	B-1	
87	9	43号櫛穴	粘板岩	5.65	2.95	0.85	13.85	A-1		88	75	22号櫛穴	粘板岩	2.60	1.30	0.25	1.34	B-2	
87	10	37号櫛穴	粘板岩	5.70	3.05	0.50	13.15	A-2		88	76	30号櫛穴	粘板岩	5.25	2.55	0.40	10.21	B-2	
87	11	37号櫛穴	粘板岩	4.75	2.55	0.45	6.31	A-2		88	77	37号櫛穴	粘板岩	3.75	2.30	0.30	3.49	B-2	
87	12	37号櫛穴	粘板岩	3.00	1.75	0.35	2.16	A-2		88	78	37号櫛穴	粘板岩	3.85	2.00	0.30	2.42	B-2	
87	13	37号櫛穴	粘板岩	2.60	1.95	0.20	1.58	A-2		88	79	37号櫛穴	粘板岩	3.00	1.30	0.30	1.61	B-2	
87	14	40号櫛穴	粘板岩	3.05	1.75	0.35	1.56	A-2		88	80	37号櫛穴	粘板岩	2.80	1.60	0.25	1.36	B-2	
87	15	40号櫛穴	粘板岩	2.85	1.70	0.25	1.57	A-2		88	81	37号櫛穴	粘板岩	3.10	1.25	0.15	0.97	B-2	
87	16	41号櫛穴	粘板岩	3.05	2.20	0.30	2.47	A-2		88	82	38号櫛穴	粘板岩	4.50	2.10	0.50	3.93	B-2	
87	17	41号櫛穴	粘板岩	2.05	1.45	0.20	0.61	A-2		88	83	40号櫛穴	粘板岩	2.70	1.65	0.20	1.19	B-2	
87	18	41号櫛穴	粘板岩	2.20	1.80	0.35	1.20	A-2		88	84	41号櫛穴	粘板岩	4.70	2.40	0.50	7.16	B-2	
87	19	41号櫛穴	粘板岩	2.35	1.70	0.20	0.89	A-2		88	85	41号櫛穴	粘板岩	4.15	2.15	0.35	4.79	B-2	
87	20	42号櫛穴	粘板岩	4.05	2.65	0.45	6.04	A-2		88	86	41号櫛穴	粘板岩	3.20	1.50	0.30	1.98	B-2	
87	21	42号櫛穴	粘板岩	3.85	2.40	0.45	3.58	A-2		88	87	42号櫛穴	粘板岩	4.70	2.10	0.35	3.10	B-2	
87	22	42号櫛穴	粘板岩	2.40	1.60	0.15	0.92	A-2		88	88	42号櫛穴	粘板岩	3.15	1.30	0.30	1.30	B-2	
87	23	鉢穴	粘板岩	2.95	1.90	0.30	1.99	A-2		88	89	42号櫛穴	粘板岩	2.85	1.55	0.25	1.49	B-2	
87	24	表揮	粘板岩	2.25	1.60	0.20	1.01	A-2		88	90	42号櫛穴	粘板岩	3.10	1.55	0.20	1.39	B-2	
87	25	表揮	粘板岩	2.40	1.95	0.25	1.30	A-2		88	91	表揮	粘板岩	4.20	1.80	0.35	2.81	B-2	
87	26	37号櫛穴	粘板岩	4.35	2.35	0.35	4.48	A-2		88	92	26号櫛穴	緑色石	4.75	2.05	0.45	6.16	B-3	
87	27	37号櫛穴	粘板岩	3.50	1.90	0.35	2.65	A-2		88	93	37号櫛穴	粘板岩	2.90	1.50	0.10	0.86	B-3	
87	28	38号櫛穴	粘板岩	3.05	(1.55)	0.30	1.77	A-2	基部欠損	88	94	37号櫛穴	粘板岩	2.90	1.50	0.10	0.92	B-3	
87	29	40号櫛穴	粘板岩	3.10	2.05	0.25	2.56	A-2		88	95	37号櫛穴	粘板岩	2.10	0.90	0.15	0.47	B-3	完成度?
87	30	40号櫛穴	粘板岩	3.15	1.95	0.15	1.40	A-2		88	96	38号櫛穴	粘板岩	4.05	1.85	0.50	4.75	B-3	研磨
87	31	41号櫛穴	緑色片岩	3.75	2.00	0.50	5.32	A-2		88	97	41号櫛穴	粘板岩	2.25	0.95	0.15	0.49	B-3	完成度?
87	32	41号櫛穴	粘板岩	2.75	1.65	0.30	1.49	A-2		88	98	41号櫛穴	粘板岩	4.95	2.45	0.50	8.52	B-3	研磨
87	33	42号櫛穴	粘板岩	3.05	2.05	0.15	1.21	A-2		88	99	41号櫛穴	粘板岩	5.50	1.75	0.40	5.25	C-1	
87	34	42号櫛穴	粘板岩	3.25	1.55	0.20	1.23	A-2	完成度?	89	100	35号櫛穴	粘板岩	4.95	2.10	0.40	4.13	C-1	
87	35	42号櫛穴	粘板岩	3.55	2.00	0.45	2.63	A-2		89	101	03号櫛穴	緑色石	(5.95)	2.20	0.40	7.25	C-1	先端欠損
87	36	42号櫛穴	粘板岩	3.55	1.85	0.25	2.09	A-2		89	102	05号櫛穴	粘板岩	4.70	1.70	0.60	5.52	C-1	
87	37	42号櫛穴	粘板岩	2.85	1.70	0.25	1.34	A-2		89	103	07号櫛穴	粘板岩	3.80	1.75	0.60	4.07	C-1	
87	38	37号櫛穴	粘板岩	2.25	1.75	0.20	1.12	A-3	研磨	89	104	09号櫛穴	粘板岩	6.40	2.30	0.60	4.28	C-2	
87	39	37号櫛穴	粘板岩	2.75	1.60	0.20	0.99	A-3	基部欠損	89	105	10号櫛穴	粘板岩	5.60	1.95	0.60	7.61	C-1	
87	40	38号櫛穴	粘板岩	2.05	1.70	0.30	1.46	A-3	研磨	89	106	13号櫛穴	粘板岩	6.30	1.75	0.50	7.13	C-1	一部研磨
87	41	40号櫛穴	粘板岩	2.45	1.60	0.20	0.83	A-3	完成度?	89	107	16号櫛穴	緑色石	5.50	2.35	0.35	6.04	C-1	
87	42	41号櫛穴	粘板岩	1.80	1.70	0.30	0.59	A-3	研磨	89	108	21号櫛穴	緑色石	4.30	2.00	0.30	4.73	C-1	
87	43	41号櫛穴	粘板岩	2.65	1.80	0.30	1.96	A-3	研磨	89	109	32号櫛穴	粘板岩	8.45	2.35	0.65	17.00	C-1	
87	44	41号櫛穴	粘板岩	2.20	1.55	0.15	0.73	A-3		89	110	38号櫛穴	粘板岩	4.35	1.70	0.65	4.14	C-1	
87	45	18号櫛穴	粘板岩	(2.60)	1.30	0.25	1.16	A-3	先端欠損	89	111	40号櫛穴	緑色石	7.45	2.85	0.70	25.69	C-1	
87	46	37号櫛穴	粘板岩	2.50	1.45	0.20	0.98	A-3		89	112	40号櫛穴	粘板岩	6.00	2.35	0.75	13.70	C-1	
87	47	37号櫛穴	粘板岩	2.05	1.20	0.10	0.38	A-3		89	113	41号櫛穴	粘板岩	5.00	1.95	0.60	8.26	C-1	
87	48	37号櫛穴	粘板岩	2.25	1.30	0.15	0.77	A-3	基部欠損?	89	114	42号櫛穴	粘板岩	6.05	2.50	0.80	13.18	C-1	
87	49	37号櫛穴	粘板岩	0.95	(1.75)	0.20	1.71	A-3	研磨	89	115	鉢穴	粘板岩	5.10	2.10	0.75	8.38	C-1	
88	50	41号櫛穴	粘板岩	2.90	1.50	0.30	1.67	A-3	完成度?	89	116	30号櫛穴	粘板岩	5.20	2.05	0.30	6.51	C-2	
88	51	表揮	粘板岩	0.40	1.75	0.15	2.15	A-3	研磨	89	117	37号櫛穴	粘板岩	5.20	2.15	0.60	8.88	C-2	
88	52	19号櫛穴	緑色片岩	4.55	2.60	0.35	7.67	B-1		89	118	38号櫛穴	粘板岩	5.45	1.85	0.50	6.28	C-2	
88	53	22号櫛穴	粘板岩	3.25	1.55	0.35	2.41	B-1		89	119	38号櫛穴	粘板岩	5.10	2.10	0.40	5.66	C-2	
88	54	26号櫛穴	緑色片岩	5.70	2.60	0.35	9.88	B-1		89	120	38号櫛穴	粘板岩	4.15	1.45	0.50	3.37	C-2	
88	55	30号櫛穴	粘板岩	5.50	2.40	0.35	8.44	B-1		89	121	38号櫛穴	粘板岩	3.40	1.25	0.25	1.56	C-2	
88	56	32号櫛穴	粘板岩	3.95	2.00	0.55	5.73	B-1		89	122	38号櫛穴	粘板岩	3.95	1.55	0.50	4.06	C-2	
88	57	36号櫛穴	粘板岩	4.20	2.20	0.70	7.33	B-1		89	123	38号櫛穴	粘板岩	3.85	1.50	0.35	2.45	C-2	
88	58	36号櫛穴	粘板岩	4.90	2.70	0.50	7.83	B-1		89	124	38号櫛穴	粘板岩	3.85	1.45	0.50	3.27	C-2	
88	59	37号櫛穴	粘板岩	3.60	2.10	0.30	2.95	B-1	先端欠損?	89	125	40号櫛穴	粘板岩	4.75	1.55	0.35	4.08	C-2	
88	60	37号櫛穴	粘板岩	3.05	1.40	0.25	1.71	B-1		89	126	40号櫛穴	粘板岩	5.00	2.05	0.40	5.47	C-2	
88	61	37号櫛穴	粘板岩	3.75	1.95	0.40	4.49	B-1		89	127	22号櫛穴	粘板岩	4.10	1.80	0.45	4.29	C-3	研磨
88	62	37号櫛穴	粘板岩	3.95	1.70	0.25	2.02	B-1		89	128	32号櫛穴	粘板岩	3.65	1.40	0.50	2.77	C-3	研磨
88	63	38号櫛穴	粘板岩	3.50	1.45	0.55	3.44	B-1		89	129	38号櫛穴	粘板岩	4.00	1.60	0.25	3.52	C-3	研磨
88	64	40号櫛穴	緑色片岩	5.65	2.60	0.65	13.20	B-1		89	130	38号櫛穴	粘板岩	4.20	1.70	0.50	4.65	C-3	研磨
88	65	40号櫛穴	粘板岩	3.85	1.75	0.30	2.72	B-1		89	131	38号櫛穴	粘板岩	2.10	1.35	0.35	1.49	C-3	研磨 基部欠損
88	66	40号櫛穴	粘板岩	4.15	2.60	0.35	6.15	B-1											

第23表 石器觀察表(石錐未製品)

回	No.	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	回	No.	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
90	1	2号竪穴(深山石室)	花崗岩	16.3	14.5	9.9	4750		95	55	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	17.5	16.1	9.3	3840	
90	2	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	26.5	27.5	12.2	15100		96	56	4号竪穴(深山石室)	花崗岩	(29.3)	29.4	12.8	14700	欠損 破損
90	3	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	14.4	11.7	9.9	2060	スズ付留	97	57	5号竪穴(深山石室)	砂岩	(13.6)	5.7	4.8	5080	破片
90	4	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	14.5	27.6	7.9	12300	スズ付留	97	58	19号竪穴(深山石室)		(10.7)	(10.7)	(5.9)	8580	
90	5	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	20.1	12.6	6.8	2290	スズ付留	97	59	19号竪穴(深山石室)	花崗岩	32.1	27.9	11.8	16500	
90	6	4号竪穴(深山石室)	花崗岩	24.5	14.4	14.3	6110		97	60	19号竪穴(深山石室)	花崗岩	24.5	24.5	14.5	12000	欠損 スズ付留
90	7	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	13.8	32.2	11.8	21400		97	61	19号竪穴(深山石室)	花崗岩	20.6	13.6	11.8	4915	
90	8	3号竪穴(深山石室)	花崗岩	15.0	12.3	8.0	2160		97	62	20号竪穴(花崗岩)	ホルシエラス	18.4	13.5	9.5	4240	
91	9	6号竪穴(砂岩)	花崗岩	18.8	12.4	11.0	3545		98	63	20号竪穴(花崗岩)	花崗岩	28.5	30.7	13.0	17000	
91	10	6号竪穴(砂岩)	花崗岩	27.2	14.8	8.0	5000	スズ付留	98	64	20号竪穴(花崗岩)	花崗岩	27.5	34.3	11.2	11300	
91	11	6号竪穴(砂岩)	花崗岩	34.1	21.8	6.5	5500		98	65	20号竪穴(花崗岩)	花崗岩	31.9	23.2	9.4	9900	
91	12	6号竪穴(砂岩)	花崗岩	36.1	22.5	12.7	13200		98	66	20号竪穴(砂岩)	砂岩	26.8	11.5	7.7	3770	
91	13	6号竪穴(安山岩)	花崗岩	14.5	14.6	10.4	3080		98	67	23号竪穴(チーイ)		22.5	16.5	8.7	4745	避熱による変色? スズ付留
91	14	6号竪穴(安山岩)	花崗岩	14.6	11.9	10.4	3650		98	68	23号竪穴(花崗岩)	花崗岩	25.5	26.91	10.0	8000	変色
91	15	6号竪穴(門限)	花崗岩	(27.1)	(17.0)	(16.0)	9040	欠損 避熱あり	98	69	24号竪穴(花崗岩)	花崗岩	30.6	31.5	9.5	18000	
91	16	7号竪穴(花崗岩)	花崗岩	33.8	30.7	17.2	24100		99	70	25号竪穴(花崗岩)	花崗岩	27.5	19.9	13.0	9300	
91	17	7号竪穴(花崗岩)	花崗岩	36.1	16.0	13.8	5010		99	71	25号竪穴(門限)	花崗岩	28.5	16.6	17.8	12100	
91	18	7号竪穴(花崗岩)	花崗岩	17.5	13.0	11.5	3760		99	72	25号竪穴(花崗岩)	花崗岩	22.3	18.6	14.5	9190	
91	19	8号竪穴(花崗岩)	花崗岩	18.5	11.6	11.0	3220		99	73	25号竪穴(花崗岩)	花崗岩	25.9	14.7	13.8	7400	
91	20	8号竪穴(門限)	花崗岩	21.5	17.9	11.0	6150		99	74	29号竪穴(花崗岩)	(42.4)	(29.0)	(11.0)	18500	欠損 黄化が著しい	
91	21	8号竪穴(安山岩)	花崗岩	17.7	13.5	9.0	3680		99	75	29号竪穴(安山岩)	(40.0)	15.5	13.7	5420		
91	22	8号竪穴(透状安山岩)	花崗岩	15.9	14.9	9.3	2815	避熱による変色あり	99	76	29号竪穴(花崗岩)	(14.6)	(14.2)	(9.5)	1125	欠損 スズ付留	
91	23	8号竪穴(門限)	花崗岩	20.3	13.0	9.5	3040		99	77	31号竪穴(砂岩)	砂岩	26.7	24.9	23.9	19800	
91	24	8号竪穴(花崗岩)	花崗岩	17.2	14.1	11.2	4158	細孔 スズ付留	100	78	31号竪穴(花崗岩)	花崗岩	22.0	15.9	7.1	3245	
91	25	8号竪穴(透状安山岩)	花崗岩	13.3	12.0	8.2	1699	スズ付留	100	79	32号竪穴(花崗岩)		(32.2)	24.9	15.0	21200	欠損
91	26	20号竪穴(花崗岩)	花崗岩	(37.5)	(17.8)	11.6	7105	欠損 スズ付留	100	80	35号竪穴(花崗岩)	花崗岩	33.2	29.7	13.2	20300	
91	27	9号竪穴(花崗岩)	花崗岩	38.7	34.1	23.9	35000	避熱による変色? スズ付留	100	81	35号竪穴(花崗岩)	花崗岩	29.1	26.7	8.5	11100	
91	28	9号竪穴(花崗岩)	花崗岩	27.8	12.5	4.8	2800		100	82	33号竪穴(花崗岩)	(40.0)	15.2	9.8	6.4	1487	
91	29	9号竪穴(花崗岩)	花崗岩	14.6	11.2	9.4	2410		101	83	33号竪穴(花崗岩)	(43.1)	(26.6)	16.4	2800	29号の繋と接合	
91	30	9号竪穴(安山岩)	花崗岩	16.8	12.5	8.6	2535		101	84	33号竪穴(花崗岩)	(31.9)	(28.1)	20.3	29000	欠損	
91	31	9号竪穴(花崗岩)	花崗岩	14.8	9.5	6.7	1710	欠損	101	85	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	22.8	9.8	10.3	3570	
91	32	9号竪穴(花崗岩)	花崗岩	16.6	12.1	6.3	1790		101	86	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	23.5	14.0	6.2	4710	
91	33	10号竪穴(砂岩)	花崗岩	49.1	(34.2)	16.4	42800		101	87	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	29.2	14.1	11.0	6100	スズ付留
91	34	10号竪穴(花崗岩)	花崗岩	38.3	27.3	15.0	26300		101	88	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	19.0	18.3	9.2	4805	
91	35	11号竪穴(花崗岩)	花崗岩	20.6	9.6	6.2	1540	スズ付留	101	89	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	20.0	19.7	10.2	4320	
91	36	12号竪穴(花崗岩)	花崗岩	20.1	13.1	7.8	3930		102	90	36号竪穴(花崗岩)	(26.1)	(17.1)	10.3	5775	破片 スズ付留	
91	37	12号竪穴(安山岩)	花崗岩	19.3	15.7	10.3	4100		102	91	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	20.1	14.3	4.00	4100	
91	38	12号竪穴(安山岩)	花崗岩	18.6	14.6	9.2	3665	スズ付留	102	92	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	21.5	14.5	12.1	5290	
91	39	12号竪穴(花崗岩)	花崗岩	17.7	(16.4)	12.1	3800		102	93	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	23.7	15.5	7.9	3185	
91	40	12号竪穴(花崗岩)	花崗岩	19.1	12.9	8.8	3095		102	94	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	20.8	12.3	9.8	4040	
91	41	12号竪穴(花崗岩)	花崗岩	(15.0)	17.8	8.2	2600		102	95	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	23.9	14.7	8.6	4140	
91	42	14号竪穴(花崗岩)	花崗岩	17.9	19.2	13.8	7100		102	96	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	18.7	17.8	6.4	3250	
91	43	16号竪穴(花崗岩)	花崗岩	23.2	19.3	8.4	2600		102	97	36号竪穴(花崗岩)	花崗岩	14.5	12.2	8.0	2250	
91	44	16号竪穴(花崗岩)	花崗岩	29.8	30.7	17.1	22100		102	98	37号竪穴(花崗岩)	花崗岩	22.3	14.5	14.5	5890	
91	45	16号竪穴(安山岩)	花崗岩	18.5	11.4	10.0	3600		102	99	37号竪穴(花崗岩)	花崗岩	24.1	14.0	10.7	4300	欠損
91	46	16号竪穴(花崗岩)	花崗岩	15.0	8.6	5.3	1658		102	100	40号竪穴(花崗岩)	花崗岩	39.2	25.4	18.5	23900	
91	47	16号竪穴(花崗岩)	花崗岩	19.9	15.6	9.3	4840		103	101	40号竪穴(花崗岩)	花崗岩	41.1	25.0	14.3	25000	
91	48	17号竪穴(花崗岩)	花崗岩	38.6	27.0	11.7	19700		103	102	40号竪穴(花崗岩)	花崗岩	20.8	14.1	9.8	4165	
91	49	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	19.4	17.1	11.1	5700		103	103	40号竪穴(花崗岩)	花崗岩	19.4	12.1	8.7	3140	
91	50	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	19.4	18.5	9.3	4900		103	104	40号竪穴(花崗岩)	花崗岩	(16.8)	(13.6)	10.3	2965	欠損
91	51	18号竪穴(砂岩)	花崗岩	20.0	14.9	9.2	3800	スズ付留	103	105	40号竪穴(花崗岩)	花崗岩	(15.3)	(15.2)	(12.0)	4530	破片
91	52	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	18.6	20.7	9.9	4300		103	106	41号竪穴(花崗岩)	花崗岩	39.4	31.7	10.2	20400	
91	53	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	15.8	16.8	9.9	3900		104	107	41号竪穴(花崗岩)	花崗岩	(47.3)	34.0	18.0	40000	避熱による変色? 斧頭
91	54	18号竪穴(門限)	花崗岩	18.3	15.7	10.8	4710		104	108	42号竪穴(花崗岩)	花崗岩	38.8	31.0	14.6	24800	
91	55	18号竪穴(砂岩)	花崗岩	17.7	14.9	9.2	3800	スズ付留	104	109	42号竪穴(花崗岩)	花崗岩	(19.0)	11.3	5.6	1416	砲石片削利同?
91	56	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	15.8	16.8	9.9	3900		104	110	42号竪穴(花崗岩)	花崗岩	15.9	10.5	5.0	1387	
91	57	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	14.8	14.8	9.9	3900		104	111	43号穴(花崗岩)	花崗岩	14.8	11.1	6.5	1581	
91	58	18号竪穴(花崗岩)	花崗岩	18.3	15.7	10.8	4710		104	112	43号穴(花崗岩)	花崗岩	29.5	(21.2)	15.6	13300	欠損

第24表 石器観察表(石皿・石台)

回	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
105	1 号竪穴	砂岩	105	9.0	4.2	535.0	敲打面
105	2 号竪穴	砂岩	102	(7.9)	(4.3)	382	欠損
105	3 号竪穴	花崗岩	146	11.9	6.3	1440	久又付番
105	4 号竪穴	凝灰角礫岩	145	11.9	6.3	1633	
105	5 号竪穴	シルト岩	11.8	11.2	4.0	871.0	スズ付番
105	6 号竪穴	安山岩	11.2	9.0	5.0	269.0	敲打面
105	7 号竪穴	安山岩	12.3	11.0	8.0	1400	久又付番 敲打面
105	8 号竪穴	砂岩	142	5.4	3.4	277.7	スズ付番 敲打面
105	9 号竪穴	砂岩	9.4	7.5	5.4	573.0	スズ付番 敲打面
105	10 号竪穴	砂岩	5.8	4.7	2.8	115.5	敲打面
105	11 4号竪穴	閃綠岩	(9.2)	(9.7)	6.1	834.0	欠損
105	12 5号竪穴	砂岩	(11.1)	(7.5)	(7.3)	923	欠損 敲打による傷化
106	13 6号竪穴	安山岩	3.6	3.3	2.0	35.2	
106	14 7号竪穴	安山岩	(12.5)	(6.0)	(6.0)	965	鏡面
106	15 9号竪穴	砂岩	9.8	6.9	3.7	386.5	敲打面
106	16 9号竪穴	凝灰角礫岩	11.4	10.4	6.2	1113	
106	17 9号竪穴	花崗岩	15.9	12.4	6.8	1985	
106	18 9号竪穴	閃綠岩	15.1	11.0	7.3	1797	敲打面
106	19 9号竪穴	桂圓岩	13.2	11.5	4.8	1128	
106	20 9号竪穴	庄原花崗岩	15.0	13.1	7.2	2120	敲打面
106	21 9号竪穴	安山岩	11.9	11.0	5.3	1076	
106	22 9号竪穴	花崗岩	12.9	11.2	7.6	1608	
106	23 9号竪穴	石英閃綠岩	13.7	12.3	6.5	1647	スズ付番
107	24 9号竪穴	閃綠岩	12.1	11.2	8.1	1550	
107	25 9号竪穴	砂岩	12.7	11.4	6.9	1411	
107	26 9号竪穴	花崗岩	12.5	9.1	5.8	1047	
107	27 9号竪穴	安山岩	(11.2)	(9.2)	(5.4)	629	欠損
107	28 9号竪穴	花崗岩 (安山岩質)	(10.6)	(8.0)	(5.3)	572	欠損
107	29 9号竪穴	石英閃綠岩	(11.6)	(7.5)	(5.9)	871	欠損 久又付番 傷化あり
107	30 9号竪穴	砂岩	(11.0)	(8.4)	(5.0)	754	欠損
107	31 9号竪穴	花崗岩	(9.0)	(11.0)	(7.2)	1027	欠損 敲打による傷化 鏡面
107	32 9号竪穴	砂岩	(7.8)	(10.4)	(6.4)	620	鏡面 敲打面
107	33 9号竪穴	花崗岩	11.9	4.5	3.3	287	
107	34 10号竪穴	安山岩	8.9	7.4	4.2	440.0	敲打面
107	35 13号竪穴	安山岩	13.8	10.7	4.6	798	久又付番
108	36 15号竪穴	砂岩	10.0	6.6	2.5	265.8	
108	37 16号竪穴	花崗岩	11.9	11.6	5.6	1516	敲打面 スズ付番
108	38 16号竪穴	安山岩	(12.0)	(11.5)	(7.5)	1461	欠損
108	39 16号竪穴	凝灰角礫岩	10.7	9.3	4.2	584	敲打面
108	40 16号竪穴	安山岩	(17.8)	(8.4)	(8.1)	663	表面研磨 敲打面 鏡面?
108	41 17号竪穴	安山岩	(9.3)	(7.1)	(5.4)	361.6	鏡面
108	42 19号竪穴	安山岩	14.6	12.8	6.7	1832	
108	43 19号竪穴	凝灰角礫岩	12.1	10.4	5.3	1021	
108	44 19号竪穴	安山岩	(12.7)	(11.2)	(5.6)	1144	研磨面 敲打面
108	45 19号竪穴	安山岩	11.6	(8.1)	(7.5)	906	欠損 敲打面
109	46 21号竪穴	花崗岩	11.6	10.4	4.3	927	
109	47 21号竪穴	花崗岩	9.8	9.6	5.8	516	敲打面
109	48 21号竪穴	砂岩	14.0	5.8	3.8	399.3	鏡面 高周波加工
109	49 22号竪穴	安山岩 (凝灰角礫岩)	13.6	9.3	8.5	1614	
109	50 22号竪穴	珪長岩	11.6	10.3	6.9	1328	
109	51 25号竪穴	凝灰角礫岩	11.0	5.2	3.4	181.9	敲打面
109	52 25号竪穴	凝灰角礫岩	(12.7)	(6.0)	(5.7)	578.0	鏡面
109	53 25号竪穴	砂岩	(10.0)	(7.0)	(7.5)	739	鏡面 敲打面
109	54 26号竪穴	花崗岩	(10.0)	(7.2)	(6.1)	615	鏡面 敲打面
109	55 26号竪穴	安山岩	(10.0)	(5.2)	(5.8)	427.2	鏡面 敲打面
109	56 26号竪穴	砂岩	(7.4)	(10.1)	(5.5)	582	鏡面 敲打面
110	57 27号竪穴	砂岩	7.1	6.0	4.0	238.9	敲打面
110	58 29号竪穴	花崗岩	11.9	10.3	4.8	859.0	敲打面
110	59 30号竪穴	安山岩	11.6	(8.4)	5.4	852.0	欠損 敲打面
110	60 31号竪穴	砂岩	(12.0)	(4.7)	(5.6)	451.0	鏡面
110	61 33号竪穴	砂岩	10.3	(8.9)	4.7	704.0	敲打面
110	62 33号竪穴	安山岩	(12.3)	(9.0)	6.4	999.0	鏡面
110	63 33号竪穴	花崗岩	(6.6)	(3.6)	(3.9)	112.0	鏡面
110	64 33号竪穴	砂岩	7.8	7.8	3.0	258.0	鏡面 敲打面
110	65 36号竪穴	凝灰岩	13.0	8.6	4.4	575.0	
110	66 37号竪穴	花崗岩	11.0	10.1	7.8	1210	スズ付番
110	67 37号竪穴	花崗岩	12.5	(7.6)	5.5	738.0	欠損
110	68 37号竪穴	安山岩	10.1	6.6	4.2	405.0	敲打面 欠損
110	69 37号竪穴	安山岩	13.0	5.0	3.6	367.0	研磨面
111	70 37号竪穴	安山岩	12.8	(8.4)	4.8	583.0	鏡面
111	71 38号竪穴	流紋岩	(9.2)	(11.2)	(4.8)	816.0	敲打面
111	72 40号竪穴	凝灰角礫岩	12.8	11.4	5.2	1157.0	
111	73 40号竪穴	安山岩	9.4	8.8	4.5	455.0	スズ付番
111	74 40号竪穴	珪長岩	(9.6)	9.9	(4.3)	556.0	欠損
111	75 40号竪穴	花崗岩	(9.3)	10.5	4.9	603.0	欠損
111	76 40号竪穴	安山岩	(11.9)	(7.7)	(4.7)	485.0	鏡面 スズ付番
111	77 40号竪穴	安山岩	(9.9)	(5.3)	(5.4)	342.0	鏡面
111	78 41号竪穴	砂岩	11.3	10.1	4.6	758.0	研磨面 敲打面
111	79 41号竪穴	シルト岩	8.3	3.6	3.65	158.0	敲打面
111	80 41号竪穴	砂岩	(12.7)	(5.6)	(5.7)	554.0	敲打面 鏡面
111	81 41号竪穴	砂岩	9.3	6.0	3.2	262.0	鏡面 (敲打面?)
111	82 42号竪穴	砂岩	10.6	7.4	3.4	347.0	欠損 敲打面
111	83 43号竪穴	流紋岩	8.2	6.6	4.1	346.0	
112	84 走溝器	流紋岩	(12.1)	(5.7)	(5.6)	572.0	鏡面
112	85 桂六	流紋岩	(13.1)	16.1	6.8	862.0	鏡面
112	86 桂六	花崗岩	13.2	12.5	8.3	1978.0	
112	87 桂六	花崗岩	16.0	11.2	6.4	1657.0	スズ付番
112	88 桂六	凝灰角礫岩	14.9	11.3	7.4	1847.0	
112	89 桂六	花崗岩	12.0	9.6	4.1	772.0	敲打面 スズ付番
112	90 保集	安山岩	14.4	(9.7)	5.5	1069.0	敲打面
112	91 保集	花崗岩	13.6	(10.0)	7.2	1263.0	欠損
112	92 保集	砂岩	(11.1)	7.6	(5.8)	846.0	敲打面
112	93 保集17	砂岩	8.0	7.8	5.8	507	敲打面
112	94 保集2T	花崗岩	10.0	9.1	4.6	554.0	研磨面 敲打面

第25表 石器観察表(磨石・敲石)

図	No.	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
113	1	3号竪穴	鶴水晶岩	29.1	5.9	3.1	461.3	表面研磨 欠損
113	2	3号竪穴	砂岩	14.9	7.2	13.5	1777	研磨?
113	3	3号竪穴	砂岩	34.5	17.1	10.6	9400	
113	4	3号竪穴	砂岩	(15.2)	(6.2)	(4.0)	657	全体に又スリット 研磨
113	5	5号竪穴	砂岩	7.6	11.8	7.9	644.0	表面研磨 欠損
113	6	6号竪穴	泰山岩	(15.1)	5.2	3.4	498	表面研磨 欠損
113	7	6号竪穴	粘板岩	(12.1)	(5.0)	(3.4)	242.0	磨丸 (大・小) 有孔
113	8	7号竪穴	泰山岩	(8.1)	(4.0)	(4.7)	186	斜打痕 全体に 又スリット 研磨
113	9	7号竪穴	砂岩	11.8	7.6	2.5	303	斜打痕 表・側面 研磨
113	10	9号竪穴	砂岩	32.8	15.8	13.9	2400	表面研磨
113	11	9号竪穴	泰山岩	11.7	3.9	3.2	221.5	表面研磨
114	12	11号竪穴	砂岩	(8.7)	(5.1)	3.9	292.5	4面研磨 研磨
114	13	11号竪穴	砂岩	(9.5)	(9.0)	(6.5)	618.0	表面研磨 研磨
114	14	17号竪穴	砂岩	(16.4)	(9.5)	(5.1)	1162	表面研磨 斧刃付 研磨
114	15	18号竪穴	砂岩	(7.9)	3.6	2.0	97.8	表面研磨 欠損
114	16	20号竪穴	泰山岩	(14.5)	(3.8)	3.2	199.4	表面研磨 研磨
114	17	23号竪穴	泰山角礫岩	12.2	5.6	3.3	349.8	表面研磨 研磨?
114	18	26号竪穴	砂岩	20.0	6.5	5.6	1426	斜打痕 4面研磨
114	19	26号竪穴	砂岩	(8.8)	(3.8)	(3.1)	163.6	3面研磨 研磨
114	20	26号竪穴	泰山岩	(16.1)	(6.6)	(6.0)	594.0	研磨による僅み 崩壊
第26表 石器観察表（延石）								
図	No.	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
114	21	29号竪穴	泰山岩	(17.2)	(5.3)	(1.8)	244.6	研磨
114	22	29号竪穴	泰山岩 (縦区直貫)	11.2	4.2	3.6	235.0	表面研磨
114	23	32号竪穴	砂岩	21.7	16.1	8.9	4240	表・側面研磨
115	24	34号竪穴	泰山岩	(19.6)	7.6	3.6	836.0	表面研磨 滑 削打痕 欠損
115	25	34号竪穴	チート	8.2	2.1	1.2	44.4	4面研磨
115	26	35号竪穴	砂岩	16.5	6.4	3.8	611.0	表面研磨
115	27	37号竪穴	泰山岩	(24.1)	(17.0)	4.1	1732	台石?
115	28	38号竪穴	泰山岩	(18.2)	6.8	4.3	508.0	表面研磨
115	29	38号竪穴	泰山岩	13.0	5.8	2.6	306.0	表面研磨 斜打痕
115	30	38号竪穴	泰山岩	8.8	4.2	3.8	211.0	表面研磨
115	31	39号竪穴	砂岩	(15.5)	(12.4)	(6.0)	1521	表面研磨 欠損
115	32	40号竪穴	砂岩	32.4	19.2	13.2	6810	研磨
116	33	40号竪穴	砂岩	(13.0)	(6.3)	(7.5)	911.0	表面研磨 研磨
116	34	40号竪穴	砂岩	(13.9)	(9.7)	(5.3)	7840	研磨による僅み 又スリット 研磨
116	35	40号竪穴	泰山岩	(9.0)	(7.5)	(2.7)	2060	表面研磨 研磨
116	36	41号竪穴	砂岩	(12.9)	(6.7)	5.6	461.0	研磨
116	37	42号竪穴	砂岩	39.4	19.6	10.3	9400	
116	38	42号竪穴	砂岩	(12.4)	(6.5)	(4.8)	622.0	研磨
116	39	漢伏唐椎	砂岩	(6.7)	(6.0)	(3.9)	212.5	研磨 4面研磨
116	40	柱穴	砂岩	(19.0)	(6.1)	(4.6)	848.0	3面研磨 欠損
116	41	柱穴	泰山岩	21.7	8.2	6.4	1471.0	表面研磨 斧打痕

図	No.	器種	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
117	1	石刀	表深	蛇紋岩	6.30	3.50	1.15	46.43	
117	2	折縫斧	17号竪穴	泰山灰岩	(8.20)	(5.50)	1.90	45.39	欠損
117	3	折縫斧	泥炭	泥炭	(1.65)	(1.80)	(0.30)	0.51	欠損
117	4	石斧	40号竪穴	綠色片岩	(0.70)	(2.50)	(1.75)	96.19	確定時代?
117	5	不明	表深		(3.00)	(5.85)	0.80	46.43	刀形 確定時代?
117	6	磨製石刀	8号竪穴	綠色片岩	(3.35)	(2.10)	0.40	6.09	欠損 或刃形時代?
第27表 石器観察表（各種石器・石製品等）									
図	No.	器種	出土遺構	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
117	7	打製石刀	2号竪穴	泰山角礫岩	11.8	6.1	2.6	212.0	確定時代?
117	8	打製石刀	40号竪穴	泰山岩	11.9	5.0	1.5	126.5	確定時代?
117	9	打製石刀	柱穴	綠色片岩	11.1	4.6	1.2	72.7	確定時代?
118	10	円形石器	34号竪穴	綠色片岩	7.9	8.5	1.8	191.4	確定時代?
118	11	不明	14号竪穴	泰山岩	17.7	15.2	7.9	1416.0	
118	12	不明	20号竪穴	瓦阿群	(15.5)	(10.5)	(2.6)	4290	

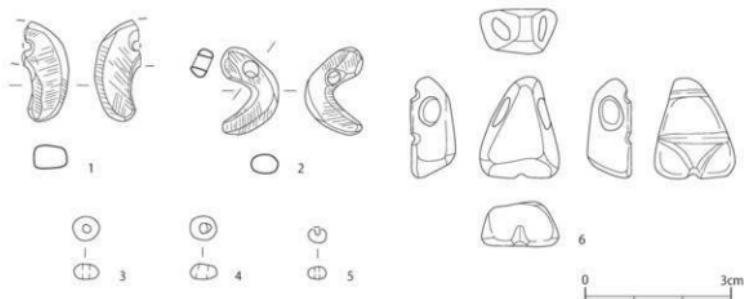
(4) 玉類 (第119図)

1・2は勾玉である。1は3号竪穴より出土しているもので、斑のある黒色石材製で一部欠損している。断面は方柱状の形態で両面から穿孔されている。2は26号竪穴より出土し、やや闊った緑色でクロム白雲母製と思われる。断面は梢円形の細身で、「く」の字状の形態を呈している。

3~5は青色のガラス製と思われる小玉で、3点とも26号竪穴遺構の床面付近より出土している。

6は鮮やかな緑色を呈するクロム白雲母製の垂玉である。平面は三角状で断面は台形で、背面には凹線による模様がある。孔径は大きく、左右に貫通している。40号竪穴遺構の北隅付近の覆土層より出土した。

クロム白雲母製の2と6について、縄文時代後・晚期に九州で多く利用される石材であることから、縄文時代の遺物の混入品の可能性がある。



第119図 玉類実測図 (1/1)

器種	番号	出土地點	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
119	1	勾玉 3号竪穴	不明	2.05	0.95	0.45	1.65	大頭 黒色に黄褐色の斑点
119	2	勾玉 26号竪穴	クロム白雲母	1.80	1.15	0.40	1.07	縄文？ 梅綠色に黄褐色の斑点
119	3	小玉 26号竪穴	ガラス	0.50	0.55	0.30	0.15	青緑色
119	4	小玉 26号竪穴	ガラス	0.50	0.55	0.30	0.11	青緑色
119	5	小玉 26号竪穴	ガラス	0.30	0.35	0.25	0.03	青緑色
119	6	垂玉 40号竪穴	クロム白雲母	2.05	1.60	0.90	3.94	縄文？ 緑色に黄褐色の斑点

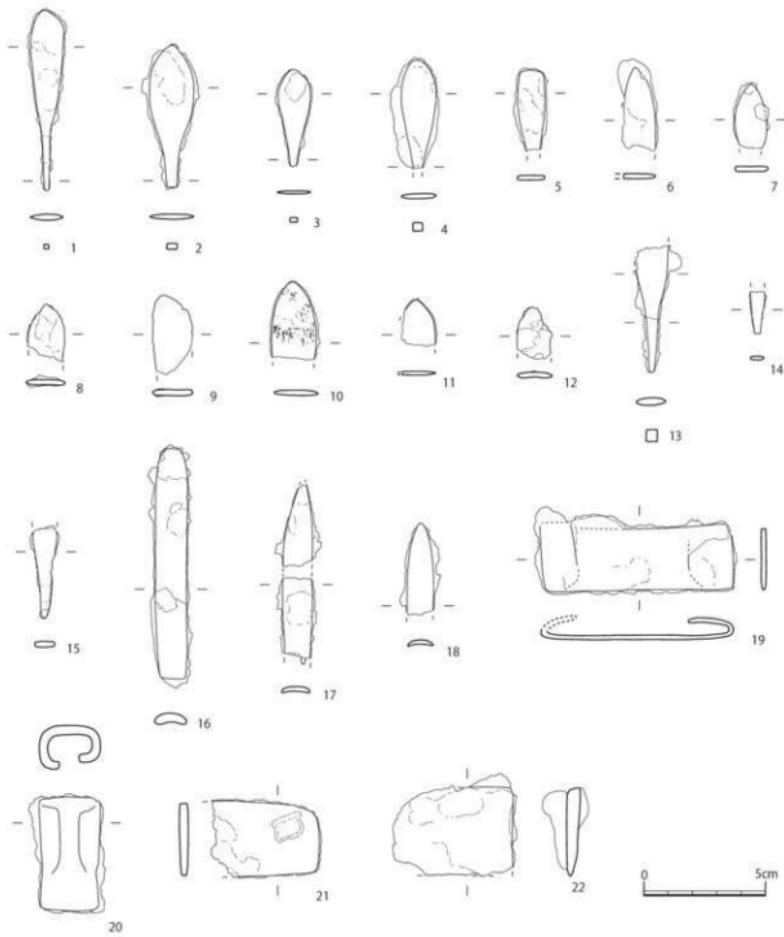
第28表 玉類観察表

(5) 鉄器 (第120図)

掲載した22点のほか、器種不明の小鉄片を含めると計24点の鉄製品が出土している。

1~15は鉄鑿で、欠損品も含めて最も多い15点の出土があり、すべて有茎鑿と思われる。刃先の多くは柳葉式である他、1・3は主頭式、5は平刃状の方頭式と思われる。10は刃部に木質の付着がある。1~3は完形品で、4~12は刃部、13~15は莖部の破片と思われる。

16~18の3点は鎌で、16は先端が摩耗しているがほぼ完形である。17は切断のうえ刃先や基部を欠損し、18は刃先のみである。17には木材の付着がある。19は摘鎌で、両端に折り返しがあり、薄い直線的な刃をもつ。20は袋状鉄斧で、小型で手斧や堅などのような機能が推定される。21・22は板状の不明鉄製品で、鎌または板状鉄斧等の一部である可能性が考えられる。



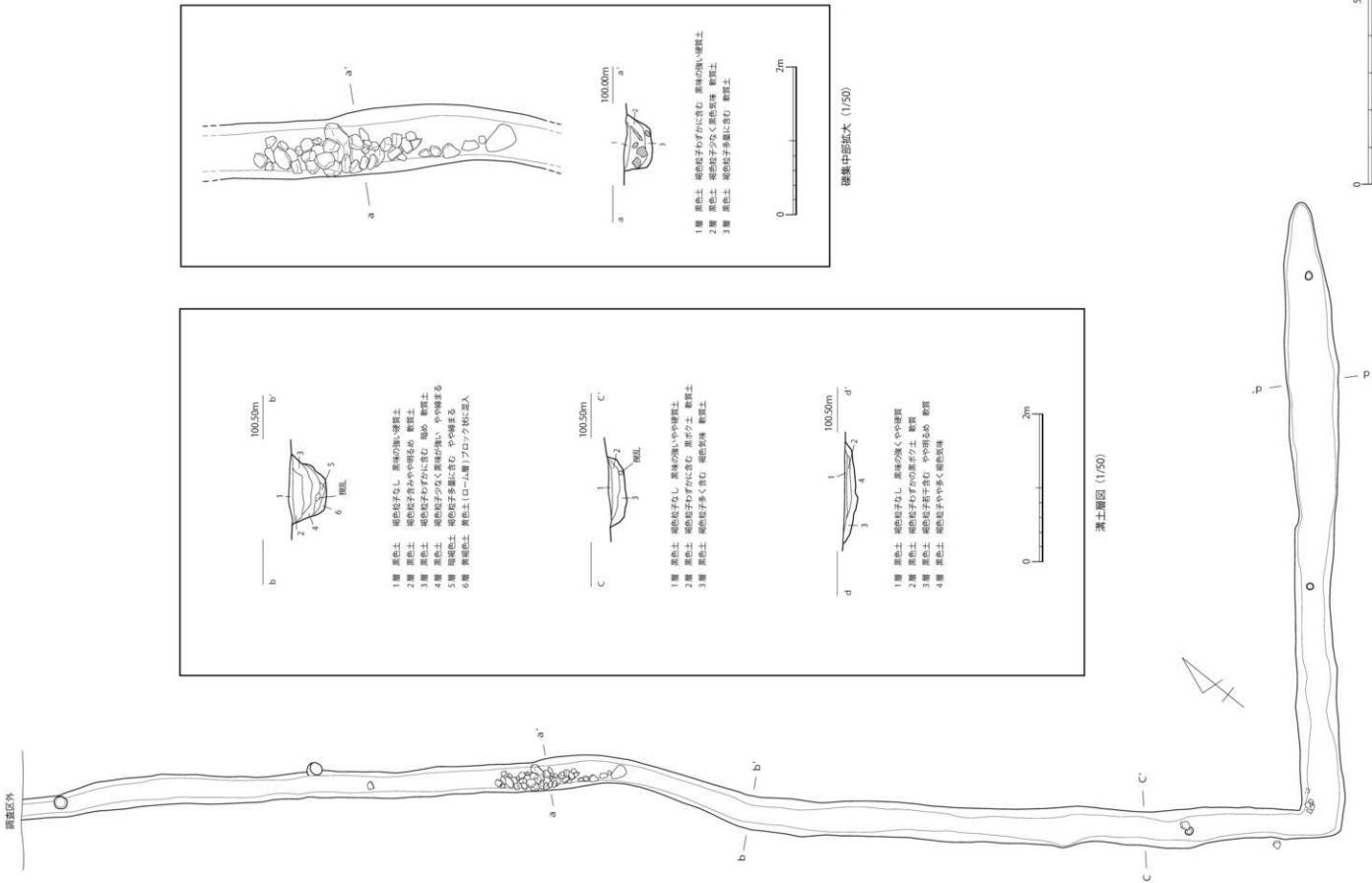
第120図 鉄器実測図

図	No.	器種	出土遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
120. 1	1	鉄鋤	31号竪穴	7.4	1.4	0.2	
120. 2	2	鉄鋤	40号竪穴	5.9	1.8	0.3	
120. 3	3	鉄鋤	21号竪穴	4.0	1.4	0.2	
120. 4	4	鉄鋤	31号竪穴	(4.3)	1.5	0.4	基部欠損
120. 5	5	鉄鋤	31号竪穴	(3.3)	1.1	0.2	基部欠損 先端磨滅?
120. 6	6	鉄鋤?	19号竪穴	(3.3)	1.4	0.2	基部欠損
120. 7	7	鉄鋤	31号竪穴	(2.7)	(0.2)		基部欠損 別個体付着
120. 8	8	鉄鋤?	32号竪穴	(2.4)	(1.6)	(0.2)	刃先以外欠損
120. 9	9	鉄鋤?	35号竪穴	(3.2)	(1.6)	(0.2)	基部欠損
120. 10	10	鉄鋤	21号竪穴	(3.2)	(1.8)	0.2	先端 破損付着
120. 11	11	鉄鋤	41号竪穴	(2.0)	(1.4)	0.2	刃先以外欠損

図	No.	器種	出土遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
120. 12	12	鉄鋤?	柱穴	(2.0)	(1.5)	0.2	刃先以外欠損
120. 13	13	鉄鋤	33号竪穴	(3.2)	(1.8)	0.5	切削、刃部先端欠損
120. 14	14	鉄鋤?	33号竪穴	(1.8)	(0.6)	0.2	刃部欠損
120. 15	15	鉄鋤	29号竪穴	(3.6)	(1.8)	0.2	刃部欠損
120. 16	16	鉄	26号竪穴	9.5	1.3	0.4	切削
120. 17	17	鉄	32号竪穴	(3.0) (3.4)	1.3	0.2	一部欠損 木村付着
120. 18	18	鉄	33号竪穴	(3.6)	1.1	0.2	基部欠損
120. 19	19	鉄鋤	34号竪穴	7.9	2.7	0.2	
120. 20	20	提供鉄矛	7号竪穴	4.7	2.5	0.4	
120. 21	21	不明	4号竪穴	(4.6)	(3.2)	0.4	矢頭
120. 22	22	不明	1号竪穴	(4.2)	(5.1)	0.5	一部欠損 板状表示

第29表 鉄器観察表

断面区外



第121図 浅井測量実測図 (1/100)

第4節 中世の遺構と遺物

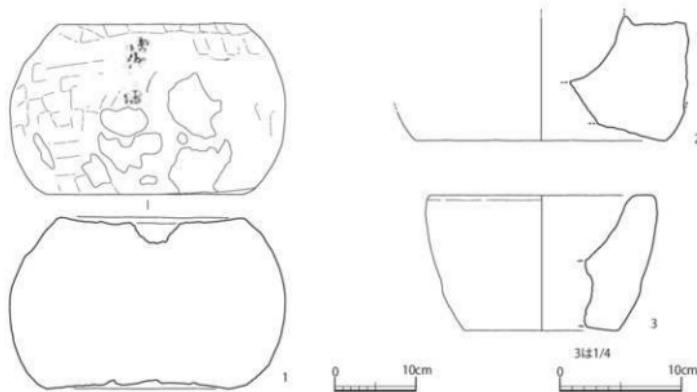
(1) 溝状遺構 (第121図)

調査区北東で検出しており、14号竪穴付近で「し」字状に屈曲して掘り込まれていることから、本来は方形に巡らせているものの一部と考えられる。屈曲部より北西側はほぼ直線状に35m延長して調査区外へ続いている。途中で拳大～人頭大を超える礫が集中する箇所があるが、その性格は不明である。屈曲部より北東側は次第に掘削深度が浅くなり、長さ17mほどで検出できなくなつて途切れている。

溝底の標高は北西側が99.40mと調査区域内では最も低く、途切れている北東側付近では100.29mと約0.9mの高低差があることからやや傾斜して掘り込まれている。幅は約1m、深さは北西付近で約0.3mを測り、断面は逆台形状である。いくつかの竪穴遺構と重複しているためか覆土中から弥生時代の遺物が出土しているが、五輪塔などの石製品の他、細片のため掲載していないが備前系陶器片等も検出されていることから中世の遺構と推定される。

(2) 出土遺物 (第122図)

1は凝灰岩製の五輪塔水輪とみられる石製品で、最大径31cm、高さ21cmである。表面の調整は粗く、墨書銘らしき痕跡が確認できるが、判読はできない。2は最大径37cmほどに復元される凝灰岩製で、1と同じ五輪塔水輪または宝塔塔身など石塔の一部と考えられる。3は径18cm、高さ11cmほどに復元される鉢状の凝灰岩製で、石塔の一部の可能性もあるが詳細は不明である。



第122図 溝状遺構出土遺物実測図

回	Nb.	器種	出土遺構	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
122	1	五輪塔	溝遺構2	凝灰岩	直径24.3	21.0	21.0	2100	水輪 磨擦あり
122	2	五輪塔?	溝遺構2	凝灰岩	直径31.0	(15.2)	-	6150.0	
122	3	不規	溝遺構1	凝灰岩	口径(18.2)	底径(12.6)	11.1	4590	

第30表 溝状遺構出土遺物観察表

第Ⅲ章 考察

(1) 弥生～古墳時代の遺物について

今回の調査区からは44基の豎穴遺構及び31基の掘立柱建物遺構をはじめ、土坑・周溝墓・溝状遺構などの遺構が多く出土器・石器等の遺物を伴って検出された。豎穴遺構より出土した土器は、先行研究による編年によれば、弥生時代中期後半より出現し古墳時代前期初頭まで続くと推定できるもので、これまでの調査区で検出された遺構や遺物と時期的に一致する。なお、出土遺物の中には一部の石器に縄文時代と推定されるものも含まれるが、土器については全く検出していない。弥生時代の遺物の可能性もあるものの、いずれも出土状況から流れ込み時の混入と判断されるため、付近の未確認の縄文時代の遺構からの流入と考えたい。

土器

弥生時代中期後半の出土土器として、口縁外面に刻目突帯のある下城式甕が挙げられる。多くの遺構より流れ込みでの出土がみられるが、27号・42号・43号豎穴ではこの種類の土器しか出土していないため中期の遺構と考えられる。27号・42号豎穴は花弁形、43号豎穴の平面形態は肧丸方形とみられる。

弥生時代後期の初頭～前葉にかけては、甕は肥厚した端部に山形文や浮文を施し、頸部から胴部にかけての多条化した突帯や浮文が特徴で、甕は口縁部を直線的に外反して端部を跳ね上げるものもあるが、胴部に沈線や工字状突帯文を有するなど器壁の厚い粗製のものが多く出土する。豎穴遺構は次第に検出数が多くなり、9基の豎穴遺構が該当すると考えられる。円形の22号・37号・41号、肧丸方形の3号・14号、台形気味の5号などで、円形から肧丸方形の形態が多く、主軸がやや南北方向に近い傾向がある。32号もこの時期に該当する可能性がある。

後期中葉の土器について、甕は安国寺式と呼ばれる複合口縁甕が盛行し、立上がりた口縁部外面に櫛描波状文が施され、胴部突帯は減少傾向にある。甕は胴部外面に工字状の沈線を施した器壁の厚い粗製甕もあるが、ハケ目調整のある器壁の薄いものが多くなる。該当する豎穴遺構は11基でさら�数例が増え、円形の38号、肧丸方形の7号以外は方形で、特に台形気味が目立つようになる。豎穴の規模も大小様々出現する。

後期後葉の土器は、甕の口縁部の立上がりが大きくなり、外面の波状文が盛行して2段に施されるものもあり、これまでの突帯以外に刻目が施されたベルト状突帯を施すものが現れる。甕は粗製のものは減少し、口縁部が湾曲するように外反するものや、胴部はハケ目調整された尖底気味のものが多い。該当する豎穴遺構は16基と最も多く、すべて方形で9号・11号以外は正方形と長方形で占められている。9号・11号は土器や豎穴構造の特徴から中葉に遡る可能性もあるが、遺構や遺物の数量的にも本遺跡の最盛期ともいえる時期である。

弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭になると甕は口縁部立上がりが高く直立に近いものもあり、頸部や胴部の突帯に後葉と同じベルト状突帯が施されるものもある。甕は後葉と同じくほぼ尖底気味となり小型化の傾向がある。1号・8号・20号・24号・31号の出土土器が該当すると思われるが、これまで増加していた遺構数がわずか5基に減少して、以後豎穴遺構は見られなくなる。1号のような台形もあるが、正方形および長方形が主体的であると考えられる。

古墳時代前期前葉に相当すると思われるのは、周溝墓の溝付近より出土した土器群が該当するのみである。複合口縁甕は直立して長い口縁部にやや小型化した胴部で、高環も口縁部が直線的に延びるもので、小型化が進む傾向がある。以後は中世まで遺構や遺物は全く出土していない。

石器

石器の出土数は豊富で、特に石皿・台石類や磨石など礫石器が多いのは原石採取地とみられる大野川に近いという地理的な面も一因であると思われる。石皿・台石類は花崗岩・凝灰角礫岩など、磨石・敲石は砂岩・安山岩・花崗岩など、砥石は砂岩が多い傾向があり、大野川転砾でも硬質の砾が選ばれていることがうかがわれる。出土状況は床面上あるいは覆土層中など土器と同じく投棄や流れ込みの状況で、使用状況を示唆できる出土例はみられない。表面の使用痕による観察のみで用途を推測しているが、他に火に直接当たったような痕跡が多く見受け

られる。大型の石皿・台石類は17%、小型の磨石・敲石・砥石は10%ほどであるが被熱による変色やススの付着が見受けられ、破損したものが目立つのも被熱が原因の一つとして考えられる。

また石鎚も出土量が多く、打製・磨製あわせて171点のほか、未製品も131点を数えるほどである。石材は粘板岩・結晶片岩で占められており、黒曜石やサヌカイトが主体の打製石鎚とは石材が大きく異なることから、ここでは磨製石鎚とその未製品について検討してみたい。

竪穴遺構から出土する多くの礫のうち、使用痕や加工痕が観察できる石器と判断できるもの以外は不明の礫とした中で、磨製石鎚と同じ粘板岩の石材が一定量の出土を見せており。石鎚未製品と判断されるものは131点としたがそれ以外にも原石や荒剣の剥片、剥離細片など大量に出土しており、石鎚製作時に関連する石材の可能性が考えられるものが確認できる。これらの石材を選別し、石鎚や未製品の点数とあわせて竪穴遺構毎に別表のとおり集計を試みた。剥離細片などは無数にあり数量では把握しづらいため粘板岩礫は総重量で集計していること、石材のすべてが石鎚に関係するとは限らず、あくまで目安であること等を念頭にしてみると、一部の竪穴に集中して出土することがわかる。(第31表)同時に石鎚未製品や磨製石鎚も出土量がほぼ同じように多い傾向がある。40号竪穴は多くの遺物が投棄された状態で検出されており、その一環で混入した可能性もあるが、特に後期初頭～前葉の32号・37号をはじめ、30号・38号・41号など時期的にも古相の遺構に集中する傾向がある。こうした竪穴遺構では砥石も出土しており、磨製石鎚製作の工房的な遺構であったことが示唆される。このような竪穴遺構は各遺跡で指摘されており、陣箱遺跡でも石鎚製作が盛んに行われていたことが推定される。

石鎚と同じく狩猟用と考えられる鉄鎚は15点の出土があるが数の上では石製の方が圧倒している。形態や重量など異なる点も多いため、用途的にも石鎚が選ばれる生活環境のうえ、石鎚の入手や供給の点でも有利であったことも理由の一つと考えられる。

(2) 弥生～古墳時代の遺構について

陣箱遺跡では今回の調査区も含めてこれまで計3次に渡って調査が行われ、計6650m²に91基の竪穴遺構を検出している。この段丘地形上には遺跡名は異なるが同一時期の遺構が確認されていて、折立遺跡の53基、百枝遺跡D地区の4基を含めると、計148基を数える。これらの遺跡の範囲は推定20haほどで、段丘面全体にわたって集落が広がる可能性があるとすれば、総数は数百基もの竪穴遺構の存在が想定される。さらに、段丘下に位置する法泉庵遺跡においても平成21年の試掘で中世の遺物と共に弥生土器も採集されており、北側台地上の上田原遺跡や大野川対岸の向野淨土寺遺跡等、同時期の集落遺跡が近隣にも数多く存在しており、その中心的な集落として営まれたと推定される。これらの遺跡群の出土及び採集土器から判断して弥生時代後期後半を中心と

竪穴番号	原石・荒剣等粗面岩礫(g)	石鎚未製品			磨製石鎚
		1 打開面	2 剥離面	3 剥離細片	
1号竪穴	120g				0 4
2号竪穴	90g				0 2
3号竪穴	200g	3			3 6
4号竪穴	70g				0 0
5号竪穴	180g	1			1 7
6号竪穴	30g				0 0
7号竪穴	50g	1			1 3
8号竪穴	20g				0 0
9号竪穴	50g	3			3 4
10号竪穴	20g				0 0
11号竪穴	0g				0 0
12号竪穴	10g				0 0
13号竪穴	60g	1			1 5
14号竪穴	170g				0 4
15号竪穴	0g				0 0
16号竪穴	170g				0 3
17号竪穴	70g				0 0
18号竪穴	70g	1			1 2 0
19号竪穴	25g	1			1 1
20号竪穴	10g				0 3
21号竪穴	10g	1			1 1
22号竪穴	130g	1	1	1	3 3
23号竪穴	10g				0 0
24号竪穴	15g				0 0
25号竪穴	30g				0 0
26号竪穴	130g	1		1	2 5
27号竪穴	30g				0 1
28号竪穴	0g				0 0
29号竪穴	120g				0 2
30号竪穴	560g	1	2		3 1
31号竪穴	60g				0 3
32号竪穴	2180g	2		1	3 2
33号竪穴	180g				0 1
34号竪穴	90g				0 2
35号竪穴	85g				0 1
36号竪穴	100g	2			2 1
37号竪穴	1480g	4	12	9	25 13
38号竪穴	500g	2	9	5	16 22
39号竪穴	0g				0 0
40号竪穴	1140g	8	7	1	16 33
41号竪穴	370g	6	9	5	20 9
42号竪穴	130g	6	12		18 6
43号竪穴	0g	2		1	3 0
柱穴状遺跡	375g	2	1		3 1
周縁					0 1
溝					0 0
表層		3	1	4	5
	9140g	49	56	26	131 155

第31表 遺構別出土石鎚等一覧表

した時期に集中しており、これまで調査の行われた大野川流域の各遺跡の遺構と共通点も多い。

豎穴遺構

豎穴遺構の平面形について、花弁形・円形・方形と大きく分類を試みているが、方形のなかには隅丸方形・正方形・台形・長方形などもある反面、その中間的な形状もまた多く細分が困難で、さらに柱穴配置や床面構造も加わって様々な多様性がある。

その中で花弁形豎穴はいずれも弥生中期後半の時期で、本遺跡では最も古い集落出現期の遺構である。今回の調査区では2基の検出で、27号は推定で六角形に張出しを有し、42号は方形に十字状に張出しを有するという形態には異なるが、豎穴は二段掘りで中央の壁沿いに柱穴を配置し、一段浅い張出しを設けるという構造的には共通している。このような花弁形豎穴遺構は、大野川中流域では舞田原遺跡や鹿道原遺跡などで中期の遺構として類例があり、時期的にも一致している。中期の遺跡は多くはないが、惣田遺跡や岡遺跡等では円形、近中遺跡では隅丸方形で検出されているのに対し、花弁形は県内でもあまり例のない特殊な形態といえる。同じ集落遺跡とみられる折立遺跡でも1基検出され、陣箱遺跡第2次調査区でも花弁形の可能性のある遺構があり、比較的多く見つかっている地域でもある。

円形豎穴については4基中3基が弥生時代後期初頭～前葉の時期で、主柱穴はいずれも円形状に配置されている。花弁形に続く形態のためか、22号・37号・41号が二段掘りで、中央豎穴の壁面沿いに主柱穴が配置される花弁形豎穴に似た構造である。床面に段のない38号も柱穴配置は同じで、やや後出する中葉とみられるが、以後は次第に豎穴遺構は方形に変化していく。

隅丸方形と分類した豎穴は5基であるが、中期1基・後期初頭～前葉が2基・中葉が2基と時期は様々で、30号も該当する可能性が高いとみられ、円形から方形へ変化していく中間的な形態であると考えられる。14号は円形2段掘り構造が色濃く現れるもので、それ以外は床面平面で方形に近いものである。

方形については長方形・正方形・台形気味など形も大きさも様々である。この調査区でも主要な形態であるが、弥生時代後期中葉は台形が多く、後葉から終末～古墳初頭にかけては正方形や長方形が多い傾向がみられる。また、主柱穴も豎穴規模に比例して多くなる傾向があり、D類の四隅4本の間にそれぞれ本数を増していく様々な配列がみられる。またH類とした四隅に2本ずつ8本配置される豎穴は台形の3基にみられるが、他に4号・6号・29号豎穴の貼床の下層から検出した柱穴から元々H類であったと考えられる例がある。豎穴の建替え等により、不要となった柱穴を埋戻して床面としたことを示すと考えられ、古相の豎穴遺構に多い傾向があるとされているH類は、改築の際に様々な柱穴配置に変化したことが推定される。

また、豎穴遺構の構造物としての特徴や、日常の生活の痕跡や廃絶時の様子について、いくつかの事例から検討してみたい。

主柱抜取り痕について、主柱を抜取るため柱周囲の床面を掘返した痕跡と推定されている例が15基で確認できる。床面上の特に柱穴周囲に黄褐色土など下位層の土が堆積しているのがみられ、そのまま豎穴遺構は廃絶したことから、豎穴遺構の移築などの際に主柱を再利用していたことが示唆されている。陣箱遺跡の1次調査が行われた際に注目されている事例で、鹿道原遺跡では3割強の豎穴で確認されているが、本調査区も割合的に同様に検出されている。

主柱穴とは別に、壁沿いに多数の小型柱穴列が配置している例があり、壁面の補強の杭列など柱以外の何らかの構造物を示す可能性も考えられている。壁面に接して掘り下げられているもの、壁面も掘削しているもの、壁から側にやや離れているものなど位置もさまざまで、間隔も一定でない場合もある。台形豎穴に多く、規模の大きめな5基にみられる。

豎穴遺構の廃絶に伴う祭祀的な行為と考えられそうな事例について挙げられるのは、8号豎穴の床面や柱穴内に複合口縁壺を7個体検出しているが、どれも頸部付近を意図的に打ち欠いたような口縁部のみを床面上に置いたり、柱穴に埋納した状況がみられる。単体ではあるが6号豎穴や33号豎穴でも同様の出土がある。一方、36号豎穴からは蝶が柱穴内から多数出土しており、柱を固定する用途かもしれないが、多くの蝶が台石等とみ

られる石器のため意図的な埋納の可能性がある。このように土器や石器などが柱穴より出土するのは、共に盛土堆積はみられないことが多く、柱抜取り後の儀礼的な痕跡と考えられる。

礫が床面上に集中している竪穴遺構が10基でみられるが、礫の一部は台石や磨石などの石器であることも多い。折立遺跡では竪穴遺構内の土坑に礫群が伴う例があるが、本調査区では礫に伴う土坑は検出されておらず、壁面近くが多いという以外の特徴はみられないため、埋戻し中の投棄と思われる。

他にベンガラが床面上より出土する竪穴遺構が9基あり、何らかの儀礼で撒かれたとみられる。中期の43号竪穴がやや広範囲で検出している以外は数センチの範囲での検出で、量的にはいずれも粒状程度とそれほど多くはなく、時期も後期中葉から後葉に多い傾向がある。

焼土や炭化物について今回の調査では様々な状況で検出されている。まず床面の一部に赤褐色に変色する焼土面、あるいは床面に炭化物の混入土が堆積する炭化物層があり、いずれも地床炉の痕跡として多くの竪穴遺構にみられ、生活上における火の使用痕として理解されるものである。一方、覆土層中に焼土が混入する例が18基あり、床面より数cm程度で近い位置のもの、30cm以上浮いた位置にあるもの、覆土の大部分に混入するものなど検出状況は様々である。床面に近いものは地床炉のひとつの方とも考えられるが、それ以外はこれらは竪穴廃絶時の埋戻しにおける被熱によるものとされ、やはり儀礼的な行為として捉えられそうである。層位や範囲が様々なのは、埋没途中で火を焚いたか、あるいは別の焼土で埋戻したなど、状況も様々であることが示唆される。

31号竪穴は垂木と思われる炭化材の配置から焼失家屋と思われるが、火災かそれとも焼却かは判断できない。炭化材と直上の焼土層は、鹿道原遺跡で指摘されている屋根に土を載せていた構造であることがうかがわれる。

掘立柱建物遺構について出土遺物は乏しいが、主軸方向の特徴等から竪穴遺構と同時期に存在したと思われ、土坑やその他多くの柱穴状遺構も竪穴遺構とほぼ同時期の遺構とみられる。

周溝墓

周溝墓について、不整梢円形状の周溝が複数拡張したように検出しており全体の形状は明確ではないが、木棺墓とみられる4号墓を中心に9基の墓壙が集中する集団墓であると考えられる。そのうち小型の墓壙4基は小児用と推定され、大野川中流域でこのように集団墓が集落に近接する事例は数少ない。周溝の出土遺物より古墳時代前期前葉と考えられるが、時期を同じくする竪穴遺構は本調査区では検出されておらず、集落から埋葬地へ変遷したことが推定できる。9号墓などやや古い弥生時代中期の遺物が出土する遺構もあり、すべてが墓壙に伴うかどうかも断定はできないが、墓壙の主軸が大きく3つに分けられることから一定の時期幅が推定される。周溝墓の周囲は26号・27号竪穴など後期中葉以前の遺構以外はほとんど竪穴遺構のない空白域であり、後期後葉以後より墓域となっていた可能性が考えられる。竪穴遺構群との間に掘立柱建物遺構群が多く配置されている傾向がうかがえるが、中原舟久手遺跡でも指摘されている状況との共通性が垣間見える。生活域と一定の距離をおいた位置に土壤墓群として営まれ、古墳時代前期に集落が調査区域では認められなくなった後も、周溝墓として墓域は存続していたものと推定される。

参考文献

- 清水宗昭編 1980 『大野原の遺跡』 大野町教育委員会
栗田勝弘編 1985 『舞田原』 大鷗町教育委員会
栗田勝弘編 1987 『陣箱遺跡』 三重町教育委員会
坂本嘉弘編 1989 『高添台地の遺跡』 千歳村教育委員会
諸岡都編 1996 『陣箱遺跡C地区』 三重町教育委員会
栗田勝弘編 2000 『中原舟久手遺跡』 大分県教育委員会
栗田勝弘編 2001 『鹿道原遺跡』 千歳村教育委員会
豊田徹士編 2006 『高添遺跡』 豊後大野市教育委員会
栗田勝弘編 2008 『折立遺跡』 大分県教育厅埋蔵文化財センター
後藤一重・吉田寛編 2014 『古市下遺跡・古市上遺跡』 大分県教育厅埋蔵文化財センター

付章

陣箱遺跡出土赤色顔料の蛍光X線分析

大分県立歴史博物館 稲田優生

1 はじめに

陣箱遺跡は1985（昭和60）年から2度発掘調査が実施され、弥生時代中期から古墳時代初頭の集落跡と推定されている。2011年に行われた陣箱遺跡第3次調査で、住居跡と推定される9軒の竪穴遺構から赤色顔料が出土した。これらの赤色顔料について、顔料の同定を目的に蛍光X線分析を行う機会が得られた。一般的に遺跡から出土する赤色顔料にはベンガラや朱がよく知られている¹⁾。この2種類の赤色顔料は色調や材料が異なり、ベンガラは暗赤色で主成分が酸化第二鉄、朱は深紅色で主成分が硫化水銀である。これらの赤色顔料に関して、近年科学的な調査が行われ、赤色顔料の材質や構造、産地などが明らかにされている。以下に陣箱遺跡出土赤色顔料について、分析結果を示す。

2 対象資料

竪穴遺構9軒のうち、弥生時代後期中頃の竪穴遺構3軒（26号、40号、43号竪穴）、弥生時代後期終わり頃から古墳時代初頭の竪穴遺構6軒（5号、7号、10号、12号、29号、35号）から赤色顔料が出土し、17点の赤色顔料が供された（表2-1、2-2）。赤色顔料17点は明赤色～暗赤色を呈し、多少の色調の違いが見られた。事前に分析のための試料調整は行わず、土壤が含まれていない赤色部分を測定したが、測定結果には土壤成分が含まれている可能性がある。

3 分析方法

蛍光X線分析法を用いて、赤色顔料の化学組成を測定した。一般的に赤色顔料に由来する元素として、ベンガラ（ Fe_2O_3 ）の場合には鉄、朱（ HgS ）の場合には水銀が検出される。土壤成分に由来する元素として、ケイ素やアルミニウム、鉄、ルビジウム、ストロンチウム、イットリウム、ジルコニウムなどが検出される。

分析には当館の波長分散型蛍光X線分析装置を使用した。測定条件は表1のとおりである。装置の試料室内の雰囲気は真空状態にして測定した。測定で得られたX線強度はスペクトル図で表すことができ、そのスペクトル図から元素ピークを判断し、含まれる元素を判断した。

表1 測定条件

装置	フィリップス社製 PW2400LS II
管球	スカンジウム管球
出力	60kV × 40mA
結晶	フッ化リチウム
X線照射範囲	φ 15 μm

4 分析結果

全17点の赤色顔料から、鉄が検出された（表2-1、2-2）。朱に由来する元素の水銀は検出されなかつた。鉄が検出されたことから、赤色顔料のベンガラが用いられているとわかった。鉄以外にケイ素、アルミニウム、カルシウムなどが検出され、これらは赤色顔料に由来する元素ではなく、土壤成分に由来すると推測される。17点のうち、10号竪穴、12号竪穴、26号竪穴（表2-1中の6、8）、40号竪穴、43号竪穴の赤色顔料から、硫黄が検出された。硫黄は朱に由来する元素であるが、水銀は検出されなかつたため、検出された硫黄は赤色顔

料の朱に由来する可能性は低く、たとえば土壤成分に由来する可能性が考えられる。

5 考察

陣箱遺跡の弥生時代後期中頃から古墳時代初頭の竪穴遺構から出土した赤色顔料は、全てベンガラであった。弥生時代から古墳時代に用いられる赤色顔料は墳墓内部や櫛柄墓内部などに塗布されることがあるが、特に弥生時代の墳墓出土の赤色顔料は種類と使われ方が3類されている¹⁾。陣箱遺跡の場合は墳墓ではなく、住居跡とみられる竪穴遺構から出土した赤色顔料であるため、墳墓に用いられる赤色顔料とは使われ方が異なると考えられる。硫黄が検出された赤色顔料について、朱が用いられているのではないことから、竪穴遺構の土壤成分の違いを意味するであろう。硫黄が検出された竪穴遺構は弥生時代後期中頃の竪穴遺構3軒、弥生時代後期終わり頃から古墳時代初頭の竪穴遺構2軒であった。これは遺構の時期区分の違いや遺構の性格の違いなどに関係する可能性があり、今後さらなる考察が必要である。

大分県内では住居跡から赤色顔料のベンガラが出土している例がある²⁾。今後、ベンガラ粒子の調査等が進むと、ベンガラが鉱物の赤鉄鉱に由来しているなど原料の特定が行える。今後の調査に期待したい。

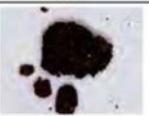
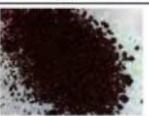
【参考・引用文献】

- 1) 本田光子：古墳時代の赤色顔料、考古学と自然科学、31・32号合併号、pp63-79、1995
- 2) 志賀智史：玉沢地区条里跡第9次調査出土の赤色顔料、玉沢地区条里跡 第9次調査報告、大分市教育委員会、pp75-78、2007

表2-1 蛍光X線分析結果

出土遺構	出土位置	XRF分析結果	資料
1 5号竪穴	西隅近くの床面	鉄	
2 7号竪穴	中央付近床面柱穴間	鉄	
3 10号竪穴	北隅近くの床面	鉄	
4 12号竪穴	南壁寄りの床面	鉄	
5 26号竪穴(1)	南隅近くの床面	鉄	
6 26号竪穴(2)	南隅近くの床面	鉄	
7 26号竪穴(3)	南隅近くの床面	鉄	
8 26号竪穴(4)	南隅近くの床面	鉄	

表2-2 蛍光X線分析結果

出土遺構	出土位置	XRF分析結果	資料
9 26号竪穴(5)	西隅近くの床面	鉄	
10 26号竪穴(6)	西隅近くの床面	鉄	
11 26号竪穴(7)	北隅近くの床面	鉄	
12 26号竪穴(8)	北壁寄りの床面	鉄	
13 29号竪穴(1)	北寄りの壁面	鉄	
14 29号竪穴(2)	西寄りの床面	鉄	
15 35号竪穴	東隅近くの床面	鉄	
16 40号竪穴	土器群下層の床面	鉄	
17 43号竪穴	中央付近床面	鉄	

写真図版 1



陣箱遺跡空中写真



調査区遠景

調査区全景①



調査区全景②



調査区全景③



1号竪穴



2号竪穴



3号竪穴（換土・遺物検出）



3号竪穴（完掘）



4号竪穴



5号竪穴

写真図版 3



6号竪穴



7号竪穴



8号竪穴



9号竪穴（南東：遺物検出）



9号竪穴（南西：完掘）



10号竪穴



11号竪穴



12号竪穴



13号竪穴



14号竪穴（南東：遺物検出）



14号竪穴（南西：完掘）



15号竪穴



16・17号竪穴（南東：遺物検出）



16・17号竪穴（南西：完掘）



17号竪穴



18号竪穴

写真図版 5



19号竪穴



20号竪穴（遺物候出）



20号竪穴（完掘）



21号竪穴



22号竪穴



23号竪穴



24号竪穴



25号竪穴



26号竪穴（南東）



26号竪穴（北西：完掘）



27号竪穴（南東）



27号竪穴（南：完掘）



28号竪穴



29号竪穴



30号竪穴



31号竪穴（南西）

写真図版 7



31号竖穴（南東：完掘）



32号竖穴



33号竖穴



34号竖穴



35号竖穴



36号竖穴



37号竖穴



37号竖穴（完掘）



38号竪穴（南西）



38号竪穴（南東：完掘）



39号竪穴



40号竪穴（南東）



40号竪穴（遺物株出状況）



40号竪穴（完掘）



40・41号竪穴



41号竪穴

写真図版 9



42号豊穴（土層）



42号豊穴（北東）



43号豊穴



43号豊穴（ベンガラ検出状況）



1号・2号掘立柱建物



8号掘立柱建物



25号掘立



土坑



周溝墓（北西）



周溝墓（南西）



4号～7号墓



2号～3号・9号墓



溝状造構（北西）



溝状造構（北東）



溝状造構（砾集中箇所）



溝状造構（砾集中箇所）

写真図版 11



土器①



土器②

写真図版 13

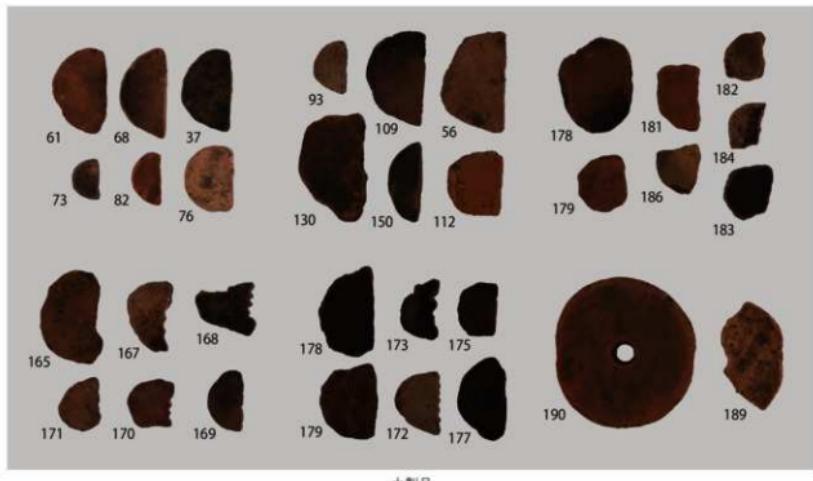


土器③



土器④

写真図版 15



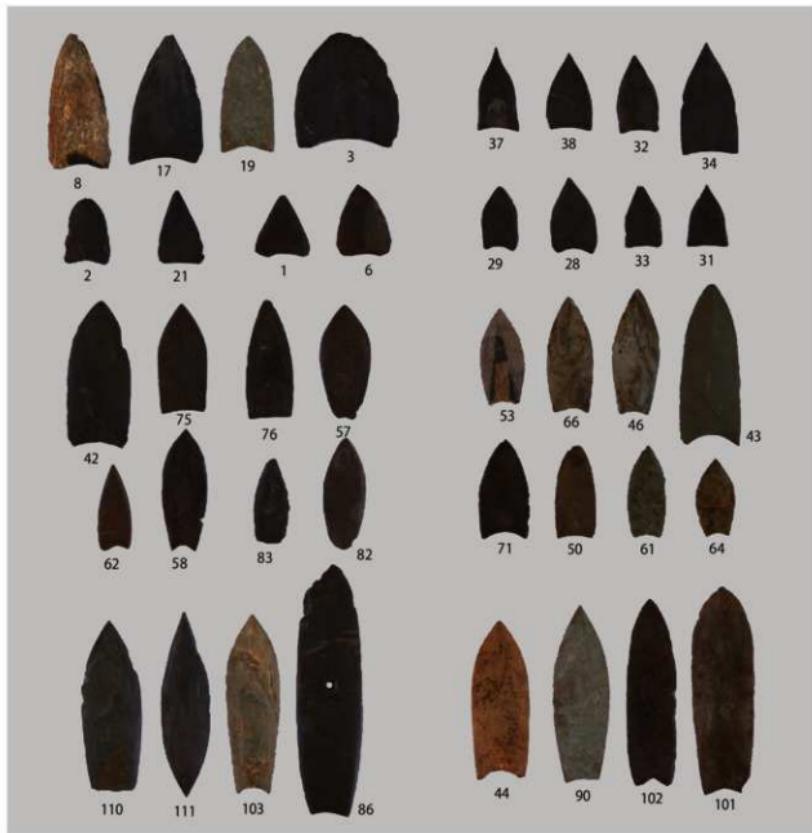
土製品



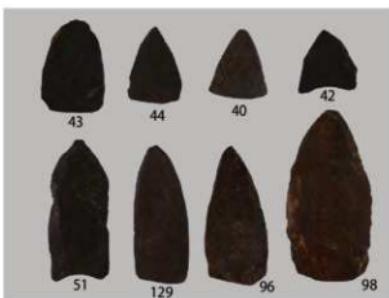
石皿・台石

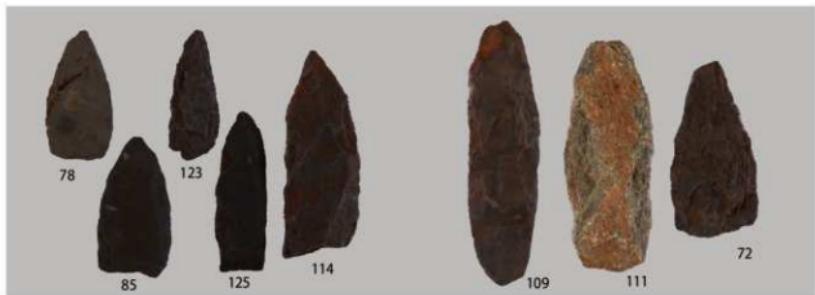


写真図版 17



磨製石鏃





石器未製品



石製品

写真図版 19



玉類



鉄器

報告書抄録

ふりがな	じんぱこいせき						
書名	陣箱遺跡						
副書名	第3次調査						
シリーズ名	大分県豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第3集						
編著者名	諸岡 郁						
編集機関	豊後大野市教育委員会						
所在地	〒879-7131 大分県豊後大野市三重町市場1200番地						
発行年月日	平成30年3月16日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
陣箱遺跡	豊後大野市三重町 白枝字陣箱	44212	212037	33° 00' 06"	131° 34' 50" ~2012.03.30	5200	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
陣箱遺跡	散布地	弥生・古墳 中世	竪穴住居遺構、掘立柱建物、 周溝墓、溝状遺構		土器・石器・鐵器		
要約	弥生時代中期・後期の拠点的な集落遺跡と考えられる。						

大分県豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集

陣箱遺跡

—第3次調査—

2018年3月16日

発行 豊後大野市教育委員会
〒879-7131 豊後大野市三重町市場1200番地

